

香川県済生会病院移転新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

日暮・松林遺跡 (済生会)

2003年9月

高松市教育委員会

社会福祉法人恩賜財團済生会支部
香川県済生会

例　　言

1. 本報告書は、社会福祉法人恩賜財団済生会支部香川県済生会病院移転新築工事に伴う発掘調査報告書で、高松市多肥上町に所在する日暮・松林遺跡（ひぐらし・まつばやしいせき）の報告を収録した。
2. 発掘調査地ならびに調査期間は次の通りである。
調査地：高松市多肥上町1331-1ほか
発掘調査：平成14年5月13日～平成14年7月31日
整理作業：平成14年8月16日～平成15年9月30日
3. 発掘調査及び整理作業は高松市教育委員会が担当し、その費用は社会福祉法人恩賜財団済生会支部香川県済生会が全額負担した。
4. 発掘調査から整理作業、報告書編集まで高松市教育委員会文化部文化振興課文化財専門員大嶋和則が担当した。
5. 本報告書は第4章を㈱吉田生物研究所が執筆し、それ以外については大嶋が執筆し、編集は大嶋が行った。
6. 発掘調査から整理作業、報告書執筆を実施するにあたって、下記の関係諸機関ならびに方々からご教示を得た。記して厚く謝意を表すものである。（五十音順、敬称略）
香川県教育委員会、香川県土木部高松土木事務所、㈱香川県埋蔵文化財調査センター、
香川県立桜井高等学校、地元自治会、地元水利組合
片桐節子、片桐孝浩、丹羽佑一、信里芳紀、乘松真也、松田朝由、松田重治、松本和彦
7. 発掘調査から整理作業、報告書執筆まで下記の方々の協力を得た。記して厚く謝意を表すものである。（敬称略）
大野宏和、白木亨、増田ゆず（徳島文理大学大学院）
林田真典、溝潤寿美礼（徳島文理大学）
8. 本調査に関連して、以下の業務を業務委託発注により実施した。
発掘調査掘削工事……別枝土建工業㈱
航空写真測量……アジア航測㈱
木製品保存処理・樹種鑑定……㈱吉田生物研究所
遺物写真撮影……西大寺フォト
9. 挿図として、国土地理院発行1/25,000地形図「高松南部」を一部改変して使用した。
10. 本報告の高度値は海拔高を表し、方位は国土座標第IV系（日本測地系）の北を示す。なお、2002年4月から世界測地系に移行しているが、これまでの周辺の調査地との位置関係を明らかにするため、日本測地系の座標を用いて報告した。
11. 本書で用いる遺構の略号は次の通りである。
SA：柱穴列　　SB：掘立柱建物　　SD：溝　　SH：竪穴住居　　SK：土坑　　SP：柱穴
12. 発掘調査で得られたすべての資料は高松市教育委員会で保管している。

本文目次

第1章 調査の経緯と経過	
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査の経過	3
第3節 整理作業の経過	3
第2章 地理的・歴史的環境	
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
第3節 周辺の調査成果	6
第3章 調査の成果	
第1節 調査地の概要と基本層序	10
第2節 弥生～古墳時代の遺構	10
(1) 捏立柱建物	10
(2) 穫穴住居	25
(3) 土坑	27
(4) 溝	28
第3節 江戸時代以降の遺構	
(1) 溝群	92
(2) 粘土採取土坑	92
第4章 自然科学的分析	93
第5章 まとめ	
第1節 調査地周辺の地形について	95
第2節 遺構の変遷について	97
観察表	102
報告書抄録	126
写真図版	127

写真図版目次

写真 1 調査地遠景（南から）	128
写真 2 調査地航空写真（南から）	128
写真 3 調査地全景（北西から）	129
写真 4 SH1完掘状況（東から）	129
写真 5 SB2完掘状況（西から）	130
写真 6 SB6完掘状況（東から）	130
写真 7 SD1完掘状況（北から）	131
写真 8 SD2・SD3完掘状況（北西から）	131
写真 9 遺跡全景（南西から）	132
写真10 SH1掘削状況（南から）	132
写真11 SH1炭・焼土検出状況（東から）	132
写真12 SH1石皿出土状況（南から）	132
写真13 SH1床面遺構検出状況（南東から）	132
写真14 SH1完掘状況（北西から）	132
写真15 SH2完掘状況（北から）	132
写真16 SB1検出状況（東から）	132
写真17 SB1半裁状況（東から）	133
写真18 SB2検出状況（東から）	133
写真19 SB2完掘状況（東から）	133
写真20 SB3完掘状況（西から）	133
写真21 SB4完掘状況（東から）	133
写真22 SB5完掘状況（北東から）	133
写真23 SB6完掘状況（西から）	133
写真24 SB7完掘状況（東から）	133
写真25 SK3断面（南から）	134
写真26 SK3完掘状況（北から）	134
写真27 SP18土器出土状況（南から）	134
写真28 SK2完掘状況（東から）	134
写真29 SD1完掘状況（南から）	134
写真30 SD1北部断面（北から）	134
写真31 SD1南部断面（北から）	134
写真32 SD1中層遺物出土状況（北から）	134
写真33 SD1中層土器出土状況（写真32中央部拡大）	135
写真34 SD1中層土器出土状況（写真33左下部拡大）	135
写真35 SD1中層土器出土状況（写真33中央部拡大）	135
写真36 SD1中層木器出土状況（東から）	135
写真37 SD1中層木器出土状況（西から）	135
写真38 SD1中層遺物出土状況（南から）	135
写真39 SD1中層土器出土状況（東から）	135
写真40 SD1中層遺物出土状況（南から）	135
写真41 SD1中層土器出土状況	136
写真42 SD1中層土器出土状況	136
写真43 SD1中層土器出土状況	136
写真44 SD1中層土器出土状況	136
写真45 SD1中層木器出土状況（東から）	136
写真46 SD1中層土器出土状況	136
写真47 SD1下層土器出土状況	136
写真48 SD1下層土器出土状況	136
写真49 SD1下層土器出土状況	137
写真50 SD1最下層土器出土状況	137
写真51 SD2断面（東から）	137
写真52 近・現代粘土採取土坑（南から）	137
写真53 近・現代粘土採取土坑断面（南から）	137
写真54 SH1掘削作業風景（南東から）	137
写真55 SB2掘削作業風景（北西から）	137
写真56 SD1土器出土状況開成風景（南から）	137
写真57 日暮・松林遺跡出土遺物①	138
写真58 日暮・松林遺跡出土遺物②	139
写真59 日暮・松林遺跡出土遺物③	140
写真60 日暮・松林遺跡出土遺物④	141
写真61 日暮・松林遺跡出土遺物⑤	142
写真62 日暮・松林遺跡出土遺物⑥	143
写真63 日暮・松林遺跡出土遺物⑦	144
写真64 日暮・松林遺跡出土遺物⑧	145
写真65 日暮・松林遺跡出土遺物⑨	146

插 図 目 次

第1図	調査地及び周辺発掘調査地位図	2
第2図	周辺の遺跡位置図	8
第3図	弥生～古墳時代の造構平面図	11
第4図	近世以降の造構平面図	13
第5図	調査区北壁土層断面図	15
第6図	SA1平・断面図	16
第7図	SB1平・断面図及び出土遺物実測図	16
第8図	SB2平・断面図及び出土遺物実測図	17
第9図	SB3平・断面図	18
第10図	SB4平・断面図	18
第11図	SB5平・断面図	19
第12図	SB6平・断面図	19
第13図	SB7平・断面図	20
第14図	SH1炭・焼土検出状況及び土層断面図	21
第15図	SH1平・断面図	22
第16図	SH1断面図及び出土遺物実測図	23
第17図	SH1出土器実測図	24
第18図	SH2平・断面図	25
第19図	SH3平・断面図	26
第20図	SK2平・断面図及び出土遺物実測図	27
第21図	SK3平・断面図	28
第22図	SK5平・断面図及び出土遺物実測図	29
第23図	SP18平・断面図及び出土遺物実測図	29
第24図	SD1平面図(第26～35図位置図)	30
第25図	SD1断面図	31
第26図	SD1中層No.3地点遺物出土状況図	32
第27図	SD1中層No.4地点遺物出土状況図	33
第28図	SD1中層No.5地点遺物出土状況図	34
第29図	SD1下層No.2地点遺物出土状況図	35
第30図	SD1下層No.3地点遺物出土状況図	36
第31図	SD1下層No.4地点遺物出土状況図	37
第32図	SD1下層No.5地点遺物出土状況図	38
第33図	SD1最下層No.1地点遺物出土状況図	39
第34図	SD1最下層No.2地点遺物出土状況図	40
第35図	SD1最下層No.5地点遺物出土状況図	41
第36図	SD1上層出土遺物実測図①	42
第37図	SD1上層出土遺物実測図②	43
第38図	SD1上層出土遺物実測図③	44
第39図	SD1上層出土遺物実測図④	45
第40図	SD1中層出土遺物実測図①	46
第41図	SD1中層出土遺物実測図②	47
第42図	SD1中層出土遺物実測図③	48
第43図	SD1中層出土遺物実測図④	49
第44図	SD1中層出土遺物実測図⑤	50
第45図	SD1中層出土遺物実測図⑥	51
第46図	SD1中層出土遺物実測図⑦	52
第47図	SD1中層出土遺物実測図⑧	53
第48図	SD1中層出土遺物実測図⑨	54
第49図	SD1中層出土遺物実測図⑩	55
第50図	SD1中層出土遺物実測図⑪	56
第51図	SD1中層出土遺物実測図⑫	57
第52図	SD1下層出土遺物実測図①	58
第53図	SD1下層出土遺物実測図②	59
第54図	SD1下層出土遺物実測図③	60
第55図	SD1下層出土遺物実測図④	61
第56図	SD1下層出土遺物実測図⑤	62
第57図	SD1下層出土遺物実測図⑥	63
第58図	SD1下層出土遺物実測図⑦	64
第59図	SD1下層出土遺物実測図⑧	65
第60図	SD1下層出土遺物実測図⑨	66
第61図	SD1下層出土遺物実測図⑩	67
第62図	SD1下層出土遺物実測図⑪	68
第63図	SD1下層出土遺物実測図⑫	69
第64図	SD1下層出土遺物実測図⑬	70
第65図	SD1下層出土遺物実測図⑭	71
第66図	SD1下層出土遺物実測図⑮	72
第67図	SD1下層出土遺物実測図⑯	74
第68図	SD1下層出土遺物実測図⑰	75
第69図	SD1下層出土遺物実測図⑱	76
第70図	SD1最下層出土遺物実測図①	77
第71図	SD1最下層出土遺物実測図②	78
第72図	SD1最下層出土遺物実測図③	79
第73図	SD1最下層出土遺物実測図④	80
第74図	SD1最下層出土遺物実測図⑤	81
第75図	SD1最下層出土遺物実測図⑥	82
第76図	SD1最下層出土遺物実測図⑦	83
第77図	SD1最下層出土遺物実測図⑧	84
第78図	SD1最下層出土遺物実測図⑨	85
第79図	SD1最下層出土遺物実測図⑩	86
第80図	SD1最下層出土遺物実測図⑪	87
第81図	SD1最下層出土遺物実測図⑫	88
第82図	SD1最下層出土遺物実測図⑬	88
第83図	SD2・3・4平面図	89
第84図	SD2断面図	90
第85図	SD3断面図	90
第86図	SD4断面図	90
第87図	SD2遺物出土状況図及び出土遺物実測図	91
第88図	粘土採取土坑出土遺物実測図	92
第89図	条里型地割りと微地形	95
第90図	周辺の地形復元図	96
第91図	主要造構変遷図①	98
第92図	主要造構変遷図②	99
第93図	周辺部弥生中期主要造構図	100
第94図	周辺部弥生終末期主要造構図	101

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯

香川県済生会病院の移転新築に関し、移転先用地が周知の埋蔵文化財包蔵地の隣接地であったことから、平成13年11月より、高松市教育委員会は社会福祉法人恩賜財団済生会支部香川県済生会（以下「香川県済生会」と略称）と埋蔵文化財調査について任意協議を開始した。移転新築工事は本体事業（病院建設＝土地面積10,600m²、建築面積3,322m²）と付帯工事（職員宿舎・保育施設建設＝土地面積536m²、建築面積275m²）の2事業に分かれており、総事業面積11,136m²と広大であった。そして、当該地の西隣には都市計画道路福岡多肥上町線建設に伴い調査を実施した日暮・松林遺跡や香川県立桜井高等学校等の建設に伴い調査を実施した多肥松林遺跡等で弥生時代中期～後期の集落跡が検出されていたことから、当該地はこれらの集落から続く微高地に所在し、集落域が広がっている可能性が考えられた。このため、香川県済生会に対し、「現状では周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、周知の埋蔵文化財包蔵地に隣接していることから、遺跡が存在する可能性が極めて高く、工事着手後に遺跡が発見された場合は工事の進捗に多大な影響を及ぼす可能性もあるため、工事着手前に試掘確認調査を実施することが望ましい。」と説明を行い、任意協力をお願いしたものである。

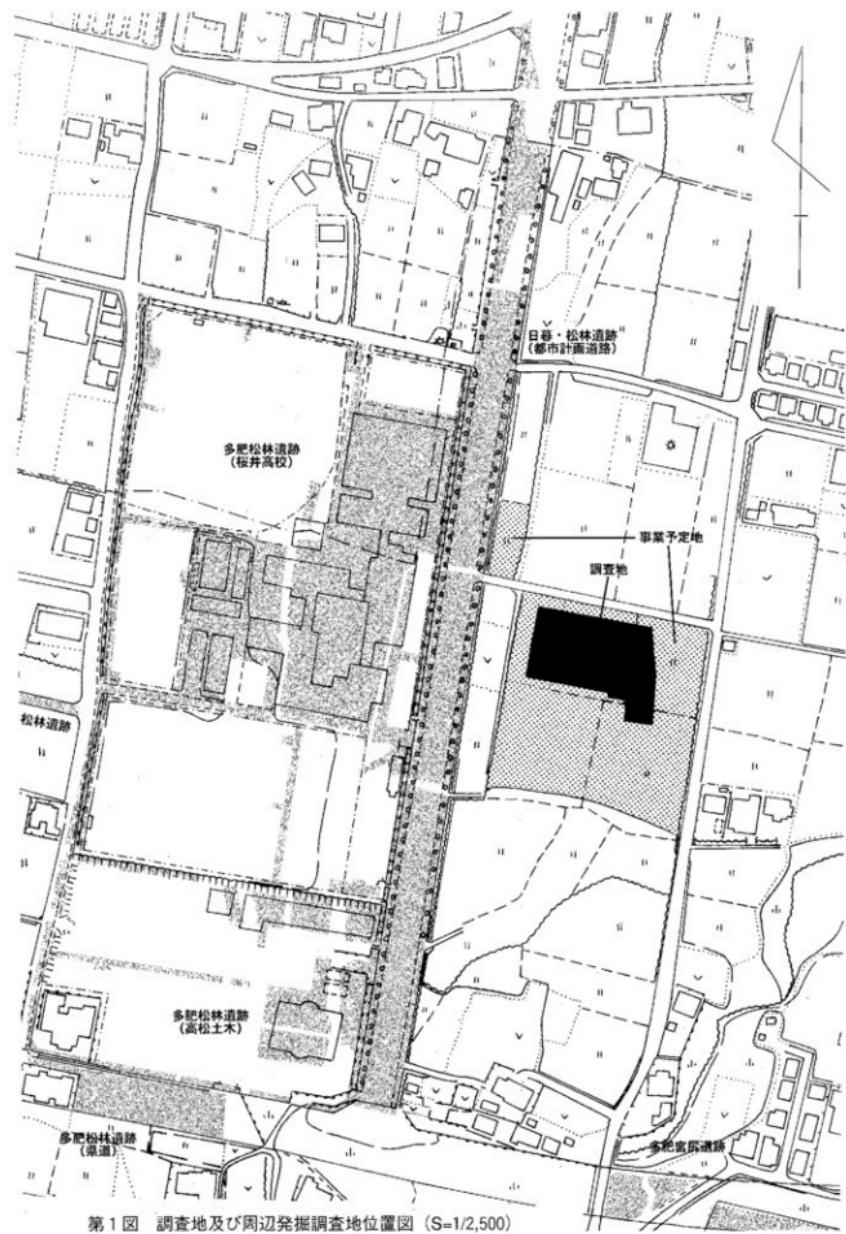
これに対し、香川県済生会では内部協議の結果、事前の確認調査を選択し、平成14年4月1日に高松市教育委員会に埋蔵文化財確認調査の依頼がなされたものである。これを受け、4月9日～11日に試掘確認調査を実施した。総事業面積の内掘削を伴い地下遺構に影響を及ぼす可能性のある区域は、病院建物敷地（3,322m²）と職員宿舎・保育施設建物敷地（275m²）の2箇所で、合計3,597m²を試掘対象とした。病院建物敷地11箇所、職員宿舎・保育施設建物敷地1箇所の計12箇所のトレンチ調査の結果、病院建物敷地の10箇所のトレンチで弥生時代～江戸時代にかけての遺構・遺物を確認することができた。特に、病院建物敷地西側2／3において弥生時代の多数の遺構・遺物が確認できた。病院建物敷地東側1／3は近代以降の粘土採取により削平されており、遺構・遺物とも希薄であった。また、職員宿舎・保育施設建物敷地についても後世の削平により、耕作土直下に地山が認められ、遺構・遺物は認められなかった。このため、病院建物敷地西側2／3、約2,200m²に埋蔵文化財が所在するという結果となつた。これを受け、香川県教育委員会に対し、高松市教育委員会は試掘調査結果を報告し、香川県済生会は周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事の届出を提出したところ、事前に発掘調査を実施するよう指導があった。

試掘調査結果をもとに香川県済生会と協議を行った結果、病院建物敷地西側2／3、約2,200m²について工事着手前に発掘調査を実施することで合意し、平成14年5月1日に埋蔵文化財調査協定書を締結した。業務名は「香川県済生会病院移転新築工事に伴う埋蔵文化財調査管理業務」とし、高松市教育委員会は発掘調査・整理作業の実務を行い、その費用負担および契約・支払事務については香川県済生会が行うこととした。

平成14年8月が病院新築工事着手予定であったことから、協定上は5月7日～8月15日を発掘調査期間、8月16日～平成15年10月31日に整理作業期間とした。

参考文献

- 『都市計画道路福岡多肥上町線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 日暮・松林遺跡』高松市教育委員会 1997
- 『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1回 多肥松林遺跡』師香川県埋蔵文化財調査センター 1999
- 『高松市内遺跡発掘調査概報－平成14年度国庫補助事業－』高松市教育委員会 2003



第1図 調査地及び周辺発掘調査地位置図 (S=1/2,500)

第2節 調査の経過

平成14年5月7日より準備事務に入り、5月13日に発掘調査を開始した。調査開始当初から雨天が続いた調査の進行が遅れがちであったが、後半は好天に恵まれ、7月31日に調査が終了した。以下、調査日誌を掲載し、詳細を記す。

調査日誌

- 5／13（晴） 本日より調査開始。調査区西側より機械掘削。
5／20（晴） 調査区西部遺構検出。竪穴住居・柱穴・溝等検出。
5／23（曇） 機械掘削終了。基準杭の打設。
5／27（晴） 調査区中央部遺構検出。掘立柱建物・溝・柱穴等検出。
5／29（晴） 調査区東部遺構検出。大溝（SD1）検出。
5／31（晴） 調査区東部近世以降の遺構掘削。
6／6（晴） 近世の遺構掘削終了。大溝（SD1）の掘削。
6／10（晴） 大溝（SD1）掘削。弥生土器・木製品等出土。
6／14（曇） 大溝（SD1）中層の土器出土状況図（S=1/10）作成。
6／19（曇） 竪穴住居（SH1）掘削。炭・焼土多量に検出。
6／21（曇） 掘立柱建物（SB1～4）掘削。
6／27（晴） 掘立柱建物（SB1～4）平・断面図作成。
7／3（晴） SD2掘削。土器出土状況図（S=1/10）作成。
7／10（雨） 台風6号接近のため水没。排水、復旧作業。
7／13（曇） 竪穴住居（SH1）平面図作成。
7／18（晴） 大溝（SD1）下層掘削。土器出土状況図（S=1/10）作成。
7／22（晴） 大溝（SD1）最下層掘削。土器出土状況図（S=1/10）作成。
7／27（晴） ヘリコプターによる航空写真測量実施。
7／31（晴） 機材搬出。調査終了。

第3節 整理作業の経過

整理作業は、一部土器洗浄を発掘作業中の雨天時に行ったが、その他の業務については平成14年8月16日から実施し、平成15年9月30日で終了した。以下に整理作業工程表を掲載した。

整理作業工程表

	平成14年度							平成15年度						
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
土器洗浄														
注記														
接合・復元														
実測														
写真撮影														
トレース														
レイアウト														
報告書執筆														

第2章 地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

高松市は香川県の中央やや東寄りに位置し、市域の大部分は讃岐平野の一部を形成する高松平野が広がっている。気候が温湿なこともあって、讃岐三白（綿・塩・砂糖）の産出が有名であった。南部に讃岐山脈の北縁がかかり、東西に日妻山、上佐山、宍相寺山、由良山が続く。東部に屋島、立石山塊、南西部に石清尾山、淨瀬寺山、白峰、堂山の山系が連なる。いずれも讃岐山脈の基盤である洪積台地と同じ地層からなるメサ、あるいはビュート型の溶岩台地で、塩江町との境（標高532.9m）、白峰山塊の青峰（449.3m）以外は20mから300mの低い山地である。北方はひらけ、瀬戸内海に面し、男木島、女木島、大槌島、小槌島などの島をも市域に含み、備讃瀬戸を挟んで岡山県と対峙する。

高松平野は、讃岐山脈より流れ出た諸河川が運んだ土砂によって形成された沖積平野である。高松平野には、西から本津川、香東川、御坊川、詰田川、春日川、新川といった河川が北流しているが、なかでも香東川が平野の形成に最も大きな影響を及ぼしており、現存の春日川以西が香東川による沖積平野といわれている。現在、石清尾山塊の西側を直線状に北流する香東川は17世紀初めの河川改修によるもので、それ以前には現在の香川町大野付近から東へ分岐した後、石清尾山塊の南側から回り込んで、平野中央部を東北流するもう一本の主流路が存在していた。この旧流路は、現在では水田地帯及び市街地の地下に埋没しているが、空中写真等から、林から木太地区にかけての分ヶ池、下池、長池、大池、ガラ池を結ぶ流路等数本の旧河道が知られており、発掘調査でもその痕跡が確認されている。なお、17世紀の廢川直前の流路は、御坊川として今でもその名残りをとどめている。

高松平野を流れる諸河川は、南の讃岐山脈から平野での流入口で穏やかな傾斜を持つ扇状地形の沖積平野を形成し、農耕に適した地味豊かな土壤をもたらしたが、諸河川の中流域は伏流し、表層は涸れ川になることが多く、早くからため池を造築して水不足を解消してきた。山間の洪積台地と洪積層の境目に多くのため池が分布する。これらのため池は、年間1,000mm前後と降水量の乏しい讃岐平野において農業用水確保のために不可欠なものである。また、今回の調査地である多肥地区周辺は、扇状地末端部にあたることから、ため池に加えて出水（すい）と呼ばれる自噴地下水脈の利用が盛んで、両者を併用した特徴的な配水網と嚴格な水利慣行を伝えてきた。調査地周辺では、栗木出水、平井出水、鈴木出水等が見られる。

しかし、昭和50年の香川用水の通水によって、一帯は三郎池の受益範囲に取り込まれ、農業用水の確保の不安が払拭された反面、地元水源を核とした水利慣行が急速に消滅するとともに、ため池や出水の水源自体もその役割を失いつつある。

第2節 歴史的環境

高松平野では、ここ10数年間の大規模な開発事業（高松東道路建設事業、空港跡地開発事業等）の事前調査により、遺跡数が飛躍的に増大しつつある。

旧石器時代では、高松平野及び周辺丘陵部で、表採や混入で発見された久米池南遺跡、雨山南遺跡と、AT火山灰上層からナイフ型石器等を出土した中間西井坪遺跡が知られている。

次に、縄文時代では、大池遺跡で草創期の右舌尖頭器2点の採集が報告されている。また、井手東I遺跡では現地表下約70cmでアカホヤ火山灰の堆積層があり、縄文中期における平野の形成過程をうかが

うことができる。晩期の遺跡は、近年の平野部の発掘調査により発見例が相次ぎ、林・坊城遺跡、浴・松ノ木遺跡、浴・長池Ⅱ遺跡、井手東Ⅰ遺跡、井手東Ⅱ遺跡、居石遺跡、上天神遺跡、東中筋遺跡から新たな資料が提示されている。

弥生時代前期になると、天満・宮西遺跡、空港跡地遺跡、大池遺跡、松縄下所遺跡等が新たに登場してくる。このうち、浴・長池遺跡、浴・長池Ⅱ遺跡ではこの時期から小区画の水田が営まれており、早い時期から稻作文化が受け入れられていたことがうかがえる。また、汲仏遺跡、鬼無藤井遺跡等の調査では多重環濠を持つことが分かった。

これに続く弥生中期では、多肥松林遺跡、日暮・松林遺跡、浴・長池遺跡、浴・長池Ⅱ遺跡、井手東Ⅰ遺跡が見られる。いずれの遺跡も環濠を持たず、中期には環濠が廃絶してしまう傾向が見られる。多肥松林遺跡では自然河川の中から土器とともに、鳥形木製品、木製農具等が出土している他、竪穴住居跡も確認されている。また、中期後半になると久米池南遺跡のように丘陵上あるいは丘陵裾部に集落を営む例が多い。

弥生時代後期になると遺跡数は増大する。平野部では、上天神遺跡、天満・宮西遺跡、凹原遺跡、空港跡地遺跡のように十数棟の住居跡と大量の廃棄土器を伴う集落の他に太田下・須川遺跡、蛙股遺跡、日暮・松林遺跡、井手東Ⅰ遺跡などの集落遺跡がある。丘陵部では、香川県の弥生後期の標式遺跡として著名な大空遺跡が平野東部に存在する。

古墳の造営は盛んで、発生期と考えられる諏訪神社墳丘墓、鶴尾神社4号墳を皮切りに、石清尾山塊では猫塚、石船塚等の積石塚からなる石清尾山古墳群、三谷地区では小日山1・2号墳、前田地区では高松市茶臼山古墳、下笠居地区では横立山経塚古墳等が築造され、その後ほぼ古墳時代全期間を通じて地域単位で断続的に展開している。

石清尾山古墳群では、頂上部の尾根筋を中心とした前期の積石塚の築造が途絶えて100年以上の断絶を経た後、南山浦古墳群、淨願寺山古墳群等の盛土の後期群集墳が築造されている。三谷地区では、中期には全長88mの規模で石棺を持つ三谷石舟古墳、直径42mを測り周濠を巡らす円墳の高野丸山古墳が、そして後期には平石上古墳群、矢野面古墳、犬の馬場古墳、石舟池古墳群といった古墳群につながってゆく。前田地区でも同様に高松市茶臼山古墳に続き、前期から中期にかけての茶臼山古墳群、後期の小山古墳、久本古墳、山下古墳、瀧本神社古墳、後期群集墳の岡山古墳群、長尾古墳群といった古墳が引き続いで築造されている。

また、鬼無地区では前期末から中期初頭とみられるかしが谷2号墳をはじめとして、土師質陶棺を出土した中期の前方後円墳の今岡古墳、巨石積みの横穴式石室を有する古宮古墳、平木1号墳等の神高池古墳群へと続いている。さらに距離的にはやや離れるが、中間西井坪遺跡では今岡古墳と同様な土師質陶棺の焼成土坑が検出されており、西山崎町の本堯寺北古墳でも埴輪円筒棺の出土が伝えられていることから本津川を介して物資の交通が想像できる。

屋島地区でも、瀬戸内海を見渡す丘陵上に位置する長崎鼻古墳をはじめ浜北古墳群、中筋古墳群、金刀比羅社域古墳、東山地古墳等が知られる。未調査で時期の確定を見ないものも含まれるが、平野周辺部の単位地域よりもなお閉鎖性の強いであろう島嶼部の古墳群という点で、また生産基盤となる耕作地を持たないという点においても注目すべき地域である。

古代では、条里遺構と古代寺院跡が注目される。浴・長池遺跡、浴・松ノ木遺跡、井手東Ⅰ遺跡、蛙股遺跡、上天神遺跡、凹原遺跡、松縄下所遺跡等で条里坪界線と考えられる遺構を検出している。また、今回の調査地西方の松林遺跡では香川郡の一・二条の界線と考えられる溝も検出されている。遺構の多くは平安時代から鎌倉時代の遺物を含み、一般に条里の施行期とされる奈良時代とはかなりの時期

の隔たりがあるが、蛙股遺跡、松縄下所遺跡のように奈良時代を中心とした遺物の出土を見た遺跡もあり、条里地割の施行時期と存続期間を解明できるデータが描いつつある。古代寺院跡では宝寿寺跡、山下廃寺、下司廃寺、高野廃寺、押師廃寺、多肥廃寺、坂田廃寺、勝賀廃寺等が平野部を中心に知られている。正式の発掘調査を経たデータがないため、寺域、伽藍等の全容がわかるものではないが、現在でも礎石や遺物の散布がみられる。

平安時代では、多肥・松林遺跡で掘立柱建物跡が確認されている他、空港跡地遺跡から宮西・…角遺跡にかけて連続する微凹地に水田がつくられている。高松平野で確認されている水田遺構は、一区画が10m²前後のもので、最大でも20m²を越えるものは少ない。

中世では、空港跡地遺跡で溝に区画された建物跡が中世を通じて確認されており、当時の村落のあり方が判明している。同様に溝で区画された屋敷で城跡の伝承を持つ神内城（木太町）や佐藤城（伏石町キモンドー遺跡）等の調査も実施されている。

近世では、近年高松城跡の発掘調査が相次ぎ、絵図等との比較により徐々にではあるが屋敷地の変遷過程が判明しつつある。なお、同時期の町家としては細屋町遺跡、農村としては川南東遺跡、川南西遺跡、東山崎・水田遺跡等が知られている。

第3節 周辺の調査成果

日暮・松林遺跡（都市計画道路福岡多肥上町線部分）

都市計画道路福岡多肥上町線の建設に伴って調査された。遺跡は旧高松空港の北西方向に位置し、条里地割の遺存する水田地域に立地する。多肥松林遺跡が西側に隣接する。検出された遺構は弥生時代中期～近世に至る長期間にわたるが、中心的な存在をなすのは弥生時代である。遺構の分布は、北・南端部分ではやや希薄であるが、全体としては遺構の検出密度は高い。特に、弥生時代の遺構は中央から北側に集中している。

弥生時代の遺構は、時期的に大きく2期に分けられる。中期の遺構としては、18棟の掘立柱建物跡と溝等である。掘立柱建物跡は長軸が東西方向を示し、その位置関係より規格性が考えられる。柱穴の規模は深さ70cmを測るものもあり、埋土中に土器が多く量に検出されたものもある。後期の遺構としては、竪穴住居跡10棟・方形周溝墓1基・井戸1基・溝・土坑・ピット等がある。竪穴住居跡は円形と方形の平面形を呈し、最大規模のSH02は直径10mを測る円形の住居であり、多量の土器が出土した。井戸は検出面で直径6m、深さ1.2mを測る。住居跡群の北側では中期～後期の土器を河床直下より出土する旧河道が流れている。

13世紀初め頃の遺構には溝、旧河道がある。溝は調査区南側を不規則に走っており、上面及び埋土中より完形の瓦器碗が数点出土した。旧河道は、調査区南側を北東方向に蛇行しており、幅約8m、深さ1.2mを測る。上層から13世紀初の土器、下層からは古墳時代後期の須恵器が出土した。近世の遺構は、掘立柱建物・溝・木樋がある。溝は約110m間隔で東西方向に延びる3本が検出され、条里制の坪境と考えられる。

多肥松林遺跡

県立高松桜井高等学校建設に伴いはじめて調査された遺跡である。発掘調査では、南北に蛇行して流れていた旧河道と、その東岸から弥生時代中期の建物跡を10数棟確認している。日暮・松林遺跡と同集落と考えられる。旧河道からは多量の弥生土器や木器が出土した。出土した木器の中には、剣形木製品

など祭祀道具も見ることができる。その後、高松土木事務所及び県道建設に伴い数次の調査がなされている。

松林遺跡

香川県立桜井高等学校の周辺通学路整備に伴って調査を実施した。扇状地形の末端部に位置し、東側には多肥松林遺跡が隣接する。遺構はほぼ全域で検出しており、縄文時代晚期～近世にかけて断続的ではあるが長期間にわたって土地利用がなされている。縄文晚期では自然河道、弥生前期では集石遺構等が見られる。中心となる時期は弥生時代中期中葉である。竪穴住居4棟をはじめ、溝、土坑等の遺構を検出した。特筆すべきものとしては地震の痕跡である噴礫があげられる。この噴礫上には弥生中期中葉の土器が供獻されていることから、この時期のものと考えられ、地震に対する祭祀行為としても注目される。時期的に南海地震による液状化現象であった可能性が高い。弥生後期になると、幅3.8mの大溝等が見られる。以後、遺跡は断絶し、中世から近世にかけての条里遺構が見られる。

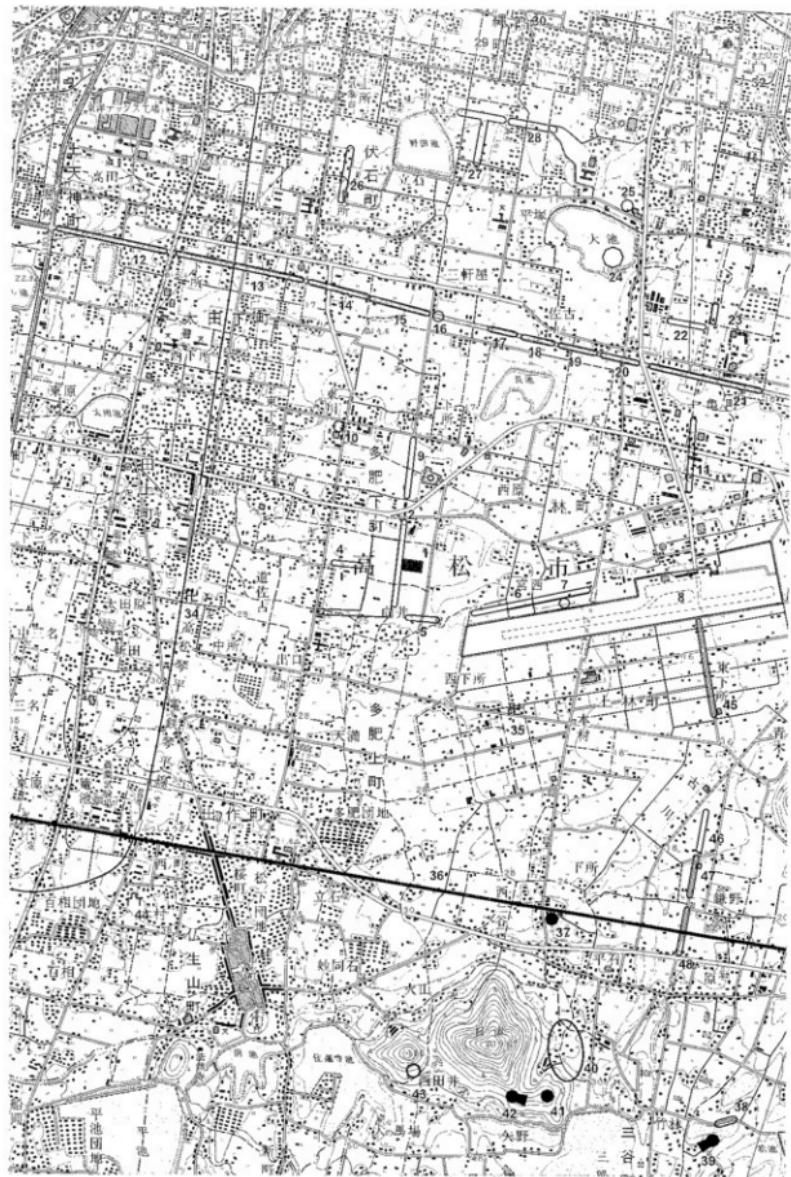
多肥宮尻遺跡

県道太田上町志度線建設に伴い調査が行われた。調査区の北西部は、周辺地割の乱れ等から香東川の旧河道であることが確認されている。調査では、縄文時代晚期～近世にかけての遺構・遺物を検出した。鎌倉時代のピットと古代～中世と考えられる掘立柱建物1棟を除くと居住遺構は確認できず、6条の自然河川からの遺物出土量と対照的な結果となった。弥生時代終末及び古墳時代中期末葉～後期後半にかけての竪穴住居が少數確認されているが、居住域の中心とは考えられず、遺跡南方に広がる微高地を中心に各時期の集落が展開すると予想される。

また、当遺跡東方は弘福寺領讃岐国山田郡田園の南地区に比定されており、調査区は香川郡1条13里に相当する。田園等によるとI区東端付近は8世紀中葉において、津田西口ないし津田となっている。津田とは水の多い湿润な田を意味するが、畦畔等は検出されていない。

参考文献

- 「弘福寺領讃岐国山田郡田園北定地域発掘調査概報」I～IV 高松市教育委員会 1988～1992
「讃岐国弘福寺領の調査」I・II 高松市教育委員会 1992・1999
『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第一冊 宮・長池遺跡』高松市教育委員会 1993
『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第二冊 宮・松ノ木遺跡』高松市教育委員会 1994
『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第三冊 宮・長池Ⅱ遺跡』高松市教育委員会 1994
『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第四冊 井手東Ⅰ遺跡』高松市教育委員会 1995
『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第五冊 井手東Ⅱ遺跡』高松市教育委員会 1995
『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第六冊 蛙殿遺跡』高松市教育委員会 1995
『一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第七冊 居石遺跡』高松市教育委員会 1995
『香川県立高松桜井高校周辺通学路整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 松林遺跡』高松市教育委員会 1996
『都市計画道路福岡多肥上町線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書 日暮・松林遺跡』高松市教育委員会 1997
『市道林町47号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 宮西・一角遺跡』高松市教育委員会 2000・2001
『特別養護老人ホームさくら荘建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 一角遺跡』高松市教育委員会 2000
『樹屋町遺跡』高松市教育委員会 2003
『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 多肥松林遺跡 鹿伏・中所遺跡』平成6年度 香川県教育委員会 1995
『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 太田下・須川遺跡』香川県教育委員会 1995
『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報』平成9年度 岬香川県埋蔵文化財調査センター 1998
『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 多肥松林遺跡』嶋香川県埋蔵文化財調査センター 1999
『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1～6冊 空港跡地遺跡』I～VI 香川県教育委員会 1996～2003



第2図 周辺の遺跡位置図 (S=1/25,000)

周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	種類	時代	概要
1	日暮・松林遺跡(済生会)	集落	弥生	弥生中期の掘立柱建物等を検出。
2	日暮・松林遺跡(道路)	集落	弥生	弥生中期・後期の集落遺跡。
3	多肥松林遺跡	集落	弥生	弥生中・後期と平安時代の集落跡。旧河道から木製品多数出土。
4	松林遺跡	集落	弥生	弥生中期の集落遺跡。噴霧を検出。
5	多肥宮尻遺跡	旧河道	弥生	縄文～鎌倉の遺跡。自然河道から多量の遺物出土。
6	宮西・一角遺跡	集落	弥生	弥生前期の集落跡。
7	一角遺跡	集落	弥生	弥生後期の集落跡。噴霧を検出。近世では吉田寺跡を検出。
8	空港跡遺跡	集落	弥生	弥生～近世の遺跡。堅穴住居、周溝墓等多くの遺構を検出。
9	凹原遺跡	集落	弥生	弥生終末期の集落で、堅穴住居多数検出。
10	汲仏遺跡	集落	弥生	弥生前期の環濠集落。
11	宗高・坊城遺跡	旧河道	弥生	旧河道から縄文土器、弥生土器出土。
12	上天神遺跡	集落	弥生	弥生後期の集落跡。
13	太田下・須川遺跡	集落	弥生	弥生中期～古墳後期の集落跡。分銅形土製品出土。
14	蛙股遺跡	水田	古代	古代～中世にかけての水田跡。弥生後期の土器棺も検出。
15	居石遺跡	旧河道	縄文	旧河道中から縄文土器、古墳時代初頭の小型方製鏡出土。
16	井手東Ⅱ遺跡	集落	縄文	縄文時代の溝を検出。石棒出土。
17	井手東Ⅰ遺跡	集落	弥生	弥生中期の溝から琴、機織具、弓等の木製品出土。
18	谷・長池Ⅱ遺跡	水田	弥生	弥生前期の水田を検出。
19	谷・長池遺跡	集落	弥生	弥生前期の水田と中期の堅穴住居、円形周溝墓を検出。
20	谷・松ノ木遺跡	水田	弥生	弥生～近世の自然河道と水田を断続的に検出。
21	林・坊城遺跡	集落	弥生	旧河道から縄文晩期の農具を検出。
22	林下所遺跡	集落	弥生	井戸、坪界溝の他、噴霧を検出。
23	林谷遺跡	集落	近世	數状の溝を検出。勾玉、ガラス玉出土。
24	大池遺跡	散布地	縄文	有舌尖頭器2点の他、弥生土器、須恵器、サヌカイトを探集。
25	上西原遺跡	水田	弥生	弥生前期と中世の水田検出。
26	キモンドー遺跡	城館	中世	佐藤城の堀跡を検出。
27	松縄下所遺跡	条里	古代	条里地割に合致する溝を検出。
28	境目・下西原遺跡	集落	弥生	掘立柱建物、溝、水田等検出。
29	天満・宮西遺跡	集落	弥生	弥生終末期の集落で、堅穴住居多数検出。
30	松縄城跡	城館	中世	宮脇氏の城。熊野神社が城跡と考えられている。
31	神内城跡	城館	中世	神内氏の城。堀跡の一部を検出。
32	向城跡	城館	中世	真鍋氏の城。土壘と考えられる土壤状地形が現存。
33	白山神社古墳	古墳	古墳	堅穴式石室を有する直径約30mの古墳中期の円墳。
34	多肥魔寺	寺院	古代	布目瓦出土。「見性寺林」の小字が残る。
35	拌師魔寺	寺院	古代	布目瓦出土。
36	推定南海道	道路	古代	道路状遺構を検出。
37	加摩羅神社古墳	古墳	古墳	横穴式石室を有する。
38	石舟池古墳群	古墳	古墳	11基以上の古墳群。
39	三谷石船古墳	古墳	古墳	88mの前方後円墳。剝抜式石棺を有する。
40	平石上古墳群	古墳	古墳	6基の円墳からなる古墳群。
41	小日山2号墳	古墳	古墳	20mの円墳。
42	小日山1号墳	古墳	古墳	31mの前方後円墳。堅穴式石室を有する。鏡出土の伝承。
43	雨山南遺跡	散布地	旧石器	国府型ナイフ形石器出土。
44	百相城跡	城館	中世	河西氏の城。「城塙」の字名残る。
45	上林遺跡	集落	中世	中世の掘立柱建物等を検出。
46	北野遺跡	集落	弥生	弥生前期・後期の溝・旧河道等を検出。
47	鎌野西遺跡	集落	弥生	弥生前期・後期の溝・旧河道等を検出。
48	三谷中原遺跡	条里	古代	南海道の可能性が高い条里地割に挟まれた部分を検出。

周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	種類	時代	概要
1	日暮・松林遺跡（活生会）	集落	弥生	弥生中期の掘立柱建物等を検出。
2	日暮・松林遺跡（道路）	集落	弥生	弥生中期・後期の集落遺跡。
3	多肥松林遺跡	集落	弥生	弥生中・後期と平安時代の集落跡。旧河道から木製品多数出土。
4	松林遺跡	集落	弥生	弥生中期の集落遺跡。噴礫を検出。
5	多肥宮尻遺跡	旧河道	弥生	縄文～繩文の遺跡。自然河道から多量の遺物出土。
6	宮西・一角遺跡	集落	弥生	弥生前期の集落跡。
7	-一角遺跡	集落	弥生	弥生後期の集落跡。噴礫を検出。近世では古国寺跡を検出。
8	空港跡地遺跡	集落	弥生	弥生～近世の遺跡。堅穴住居、周囲墓等多くの遺構を検出。
9	凹原遺跡	集落	弥生	弥生終末期の集落で、堅穴住居多数検出。
10	汲仏遺跡	集落	弥生	弥生前期の環濠集落。
11	宗高・坊城遺跡	旧河道	弥生	旧河道から縄文土器、弥生土器出土。
12	上天神遺跡	集落	弥生	弥生後期の集落跡。
13	太田下・須川遺跡	集落	弥生	弥生中期～古墳後期の集落跡。分銅形土器品出土。
14	蛙股遺跡	水田	古代	古代～中世にかけての水田跡。弥生後期の土器棺も検出。
15	居石遺跡	旧河道	縄文	旧河道中から縄文土器、古墳時代初頭の小型方製鏡出土。
16	井手東II遺跡	集落	縄文	縄文時代の溝を検出。石棒出土。
17	井手東I遺跡	集落	弥生	弥生中期の溝から琴、機織具、弓等の木製品出土。
18	浴・長池II遺跡	水田	弥生	弥生前期の水田を検出。
19	布・長池遺跡	集落	弥生	弥生前期の水田と中期の堅穴住居、円形崩溝墓を検出。
20	浴・松ノ木遺跡	水田	弥生	弥生～近世の自然河道と水田を断続的に検出。
21	林・坊城遺跡	集落	弥生	旧河道から縄文晩期の農具を検出。
22	林下所遺跡	集落	弥生	井戸、坪界溝の他、噴礫を検出。
23	林谷遺跡	集落	近世	数状の溝を検出。勾玉、ガラス玉出土。
24	大池遺跡	散布地	縄文	有舌尖頭器2点の他、弥生土器、須恵器、サスカイトを採集。
25	上西原遺跡	水田	弥生	弥生前中期と中世の水田を検出。
26	キモンド一遺跡	城館	中世	佐藤城の城跡を検出。
27	松綱下所遺跡	条里	古代	条里地割に合致する溝を検出。
28	堀目・下西原遺跡	集落	弥生	掘立柱建物、溝、水田等を検出。
29	天瀬・宮西遺跡	集落	弥生	弥生終末期の集落で、堅穴住居多数検出。
30	松楓城跡	城館	中世	宮脇氏の城。熊野神社が城跡と考えられている。
31	神内城跡	城館	中世	神内氏の城。城跡の一部を検出。
32	向城跡	城館	中世	真鍋氏の城。土堤と考えられる土堤状地形が現存。
33	白山神社古墳	古墳	古墳	堅穴式石室を有する直径約30mの古墳中期の円墳。
34	多肥魔寺	寺院	古代	布日瓦出土。「見性寺林」の小字が残る。
35	押師魔寺	寺院	古代	布目瓦出土。
36	推定南海道	道路	古代	道路状遺構を検出。
37	加摩羅神社古墳	古墳	古墳	横穴式石室を有する。
38	石舟池古墳群	古墳	古墳	11基以上の古墳群。
39	三谷石船古墳	古墳	古墳	88mの前方後円墳。倒抜式石棺を有する。
40	平石上古墳群	古墳	古墳	6基の円墳からなる古墳群。
41	小日山2号墳	古墳	古墳	20mの円墳。
42	小日山1号墳	古墳	古墳	31mの前方後円墳。堅穴式石室を有する。鏡出土の伝承。
43	雨山南遺跡	散布地	旧石器	国府型ナイフ形石器出土。
44	百相城跡	城館	中世	河西氏の城。「城塹」の字名残る。
45	上林遺跡	集落	中世	中世の掘立柱建物等を検出。
46	北野遺跡	集落	弥生	弥生前期・後期の土坑等を検出。
47	鎌野西遺跡	集落	弥生	弥生前期・後期の溝・旧河道等を検出。
48	三谷中原遺跡	条里	古代	南海道の可能性が高い柔渠地割に挟まれた部分を検出。

第3章 調査の成果

第1節 調査地の概要と基本層序

調査地周辺は平坦面が広がるが、これまでの発掘調査や微地形から香東川の旧河道が存在することが知られている。調査地は、多肥松林遺跡の中央部を北流し日暮・松林遺跡（都市計画道路）の北端へ流れる旧河道と、多肥宮尻遺跡から今回の調査地の東方を通り下池へ流入する旧河道に挟まれた微高地上に立地する。全体的に削平が著しく、耕作土または床土直下で遺構面となる部分がほとんどである。特に南半は現地表面下10cmで遺構面に達しており、遺構密度も薄い。なお、北半は現地表面下20~30cmで地山に達する。調査地北壁で土層を確認（第5図）したところ、耕作土、床土が所在し、中央部では直下で地山が認められた。東部は地山との間に褐色の砂混粘質土層が存在し、西部にもにぶい黄褐色の粘質シルト層が認められた。このため遺構面は中央部がやや高く、東西に向かってわずかながら低くなっている。今回の調査地が微高地の中でも頂部に近い部分と考えられる。

また、調査地東端は現状ではコンクリート畦畔により60cmの段差が認められるが、聞き取り調査によると、戦前まで瓦用の粘土を探取していた場所だったということで、人工的な改変によるものと考えられる。

遺構面は床土直下で検出した近世以降の遺構面と地山直上で検出した弥生~古墳時代の遺構面の2面が存在するが、前述した通り、ほぼ全域が床土直下で地山が認められることから、地山直上の1面のみで調査を実施した。なお、平面図は近世の龜溝が多数存在し、煩雑を極めたため、弥生~古墳時代の遺構（第3図）と近世以降の遺構（第4図）に分けて掲載した。遺物の出土していない遺構もあるが、遺構の切り合い関係や弥生~古墳時代の遺構は概ね黒褐色系の埋土であるのに対し、近世以降の遺構は灰色であることから判断した。

第2節 弥生~古墳時代の遺構（第3図）

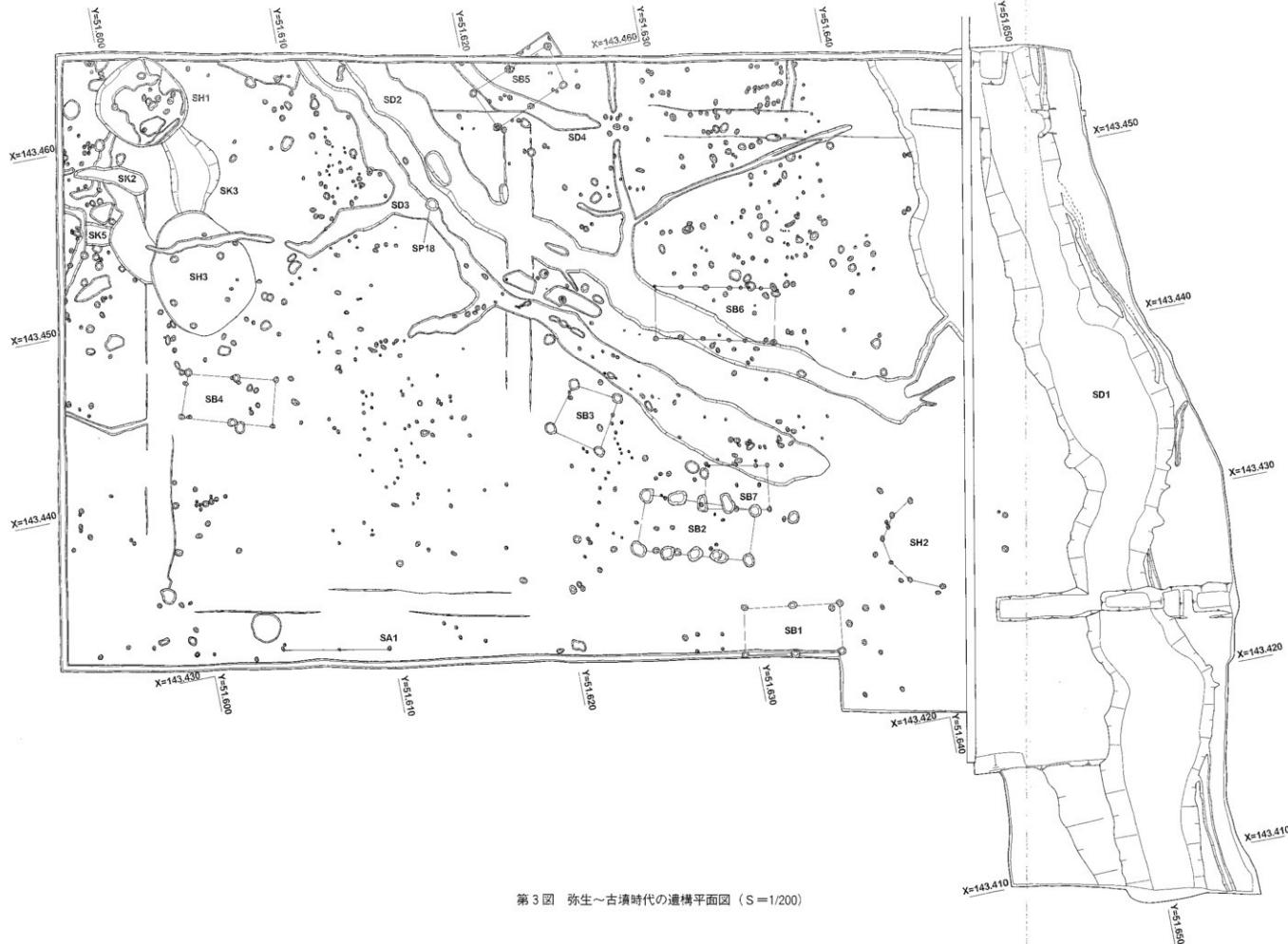
(1) 掘立柱建物

SA1（第6図）

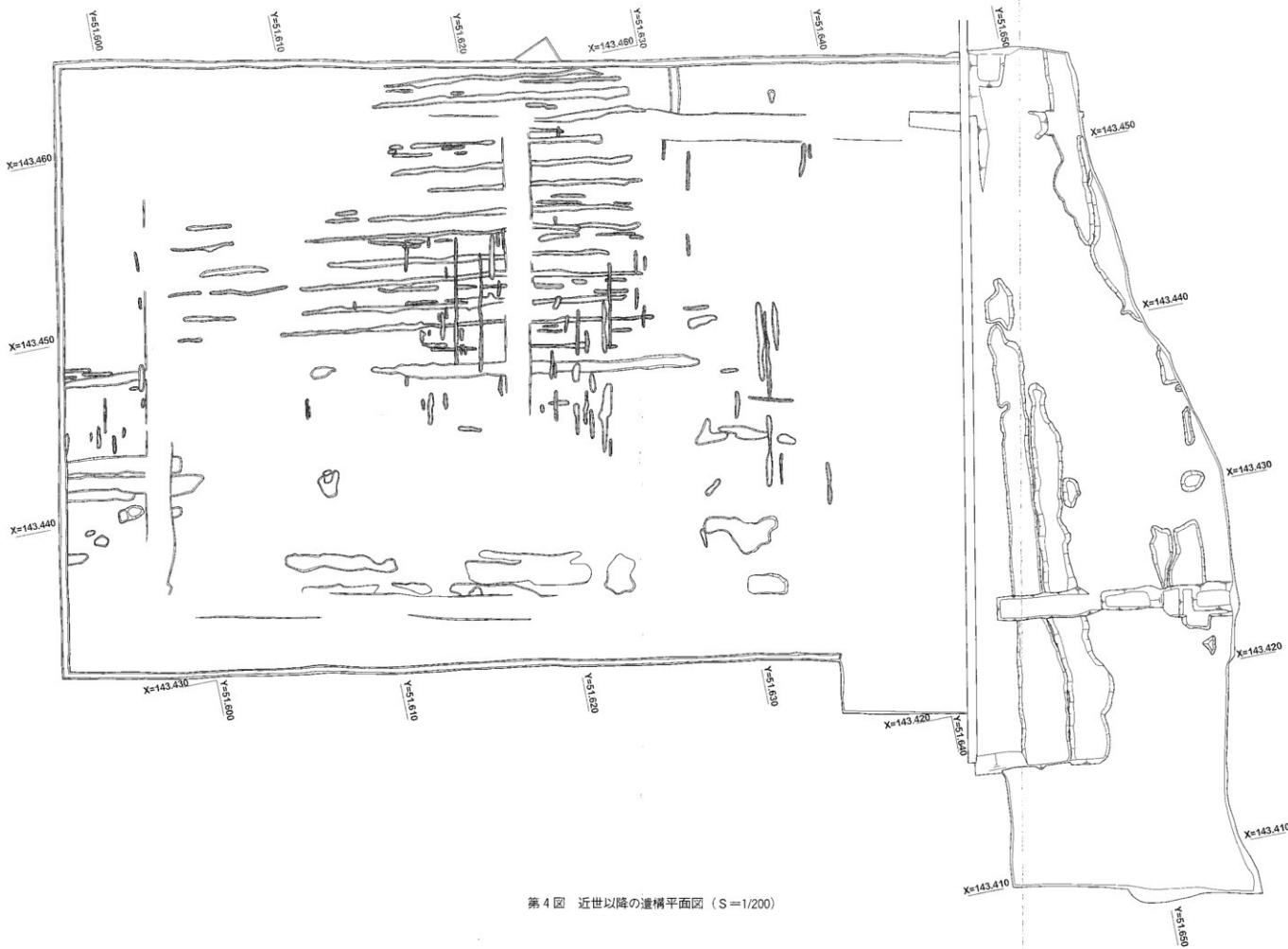
調査区南西部で検出した。3基の柱穴が東西方向に並び、長さは約5.9mを測る。柱穴は直径20cm前後で、深さ5~15cmと浅く、埋土は黒褐色粘土層である。他の掘立柱建物とは同方位に並ぶことから、掘立柱建物になる可能性が高いと考えられる。遺物は出土していないが、他の掘立柱建物と同時期の弥生時代中期のものと考えられる。

SB1（第7図）

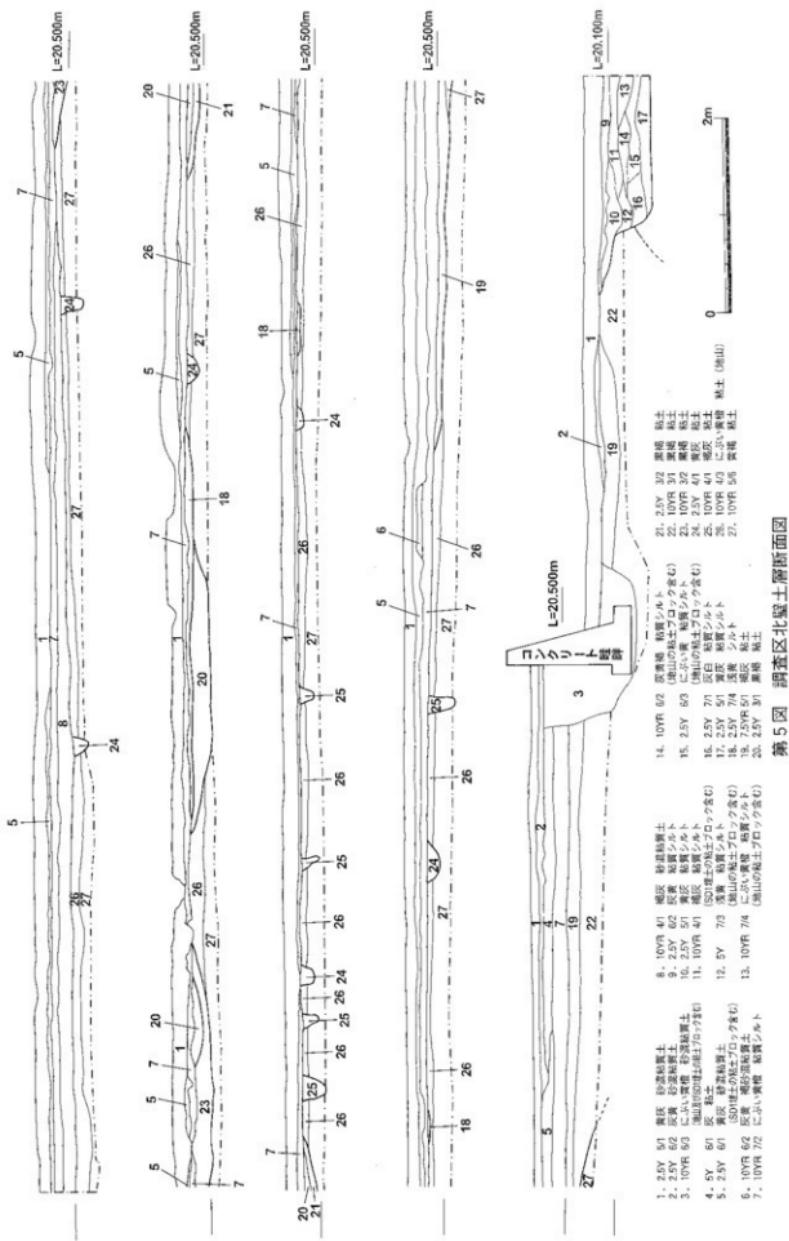
調査区南東部で検出した南北1間（2.65m）、東西2間（5.43m）、床面積14.39m²の掘立柱建物である。建物の方位はN-98°-Eである。掘立柱建物を構成する柱穴は円形あるいは隅丸方形を呈し、最大のもので直径42cm、深さ38cmを測る。南東隅の柱穴の底で拳大の石を検出している。埋土は柱根が黒色粘質土層、掘り肩が地山の粘土ブロックを含む黄灰色粘質土層である。遺物は南側中央の柱穴から広口壺が1点出土した。ただし、サブトレーンチ掘削時に出土したもので、柱根または掘り肩のいずれから出土したものかは不明である。広口壺は口縁部上面及び側面に円形浮文が見られ、内面突帯を有する。頭部外面にも貼付突帯が3条認められる。弥生中期中葉の遺構と考えられる。



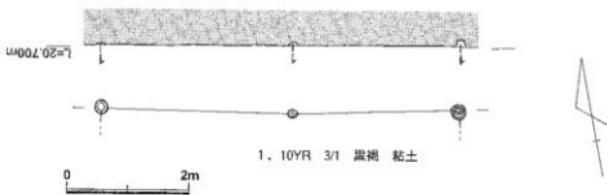
第3図 弥生～古墳時代の遺構平面図 (S=1/200)



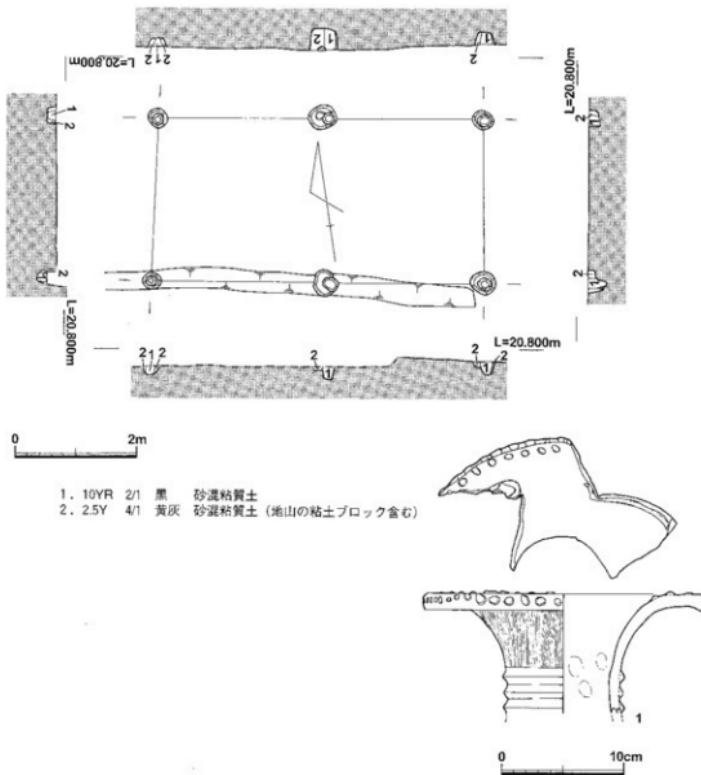
第4図 近世以降の遺構平面図 (S = 1/200)



第5図 調査区北壁土層断面図



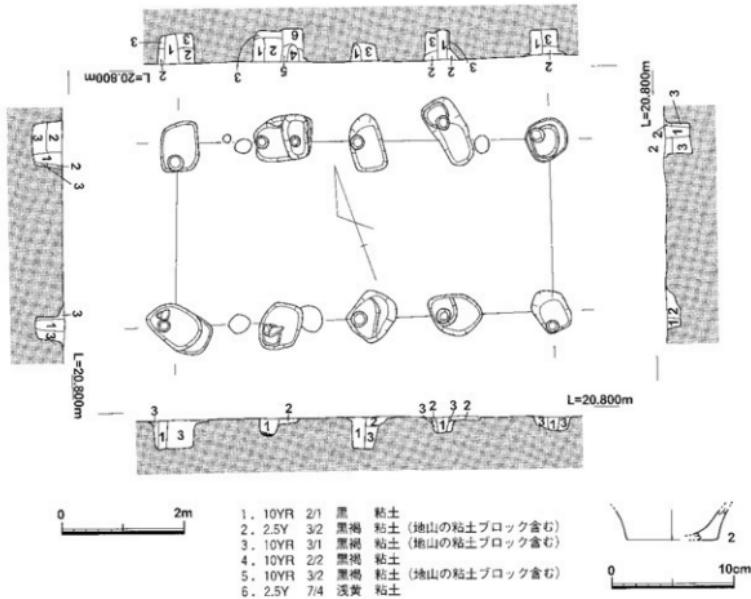
第6図 SA1平・断面図



第7図 SB1平・断面図及び出土遺物実測図

SB2 (第8図)

調査区南東部で検出した南北1間(3.16m), 東西4間(6.4m), 床面積20.22m²の掘立柱建物である。建物の方位はN-108°-Eである。掘立柱建物を構成する柱穴は隅丸方形を呈し、最大のもので長辺1.1m, 短辺55cm, 深さ50cmを測る。今回の調査区内では建物規模及び柱穴とも最大規模の掘立柱建物である。南側柱穴列の西側2基の柱穴底で拳大的石を検出している。埋土は柱根が黒色粘土層、掘り肩が地山の粘土ブロックを含む黒褐色粘土層である。遺物は南側中央の柱穴掘り肩から弥生土器の壺の底部が1点出土した。弥生中期中葉の遺構と考えられる。



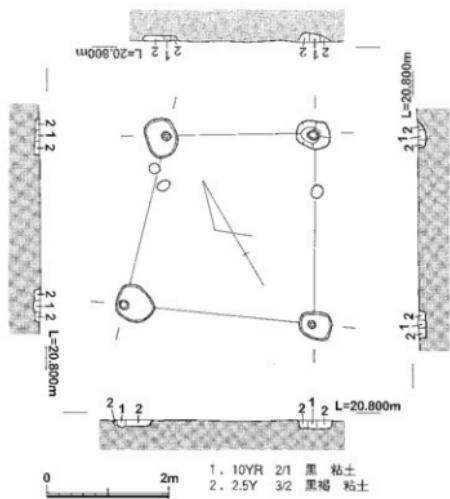
第8図 SB2平・断面図及び出土遺物実測図

SB3 (第9図)

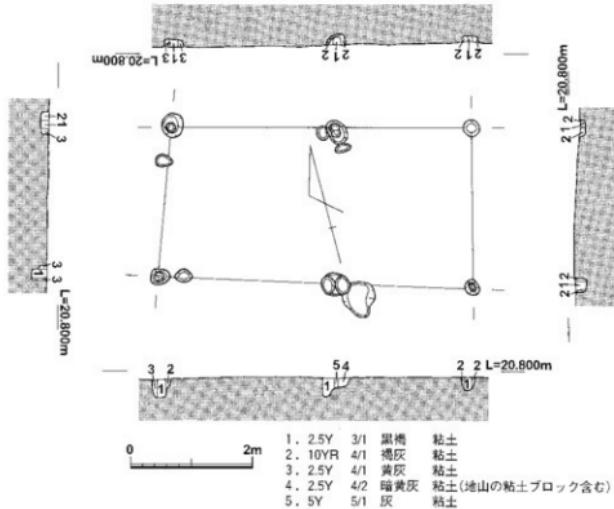
調査区中央南部で検出した南北1間(3.1m), 東西1間(3.15m), 床面積9.77m²の掘立柱建物である。掘立柱建物を構成する柱穴は隅丸方形を呈し、最大のもので長辺64cm, 短辺52cm, 深さ15cmを測る。埋土は柱根が黒色粘土層、掘り肩が黒褐色粘質土層である。遺物は出土していない。掘立柱建物の方位がN-123°-Eで、弥生中期中葉のSB1・2の方針と異なることや、1間四方であることから、他の掘立柱建物とは時期の異なるものと考えられるが、遺物が出土しておらず、時期は不明である。

SB4 (第10図)

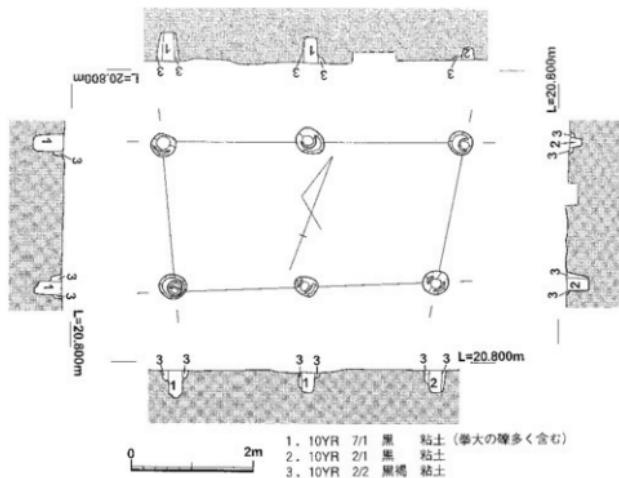
調査区西部中央で検出した南北1間(2.46m), 東西2間(4.96m), 床面積12.2m²の掘立柱建物であ



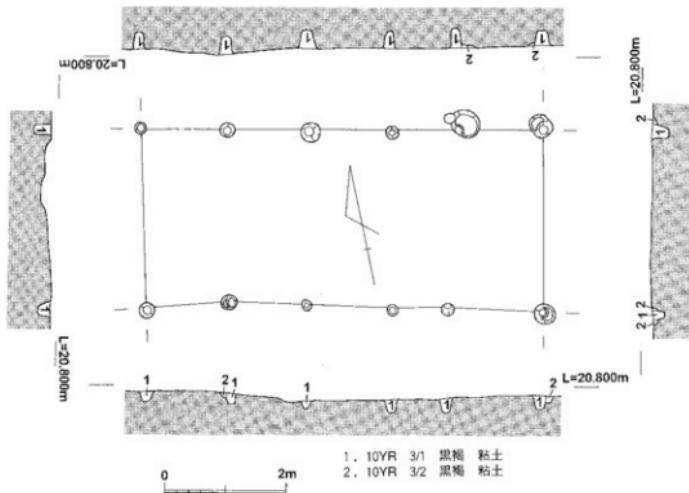
第9図 SB3平・断面図



第10図 SB4平・断面図



第11図 SB5平・断面図



第12図 SB6平・断面図

る。建物の方位はN-105°-Eである。掘立柱建物を構成する柱穴は直径30cm前後の円形で、深さは10-30cmを測る。北側中央の柱穴底で直径12cm、厚さ4cmの平な石を検出している。埋土は柱根が黒褐色粘土層、掘り肩が褐灰-黄灰色粘土層である。遺物は出土していないが^g、SB1・2とはほぼ同方位の建物であることから弥生中期中葉の遺構と考えられる。

SB5（第11図）

調査区中央北部で検出した南北1間（2.4m）、東西2間（4.3m）、床面積10.32m²の掘立柱建物である。掘立柱建物を構成する柱穴は直径40cm前後の円形で、深さ20-50cmを測る。埋土は柱根が黒褐色粘土層、掘り肩が地山の粘土ブロックを含む黒褐色粘土層である。なお、柱根部分には拳大の円礫が多量に認められた。建物の方位はN-68°-Eで、弥生中期中葉の掘立柱建物とは方位が異なる。遺物は南側中央の柱穴の柱根から須恵器片が1点出土しており、古墳時代の遺構と考えられる。

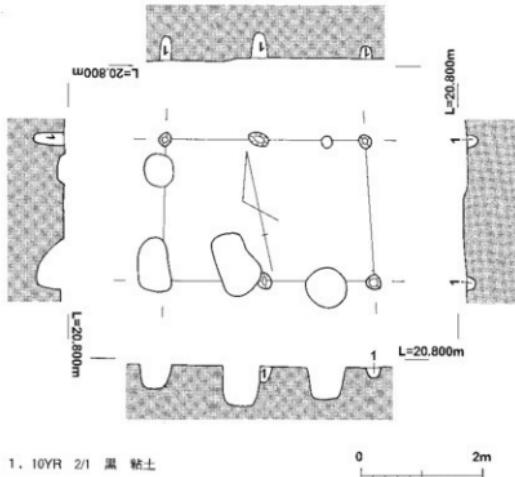
SB6（第12図）

調査区南東部で検出した南北1間（3m）、東西5間（6.6m）、床面積19.8m²の掘立柱建物である。建物の方位はN-101°-Eである。SD2の完掘後に検出した掘立柱建物で、掘立柱建物を構成する柱穴は円形を呈し、直径15-50cm、深さ10-30cmを測る。今回の調査区内ではSB2が柱穴及び建物規模とも最大建物であるが^g、SB6は柱穴は小さいものの、規模はSB2に匹敵する掘立柱建物である。埋土は柱根・掘り肩とも黒褐色粘質土層である。遺物は出土していないが、弥生終末期のSD2より古く、SB1・2とはほぼ同方位であることから、弥生中期中葉の遺構と考えられる。

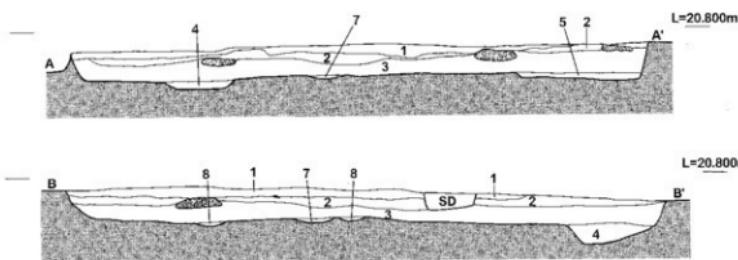
SB7（第13図）

調査区南東部でSB2

に切られた状態で検出された南北1間（2.34m）、東西2間（3.78m）、床面積8.44m²の掘立柱建物である。建物の方位はN-104°-Eである。掘立柱建物を構成する柱穴は円形を呈し、直径20-30cm、深さ20-50cmを測る。今回の調査区内では最小規模の掘立柱建物である。埋土は黒褐色の粘土層である。遺物は出土していないが^g、SB1・2とはほぼ同方位であることから、弥生中期中葉の遺構と考えられる。



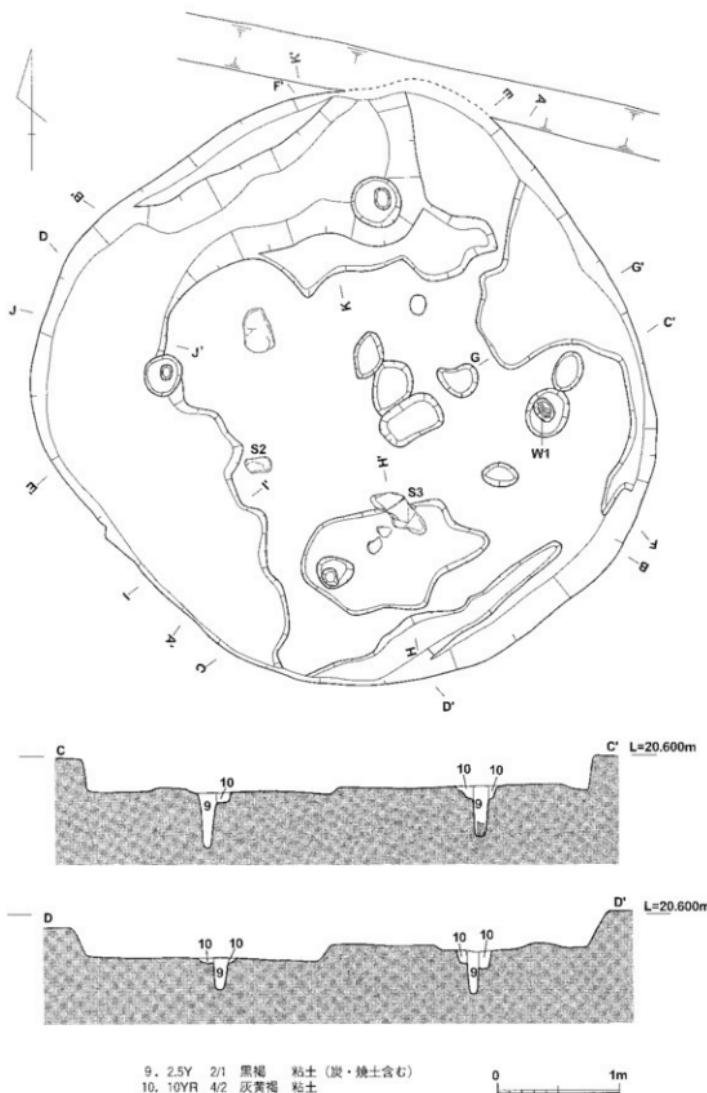
第13図 SB7平・断面図



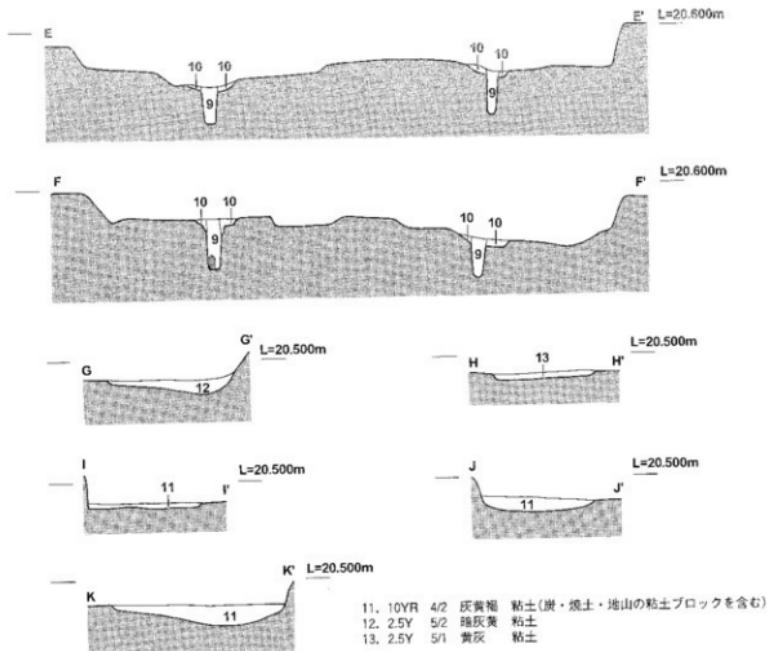
- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1. 10YR 2/1 黒 | 砂混粘質土 |
| 2. 10YR 3/1 黒褐 | 砂混粘質土（地山の粘土ブロック含む） |
| 3. 7.5YR 4/2 灰褐 | 砂混粘質土（炭・焼土含む） |
| 4. 10YR 4/2 灰黄褐 | 粘土（炭・燒土・地山の粘土ブロック含む） |
| 5. 2.5Y 5/2 灰灰 | 粘土（地山の粘土ブロック含む） |
| 6. 2.5Y 5/1 黄灰 | 粘土 |
| 7. 10YR 7/1 黑 | シルト～粘土 |
| 8. 10YR 5/1 青灰 | 粘土 |

0 1m

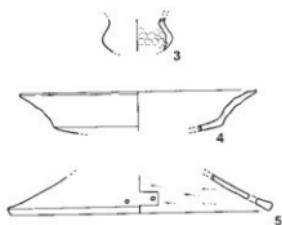
第14図 SH1炭・焼土検出状況及び土層断面図



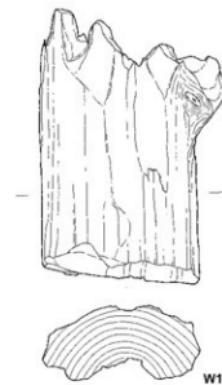
第15図 SH1平・断面図



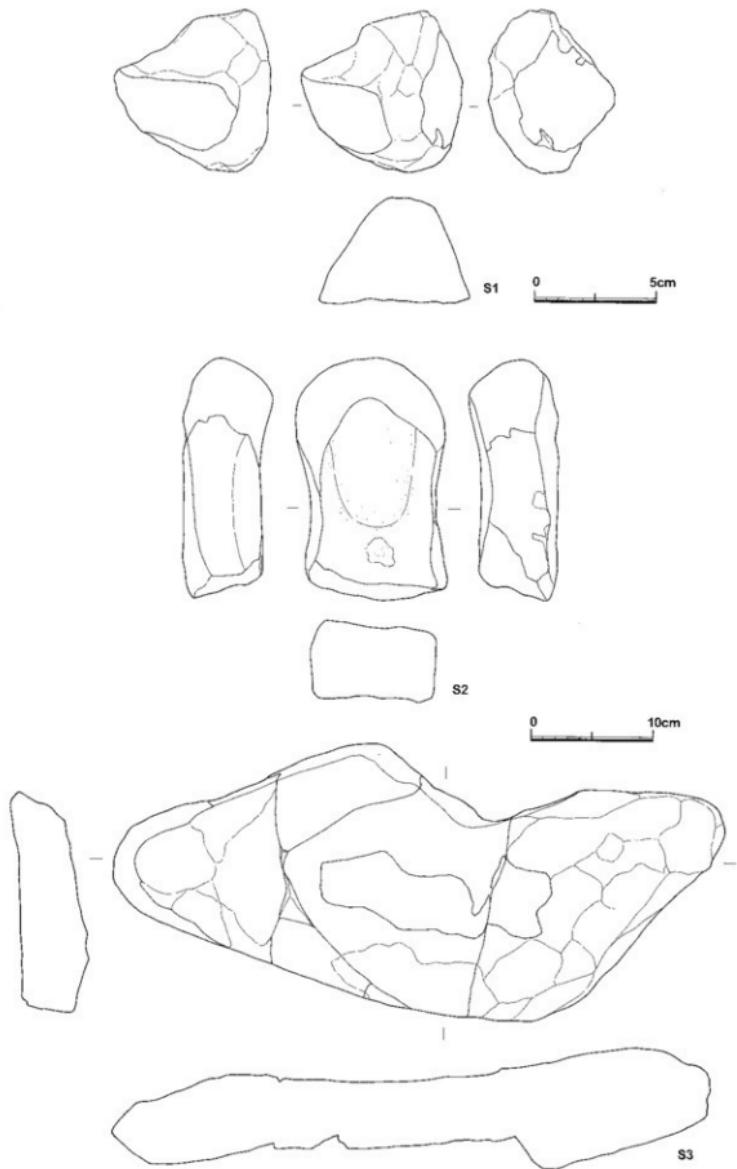
0 1m



0 10cm



第16図 SH1断面図及び出土遺物実測図



第17図 SH1出土石器実測図

(2) 穴住居

SH1 (第14~17図)

調査区北西端で検出した焼失穴住居である。平面形態は隅丸方形を呈し、長辺4.8m、短辺4.6m、深さ25cmを測る。埋土は上層が黒色砂混粘質土、中層が地山のブロックを含む黒褐色砂混粘質土、下層が灰褐色砂混粘質土の3層に分層できるが、全体に炭・焼土を多く含む。特に下層には放射状に炭化材が残り、壁面付近及び中央部で焼土を検出した。全体に遺物が少なく、火を受けていることから、廃棄に伴う焼却の可能性が考えられる。

炭・焼土の除去後、床面で精査を行ったところ、4基の主柱穴を検出した。主柱穴は最大のもので長径45cm、短径35cm、深さ50cmを測る。埋土は柱根が炭・焼土を含む黒褐色の粘土で、掘り肩が灰黄褐色粘土である。主柱穴のうち南東部の柱穴には柱の基部が残存していた。第16図のW1として掲載している。残存状況及び柱根の大きさから考えると、直径13cmの木材を半裁し、断面を半円形に仕上げた柱材と考えられるが、半裁した部分は腐蝕しており、明確な工具痕は残っていない。出土状況から、半裁部を北東辺の主柱穴列に合うような向きに埋設していることがうかがえる。また、柱の底面は工具痕が残存しており、粗い仕上げとなっていることがうかがえる。

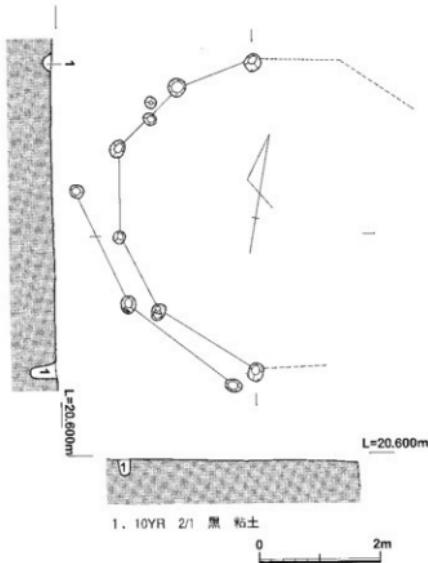
床面の状況は主柱穴の外側が中心部に比べ5~16cm低くなっている。低位部は溝状にはば周囲を開むが、南東部は比較的その幅が細く、深さも浅いのに対し、北西部ほど幅広く、深くなっていることがうかがえる。さらに、南東部においては幅40cmの溝の切れ目があり、この部分が穴住居の入口であった可能性が指摘できる。

一方、主柱穴より内側の穴住居中心部では7基のピットと1基の土坑を検出した。炉跡は不明だが、中心部の3基のピットが連なる部分がその可能性が高いと考えられる。他のピット及び土坑についてはいずれも5~10cm程度の深さで、用途不明である。

出土遺物は少量しか出土していない。図示できたものを第16・17図に掲載した。3は小型丸底土器である。内面に指頭圧痕が認められる。4・5は高杯である。5は裾部に2個1対の円形スカシが穿孔され、内面はヨコヘラケズリである。S1は磨石である。S2は砥石である。残存する3面はかなり擦り減っている。S3は石皿である。全体に火を受けており、表面が弾け飛んでいる。出土遺物から弥生終末期の遺構と考えられる。

SH2 (第18図)

調査区南東部で検出した半円形に

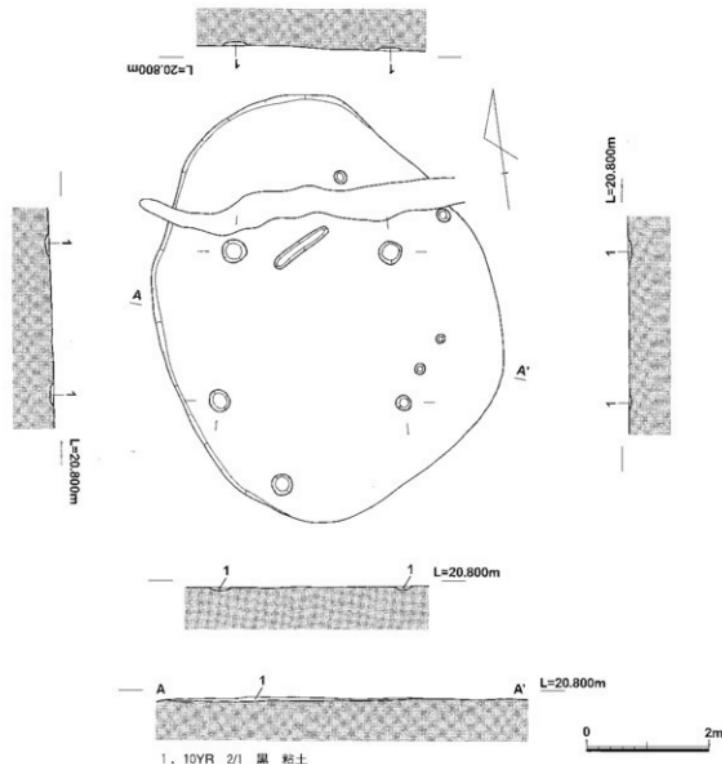


第18図 SH2平・断面図

並ぶ柱穴列である。東半は遺構面が50cm程度削平を受けていると考えられるため検出できていないが、現存部分から柱穴列は直径5.1mの円形になると考えられる。柱穴は直径20~30cm前後、深さ20~40cmを測り、埋土は黒色粘土である。遺物は出土しておらず、詳細な時期は不明である。近接する多肥松林遺跡（桜井高校）においても同様の遺構が検出されており、弥生中期の堅穴住居の可能性が高いと考えられる。

SH3（第19図）

調査区北西部で検出した遺構である。長径7m、短径5.5mを測る。削平が著しく、埋土は西半部分のみに黒色粘質土の堆積が数cm程度認められる程度である。遺構の床面で直径20~40cmのピット9基及び溝状の遺構を1基検出した。いずれの埋土も遺構埋土と同じ黒色粘質土で、深さは5cm未満と浅い。



第19図 SH3平・断面図

ピットの中でもやや大きい遺構の中心部分で4基が方形に並ぶことから、SH3が横円形の竪穴住居で、4基のピットがその主柱穴の可能性が考えられる。遺物は出土しておらず、詳細な時期は不明であるが、後述する弥生終末期のSD2・3から派生すると考えられる溝は切られていることから、それ以前の遺構と考えられる。

(3) 土坑

SK2 (第20図)

調査区北西部で検出した幅1.2m、長さ4.1mの溝状の土坑である。埋土は黄灰色粘土の単層で、深さ7cmを測り、断面形状は浅い皿状を呈する。出土遺物は須恵器壺の1点だけである。須恵器壺は口径が小さく、たちあがりも短い。後述する弥生終末期のSD2・3から派生すると考えられる溝は切っており、須恵器を出土することから古墳時代後期の遺構と考えられる。

SK3 (第21図)

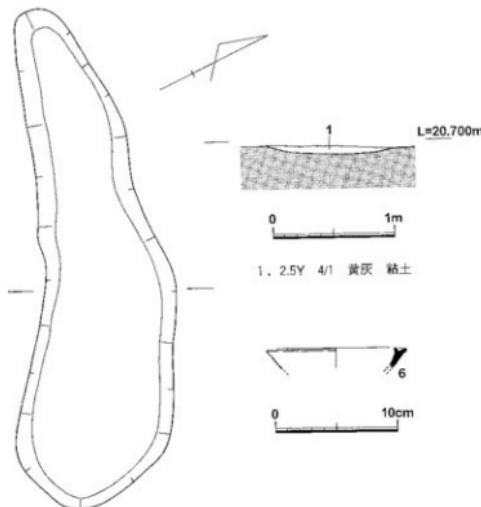
調査区北西部で検出した土坑である。遺構の南北はSH1・3に切られており、平面形態は不明である。検出部分の長さは5m、幅2.8mを測る。遺構の中心部が最も深く、最深部で50cmである。埋土は8層に分層でき、上部7層は黒色～黒褐色粘土の堆積が認められ、最下層部分のみ灰色のシルト～細砂であった。最下層まで掘削すると、湧水により遺構の半分まで水没した。このため、井戸の可能性も考えられる。遺物は1点も出土しておらず、詳細な時期は不明であるが、SH1に切られていることから弥生終末期以前の遺構と考えられる。

SK5 (第22図)

調査区北西部で検出した土坑である。遺構の東西は他の遺構に切られており、平面形態は不明である。検出部分の長さは1.45m、幅1.16mを測る。埋土は褐灰色粘土の単層で、深さ12cmを測る。弥生土器高杯の脚柱部1点のみ出土した。弥生終末期の遺構と考えられる。

SP18 (第23図)

調査区中央部で検出した柱穴である。SD3東岸部分で検出した直径65cm、深さ20cmの円形のピットである。埋土は黒色粘土の単層で、ピット中心部分で10～20cmの石と多量の土器を検出した。出土遺物は第23図8～15に掲載した。8は高杯の杯部～脚柱部である。9は高杯の脚部で、4方向に円形スカシが



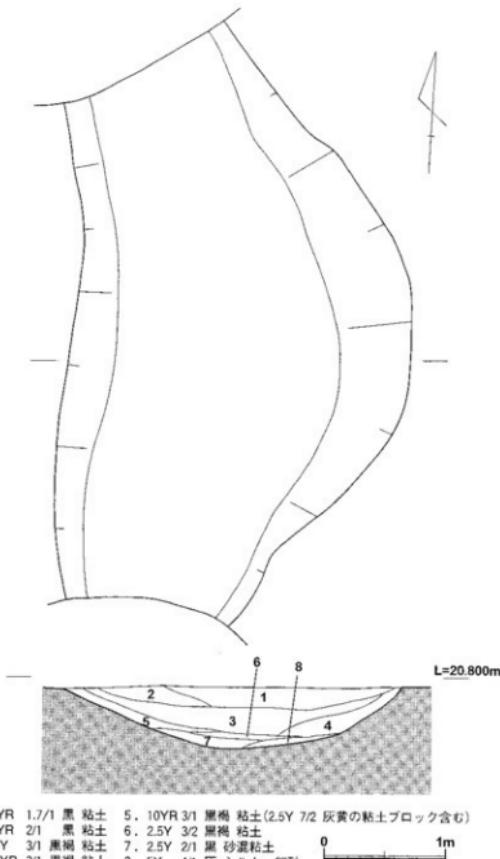
第20図 SK2平・断面図及び出土遺物実測図

認められる。10は鉢あるいは壺の底部である。11～13は細頸壺で、口縁部は直線ないしは外反する。14は壺の底部である。15は大型の鉢である。出土遺物から弥生後期中葉～後半の遺構と考えられる。

(4) 溝

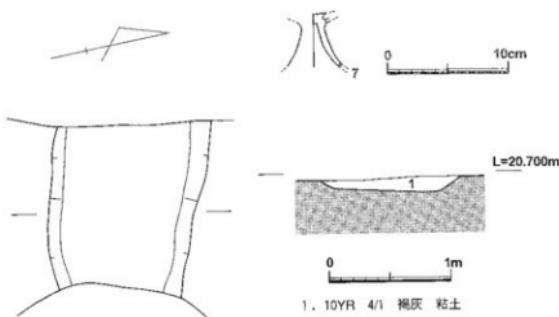
SD1（第24～82図）

調査区東部で検出した大溝である。調査区の南端から北端まで約48mにわたって検出した。第24図に平面図を掲載した。調査区東部は近・現代の粘土採取により、大規模な削平を受けており、検出部分の幅は4～6mであるが、溝の北西部分及び南西部分の削平が比較的少ない部分から推定すると、幅12～14mとなる。なお深さについても、溝の西岸が残る北端部分については1.5mになる。ほぼ直線に掘削されているが、検出部分の中央から南部にかけての2箇所においてやや東へ膨らむ部分が所在する。この膨らむ部分については西岸部分の地山に礫層があり、掘削が困難だったことが考えられる。溝の南端部分と北端部分の比高差は33cmあり、南から北へ流れていることがうかがえる。埋土は11層に分層できる。溝の北部と南部の2箇所で断面観察を行い、断面図を作成し、第25図に掲載した。第1層は黒褐色粘土層、第2層は黒色粘土層、第3層は地山の粘土ブロックを含む黒褐色粘土層である。第4層は植物遺存体を多く含む黒色粘土層で、上部3層と第4層の間に時期差を設定できることから、上部3層を上層として遺物を取り上げた。第5層についても植物遺存体を多く含む黒色粘土層で、第6層が黒褐色粘土層である。第7層で再び植物遺存体を含む黒色粘土層が認められ、第6層との間に時期差を設定できることから第4～6層を中層として遺物を取り上げた。第8層は黒褐色粘土層、第9層は黒色粘土層、第10層が青黑色砂混粘土層と粘土層が

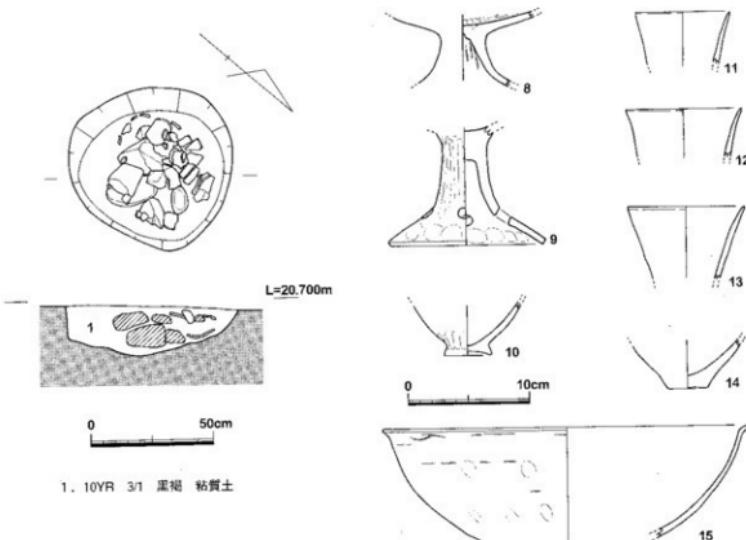


第21図 SK3平・断面図

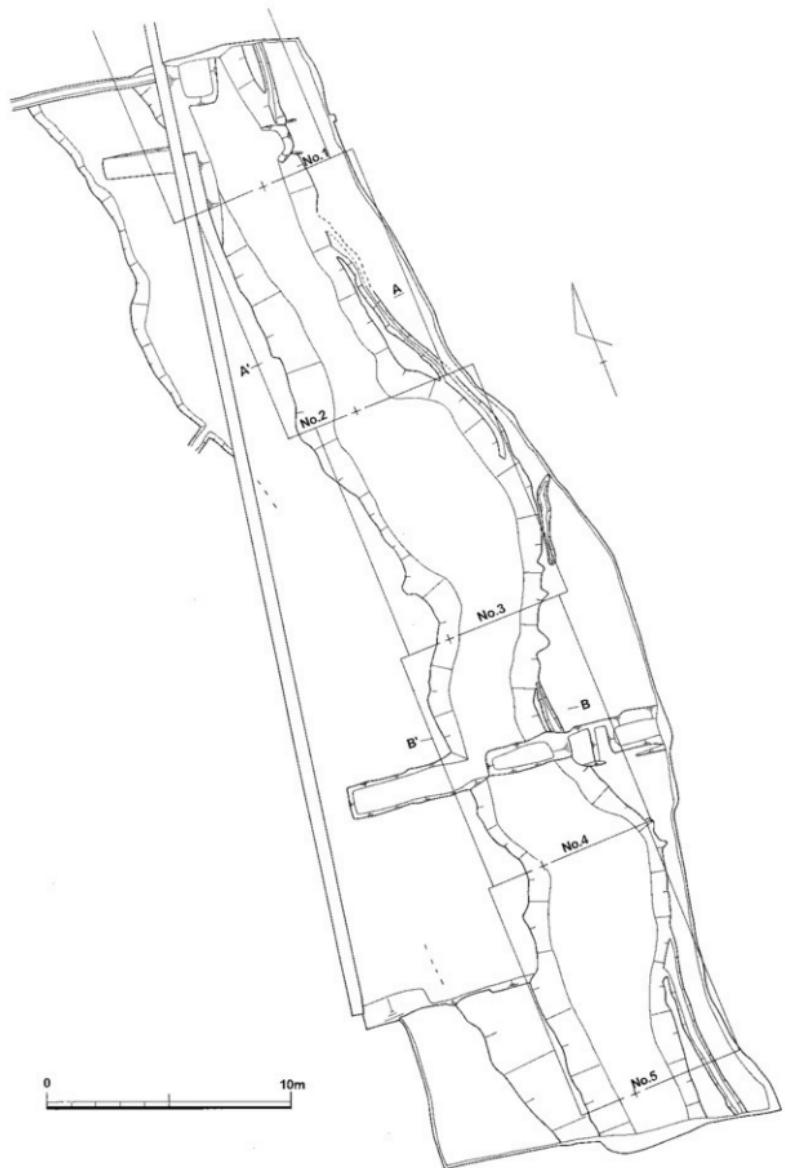
続く。第11層は暗オリーブ灰色の粗砂～砾層で、上部とは明確に異なることから、第8～10層を下層、第11層を最下層として遺物を取り上げた。溝の断面形状は、上層部から中層部にかけては緩やかに落ち込み、下層以下はほぼ垂直に落ち込んでおり、人為的なものと考えられる。また、溝底が平坦なことも人為的であり、その幅は2～4.5mとなっている。なお、SD1の東岸に添うようにして幅50cm、深さ20cmの溝を検出した。SD1と合流・分岐を繰り返すが、埋土は黒から黒褐色粘土層で、検出面での切り合い関係はなかったことから、SD1の上層段階で併用された溝と考えられる。



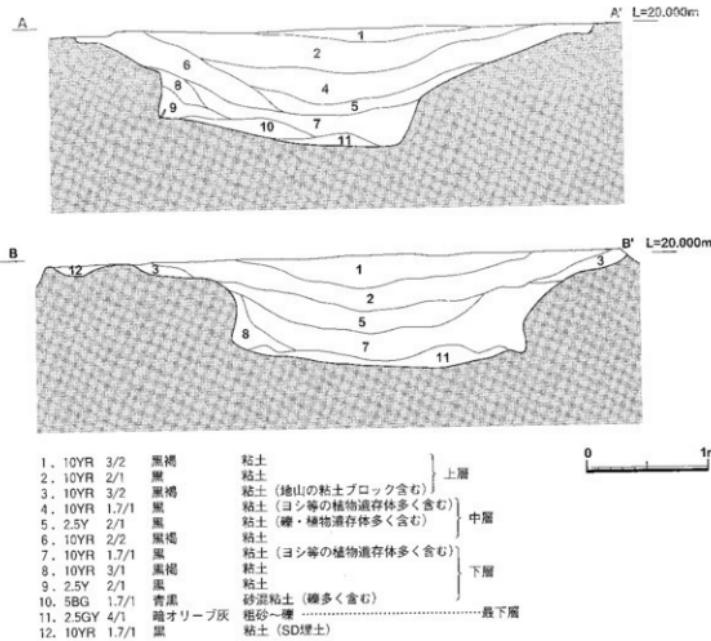
第22図 SK5平・断面図及び出土遺物実測図



第23図 SP18平・断面図及び出土遺物実測図



第24図 SD1平面図（第26～35図位置図）



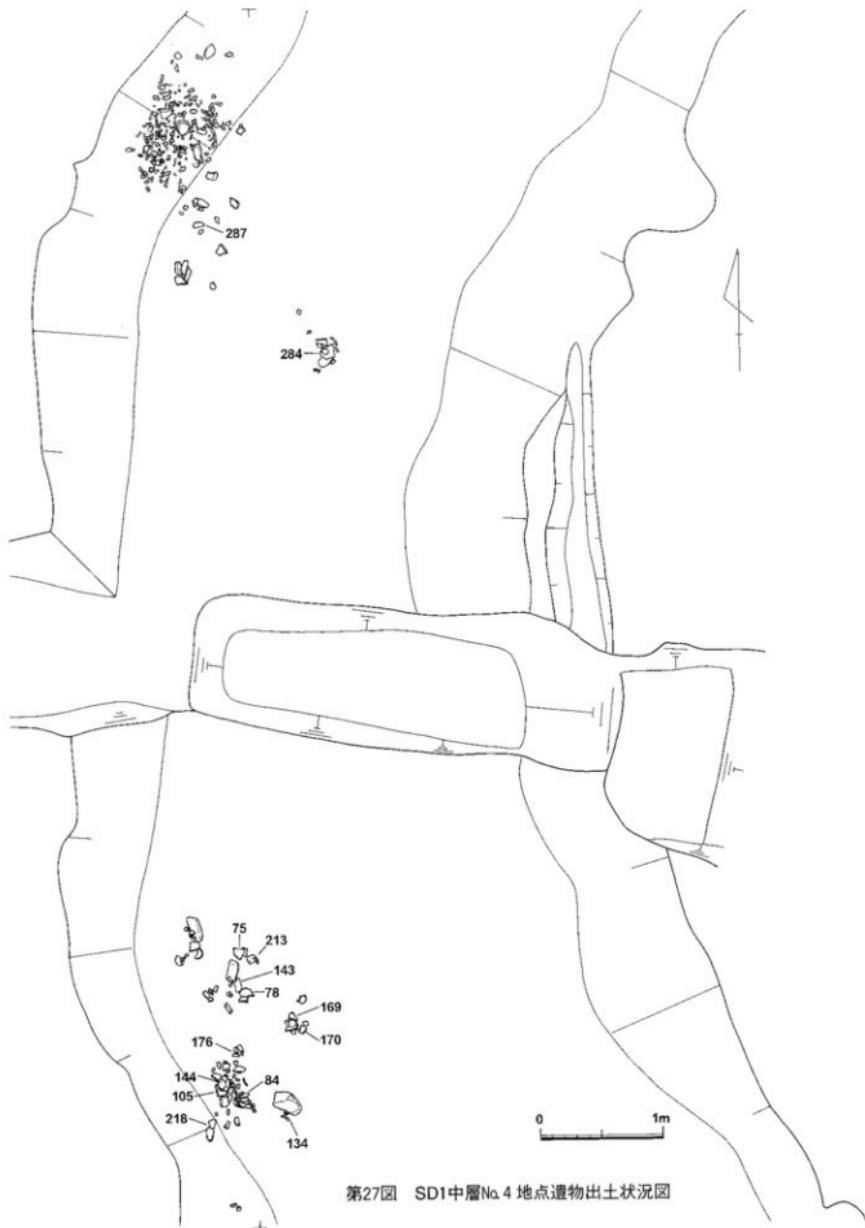
第25図 SD1断面図

遺物はコンテナ40箱分出土した。出土状況としては上層は少なかったが、中層以下は密集して出土しており、特に溝が蛇行し溝幅も広がった溝中央部で多く出土した。出土状況を第26図～第35図に掲載した。第26図～第28図が中層、第29図～第32図が下層、第33図～35図が最下層である。なお、それぞれの位置については第24図に示してある。

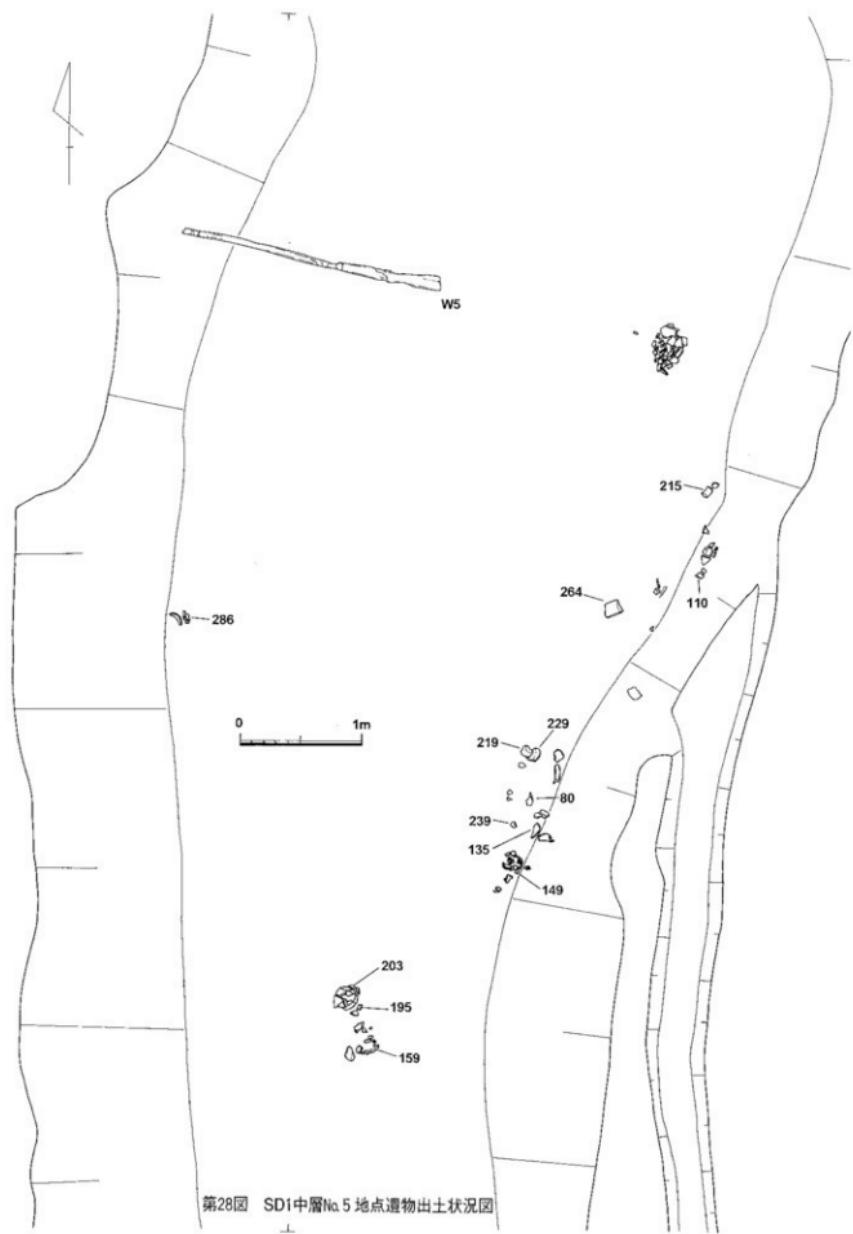
遺物は第36図～第82図に掲載した。第36～37図の16～68は上層出土土器である。16～19は弥生中期の壺である。19は口縁部を拡張し凹線2条が施されている。20は土師器の壺である。21～25は弥生後期の壺である。26～33は弥生中期の壺である。26・27は細頸壺で、口縁部外面に1条の刻目をもつ貼付突帯を巡らしている。28は広口壺で、口縁部端部及び口縁部内面に斜格子及び円形浮文が施され、口縁部内面には突帯及び棒状浮文も見られる。29も広口壺で、口縁部端部に刻目と口縁部内面に円形浮文が施されている。30も広口壺で、頸部外面に押圧突帯が施されている。31・32も頸部外面に押圧突帯が施されている直口壺である。33は広口壺で凹線2条が見られる。34は弥生後期の広口壺で、口縁部に鋸齒文及び竹管文が施されている。35～40は弥生中期の高杯である。35・36の口縁部外面、35の口縁部上面には凹線が2条ずつ施されている。41～43は弥生後期の高杯である。45～66は底部である。44・45の底面には木葉の線刻が見られる。67は紡錘車で、円孔は貫通していない。68は須恵器壺の底部である。

第38図のS4～S9は上層出土石器である。S4～S9は刃部をもつ石器である。S7～S9は抉りをもつ石庖

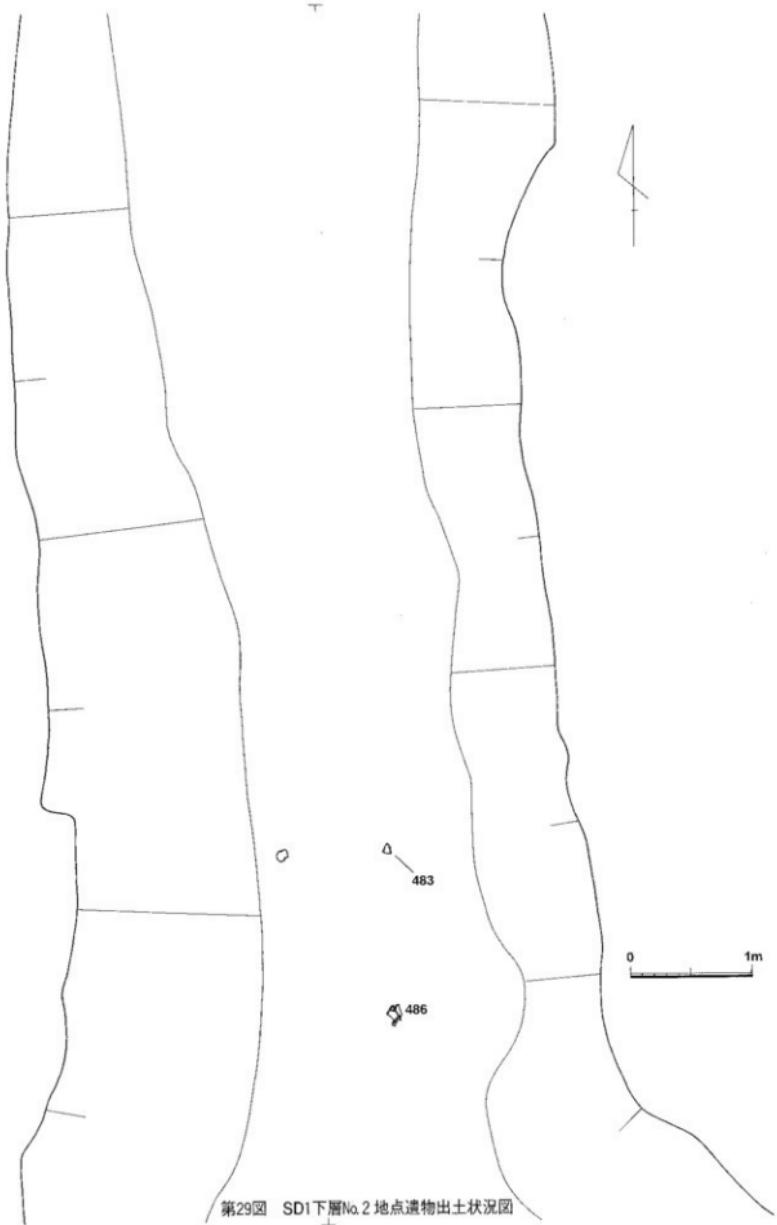




第27図 SD1中層No.4 地点遺物出土状況図



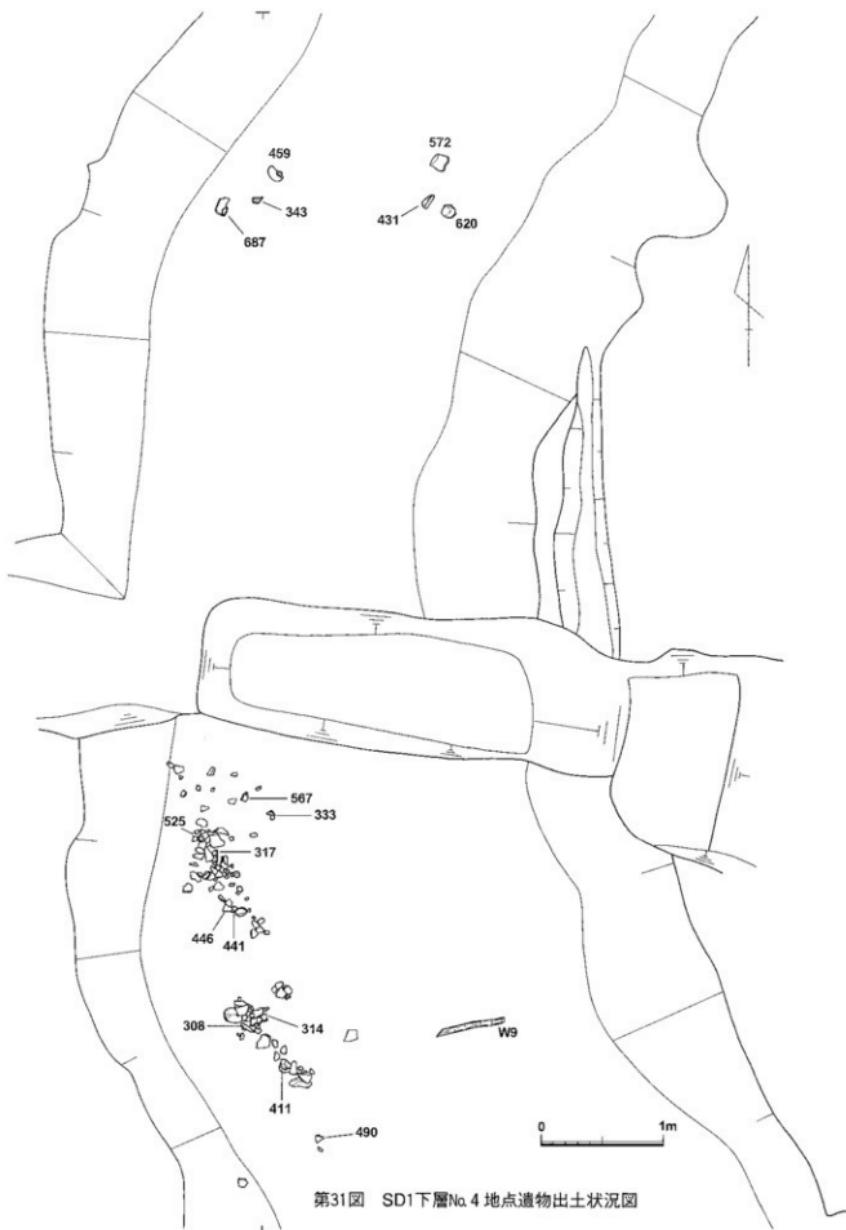
第28図 SD1中層No.5地点遺物出土状況図



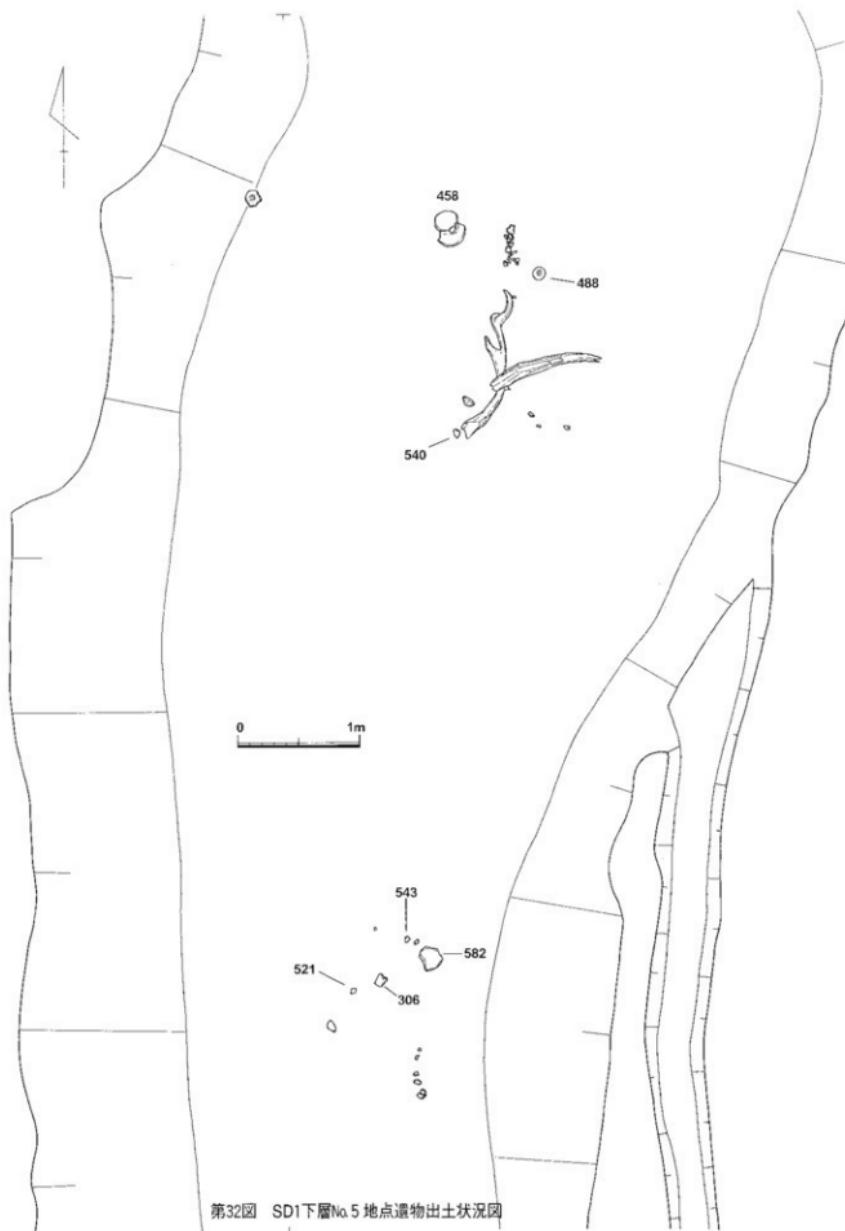
第29図 SD1下層No.2 地点遺物出土状況図



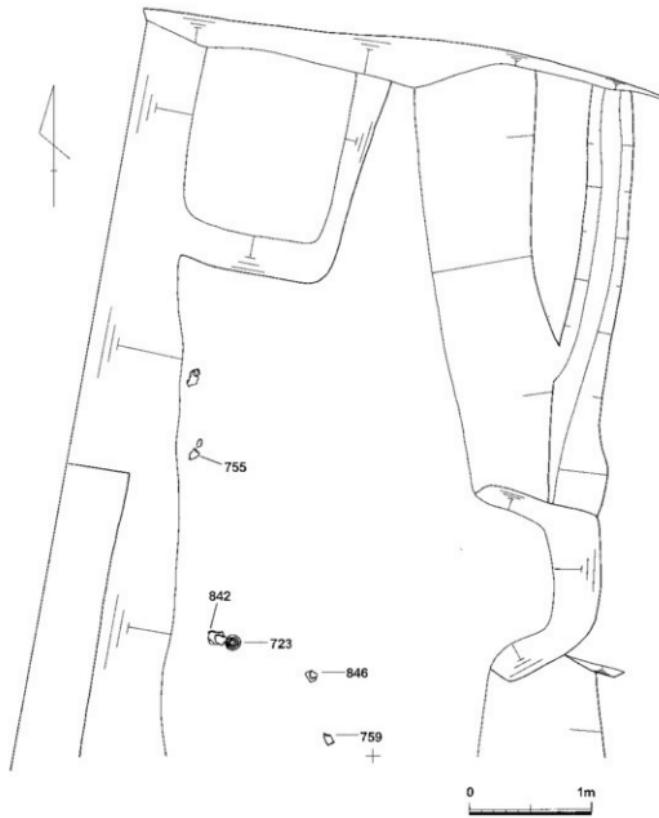
第30図 SD1下層No.3 地点遺物出土状況図



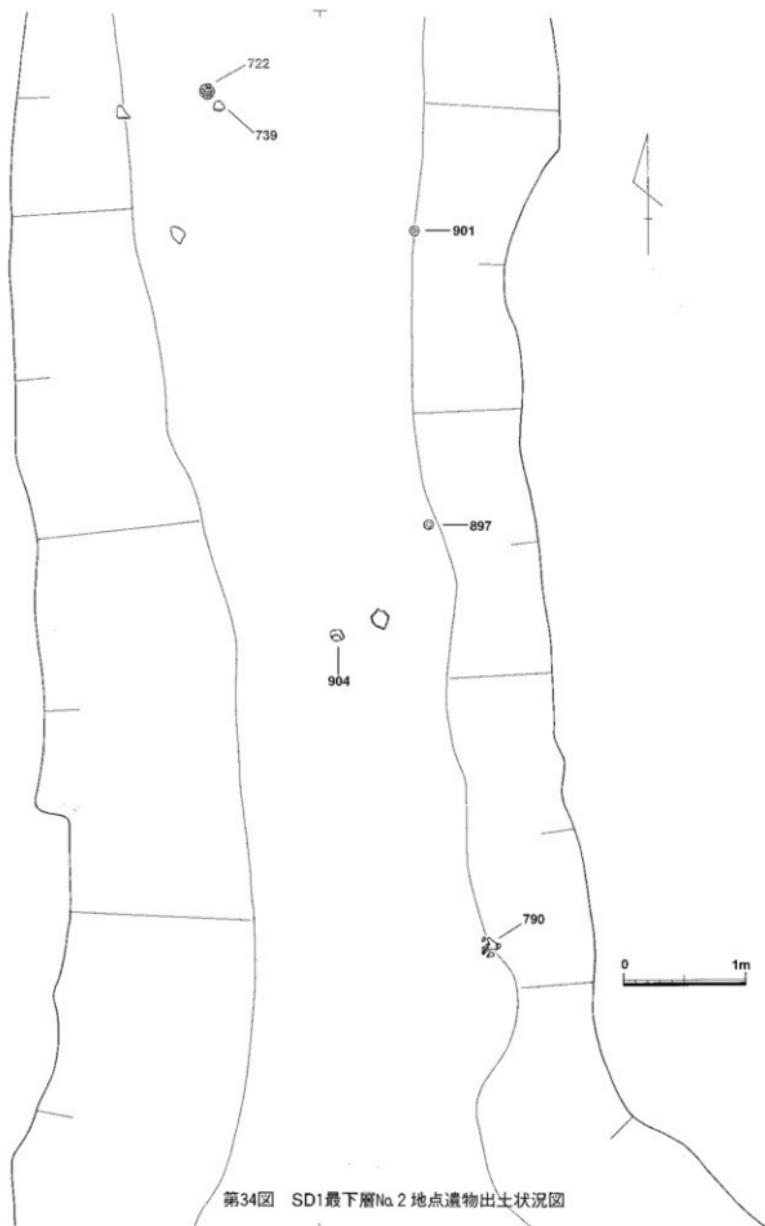
第31図 SD1下層No.4 地点遺物出土状況図



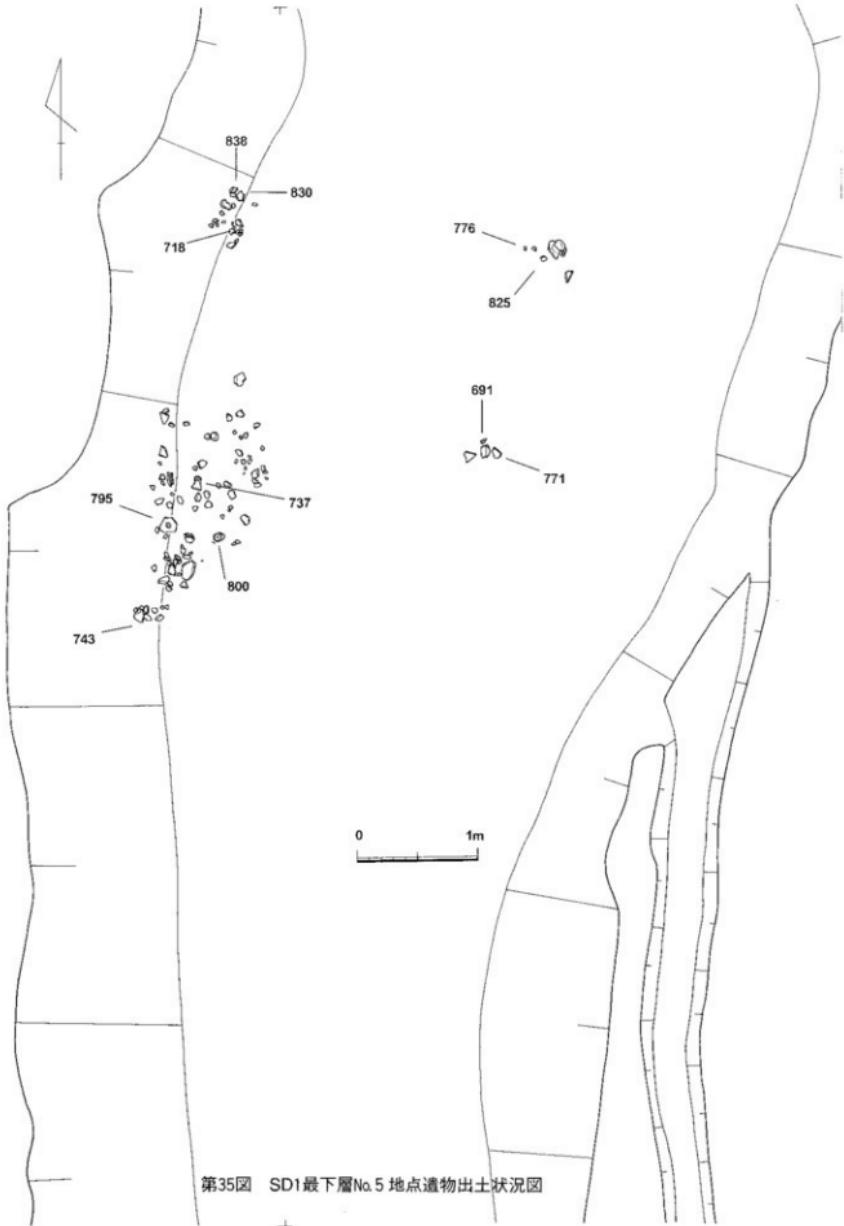
第32図 SD1下層No.5地点遺物出土状況図



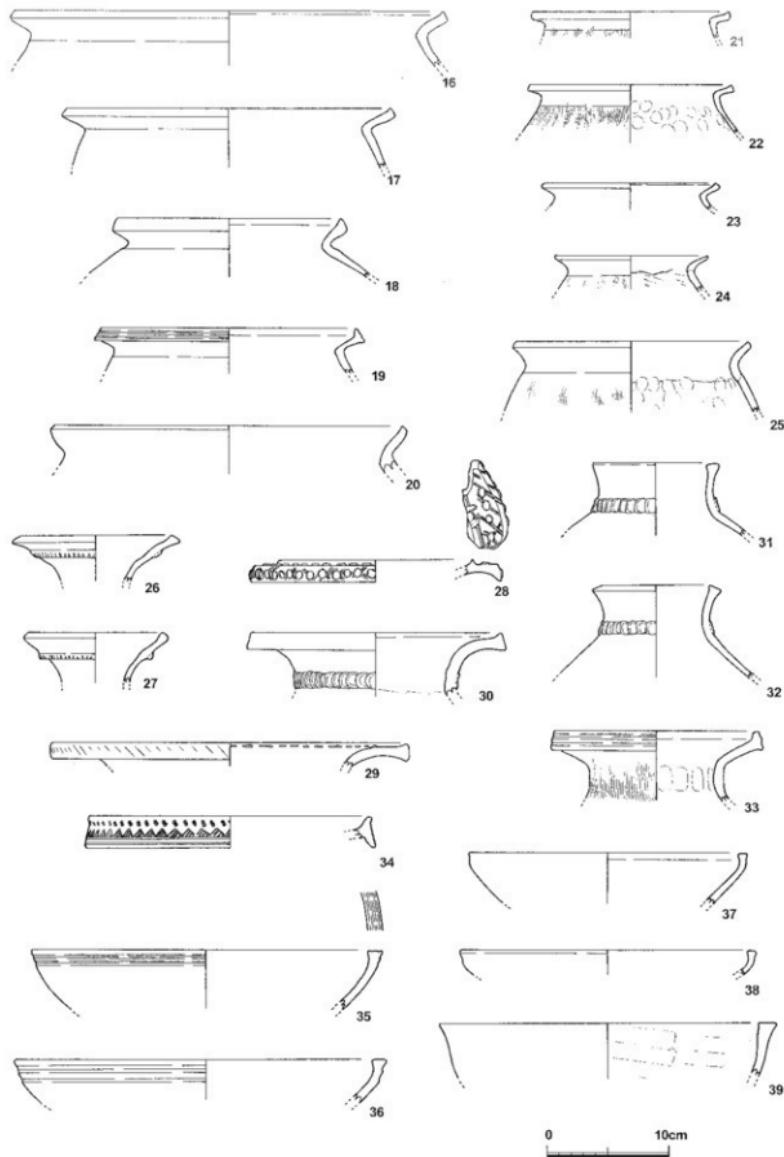
第33図 SD1最下層No.1 地点遺物出土状況図



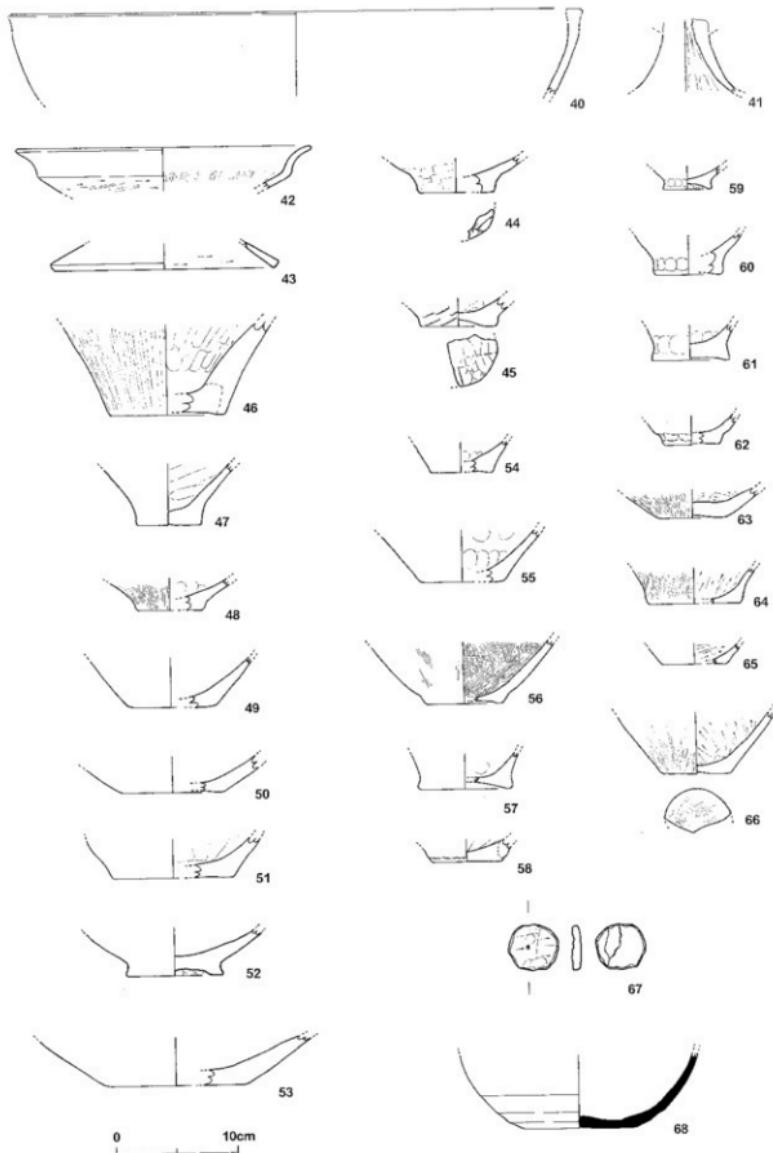
第34図 SD1最下層No.2 地点遺物出土状況図



第35図 SD1最下層No.5 地点遺物出土状況図



第36図 SD1上層出土遺物実測図①

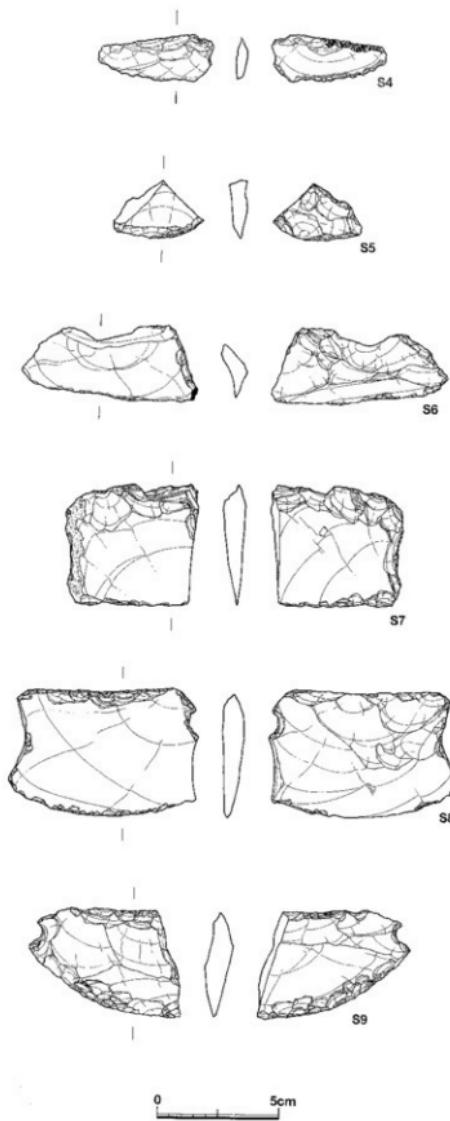


第37図 SD1上層出土遺物実測図②

丁で、S9は半円形を呈する。

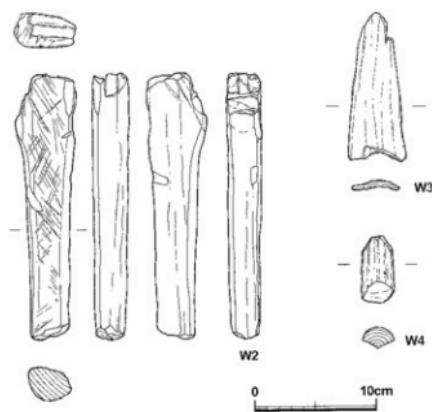
第39図のW2～W4は上層出土木製品である。W2は鉄斧の柄と考えられる。石器装着部分が太く、手元は細くなっている。装着部は前側面部しか残っていないが、方形の抉り込みが認められる。柄の側面には斜格子状の線刻が施されている。W4がほぼ同位置から出土しており、柄の継ぎになる可能性が考えられる。W3は板材である。

第40～49図の69～287は中層出土土器である。69～84は弥生中期の壺である。69は口縁部端部に刻目をもつ。70は頸部から口縁部が緩やかに外反する。讃岐の中期土器には見られないタイプで土佐など他地域の影響が考えられる。また、頸部のやや膨らんだ弥生後期の長頸壺の頸部とも考えられる。71～75は頸部に押圧突帯をもつ壺で、いずれも口縁部を拡張し、凹線複数条と円形あるいは棒状浮文が施されている。76・77は口縁部に凹線をもつ壺である。78～82は無文の壺である。83・84は凹線をもつ壺である。84は口縁部をわずかに上方へ拡張させ、凹線1条を施している。外面はタテハケのちタテヘラミガキ、内面はヘラケズリである。85～126は弥生後期の壺である。85～107は外面上半タテハケ、内面上半指頭圧が施される壺である。完形に復元できる104・105は外面タテハケのち下半のみタテヘラミガキ、内面タテヘラケズリのち上半のみ指頭圧である。118・119は球形の体部をもつもので、外面タテハケ、内面ヨコヘラケズリである。122～124は肩が張らないタイプの壺である。126は球形の体部をもち平底で、口縁部は短く上方に突き出ている。外面タテハケのち下半のみタテヘラミガキ、内面上半指頭圧である。外面体部



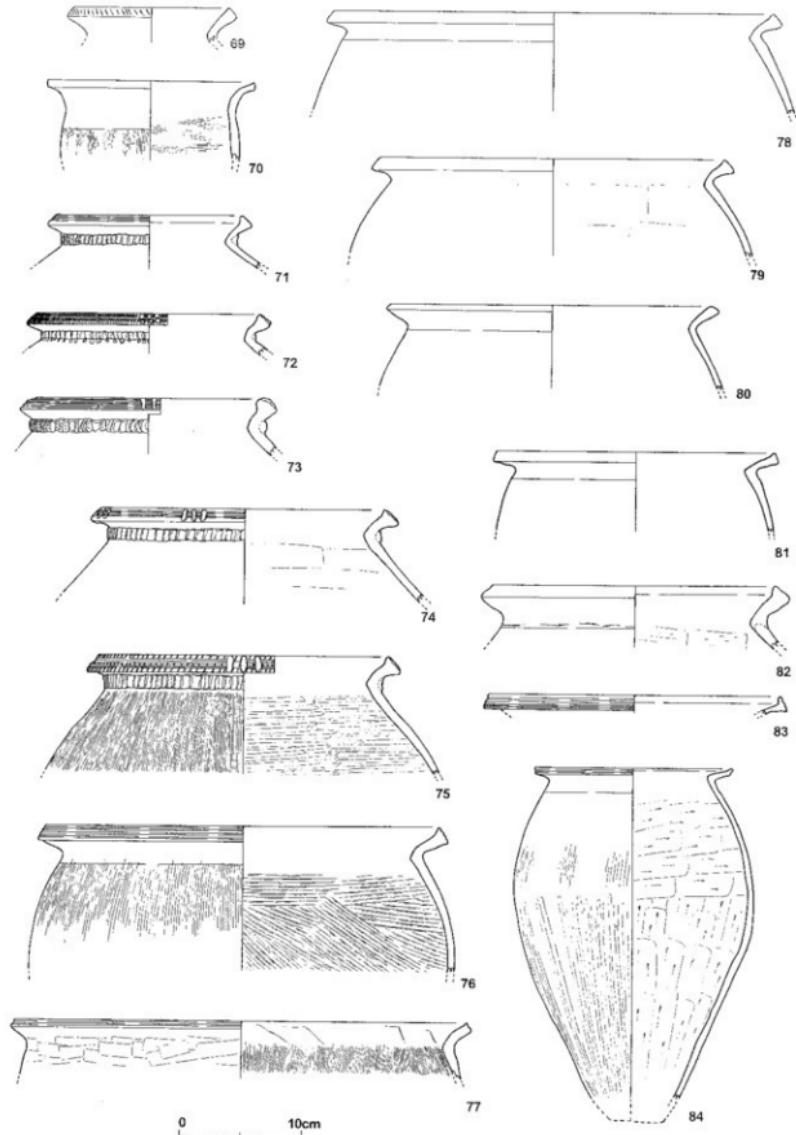
第38図 SD1上層出土遺物実測図③

上半にはジグザグ状の線刻が認められる。127～150は弥生中期の壺である。中でも127～135は広口壺である。127は無文である。128は口縁端部を上下に拡張し、斜格子と円形浮文が施されている。口縁部内面にも斜格子と円形浮文が見られ、また、貫通しない3個の円孔も施されている。129は凹線3条と口縁部内面に斜格子文が見られる。130・131も口縁端部に斜格子文が施されている。133～135は頸部に貼付突帯を施すもので、133の口縁部内面には斜格子文及び2個1対の円孔が見られる。136～139は細頸壺で、口縁部外面に貼付突帯を巡らす。139は貼付け突帯が2条で、刻目も施されている。140～150は直口壺である。143～148・150

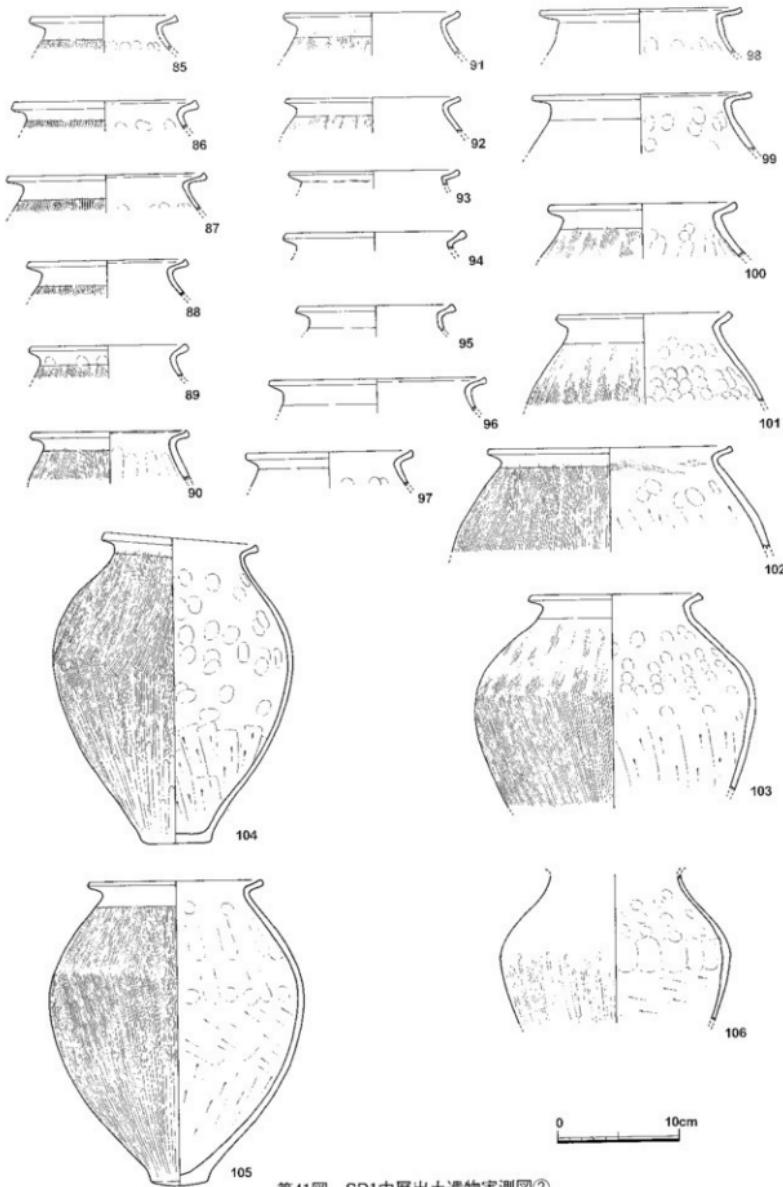


第39図 SD1上層出土遺物実測図④

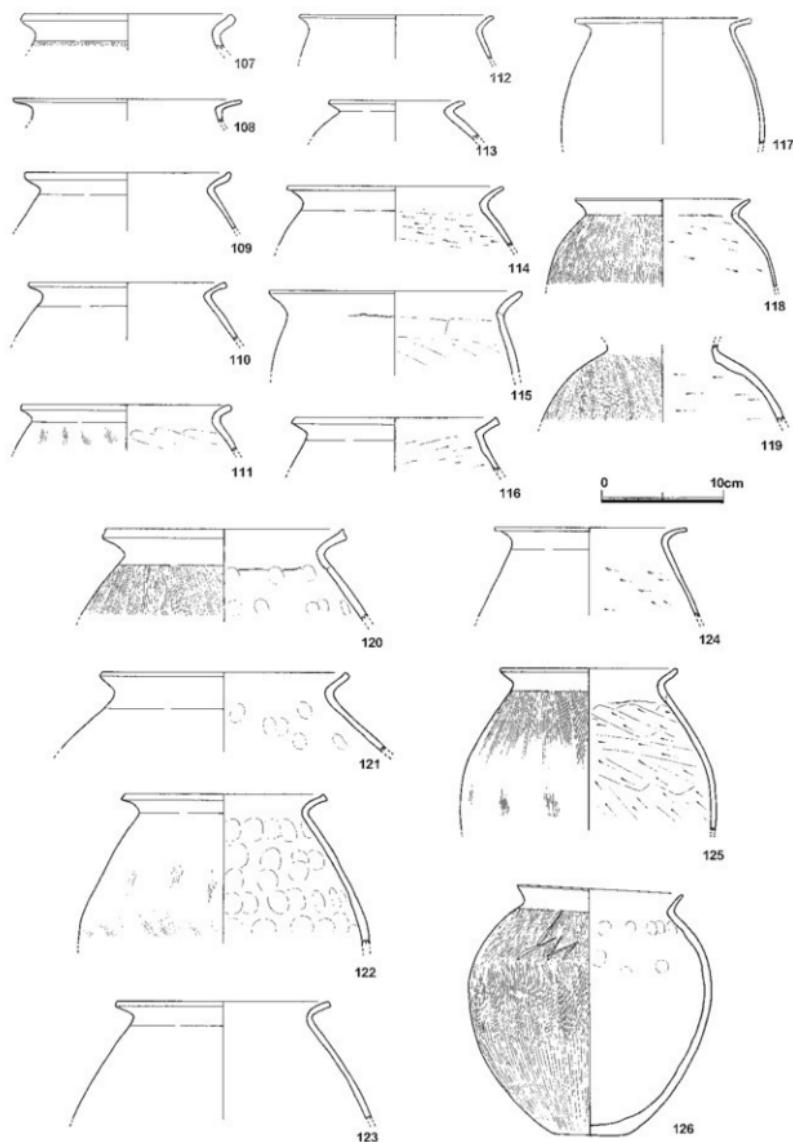
は頸部に押圧突帯が施されている。146の口縁端部には斜格子文が見られる。149は頸部及び体部最大径部分に刺突文が施されている。151は蓋である。小さいいまみを有し、円孔が見られる。152～159は弥生後期の壺である。152～154は長頸壺である。155～158は広口壺である。159は細頸壺の体部である。160～171は弥生中期の高杯である。160～162・166は口縁部外面に凹線が施されており、160～163は口縁部上面に斜格子文が見られる。164は口縁部上面に円形浮文が見られる。165は口縁端部に刻目が施されている。168～171は脚部すべて外面はタテヘラミガキである。169には方形のスカシが4方向に見られる。172～174は台付の鉢あるいは甕と考えられる。174は内面のヘラケズリが顕著であることから弥生後期のものと考えられる。175は弥生中期のジョッキ形の土器の取っ手である。176は弥生中期の鉢である。177～182は弥生後期の鉢である。179は小型で、口縁部も粗い仕上げである。183・184は弥生後期の大型鉢である。185から206は弥生後期の高杯である。185・187は接合面で剥離しており、接合時に刺突を施していることがうかがえる。188～191は脚部に円形スカシをもつ。191のスカシは4方向で、脚柱部に沈線を3条巡らしている。192～204は脚部内面ヨコヘラケズリ、杯部外面ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ、杯部内面分割ヘラミガキを施す一群である。203に見られるように円盤充填を行う。207は器台である。筒部と脚部に凹線が複数条認められ、脚部の4方向に方形のスカシが施されている。208～284は底部である。208・209は底面に木葉の線刻が見られる。210・211は焼成前の円孔が見られる。212～229は外面にミガキを施すものである。230～242は内面指頭圧や指頭ナデが施されている。243～248は内面に板ナデが見られるもので、247・248は外面も板ナデである。247の外面の板ナデは細かい原体で施されており、ミガキ状の板ナデである。249～252は刷毛を施すもので、249の外面はヨコヘラミガキである。255～264はマメツで時期不明のものである。265～283は内面タテヘラケズリが施されており、概ね弥生後期のものと考えられる。265～273・275は内面タテヘラケズリ、外面タテハケのち下半のみタテヘラミガキが施されている。274・276～280は外面タテハケ、281・282は外面板ナデである。284は内外面ともマメツのため調整不明であるが、底面にタタキ痕を残している。285～287は須恵器である。285は蓋である。286は短頸壺である。287は上半に自然釉が付着している壺である。口縁部外面



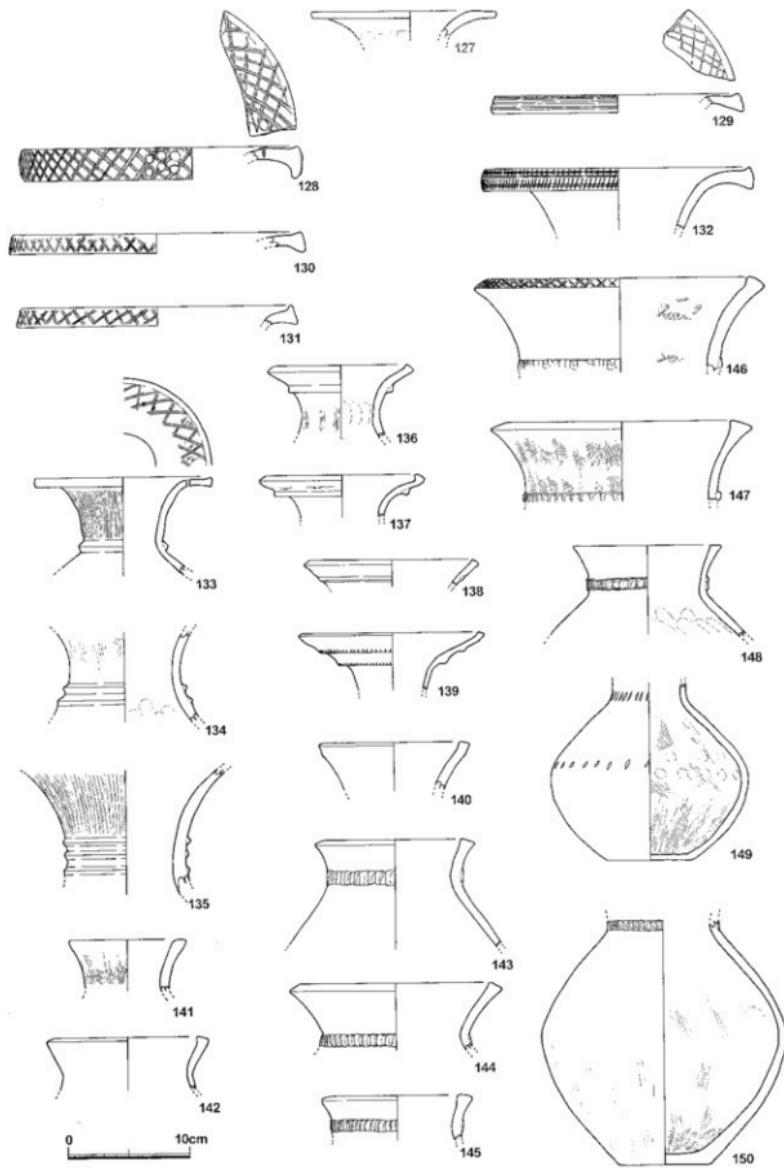
第40図 SD1中層出土遺物実測図①



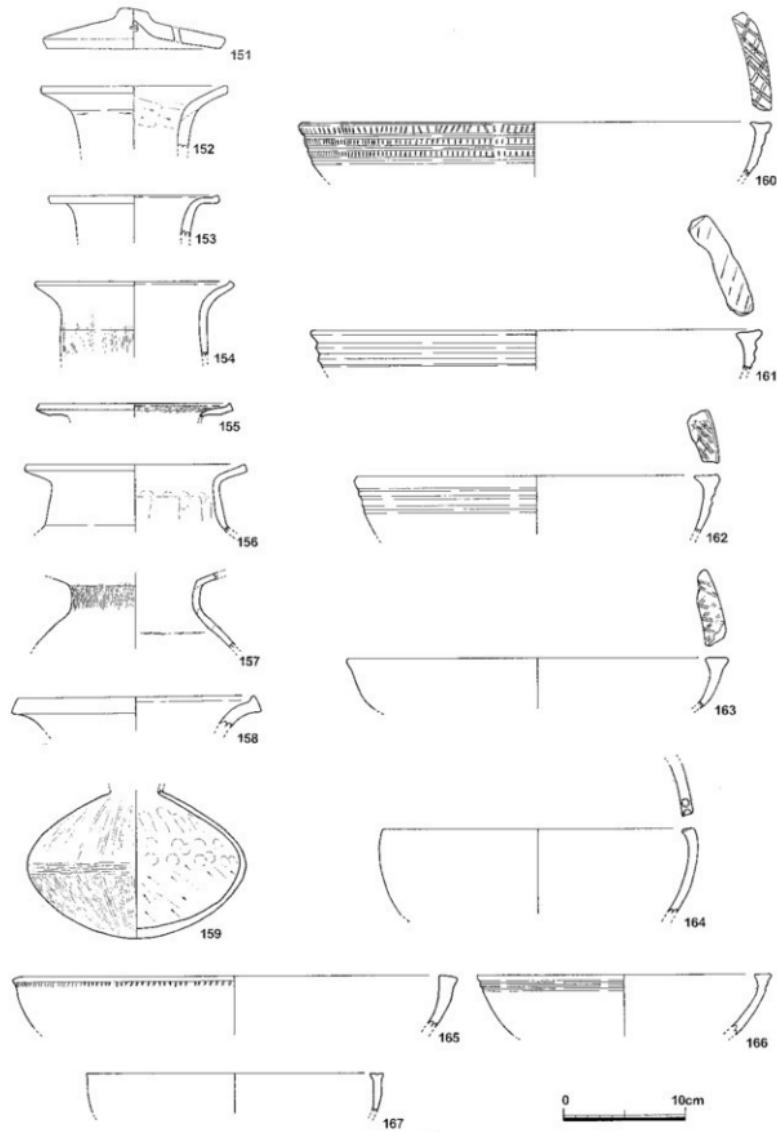
第41図 SD1中層出土遺物実測図②



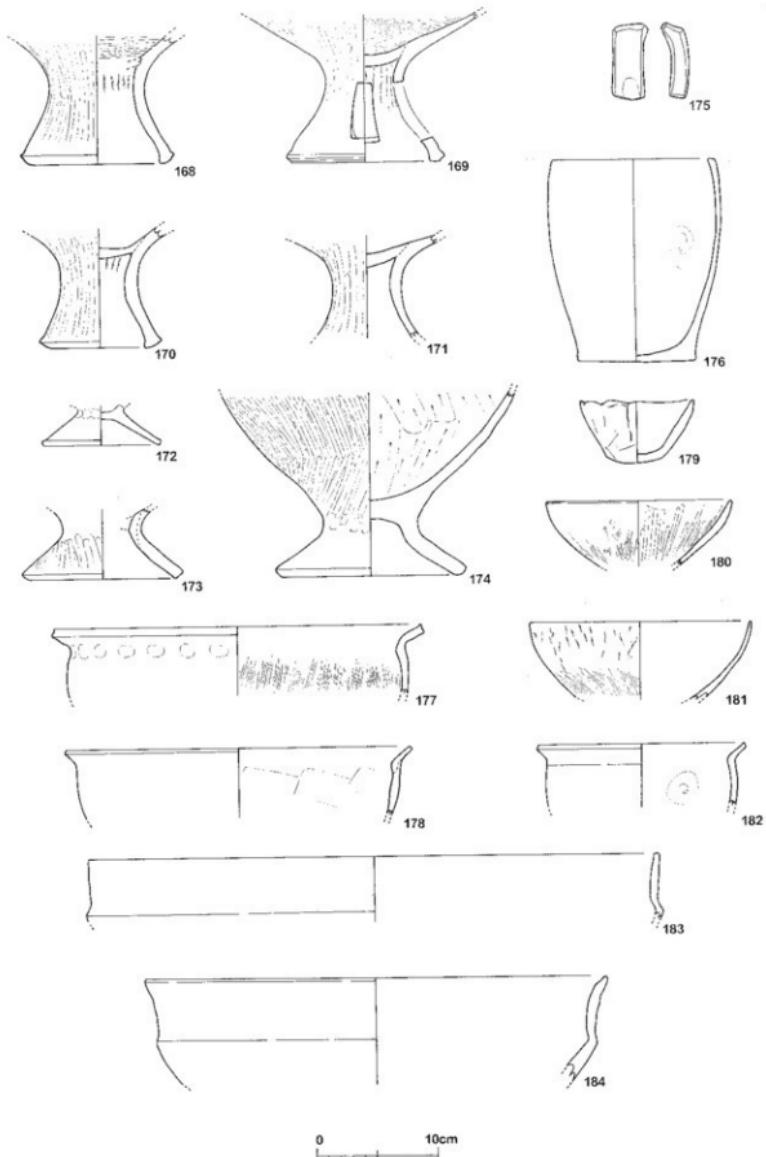
第42図 SD1中層出土遺物実測図③



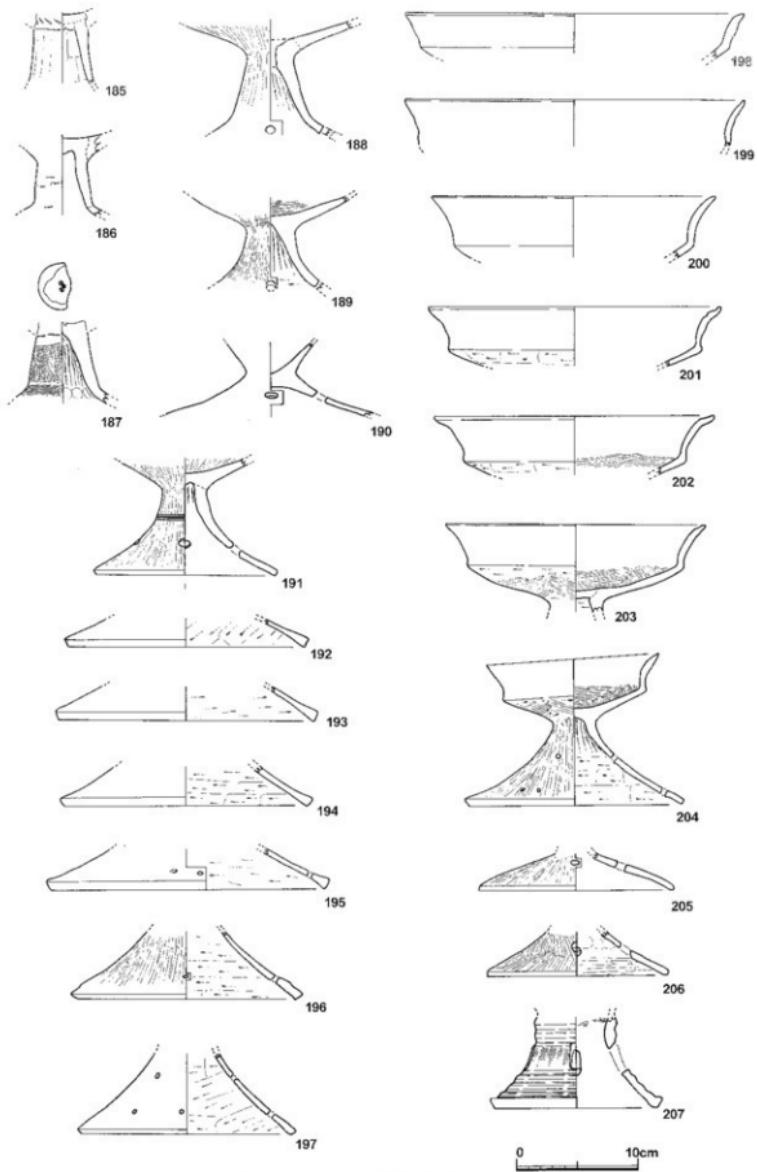
第43図 SD1中層出土遺物実測図④



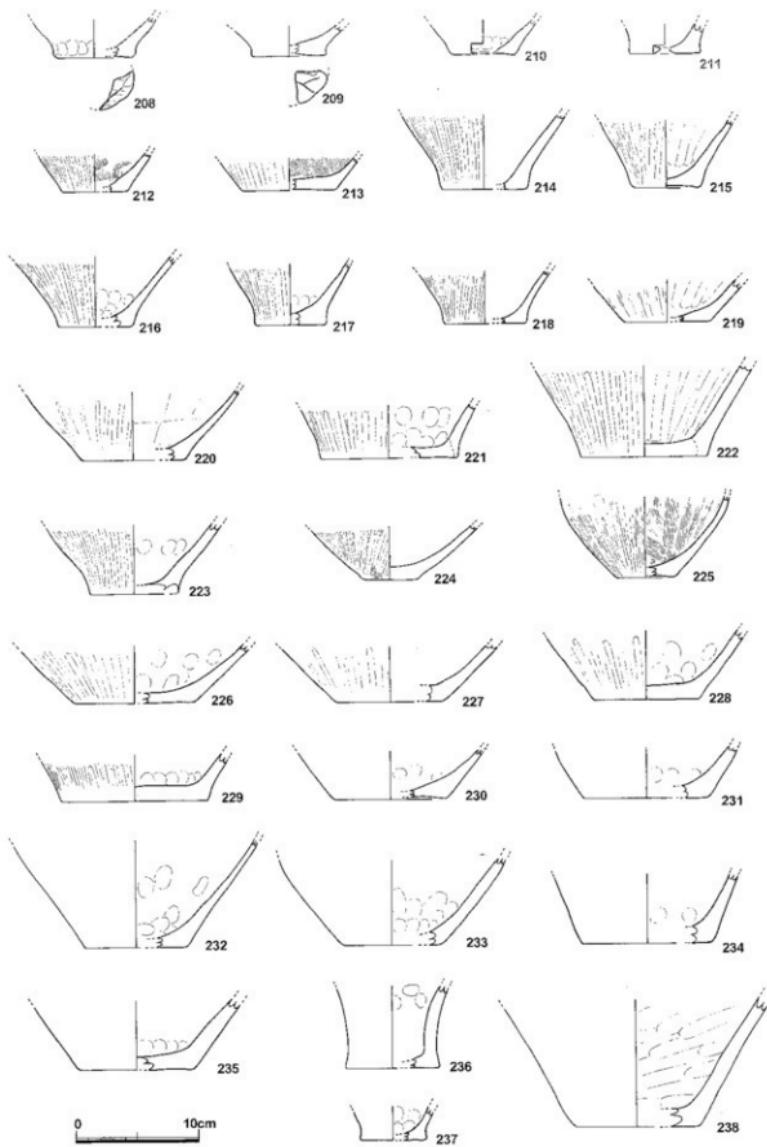
第44図 SD1中層出土遺物実測図⑤



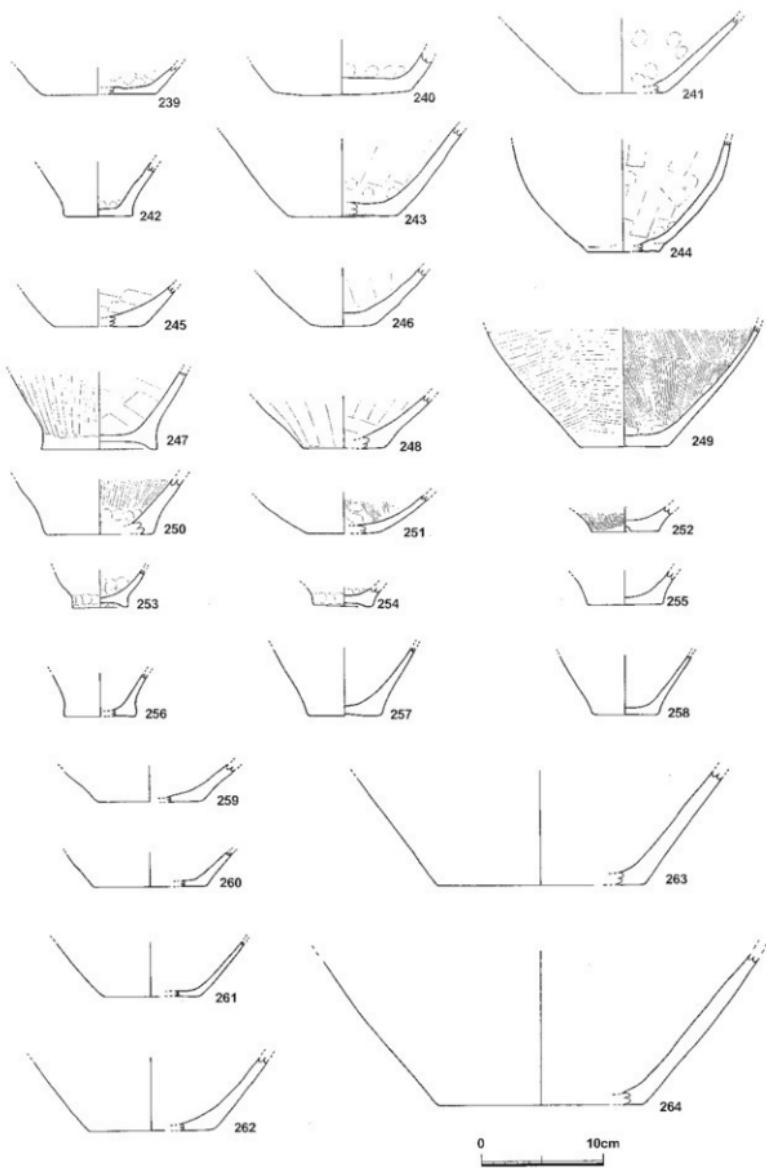
第45図 SD1中層出土遺物実測図⑥



第46図 SD1中層出土遺物実測図⑦



第47図 SD1中層出土遺物実測図⑧

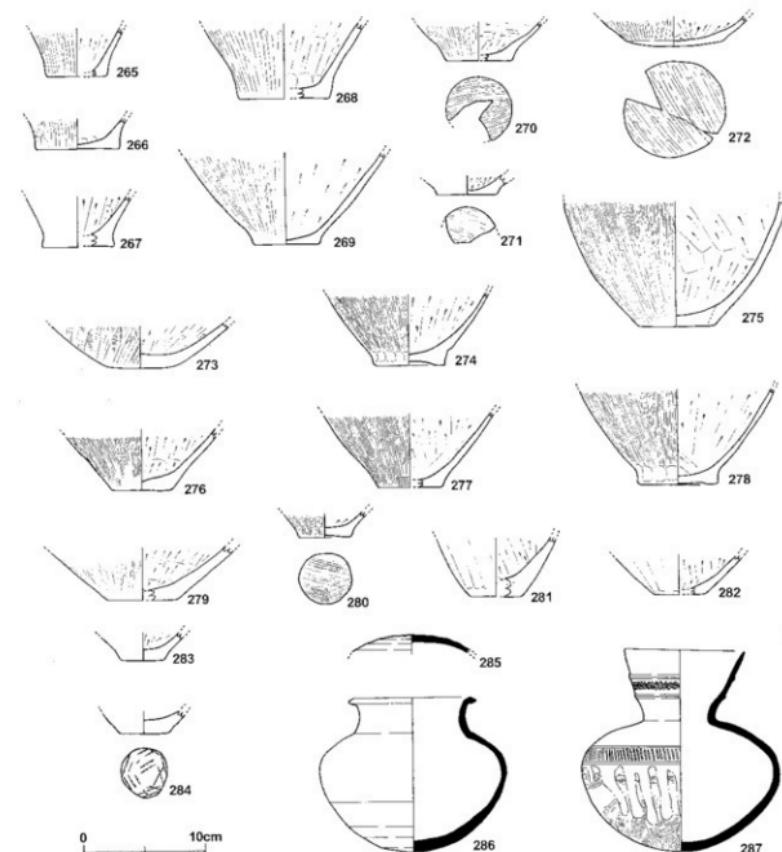


第48図 SD1中層出土遺物実測図⑨

に波状文を施し、体部下半はハケで器壁を整えている。

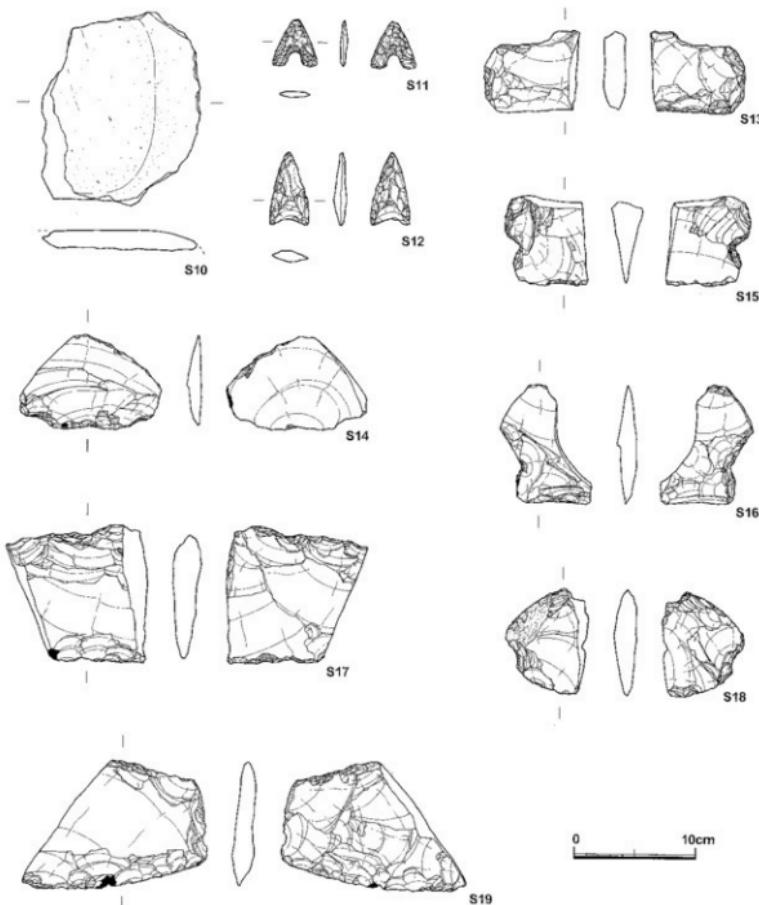
第50図のS10～S19は中層出土の石器である。S10は石皿の表面部分の破片である。S11・12は凹基式の石鎚である。S13は上縁部に突起をもつことから石匙と考えられる。S14は削器である。S15～S19は石窓丁である。S15・16・18には抉りが認められる。

第51図のW5～W8は中層出土の木器である。W5は2.17mの長さの木製品である。上部は直径4～5cmの円形に近い断面形状をしているが、下部は幅約10cmで厚さ約1cmの板状を呈する。櫂と考えられる。W6は建築部材である。長さ1.96mで、先端が尖った杭状を呈する。平坦面側に大きい抉りを2箇所設け、その背面にホゾ孔を3個設けている。先が尖った先端部の約65cmは炭化している。W7は加工木で、断面は半円形である。W8は杭である。

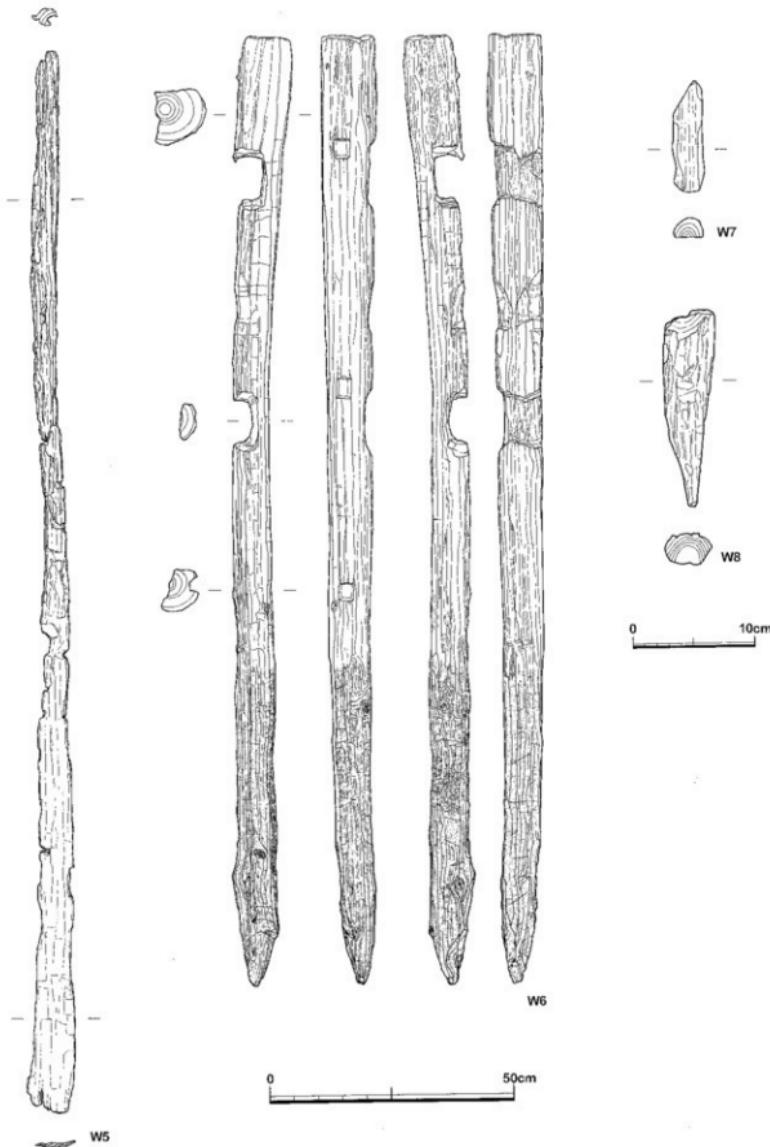


第49図 SD1中層出土遺物実測図⑩

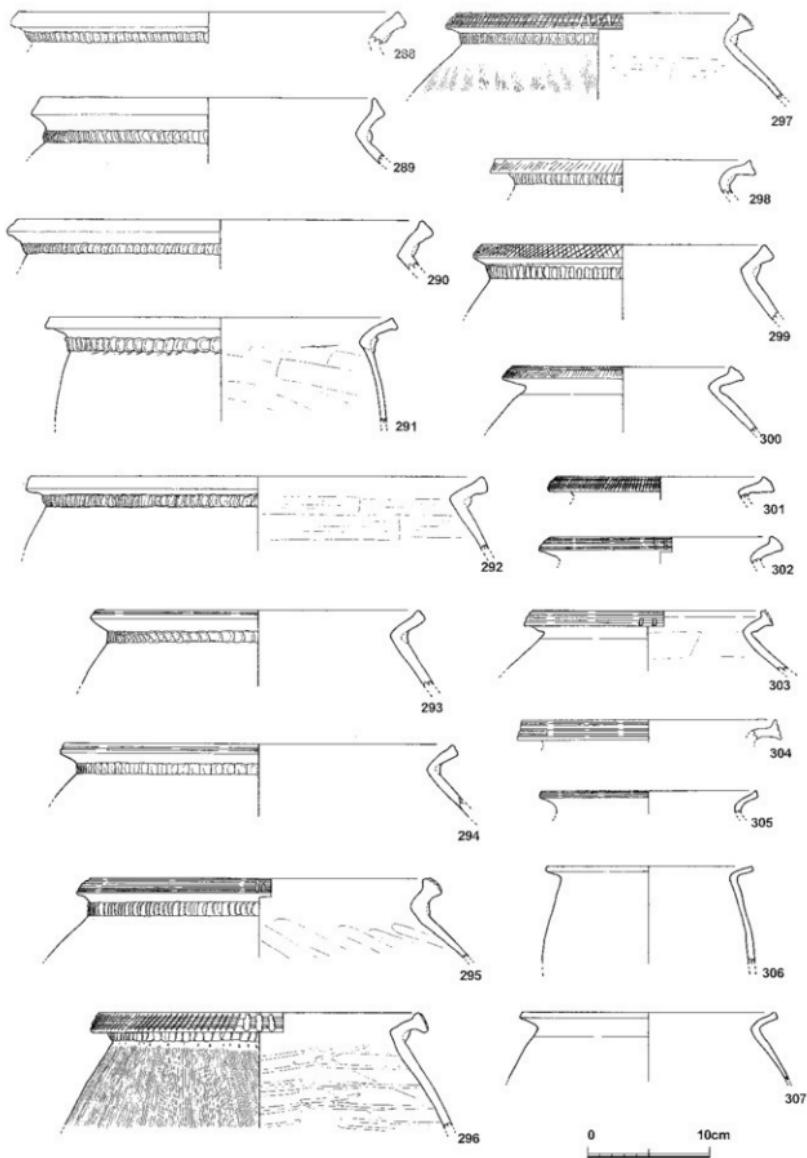
第52～66図の288～687は下層出土土器である。288～322は弥生中期の壺である。288～299は頸部に押圧突帯を巡らすもので、293～298のように口縁端部に凹線を巡らすもの、さらに棒状浮文や刻目等で加飾するものも見られる。300～322は押圧突帯が見られないもので、300～305のように口縁端部に凹線を巡らすもの、さらに棒状浮文や刻目等で加飾するものも見られる。323～371は弥生後期の壺である。338～357は外面上半タテハケ、内面上半指頭圧が顕著な壺である。356のように下半は外面がタテヘラミガキ、内面がタテヘラケズリである。同様の製作技法を用いてつくられたと考えられるのが359である。外面タテハケ、内面ヨコヘラケズリのち上半のみ指頭ナデであるが、口縁部が直立し、体部が張る。363・364は球形の体部をもち、外面タテハケ、内面板ナデである。同様の調整をもつ367は台がつくと考えら



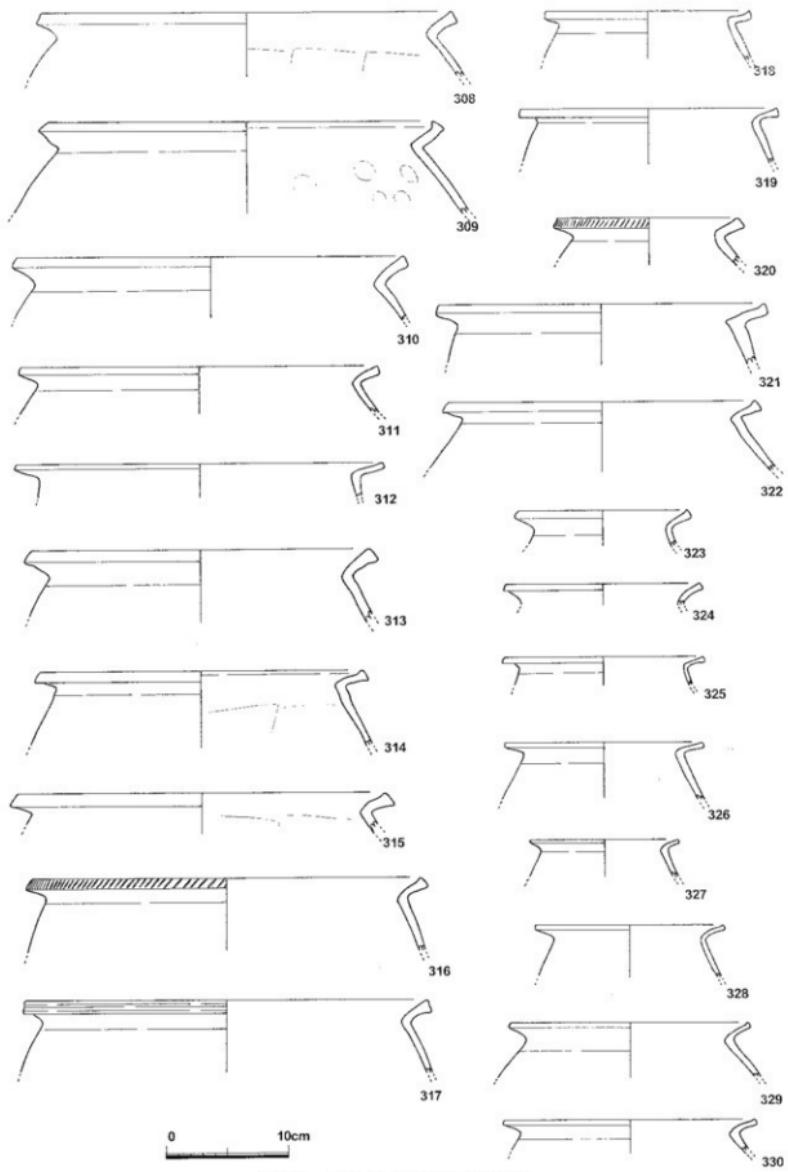
第50図 SD1中層出土遺物実測図①



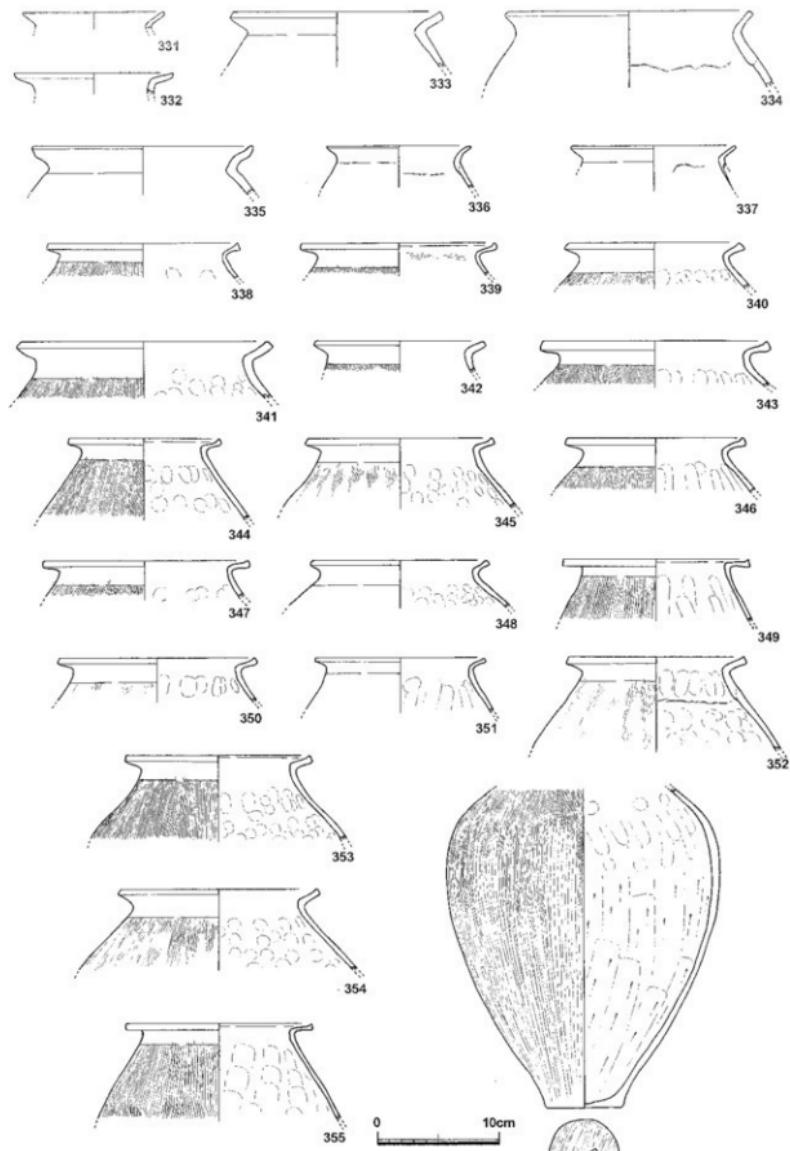
第51図 SD1中層出土遺物実測図⑫



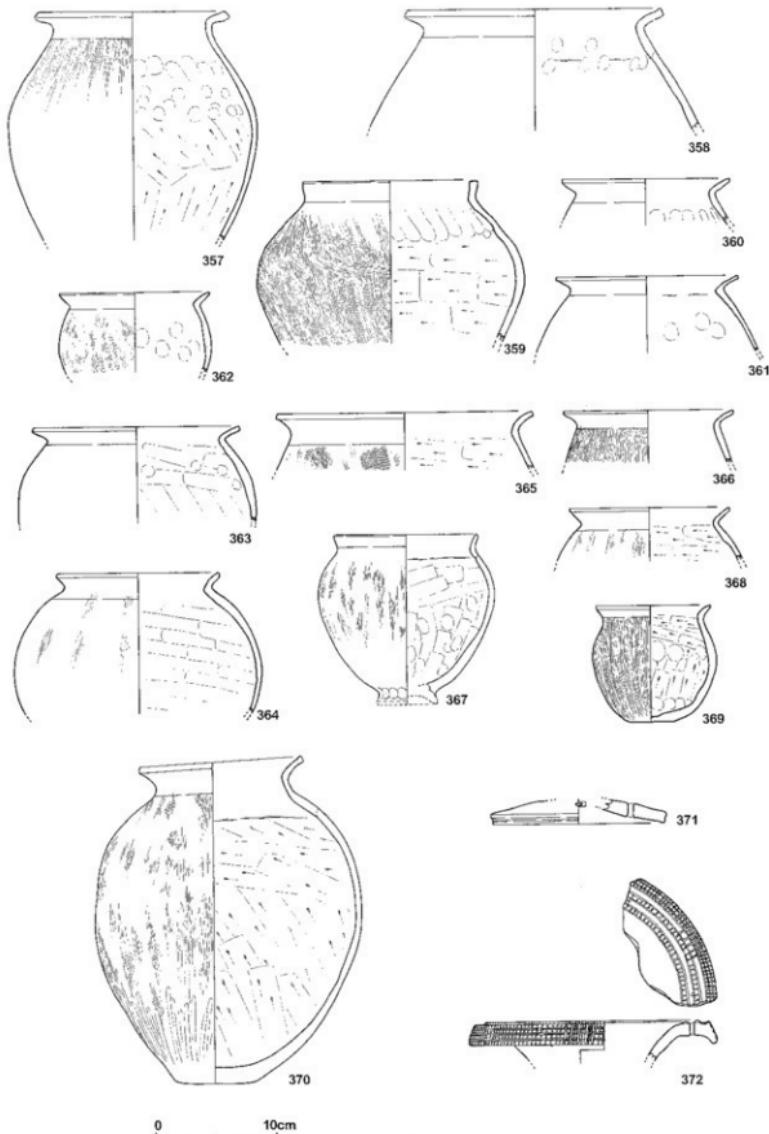
第52図 SD1下層出土遺物実測図①



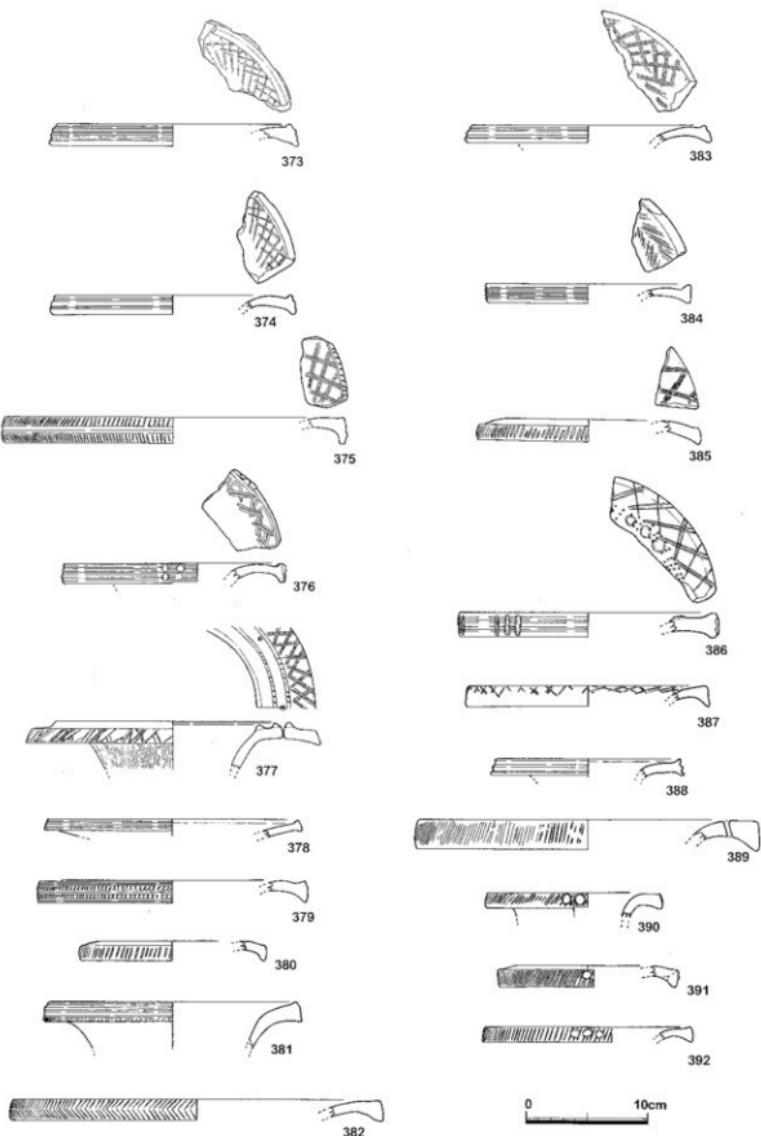
第53図 SD1下層出土遺物実測図②



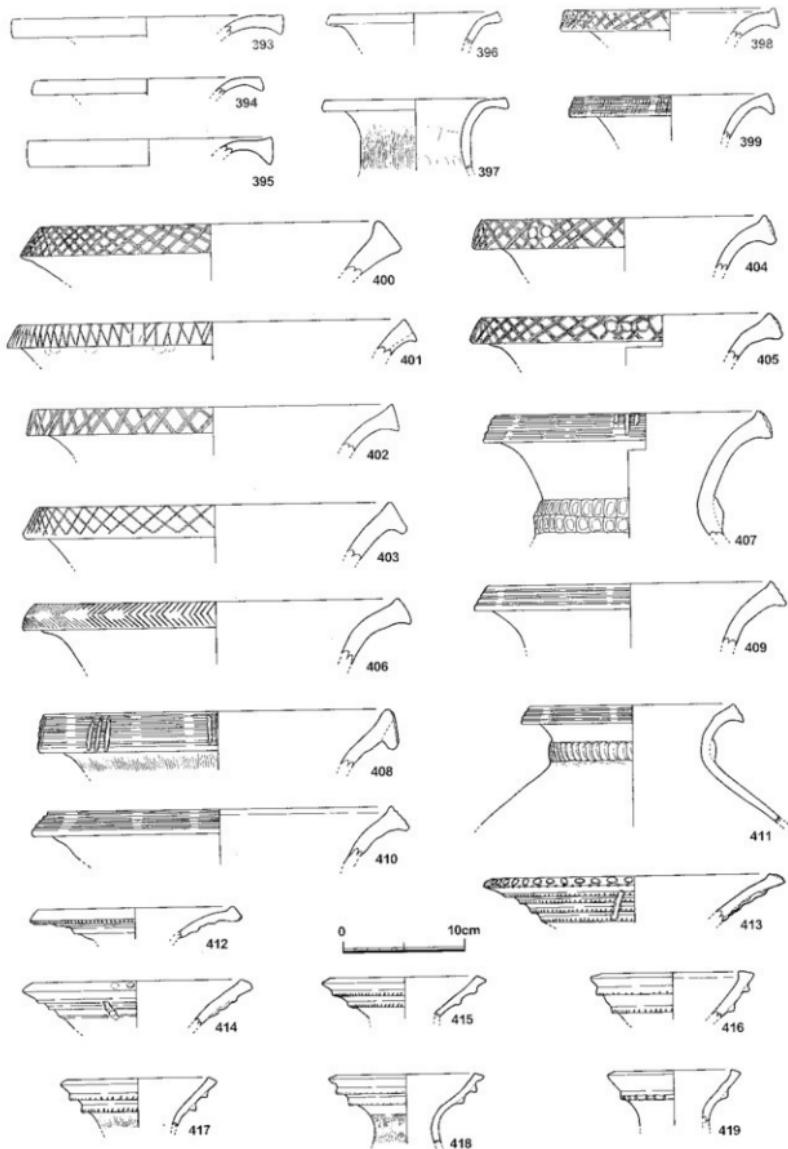
第54図 SD1下層出土遺物実測図③



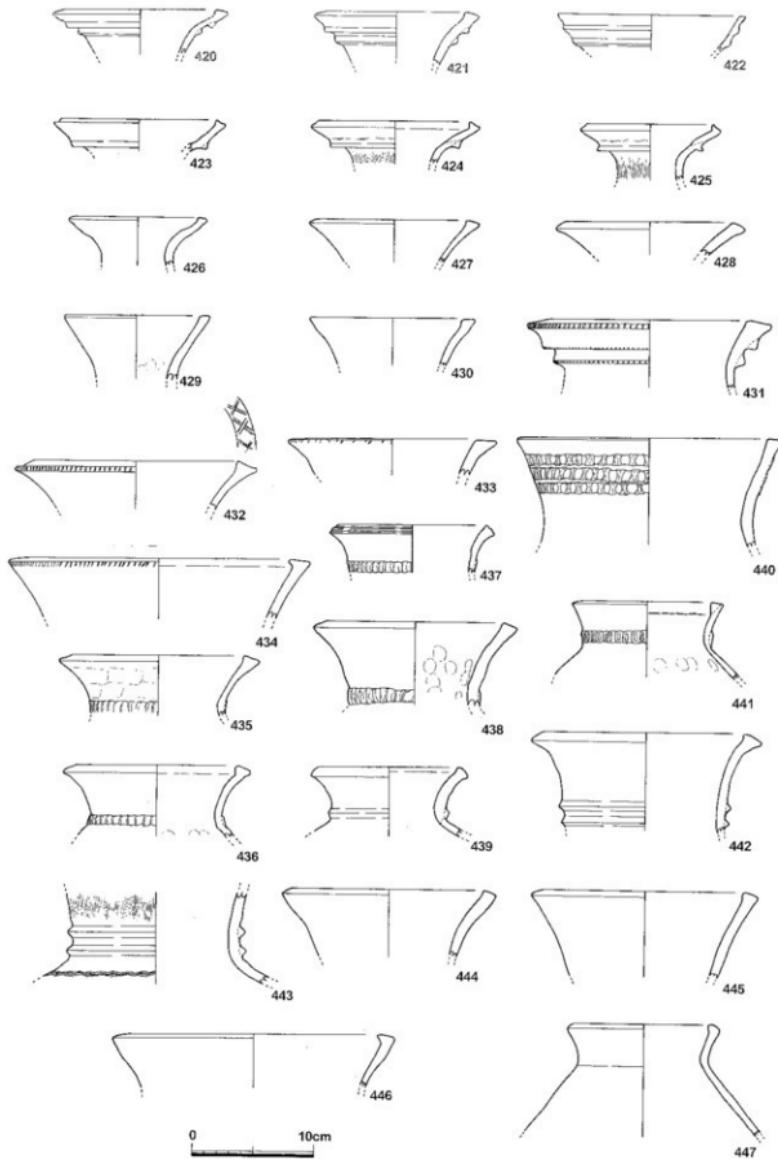
第55図 SD1下層出土遺物実測図④



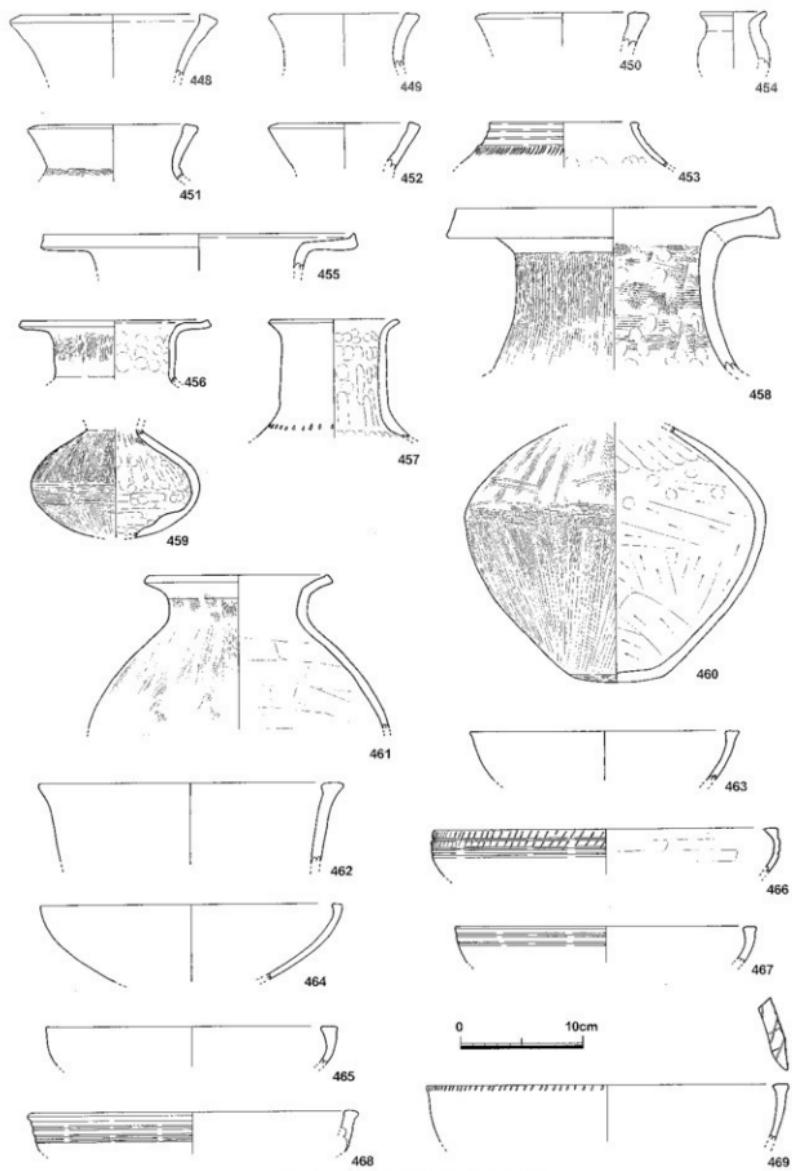
第56図 SD1下層出土遺物実測図⑤



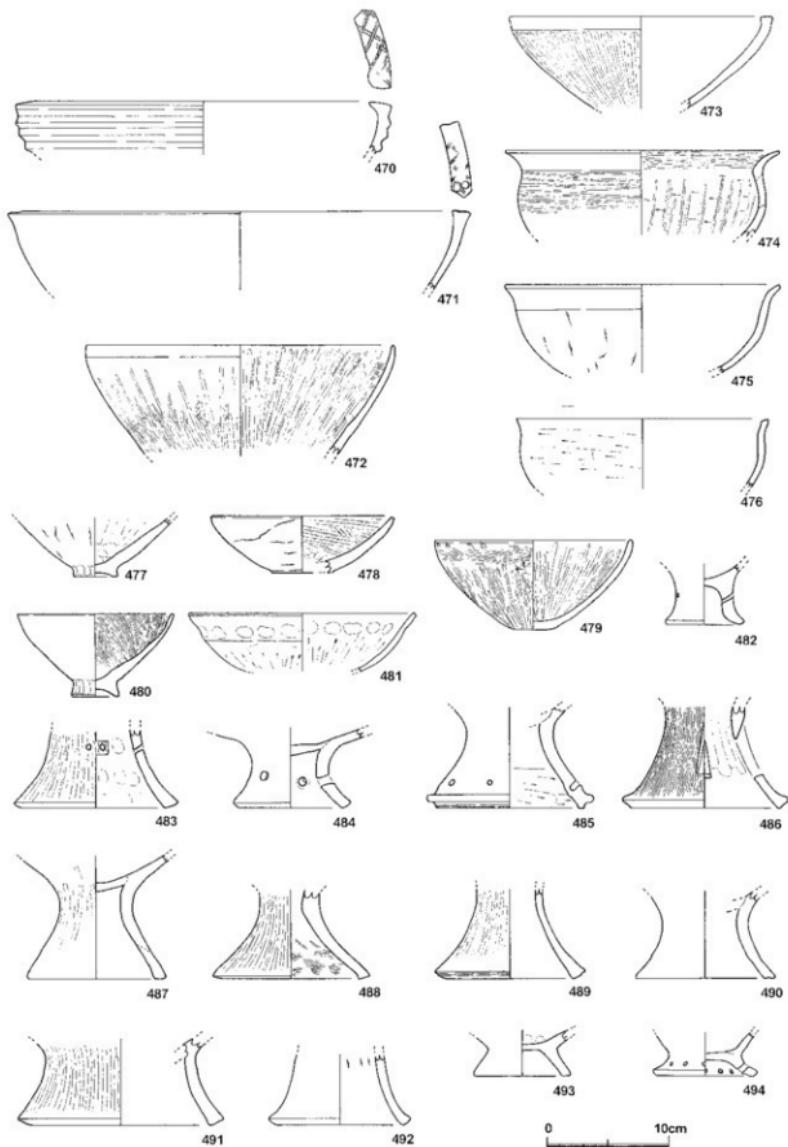
第57図 SD1下層出土遺物実測図⑥



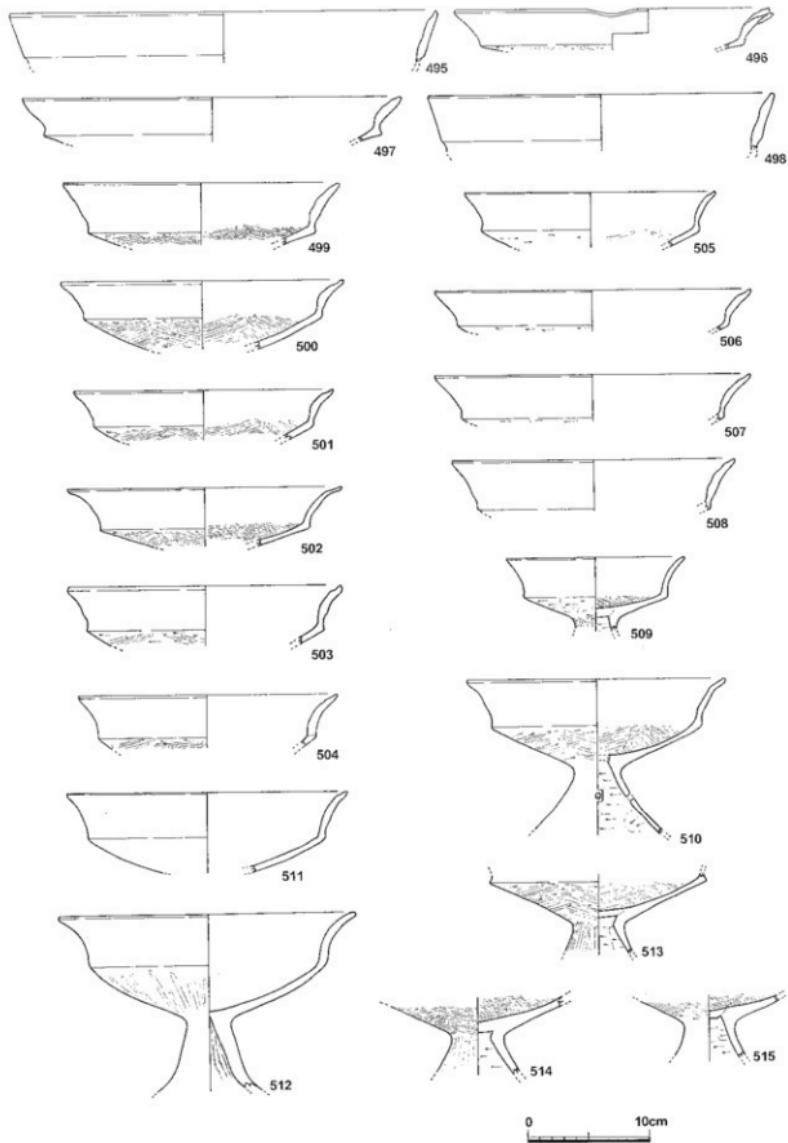
第58図 SD1下層出土遺物実測図⑦



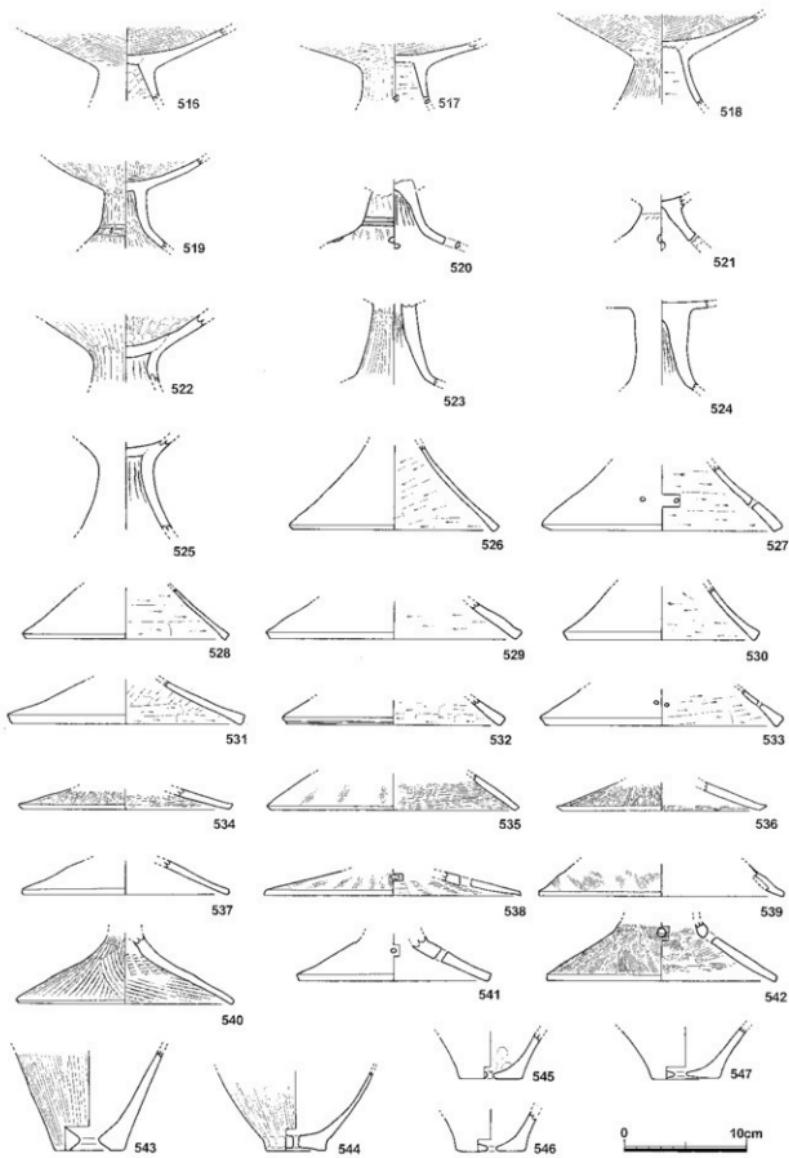
第59図 SD1下層出土遺物実測図⑧



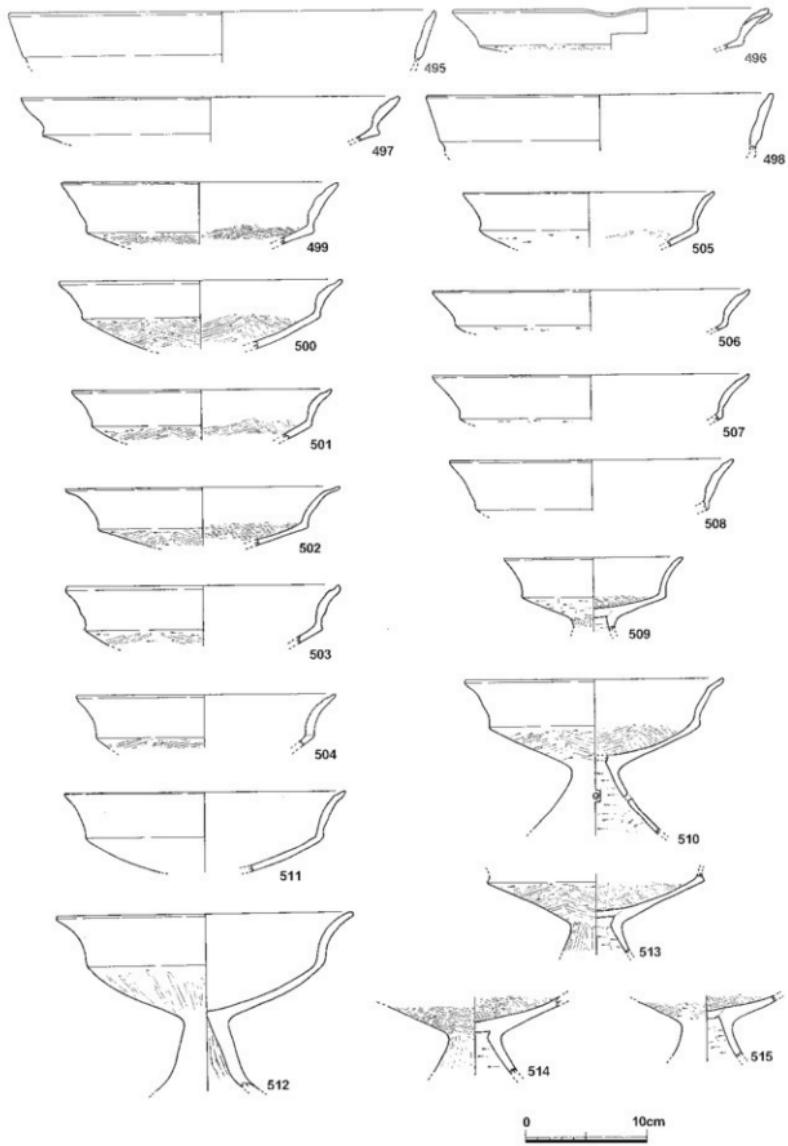
第60図 SD1下層出土遺物実測図⑨



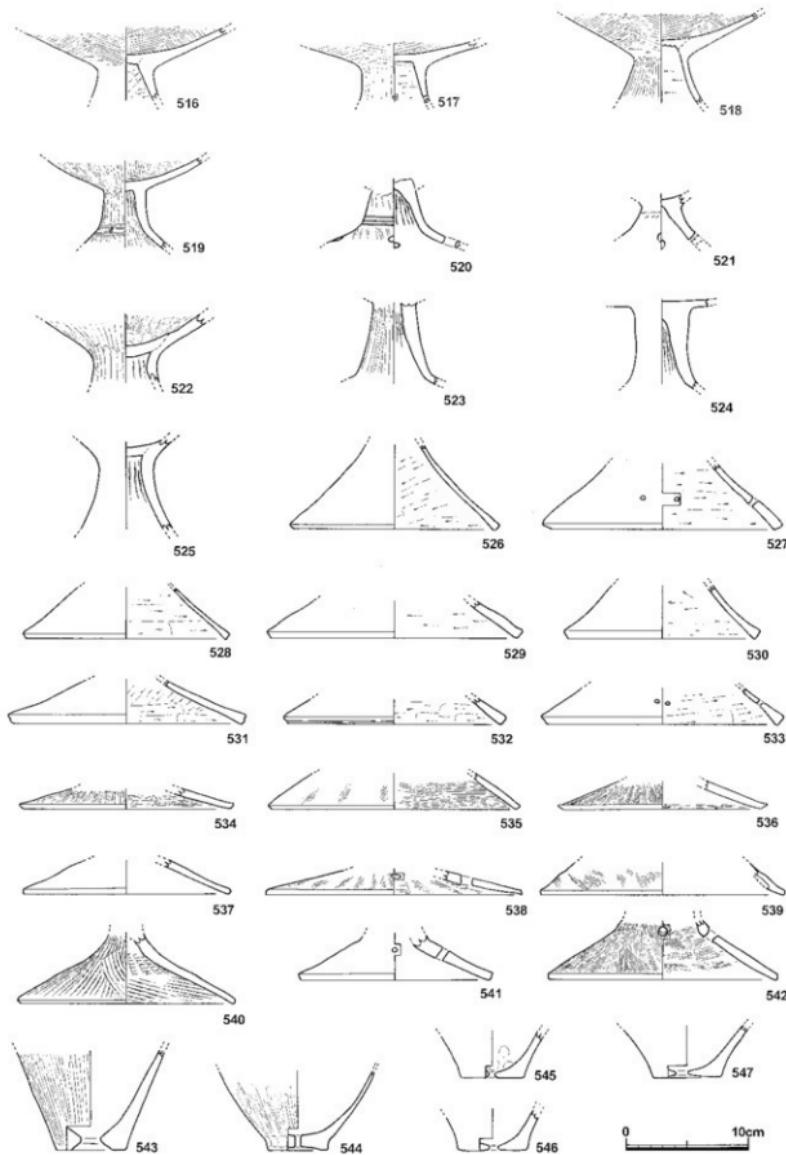
第61図 SD1下層出土遺物実測図⑩



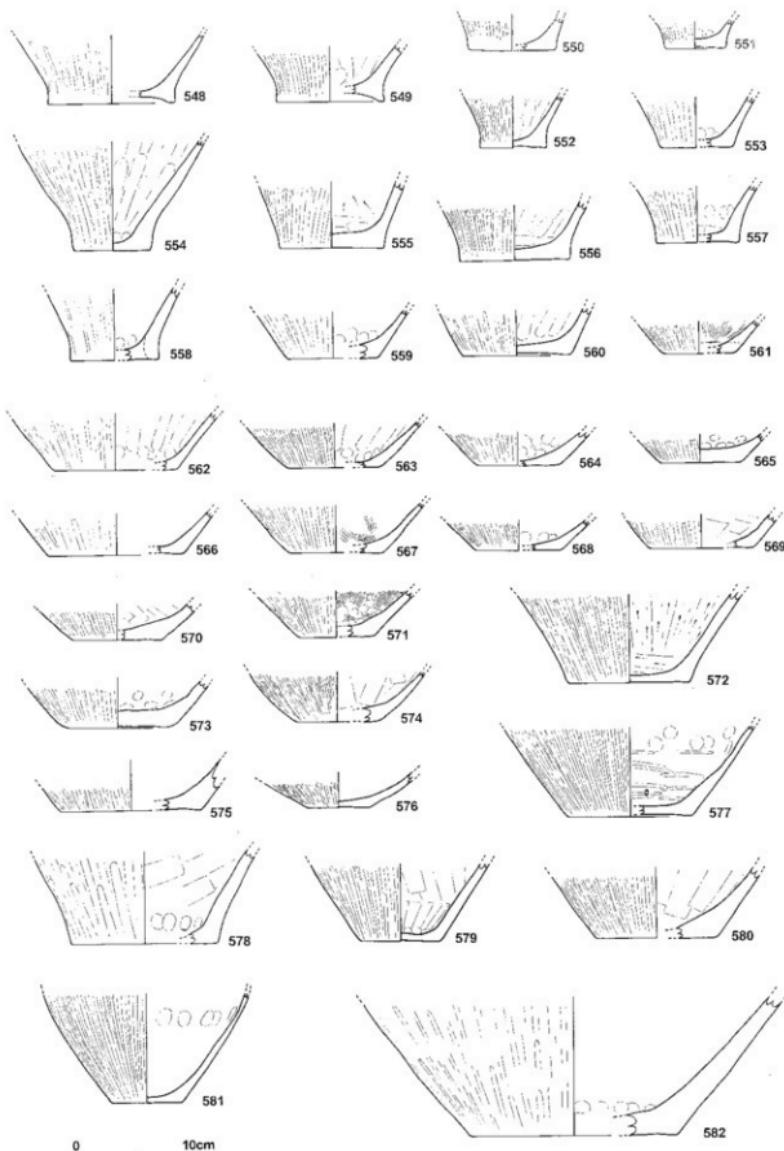
第62図 SD1下層出土遺物実測図①



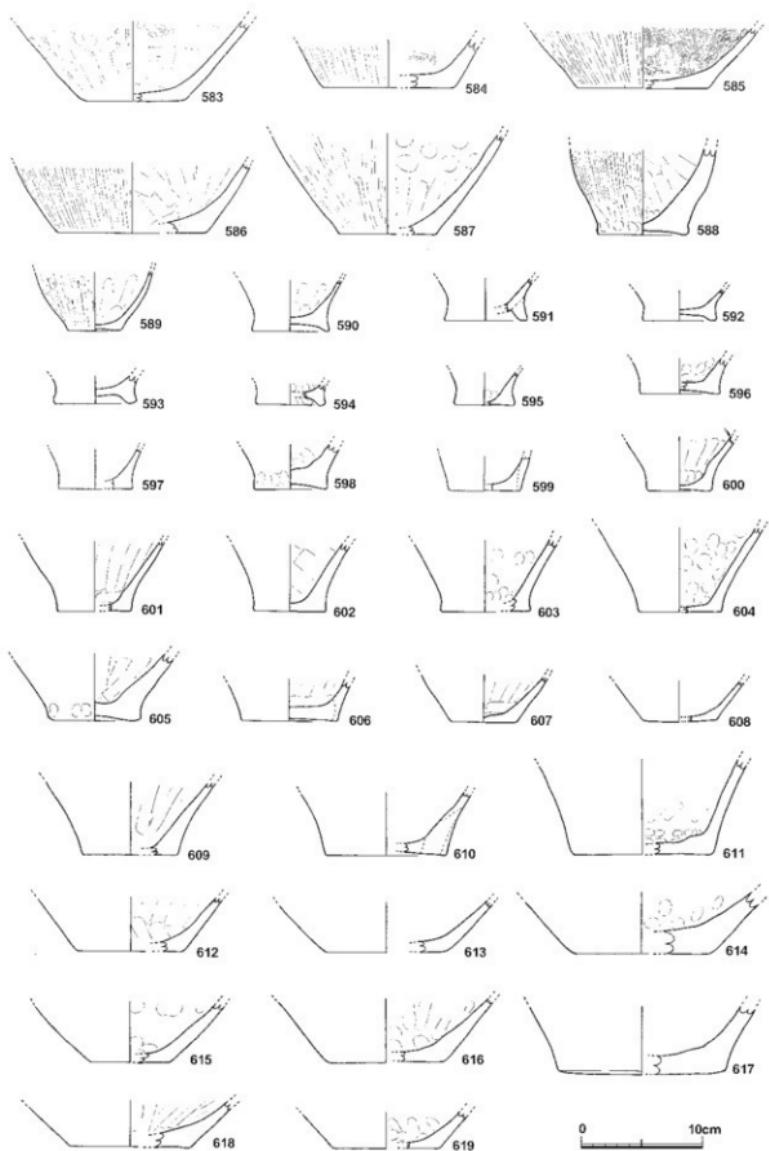
第61図 SD1下層出土遺物実測図⑩



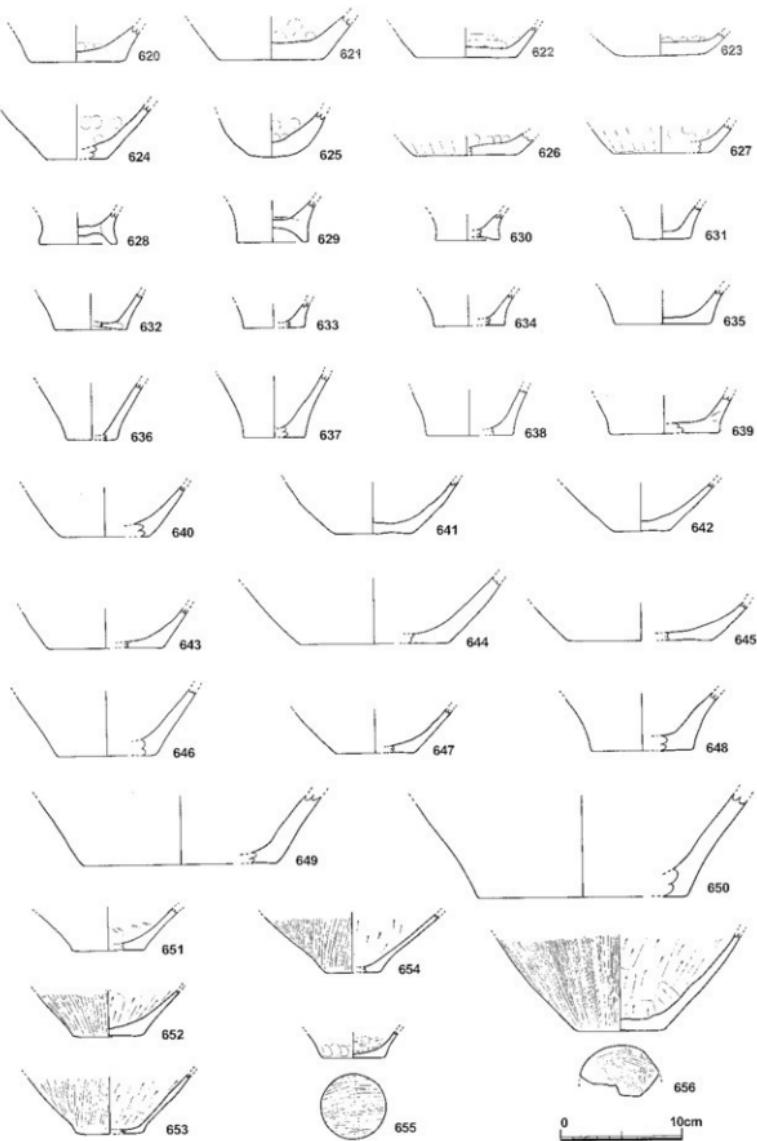
第62図 SD1下層出土遺物実測図⑪



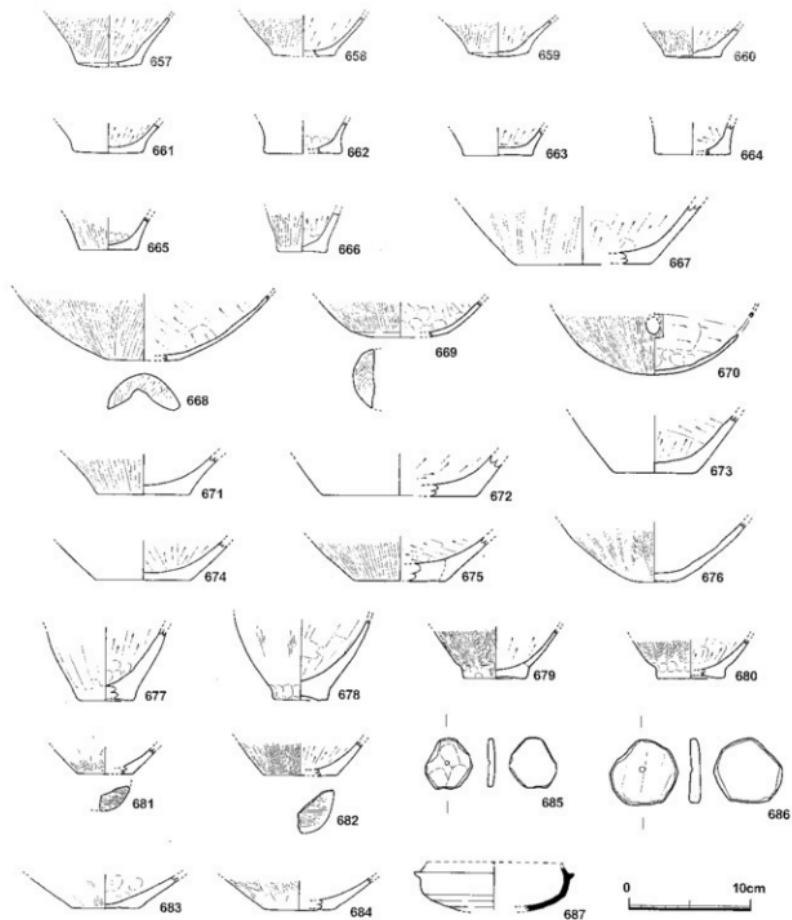
第63図 SD1下層出土遺物実測図⑫



第64図 SD1下層出土遺物実測図⑬



第65図 SD1下層出土遺物実測図⑭



第66図 SD1下層出土遺物実測図15

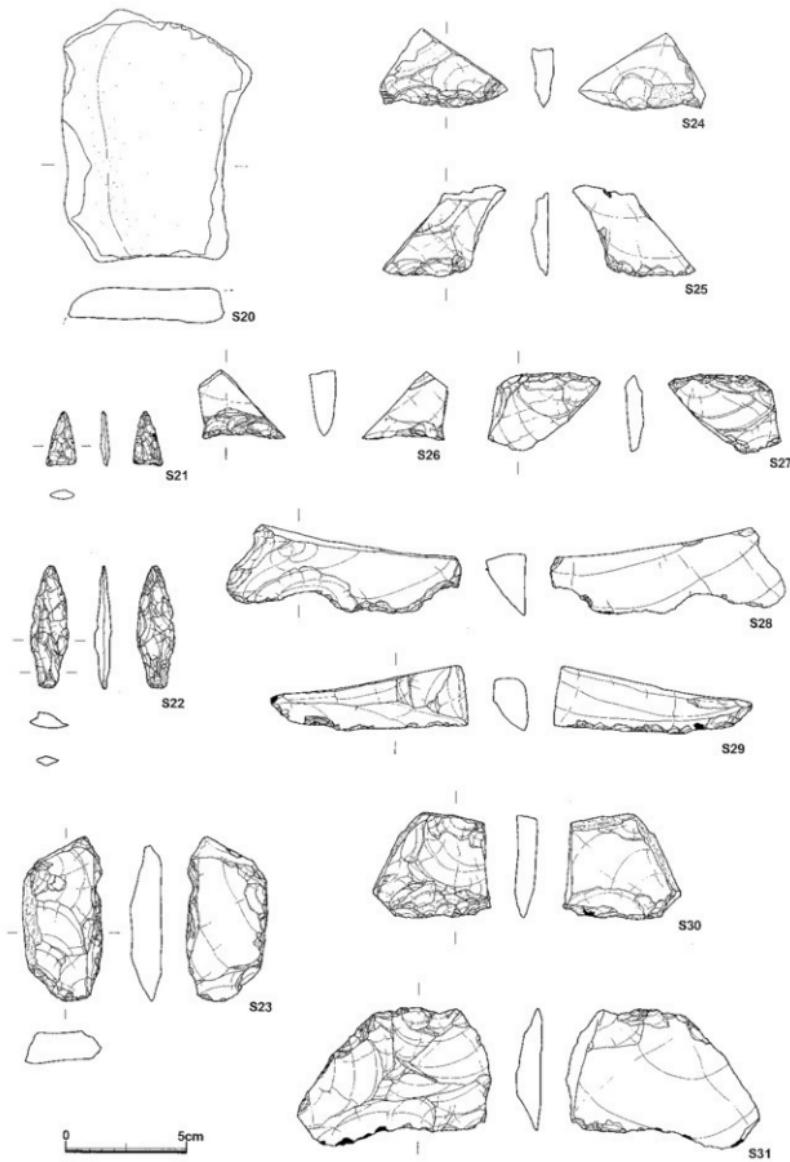
れる。369は小型の壺で外面タテハケ、内面ヘラケズリのち指頭圧である。370は外面タテハケのち下半のみタテヘラミガキ、内面ヘラケズリである。371は蓋である。円孔が見られる。372~453は弥生中期の壺である。372~397は広口壺で、口縁部を加飾するものが多い。372・375・379・380・381・385・389~392は口縁端部に刻目を有する。372・376・386・390~392は円形浮文や棒状浮文が見られる。さらに373~376、383~387のように口縁部内面に加飾を施すものもある。377は内面に刻目を施した突堤2条と刻目を施さない突堤1条を巡らし、その外側に斜格子文を施している。398~411も広口壺であるが、口縁部があまり外反しないものである。これらの広口壺も口縁端部に加飾されており、斜格子文や凹線文が施され、その上に円形浮文や棒状浮文を施すものが見られる。407・411のように頸部に押圧突堤を

巡らすものもある。412～430は細頸壺である。412は口縁部がやや偏平で口縁端部に刻目を有する。413は大型で加飾が顕著なものである。口縁端部及び4条の貼付突帯に刻目を施している。さらに4条の突帯をつなぐように棒状浮文を施し、口縁端部にも円形浮文を全面に巡らせている。414も棒状浮文と円形浮文をもつ。415～418は刻目を施した突帯2条を巡らすものである。419は刻目を施した突帯1条を巡らすものである。420～425は突帯に刻目を施さない。426～430は突帯をもたないものである。431～452は直口壺である。431～434は口縁端部に刻目を施すものである。435～441は頸部に押圧突帯を巡らすもので、ほとんどのものが体部との境に見られるが、440のみ口縁部付近に3条巡らせている。439～443は頸部に貼付突帯を巡らすもので、443の体部上半には波状文が見られる。453は無頸壺である。口縁部に3条の凹線と刺突文が見られる。454はミニチュアの広口壺である。455～461は弥生後期の壺である。455・456は口縁部が水平に聞く広口壺である。460のような体部がつくと考えられる。460は外面タテハケのち下半はタテヘラミガキ、上半の一部にヨコヘラミガキが施される。内面はヘラケズリのち上半のみ指頭圧及び指頭ナデである。457は長頸壺で頸部と体部の境に列点文が見られる。458は大型の広口壺で内外面とも粗いハケが認められる。459は細頸壺の体部である。外面タテハケのち下半タテヘラミガキの体部最大径部分のみヨコヘラミガキ、内面指頭ナデである。462は弥生中期のバケツ型の鉢の上半部である。463～471は弥生中期の高杯の杯部である466～468・470のように口縁部外面に凹線を複数条巡らせるものも見られる。469～471のように口縁部の上面を拡張し、斜格子文を施すものもある。472～481は弥生後期の鉢である。472～474・479のようにヘラミガキを施し、丁寧なつくりのものもあるが、475・477のように外面に縱方向の亀裂を残すものや478のように接合痕を消さないものもある。482～492は弥生中期の高杯の脚部である。482～485は円形スカシを有する。485のスカシは貫通していない。486は三角形のスカシを4方向にもつ。外面はタテヘラミガキを施すものが多い。493・494は台付鉢の台である。494には12方向に円形スカシが見られる。495～498は弥生後期の大型鉢である。496は片口になっている。499～542は弥生後期の高杯である。499～510は口縁部のヨコナデが顕著で内外面に分割ヘラミガキを施すもので、513～518の脚柱部、526～533の脚裾部が同一形態になるものである。杯部と脚部は円盤充填によって接合される。511・512は円盤充填をせず、外面タテヘラミガキを施すものである。519は外面ともタテヘラミガキを施すもので、脚柱部に沈線状の暗文が施されている。また、暗文部分には初の圧痕が認められた。520は沈線3条を巡らすもので、4方向に円形スカシが見られる。534～542はハケ調整のものである。543～584は底部である。545・546は焼成前の穿孔が見られるものである。548～589は外面タテヘラミガキを施すものである。557の内面には初の圧痕が見られる。590～627は内面指頭圧やナデ調整のものである。628～650は内外面ともマメツのものである。651～675は外面タテヘラミガキ、内面タテヘラケズリのものである。670は丸底で体部下半に焼成後の穿孔が見られる。676～684は外面タテハケを施すものである。685・686は円孔が貫通していない紡錘車である。687は須恵器の坏である。

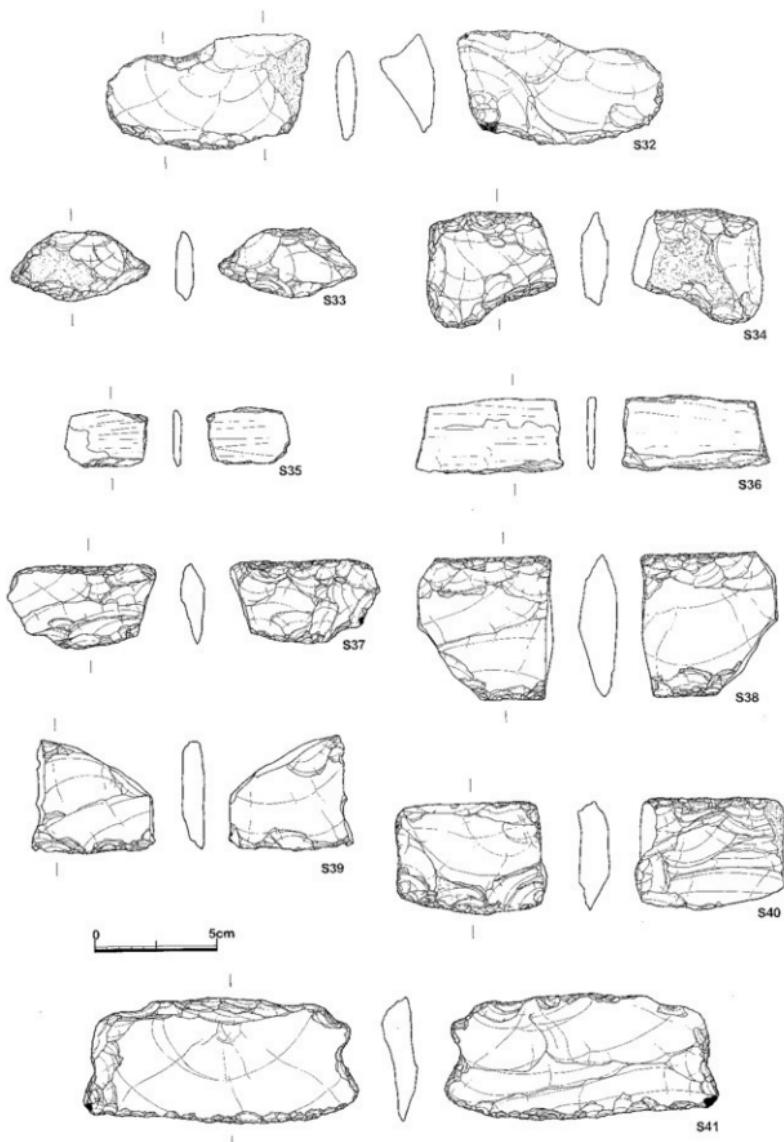
第67・68図のS20～S41は下層出土石器である。S20は石皿の表面部分の破片である。S21は平基式の石鎌、S22は有茎式の石鎌である。S23～S33は削器である。S34はL字に曲がる石器で、石鎌と考えられる。S35・S36は石庖丁の破片と考えられる結晶片岩である。S37～S39は石庖丁の破片と考えられる削器である。S40・S41は石庖丁である。S41は完形で、刃部は両面より調整され、両側面に抉りをもつ。

第69図のW9は下層出土の木器である。自然木の先端を斜めに切り落としただけのもので、杭と考えられる。

第70～77図の688～907は最下層出土の土器である。688～711は弥生中期の壺である。688～697は無文のものである。698～701は頸部に押圧突帯を施すものである。702～706は口縁端部に刻目を施すもので



第67図 SD1下層出土遺物実測図⑯

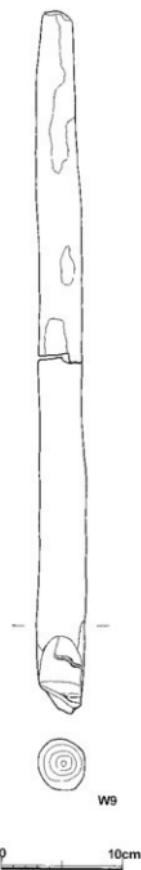


第68図 SD1下層出土遺物実測図⑦

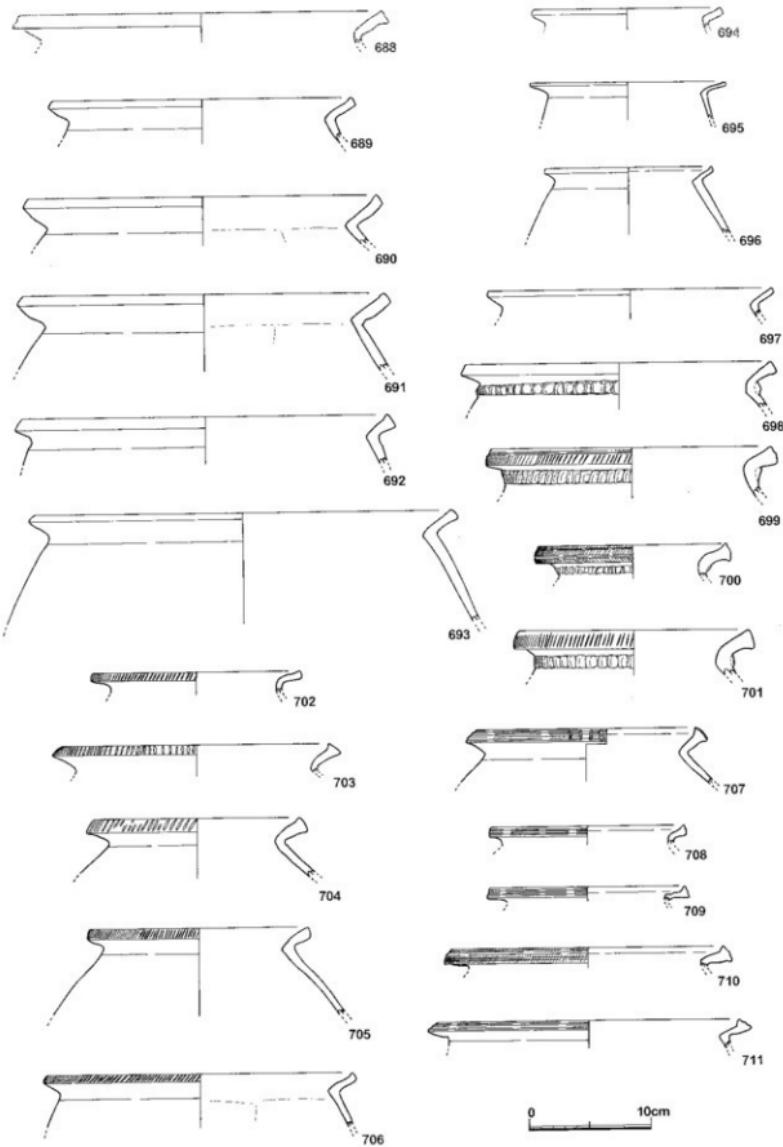
ある。707～711は口縁端部に凹線を複数条施すものである。712～717は弥生後期の壺である。714～716は外面タテハケ、内面指頭圧を施すものである。717は球形の体部をもつもので、頸部に円孔、体部最大径に刺突文が見られる。718～763は弥生中期の壺である。718～724は細頸壺である。口縁部外面に貼付突帯が見られる。725～733は直口壺である。725は口縁端部及び2条の貼付突帯に刻目が見られる。730～733は頸部に押圧突帯を巡らせている。734～745は口縁部があまり開かない広口壺で、ほとんどのものが口縁部を加飾する。735～741は斜格子文、742・743は綾杉文、744・745は凹線文が見られる。737～739・743は頸部に押圧突帯が見られる。746～762は口縁部が水平近くまで開く広口壺である。口縁部を加飾するものがほとんどで、746～749・751・752・754～757・761は凹線、746・747・750・758～761は刻目、751・752は円形浮文が見られる。口縁部内面も加飾するものが多く、746・747・753～757は斜格子文が見られる。特に746の内面の加飾が著しく、貼付突帯3条と波状文が見られる。752・753は口縁部に3個1対の小円孔が見られる。755は頸部の円孔と押圧突帯が見られる。763は広口壺の体部上半部と考えられ、波状文、直線文、斜格子文が見られる。764～766は弥生後期の広口壺である。766は内面ヘラケズリのち上半指頭圧である。767は弥生中期のバケツ型の鉢で、外面タテハケである。768は弥生後期の鉢で、外面ヘラケズリのちタテヘラミガキ、内面タテヘラミガキである。769～786は弥生中期の高杯である。769～778のように杯部が深く口縁部との境が無いものと、786のように口縁部をつくるものがある。大型品は口縁端部を拡張し、斜格子文を施している。779～785は脚部である。784は10方向の三角形スカシが見られる。787～798は弥生後期の高杯である。787～789は外面ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ、内面分割ヘラミガキである。799～805は底部である。799・800は底部に円孔をもつものである。801～848は外面にタテヘラミガキを施すものである。849～866は内面指頭圧またはナデ調整のものである。867～875は内面板ナデまたはハケ調整のものである。876～894は内外面ともマツツのものである。895～898は外面に指頭圧を施すものである。898は製塙土器の可能性も考えられる。899～905は内面がヘラケズリのものである。906・907は紡錘車である。

第78～81図のS42～S79は最下層出土の石器である。S42は石皿の表面部分の破片である。S43～S45石鎌で、S43・S44は平基式、S45は有茎式である。S46は他の製品を再利用した石鎌の未製品と考えられるものである。S47～S50は石槍である。S47は先端部、S50は基部である。S51～S67は削器である。S60・S62・S63～S66は石庖丁の破片と考えられる。S68～S78は石庖丁で、すべて抉りをもつ。S72は大型で長方形になるとされる。S79はサヌカイト製の偏平両刃石斧で刃部のみ磨いている。

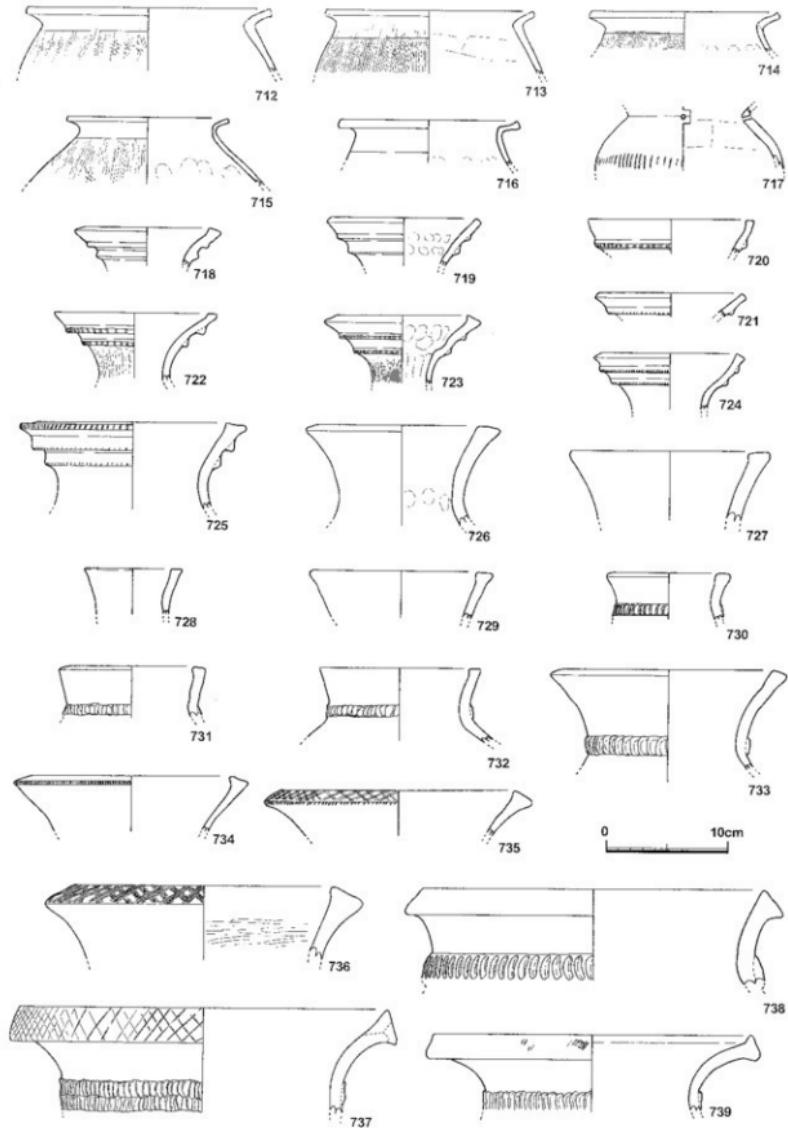
第82図のW10・W11は最下層出土の木製品である。W10は板材で、平坦面に加工痕が残る。W11は加



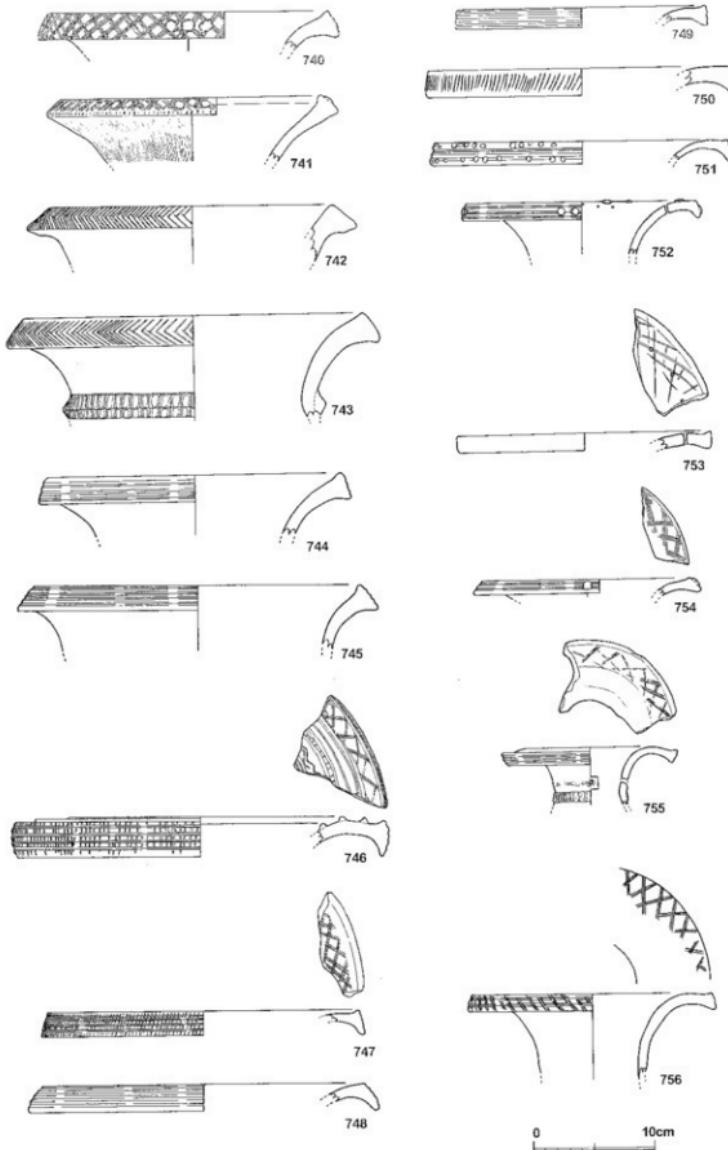
第69図 SD1下層出土遺物実測図⑧



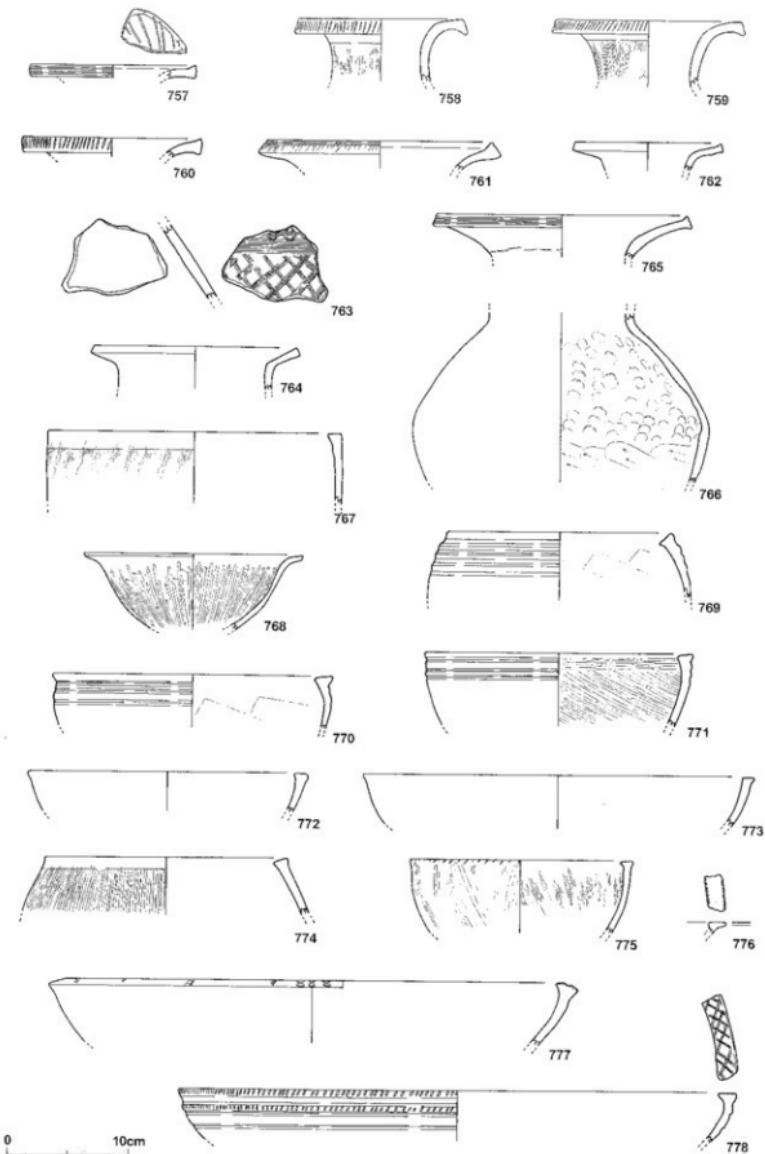
第70図 SD1最下層出土遺物実測図①



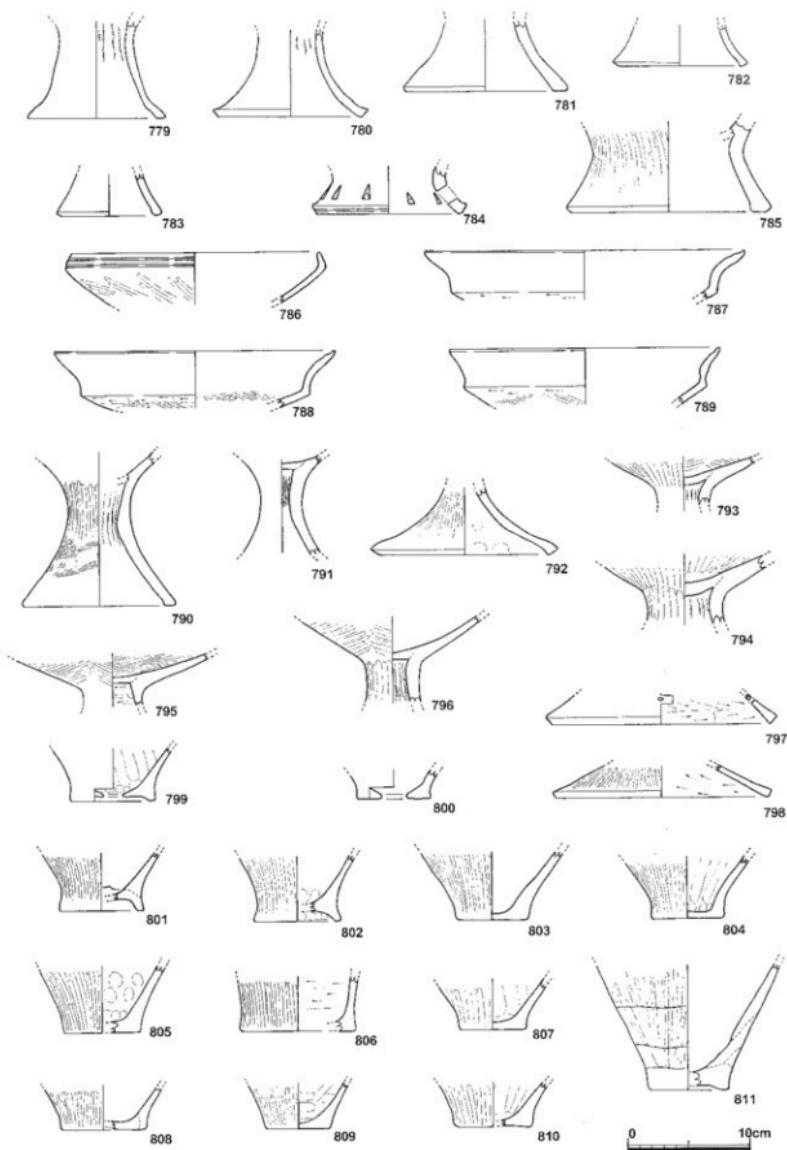
第71図 SD1最下層出土遺物実測図②



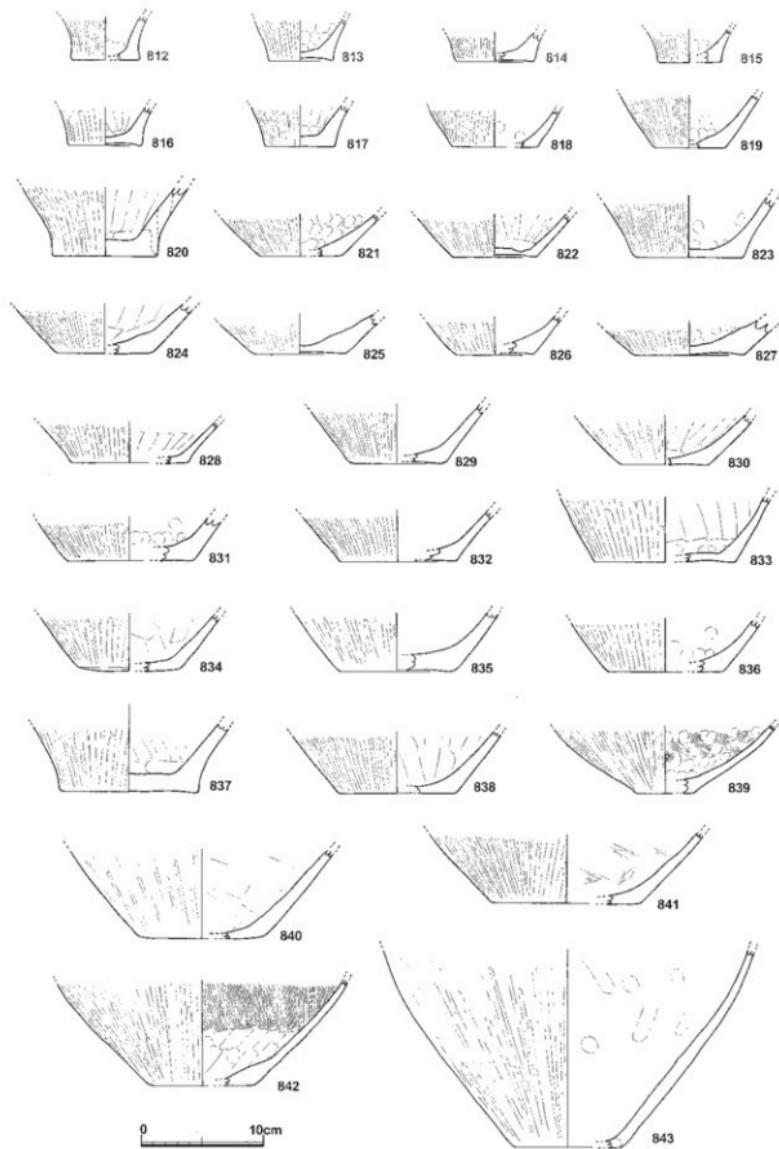
第72図 SD1最下層出土遺物実測図③



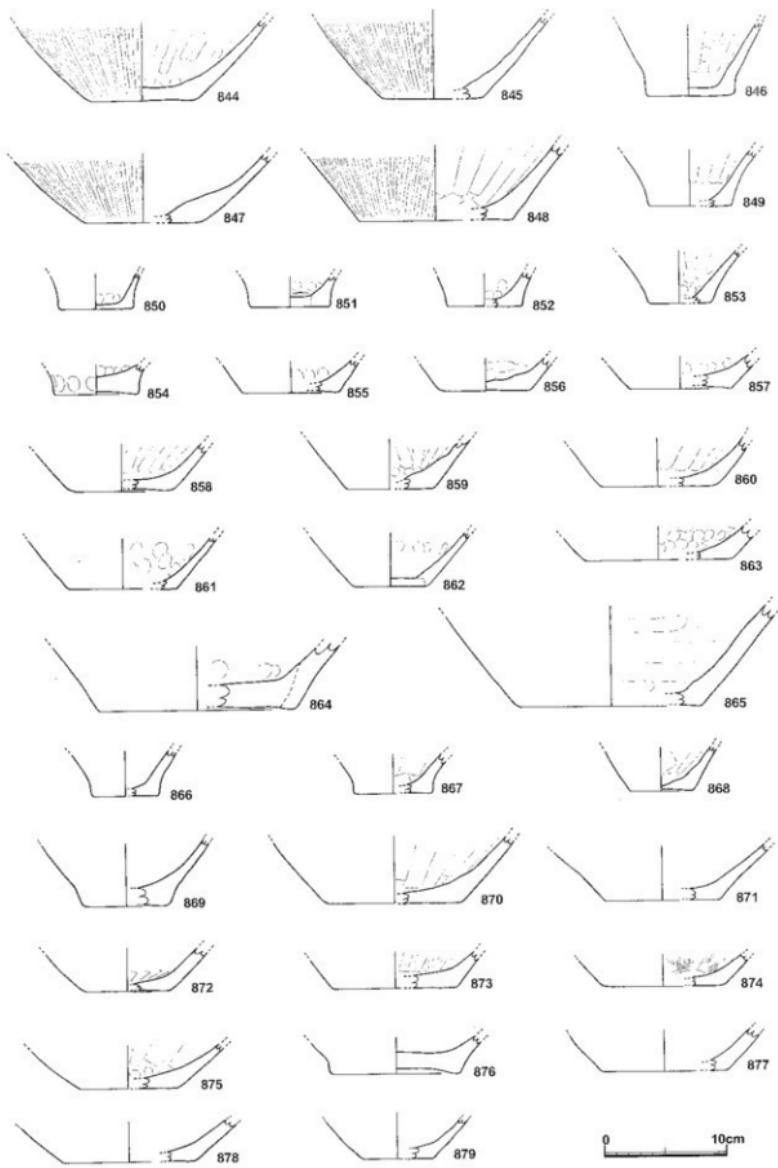
第73図 SD1最下層出土遺物実測図④



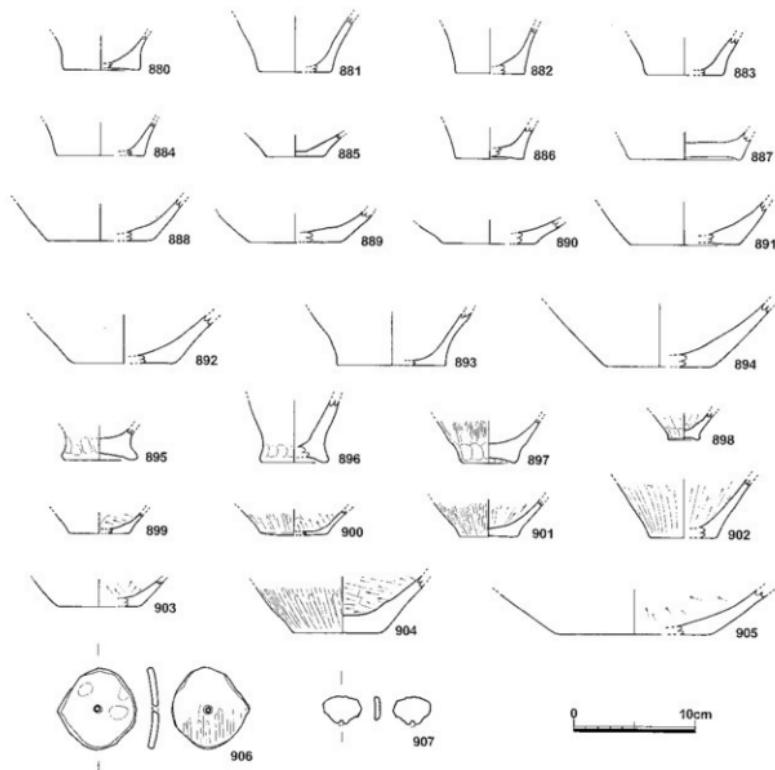
第74図 SD1最下層出土遺物実測図⑤



第75図 SD1最下層出土遺物実測図⑥



第76図 SD1最下層出土遺物実測図⑦

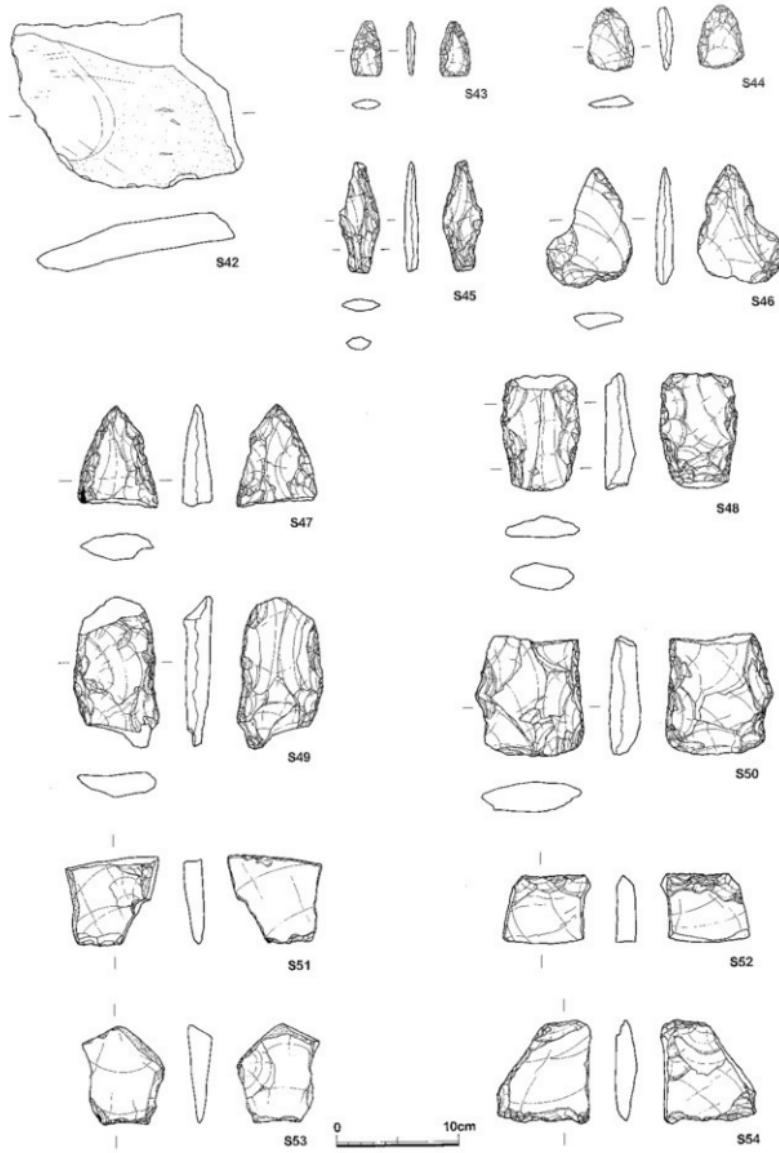


第77図 SD1最下層出土遺物実測図⑧

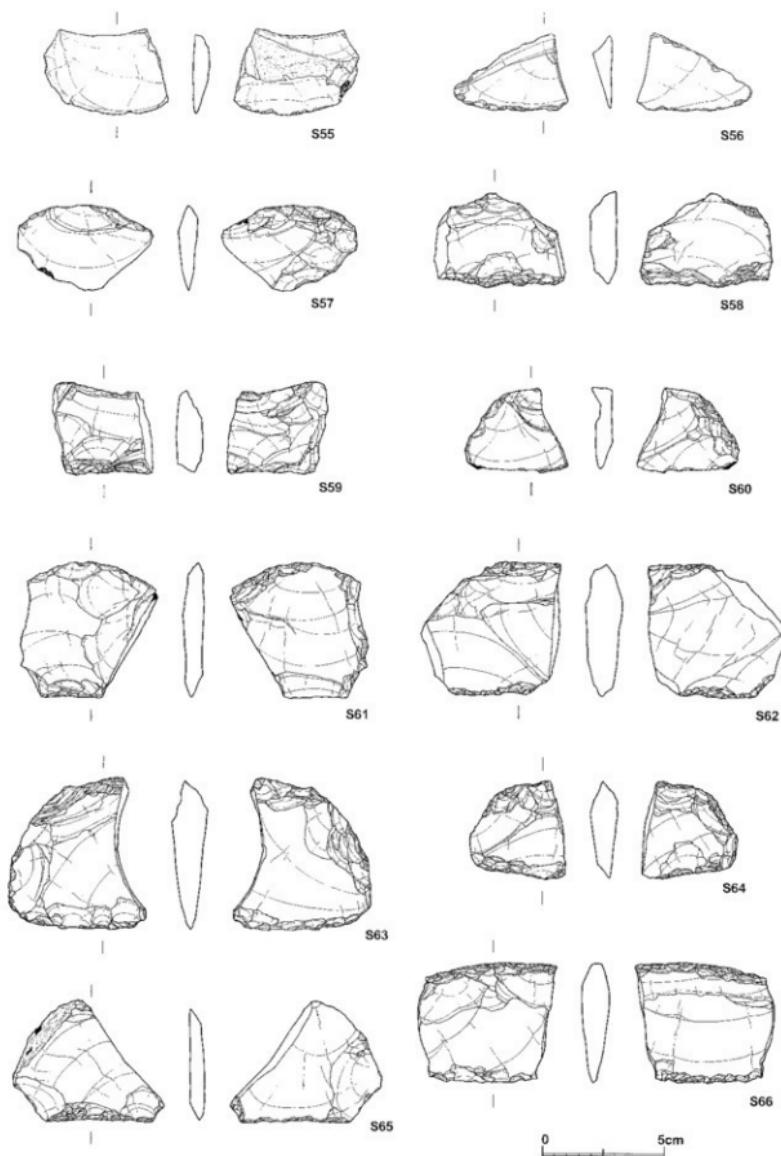
工木で、細かく面取りされている。杭の先端部の可能性も考えられる。

出土遺物の大半が弥生中期及び弥生後期から終末期のものであるが、須恵器が少量含まれている。須恵器は南部ほどその出土割合が高く、北部では出土していない。また、上層ほど須恵器の割合が高く、下層まで含まれているが、最下層では1点も含まれていない。一方、最下層では弥生中期の遺物が大半を占めるが、弥生後期～終末期の遺物も若干含まれる。このため、SD1は弥生終末期に掘削され使用されていたが、古墳時代中～後期以降にはその機能を失い、埋没していったことがうかがえる。最上層部が削平により失われており、最終埋没時期は不明である。

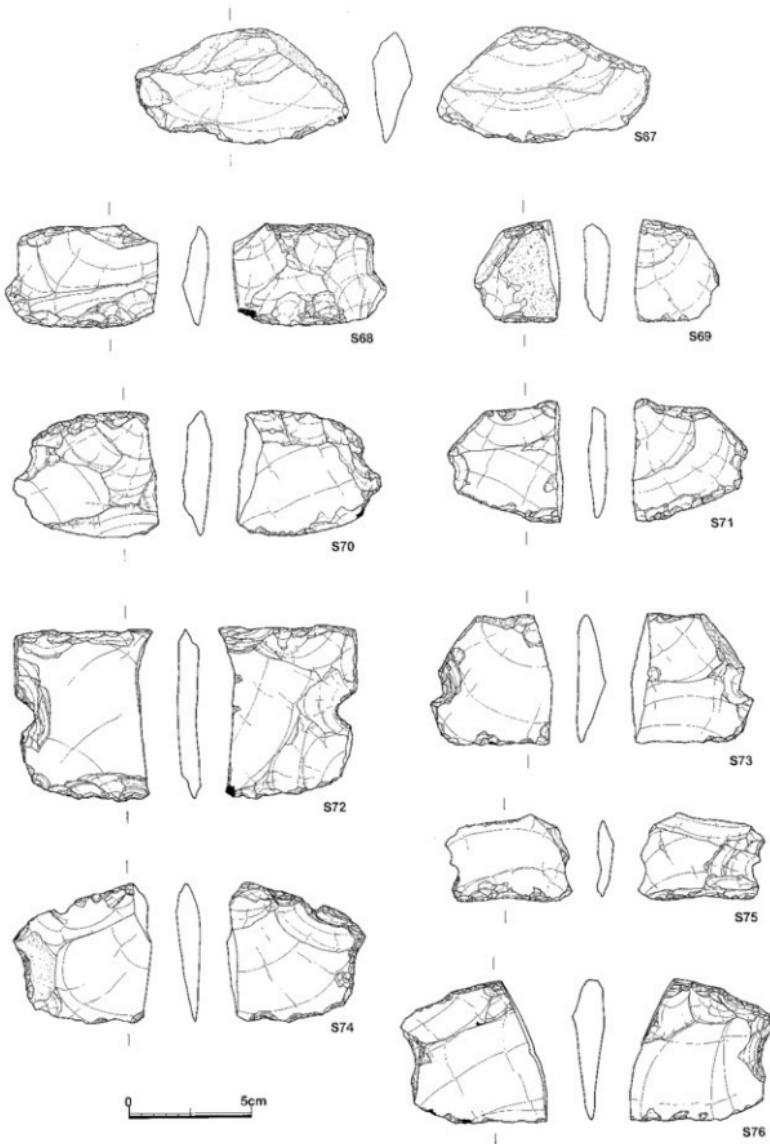
なお、調査区南側にはSD1に続くような埋没旧河道状の地形の乱れがあり、その地形の乱れの延長は都市計画道路部分の調査時に検出したSR02に至る。SR02とは規模及び断面形状が比較的似ているが、



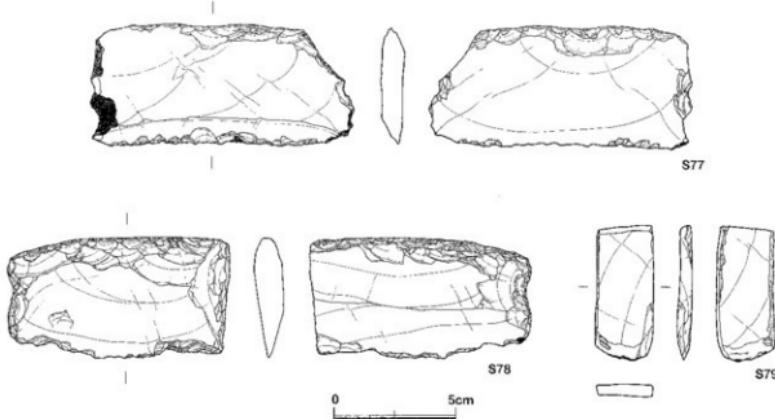
第78図 SD1最下層出土遺物実測図⑨



第79図 SD1最下層出土遺物実測図⑩



第80図 SD1最下層出土遺物実測図①



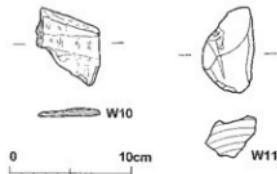
第81図 SD1最下層出土遺物実測図②

埋土の堆積状況が異なる。SR02は古墳後期の最初の埋没後、新たな流路ができ、洪水砂層で中世にはば埋没し、最終埋没は近世と考えられている。一方、今回検出のSD1は溝上層まで粘土層の堆積で、埋土の中層から下層に多量に含まれていた植物遺存体から考えて古墳中～後期に緩やかに埋没したと考えられる。このことから、SD1はSR02と直接つながるものではないにしても、密接な関係をもつものと考えられる。調査区南方で地形の乱れは北へ向かいSD1につながっていく流路と北東方向へ向かい下池に流れ込む流路の2方向に分岐することが観察できることから、SD1はSR02から分岐する溝である可能性が高い。

一方、SR02は最下層から古墳時代後期の須恵器を出土しているが、SD1の最下層からは須恵器は出土していない。古墳時代の集落域から遠いという地理的な要因から最下層に須恵器が出土していないとも考えられ、造構の掘削時期が古墳時代後期の可能性も残すが、SD1から分岐するSD2をはじめその他の溝の出土遺物がすべて弥生終末期のものであることから、同時期に掘削された溝と考えるのが妥当であろう。

SD2（第83・84・87図）

SD1から分岐する溝で、調査区の中央部を北西方向へ流れる溝である。最大幅2.5m、深さ20cmを測り、埋土は黒褐色の粘土の単層である。溝はさらに分岐し、調査区の北東部を樹枝状に流れる。水田耕作等に伴う灌漑用の水路と考えられる。遺物はほとんど出土していないが、溝の北西部でやや土器がまとまって出土した。第87図にその出土状況図及び出土遺物実測図を掲載した。908は弥生中期の広口壺の口縁部である。口縁端部に刻目が見られる。909～911は弥生後期の長頸壺である。911の内面は指頭



第82図 SD1最下層出土遺物実測図③

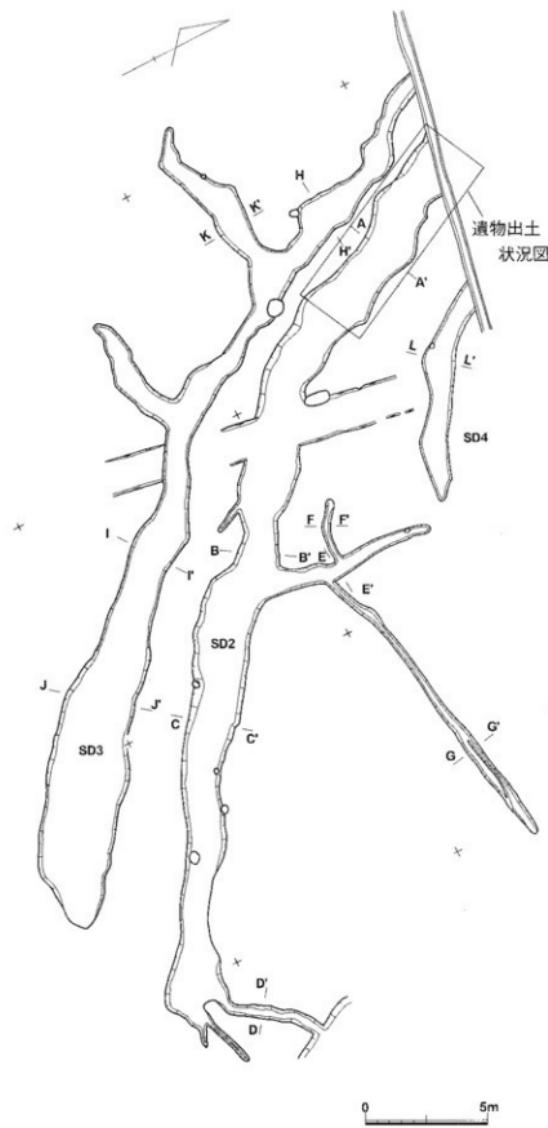
ナデが見られる。912は弥生後期の高杯脚部である。内面へラケズリを施し、脚据部に円形スカシが見られる。913~917は底部である。出土遺物から弥生後期中葉~終末期の遺構と考えられる。

SD3 (第83・85図)

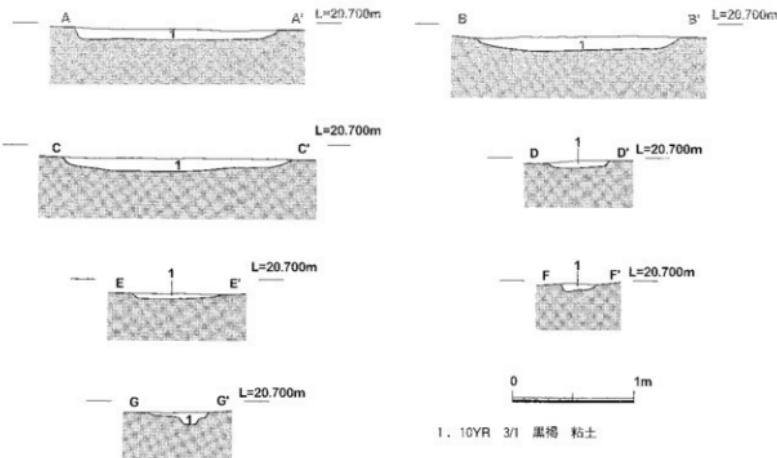
SD2の南側に平行して調査区の中央部を北西方向へ流れる溝である。最大幅3.5m、深さ10cmを測り、埋土は黒褐色の粘土の単層である。SD2同様さらに分岐し、調査区西部を樹枝状に流れ。SD2との間隔は北西部ほど狭く、最も狭い部分は約50cmの間隔しかない。遺物は弥生土器の細片が数点しか出土していないため詳細な時期は不明であるが、SD2に平行することからSD2とほぼ同時期の弥生後期中葉~終末期の溝と考えられる。

SD4 (第83・86図)

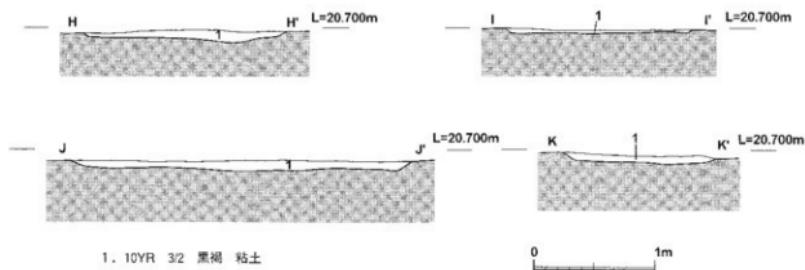
SD2の北側に平行する溝で、最大幅1.4m、深さ10cmを測り、埋土はSD2と同じ黒褐色の粘土の単層で、SD2から分岐した溝とも考えられる。遺物は1点も出土しておらず詳細な時期は不明であるが、SD2とほぼ同時期の弥生後期中葉~終末期の溝と考えられる。



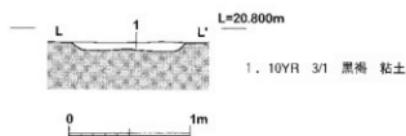
第83図 SD2・3・4平面図



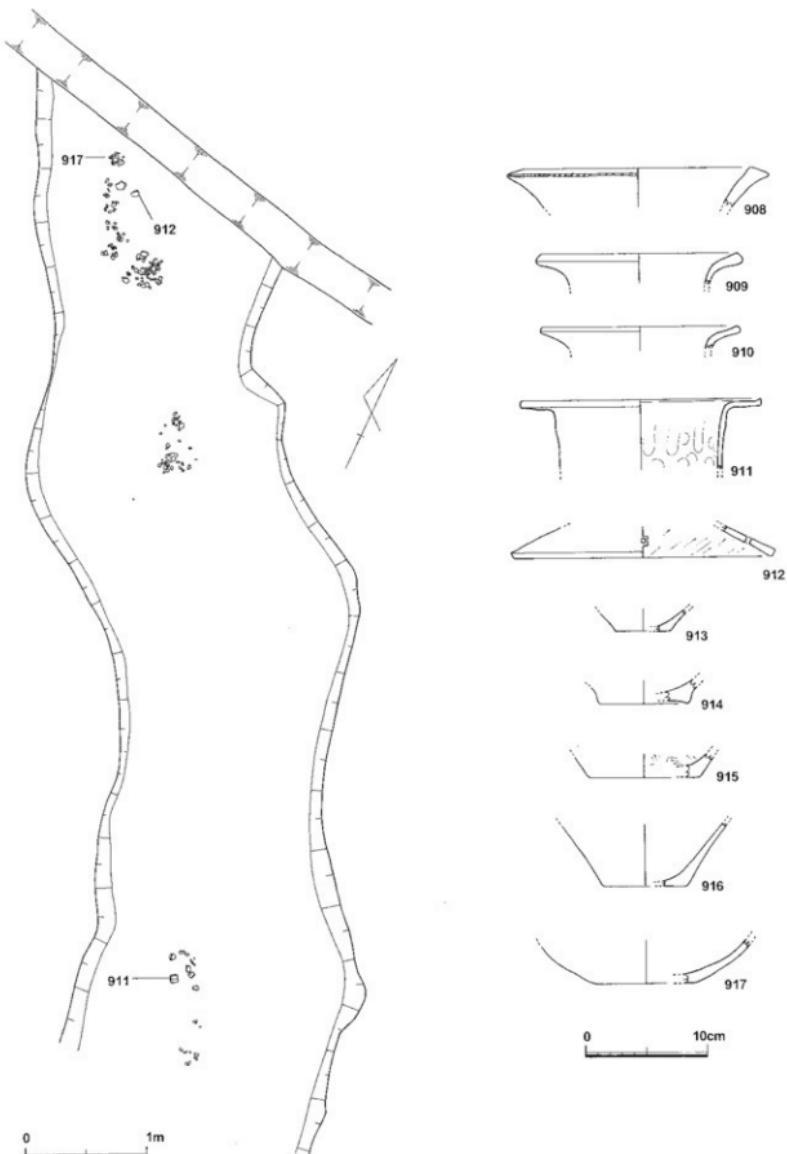
第84図 SD2断面図



第85図 SD3断面図



第86図 SD4断面図



第87図 SD2遺物出土状況図及び出土遺物実測図

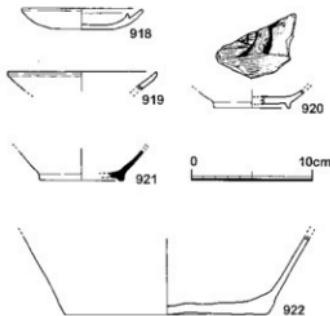
第3節 江戸時代以降の遺構（第4図）

(1) 溝群（第4図）

調査区のほぼ全域で見られたが、弥生～古墳時代の遺構面で検出したため、調査区中央部でのみ検出した。溝は切り合い関係から2時期に分けることができる。東西方向の溝が先に掘削され、その後南北方向の溝が掘削されたと考えられる。また、調査区北半は幅10～30cm、深さ5cm未溝の溝が多いのに対し、調査区南半は削平が著しいこともあってか、幅1.6m、深さ5cm未溝のものが散在する程度である。遺物は弥生土器の細片が混入して出土するほか、陶磁器の小片が出土した。詳細な時期は不明であるが、近世以降の遺構と考えられる。

(2) 粘土採取土坑（第4・88図）

調査地東部のSD1の東西両岸で検出した土坑群である。平面形は南北に長い長方形のものがほとんどであるが、一部に不整形のものやピット状のものも見られる。最大のもので幅2.8m、長さ25m、深さ20cmを測る。埋土はすべて地山の粘土ブロック及びSD1の埋土と考えられる黒褐色粘土のブロックを多量に含んだ粘質土層で、人為的に埋め戻されている。出土遺物を第88図に掲載した。918は備前焼の灯明皿である。919は京信楽系陶器の皿である。920は肥前系磁器の皿である。921は須恵器である。922は土師質の火鉢である。幕末期の遺物を含んでいるが、聞き取り調査によって昭和初期頃まで瓦用の粘土採取を行っていたことがわかり、それに伴う遺構であると考えられる。土坑はSD1を避けるように所在しており、地山の黄色シルト層を探取したと考えられる。同様の遺構は都市計画道路調査部分のD地区において数多く検出されている。



第88図 粘土採取土坑出土遺物実測図

第4章 自然科学的分析

日暮・松林遺跡出土木製品の樹種調査結果

(株)吉田生物研究所

1. 試料

試料は高松市に所在する日暮・松林遺跡（済生会）出土の建築部材・櫂？・板材・柄・柱材各1点、合計5点である。

2. 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、木目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定結果（針葉樹2種、広葉樹2種）の表を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

日暮・松林遺跡出土木製品同定表

報告書番号	品名	樹種
W1	柱材	ヒノキ科アスナロ属
W2・4	柄	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
W3	板材	ブナ科シイ属
W5	櫂？	ブナ科シイ属
W6	建築部材	マキ科マキ属イヌマキ

(1) ヒノキ科アスナロ属 (*Thujopsis sp.*)

(遺物 W1)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で1分野に2～4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

(2) ブナ科コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus subgen. Cyclobalanopsis sp.*)

(遺物 W2・4)

放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちな大きさの道管（～200μm）が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に1～3細胞幅の独立帶状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔には大型で橢状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔組織の塊の間に道管以外

の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の中間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチシガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州（宮城、新潟以南）、四国、九州、琉球に分布する。

(3) ブナ科シイ属 (*Castanopsis sp.*)

(遺物 W3・5)

環孔性放射孔材である。木口では孔圈部の道管 ($\sim 300 \mu\text{m}$) は単独でかつ大きいが接線方向には連続していない。孔圈外に移るにしたがって大きさを減じ、放射組織に火炎状に配列している。柾目では道管は單穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型で楕円状の壁孔がある。板目では多数の單列放射組織が見られる。シイ属にはツブライジとスダジイがあるが、ツブライジに見られる集合～複合放射組織の出現頻度が低い為区別は難しい。シイ属は本州（福島、佐渡以南）、四国、九州、琉球に分布する。

(4) マキ科マキ属 イスマキ (*Podocarpus macrophyllus D.Don*)

(遺物 W6)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであり、年輪界がやや不明瞭で均質な材である。樹脂細胞はほぼ平等に散在し数も多い。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～2個ある。短冊型をした樹脂細胞が早材部、晩材部の別なく軸方向に連続（ストランド）をなして存在する。板目では放射組織はすべて單列であった。イスマキは本州（中・南部）、四国、九州、琉球に分布する。

◆使用顯微鏡◆

Nikon

MICROFLEX UFX - DX Type 115

参考文献

- 島地謙・伊藤隆夫『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣 1998
島地謙・伊藤隆夫『図説木材組織』地球社 1982
伊藤隆夫『日本産広葉樹材の解剖学的記載』I～V 京都大学本質科学研究所 1999
北村四郎・村田源『原色日本の植物図鑑木本編』I・II 保育社 1979
深沢和三『樹体の解剖』海青社 1997

第5章　まとめ

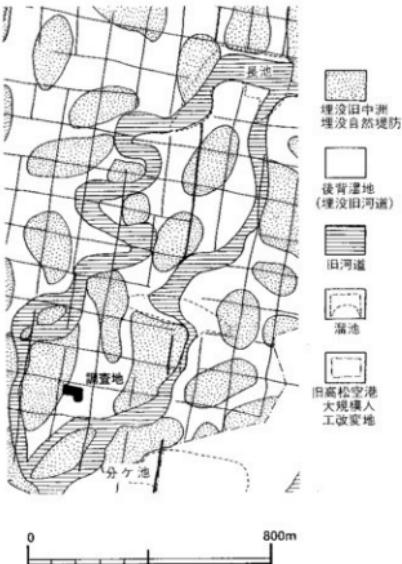
第1節　調査地周辺の地形について

遺跡を中心とした周辺部の空中写真を見ると、遺跡の北側と南側に帯状の不規則な水田が蛇行しながら北東方向に伸びていることがわかり、旧河道であることは明白である。高松平野の地形環境分析は高橋学氏が精力的に研究されており、高橋氏のデータ（1992）でもこの旧河道は認められる。北側の旧河道は調査地の西を北流し、6回の大好きな蛇行を繰り返し、現在の長池に達している。調査地周辺には南から栗木出水、平井出水、鈴木出水の3つの出水が見られ、旧河道の流路と一致する。南側の旧河道は調査区の南西部で2つの流路に分かれ、東側で再び合流し、下池に達している。両旧河道ともこれまでの発掘調査でその一部を検出している。北側の旧河道は、多肥松林遺跡の中央部を北流し、日暮・松林遺跡（都市計画道路）の北端を西から東へ流れれる。南側の旧河道は日暮・松林遺跡（都市計画道路）の南端で分岐部付近を検出している。今回の調査地はこの2本の旧河道に挟まれた部分に該当する。

高橋氏のデータによると、調査地周辺は両旧河道間に3つの微高地とその間に所在する後背湿地が認められる。その中で、調査地は条里地割から考えると微高地の末端から後背湿地部分に該当すると読み取れる。しかしながら、調査においては調査区中央部が高く、東西に向かってやや下がっており、調査地が微高地上と考えられた。また、西側の下がりが大きいことから、調査区東部が微高地の東端と考えられ、調査区の東側が後背湿地部分になると想定される。このため、高橋氏のデータと比較すると、巨視的に見た地形はほぼ合致しているとはいえる。微高地が50~60m東側へ広がることが調査で確認できた。今後も発掘調査データの集積によって高松平野の微地形環境が修正されることが望まれる。

参考文献

- 【都市計画道路福岡多肥上町線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　日暮・松林遺跡】高松市教育委員会 1997
高橋学「高松平野の地形環境　－弘福寺領山田郡田畠比定地付近の微地形環境を中心に－」『讃岐国弘福寺領の調査』
高松市教育委員会 1992



第89図 条里型地割りと微地形
(高橋1992のデータに加算)



第90図 周辺の地形復元案 (S=1/2,500)

第2節 遺構の変遷について

今回の調査では、弥生中期中葉、弥生終末期（2時期に細別）、古墳後期、近世以降の5時期の遺構を検出した。以下に5時期の主要遺構の変遷を示す。

弥生中期中葉

掘立柱建物6棟（SB1・2・4・6・7、SA1）と竪穴住居1棟（SH2）を検出した。特に掘立柱建物は都市計画道路部分の調査において、ある一定の基準の存在が指摘されていたが、今回の調査でもN-98°-E-N-108°-Eの方位に集中し、都市計画道路部分の調査とはほぼ同様の傾向を示し、これを追証する結果となった。調査地東端が微高地の東端にあたることから、都市計画道路部分の調査地から続く集落域の南東端にあたると考えられる。

弥生時代終末Ⅰ期

調査区北西部で検出したSH1の時期である。その他SP18、遺物は出土していないが、SB4、SH3が同時期の可能性があると考えられる。この時期の遺構は北西部に偏っていることから、都市計画道路部分の調査地から続く集落域の南東端にあたると考えられる。なお、多肥松林遺跡（桜井高校）の調査区南部で1間四方の掘立柱建物が4棟検出されており、今回検出の1間四方のSB4もこの集落域に含まれる可能性が考えられる。このため、弥生終末期には微高地上の北部に竪穴住居を中心とする集落域、南側に掘立柱建物の集落域が存在することがうかがえる。

弥生終末Ⅱ期

調査区東部に掘削されたSD1及びそこから樹枝状に派生するSD2・3等が見られる。樹枝状に流れれる溝がSH1を切っていることから終末期を2時期に細分した。規模も大きく基幹的な水路と考えられるSD1は微高地の縁辺部を沿うようにして掘削されている。そこから派生するSD2・3は樹枝状に流れしており、水田域が想定される。樹枝状の溝は都市計画道路部分の調査地および多肥松林遺跡（桜井高校）においても認められる。なお、多肥松林遺跡（桜井高校）で検出した旧河道の西側においてもSD7のような規模の大きい水路が検出されており、多肥松林遺跡（県道）では取水口と考えられる遺構も検出されている。

古墳後期

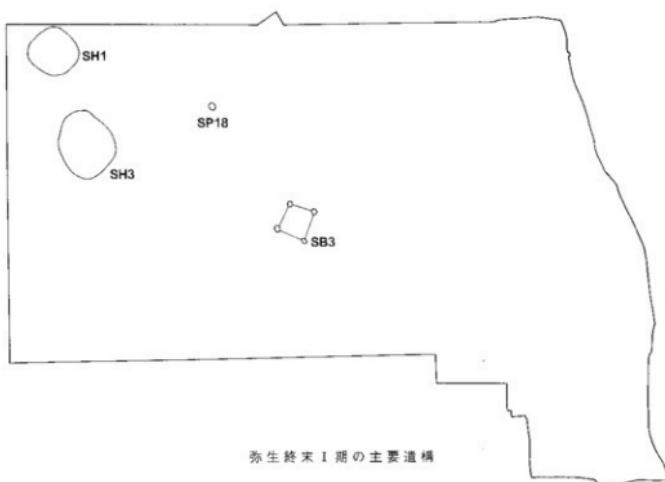
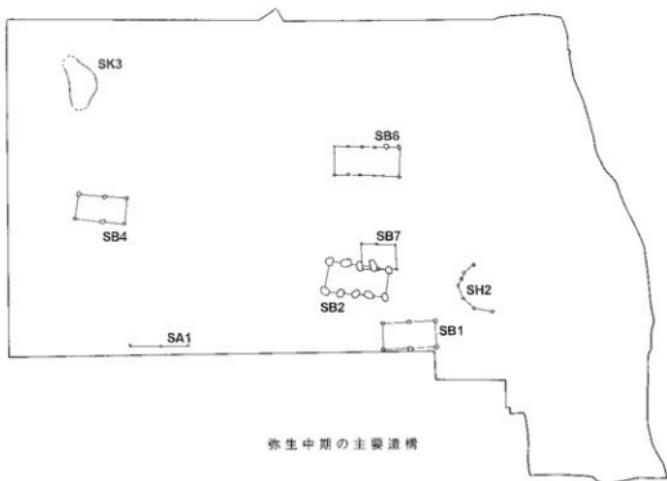
弥生終末期のSD1の埋没期と考えられる。須恵器を出土したSB5、SK2がこの時期の遺構の可能性があるが、全体に遺構は希薄である。周辺調査地の出土遺物量等から、もう1つ南側の微高地（多肥宮尻遺跡北方）に当該期の集落域が存在した可能性が指摘できる。

近世以降（第5図参照）

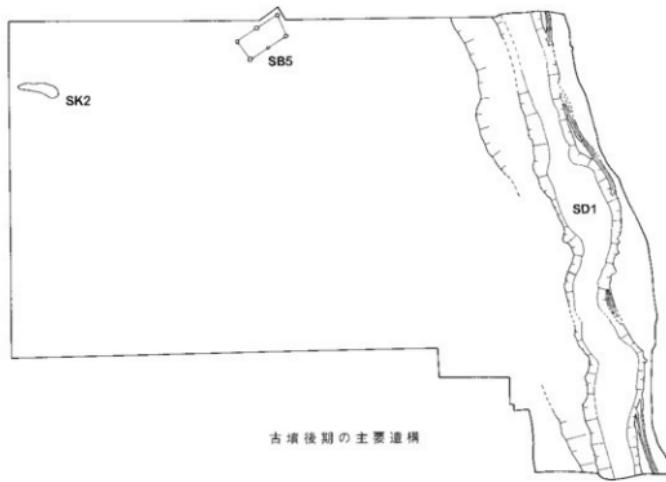
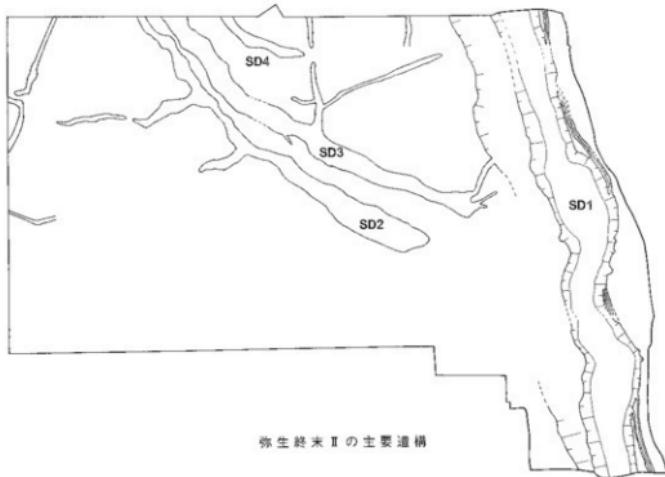
調査地全域において鋤溝を検出しておらず、耕作地と考えられる。調査地東端では、戦前まで瓦用の粘土採取が行われていた。同様の粘土採取土坑は都市計画道路部分の調査地においても認められ、主に微高地縁辺部から後背湿地部分の粘土を採取していることがうかがえる。

参考文献

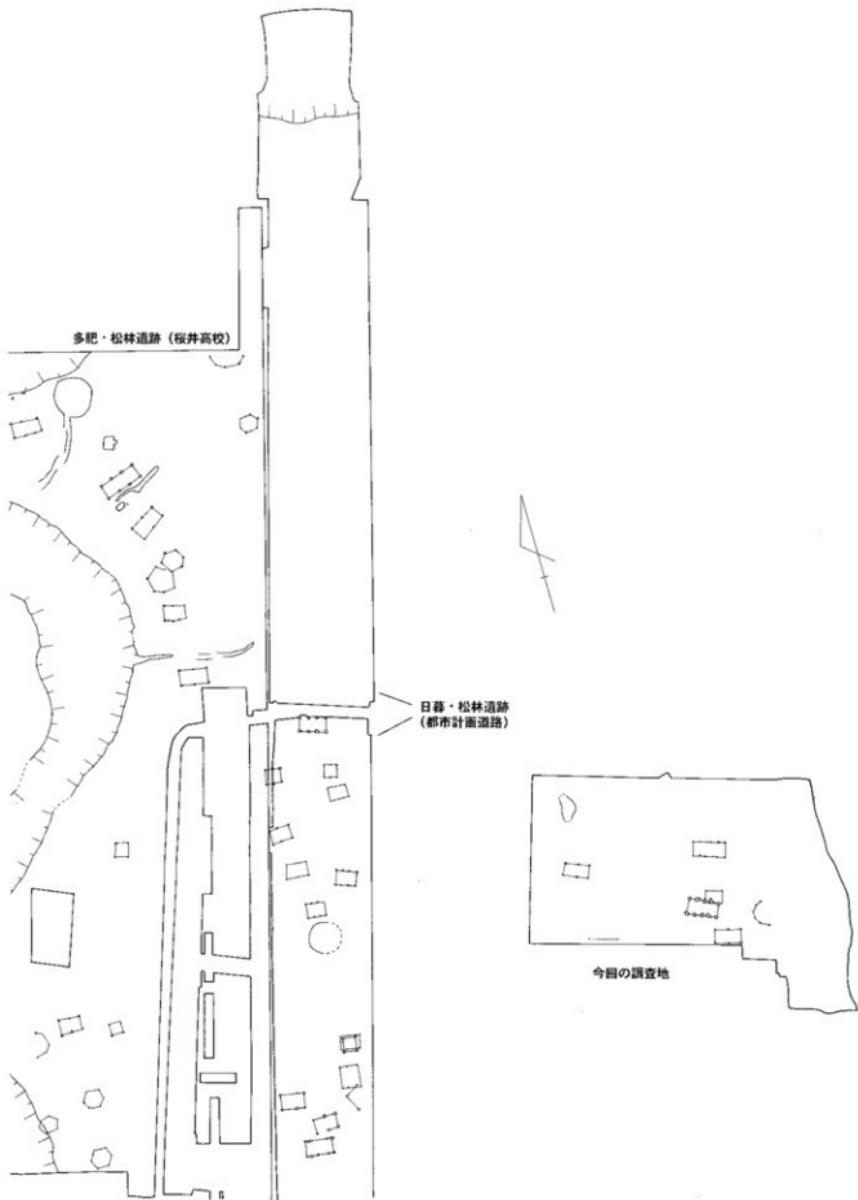
- 『高松市木事務所新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 多肥松林遺跡』香川県教育委員会 1994
- 『香川県立高松桜井高校周辺通学路整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 松林遺跡』高松市教育委員会 1996
- 『都市計画道路福岡多肥上町線建設に伴う埋蔵文化財調査報告書 日暮・松林遺跡』高松市教育委員会 1997
- 『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報 平成9年度』御香川県埋蔵文化財調査センター 1998
- 『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 多肥松林遺跡』御香川県埋蔵文化財調査センター 1999



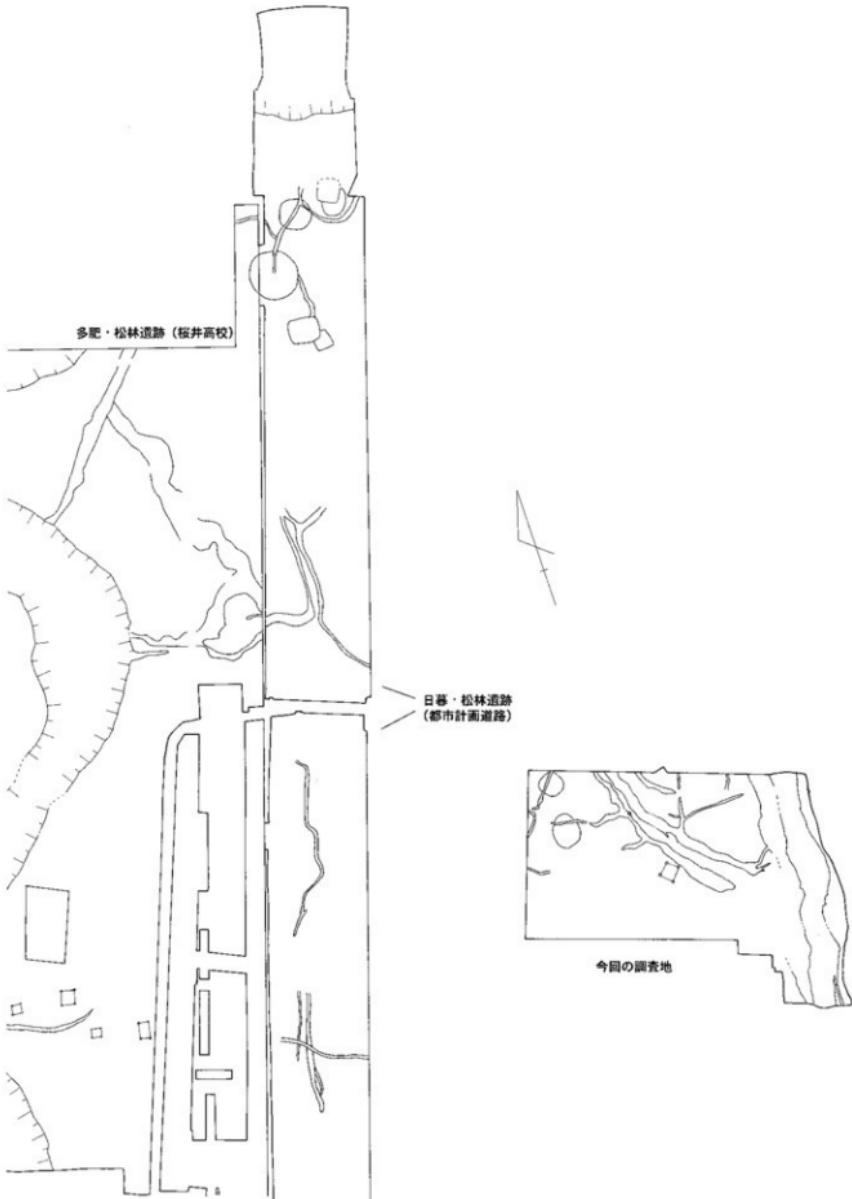
第91図 主要遺構変遷図① (S=1/500)



第92図 主要造構変遷図② (S=1/500)



第93図 周辺部弥生中期主要遺構図 (S=1/1,000)



第94図 周辺部弥生終末期主要遺構図 (S=1/1,000)

土器観察表 (胎土中の石は石英、長は長石、雲は云母、角は角閃石を示す)

器種	法 口径	重 (g)	外 面	内 面	色 調	胎 土	焼 成
広口壺	22.4	9.9	タテハケ 円形浮文、貼付突堤 3条	指頭圧 円形浮文、突堤	10YR4/2 灰褐色	粗 石・長	良
底部	7.4	2.5	マメツ	マメツ	10R4/6 赤	密 石・長・雲	不良
小型丸底土器		2.7	マメツ	指頭圧	5YR4/6 赤褐色	密 石・長・雲	不良
高杯	19.3	3.3	マメツ	マメツ	5YR5/6 明赤褐色	やや密 石・長・雲	不良
高杯	21.0	3.1	マメツ 円孔 2個 1対	ヨコヘラケズリ	7.5YR5/6 明褐色	やや粗 石・長・雲	不良
坏	9.6	1.7	クロロナデ	ロクロナデ	N6/0 灰	密 石	良好
高杯		4.5	マメツ	マメツ	7.5YR6/4 にふい褐色	密 石・長・雲・角	良好
高杯		6.1	マメツ	ヨコヘラミガキ	10YR7/4 にふい黃褐色	密 石・長	良
高杯	12.5	8.7	タテヘラミガキ、指頭圧 円形スカシ 4万	指頭圧	7.5YR5/4 にふい褐色	密 石・長・角	良
鉢	3.8	4.3	指頭圧	マメツ	10YR7/4 にふい黃褐色	密 石・長	良
細頸壺	7.8	4.4	マメツ	マメツ	7.5YR5/6 明褐色	密 石・長	良
細頸壺	9.5	4.0	マメツ	マメツ	5YR5/6 明赤褐色	やや粗 石・長	良
細頸壺	9.6	6.0	マメツ	マメツ	7.5YR5/4 にふい褐色	密 石・長	良
底部		3.2	3.9 マメツ	マメツ	10YR7/6 明黄褐色	密 石・長	良
鉢	30.0	9.2	指頭圧	ナデ	10YR6/3 にふい黃褐色	やや密 石・長	良好
甕	35.1	4.5	ナデ	ナデ	7.5YR5/3 にふい黃褐色	密 石・長	良
甕	26.5	4.9	マメツ	マメツ	2.5YR4/2 暗灰青	粗 石・長	良
甕	38.3	4.8	マメツ	マメツ	2.5Y5/2 暗灰青	密 石・長	良
甕	20.8	3.7	ナデ 凹模 2条	ナデ	10YR6/2 灰黃褐色	密 石・長	良
土器器 甕	28.6	4.0	マメツ	マメツ	7.5YR7/6 橙	密 石・長	良好
甕	16.0	2.2	タテハケ		10YR6/2 灰黃褐色	やや粗 石・長・雲	良好
甕	16.6	4.0	タテハケ	指頭圧	7.5YR5/3 にふい褐色	やや密 石・長・角	良
甕	14.0	2.2			10YR6/2 灰黃褐色	密 石・長・角	良好
甕	12.5	2.9	タテハケ	ヨコヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黃	密 石・長	良
甕	39.0	5.8	タテハケ	指頭圧	10YR6/3 浅黃褐色	密 石・長	良
細頸壺	12.2	3.8	ナデ 刻目突堤 1条	ナデ	7.5YR4/3 褐	やや粗 石・長	不良
細頸壺	11.0	4.2	ナデ 刻目突堤 1条	ナデ	7.5YR5/3 にふい褐色	やや粗 石・長	良
広口壺	19.6	1.8	ナデ 斜格子文、円形浮文	ナデ 突堤 1条、斜格子文、円形浮文、棒状浮文	10YR6/3 にふい褐色	やや粗 石・長・角	良
広口壺	29.2	2.0	マメツ 刻目	マメツ 円形浮文	7.5YR5/4 にふい褐色	粗 石・長	良
広口壺	20.4	5.2	ナデ 押圧突堤 1条	板ナデ	10YR6/2 浅黃褐色	やや粗 石・長	良
直口壺	10.2	5.8	マメツ 押圧突堤 1条	マメツ	5YR5/4 にふい赤褐色	やや粗 石・長	良
直口壺	8.8	7.6	マメツ 押圧突堤 1条	マメツ	5YR6/6 橙	やや粗 石・長	良
広口壺	16.8	5.8	タテハケ 凹模 2条	指頭圧	7.5YR5/2 灰褐色	やや密 石・長	良好
広口壺	23.2	2.6	ナデ 凹模 2条、錐齒文、竹管文	ナデ	10YR7/3 にふい黃褐色	やや密 石・長	良
高杯	28.8	4.8	マメツ 凹模 2条	マメツ 凹模 2条	10R5/6 赤	やや粗 石・長	良
高杯	31.4	3.6	マメツ 凹模 2条	マメツ	10YR8/3 浅黃褐色	密 石・長	良
高杯	22.8	4.2	マメツ	マメツ	10YR7/2 にふい黃褐色	やや密 石・長	良
高杯	24.2	2.1	ナデ	ナデ	10YR6/3 にふい黃褐色	やや粗 石・長	良
高杯	27.6	4.5	ナデ	板ナデ	7.5YR5/3 にふい褐色	やや密 石・長	良好

40	鉢	46.4	7.0	マメツ	マメツ	7.5YR7/6 根	やや粗 石・長	良
41	高杯		5.9	マメツ	指輪ナデ	10YR7/2 反白	密 石・長	良
42	高杯	22.0	3.5	ヨコヘラケズリのちヨコヘラミガキ	タテヘラミガキ	10YR5/2 反黒	密 石・長・雲・角	良
43	高杯	18.0	2.1	マメツ	ヨコヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄褐	やや密 石・長	良
44	底部	6.0	2.9	板ナデ 底面に木葉線刻	マメツ	2.5Y7/1 灰白	やや粗 石・長	良
45	底部	6.0	2.4	板ナデ 底面に木葉線刻	指輪庄	2.5Y7/1 灰白	やや粗 石・長	良
46	底部	9.2	7.4	タテヘラミガキ	指輪ナデ	10YR7/3 にぶい黄褐	やや密 石・長・雲・角	良
47	底部	5.2	5.1	マメツ	指輪ナデ	10YR4/2 灰白	密 石・長	良
48	底部	5.2	2.7	タテハケ	指輪庄	2.5Y7/1 灰白	やや密 石・長	良
49	底部		4.1	マメツ	ナデ	10YR4/2 反黒	やや密 石・長	良
50	底部	8.0	3.0	マメツ	マメツ	2.5YR4/6 赤褐	粗 石・長	良
51	底部	9.8	3.3	マメツ	板ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	やや粗 石・長	良
52	底部	7.8	3.8	ナデ、指輪庄	ナデ	2.5Y7/3 浅黄	やや粗 石・長・雲	良
53	底部	11.8	4.0	マメツ	マメツ	10YR7/2 にぶい黄褐	やや粗 石・長	良
54	底部	5.2	2.6	マメツ	指輪庄	5B4/1 暗青灰	密 石・長	良好
55	底部	7.2	4.4	マメツ	指輪庄	10YR7/2 にぶい黄褐	やや密 石・長	良
56	底部	6.2	5.1	タテハケのちナデ	タテハケ	10YR9/3 浅黄褐	やや密 石・長	良
57	底部	7.2	3.0	ナデ	指輪庄	2.5YR4/4 にぶい赤褐	やや粗 石・長	良
58	底部	5.8	1.9	ナデ	板ナデ	2.5Y7/1 灰白	やや粗 石・長	良
59	底脚	3.9	1.9	指輪庄	ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐	密 石・長	良
60	底部	5.4	3.4	指輪庄	ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐	やや粗 石・長	良
61	底部	6.4	3.0	指輪庄	指輪庄	5YR6/4 にぶい橙	やや密 石・長	良好
62	底脚	4.4	2.5	指輪庄	ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐	やや粗 石・長	良
63	底部	5.2	2.3	タテヘラミガキ	ヨコヘラケズリ	10YR7/2 にぶい黄褐	やや粗 石・長	良
64	底部	7.8	2.9	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	7.5YR4/4 根	やや密 石・長・雲・角	良
65	底部	5.2	1.7	マメツ	ヨコヘラケズリ	10YR5/3 にぶい黄褐	やや粗 石・長	良
66	底部	5.8	5.0	タテハケ	タテヘラケズリ	10YR7/3 にぶい黄褐	やや粗 石・長	良
67	紡錘草		4.0	マメツ	ヨコヘラケズリのち指輪庄 未熟通内孔	7.5YR5/3 にぶい褐	やや密 石・長・角	良
68	茎	8.8	6.1	回転ヘラケズリ	ロクロナデ	N5/0 根	密 石・長	良好
69	茎	12.7	2.8	刺目		10YR7/1 灰白	やや粗 石・長	良
70	茎	16.8	6.5	タテハケ	ヨコハケ	10YR8/2 灰白	密 石・長	良
71	茎	15.3	4.2	マメツ 回転2条、押圧突起1条	マメツ	2.5YR4/4 褐	やや粗 石・長・雲	良
72	茎	18.2	3.3	マメツ 回転2条、刺目、円形浮文6個1条、押圧突起1条	マメツ	2.5YR5/4 にぶい赤褐	密 石・長・雲・角	良
73	茎	18.2	4.5	マメツ 回転4条、棒状浮文2箇1対、押圧突起1条	マメツ	10YR7/2 にぶい黄褐	やや密 石・長・角	良
74	茎	23.2	7.5	ナデ 回転2条、棒状浮文3箇1対6方、押圧突起1条	板ナデ	10YR5/2 反黄褐	やや粗 石・長	良好
75	茎	23.8	9.6	タテハケ 凹凸2条、棒状浮文3箇1対1方、押圧突起1条	ヨコヘラミガキ	10YR5/3 にぶい黄褐	密 石・長	良好
76	茎	32.2	11.9	タテハケ 凹凸3条	粗いヨコハケ	7.5YR7/6 根	やや密 石・長・雲・角	良好
77	茎	37.0	4.6	板ナデ	タテハケ	2.5Y7/2 灰黄	やや粗 石・長	良
78	茎	36.2	8.2	マメツ	マメツ	7.5YR6/3 にぶい褐	やや密 石・長・雲	良
79	茎	28.4	8.0	マメツ	板ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐	やや粗 石・長	良
80	茎	26.2	6.8	マメツ	マメツ	2.5Y5/2 暗灰黃	粗 石・長	良

81.	斐	22.8	6.5	マメツ	マメツ	10YR4/2 灰黄褐色	やや密 石・長	良
82.	斐	23.0	5.1	ナデ	板ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐色	粗 石・長	良好
83.	斐	23.8	1.5	凹穀3条		10YR5/2 にぶい黄褐色	密 石・長	良
84.	斐	16.2	27.0	タテハケのちタテヘラミガキ 苔跡1条	ヘラケズリ	10R4/4 赤褐色	やや粗 石・長	良
85.	斐	11.8	2.9	粗いタテハケ	指頭圧	2.5Y6/2 暗灰黃	密 石・長・角	良
86.	斐	14.8	2.4	粗いタテハケ	指頭圧	2.5Y6/2 灰黃	やや粗 石・長・角	良
87.	斐	16.0	3.1	粗いタテハケ	指頭圧	10YR5/2 灰黄褐色	やや粗 石・長	良好
88.	斐	12.8	3.0	粗いタテハケ		10YR5/2 灰黄褐色	やや粗 石・長	良
89.	斐	12.6	2.7	タテハケのち指頭圧		2.5Y6/2 灰黃	やや粗 石・長	良
90.	斐	12.6	4.1	タテハケ	指頭ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	密 石・長・角	良
91.	斐	14.2	3.6	タテハケ		10YR6/2 灰黃褐色	やや粗 石・長	良好
92.	斐	14.2	2.9	タテハケ	マメツ	10YR5/2 灰黃褐色	密 石・長	良
93.	斐	14.0	1.4			7.5YR6/3 にぶい褐	密 石・長・角	良
94.	斐	14.4	1.6			10YR6/1 褐色	やや粗 石・長	良
95.	斐	12.6	2.2			7.5YR8/4 にぶい褐	密 石・長・雲・角	良好
96.	斐	17.6	2.8	マメツ	マメツ	10YR4/4 褐色	やや密 石・長・角	良
97.	斐	13.4	2.9	マメツ	指頭圧	2.5Y6/2 灰黃	やや粗 石・長	良好
98.	斐	16.4	3.8	マメツ	指頭圧	7.5YR5/4 にぶい褐	やや密 石・長・角	良
99.	斐	17.8	4.9	マメツ	指頭圧	10YR4/2 灰黃褐色	やや密 石・長・角	良
100.	斐	15.2	4.5	タテハケ	指頭圧	10YR5/3 にぶい褐	密 石・長・角	良好
101.	斐	14.0	7.5	タテハケ	指頭圧	10YR5/3 にぶい褐	やや密 石・長・角	良好
102.	斐	19.8	8.5	タテハケ	タテヘラケズリのち指頭圧、ヨコ ハケ	7.5YR5/4 にぶい褐	密 石・長・角	良
103.	斐	13.8	17.4	タテハケ	タテヘラケズリのち指頭圧	10YR5/2 灰黃褐色	密 石・長・角	良好
104.	斐	12.4	5.5	25.7	タテハケのちタテヘラミガキ	10YR5/2 黒褐色	やや粗 石・長・角	良
105.	斐	14.0	4.6	24.9	タテハケのちタテヘラミガキ	10YR6/3 にぶい黄褐色	密 石・長・雲・角	良好
106.	斐		12.2	タテヘラミガキ	ヨコヘラケズリのち指頭圧	7.5YR5/3 にぶい褐	密 石・長・角	良
107.	斐	17.0	2.9	タテハケ		2.5Y5/3 黄褐色	密 石・長・角	良
108.	斐	18.8	2.0	マメツ	マメツ	5YR5/6 明赤褐色	粗 石・長	良
109.	斐	16.6	4.7	ナデ	ナデ	7.5YR4/3 褐	密 石・長・角	良好
110.	斐	16.0	4.8	マメツ	ナデ	7.5YR4/2 灰褐色	粗 石・長・角	良
111.	斐	17.0	3.8	タテハケ	指頭ナデ	2.5Y8/2 灰白	密 石・長	良好
112.	斐	15.8	3.5	マメツ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄褐色	やや密 石・長	良
113.	斐	10.6	3.3	マメツ	マメツ	10YR7/3 にぶい黄褐色	密 石・長	良
114.	斐	17.5	5.0	マメツ	ヨコヘラケズリ	10YR8/2 灰白	密 石・長	良
115.	斐	20.6	6.9	ナデ	板ナデ	10YR8/2 灰白	密 石・長	良
116.	斐	16.6	4.5	マメツ	ヨコヘラケズリ	2.5Y7/3 浅黃	やや密 石・長	良
117.	斐	14.4	10.4	マメツ	マメツ	10R6/4 にぶい赤褐色	やや密 石・長・雲	良
118.	斐	14.2	7.3	タテハケ	ヨコヘラケズリ	5Y3/1 オリーブ黒	密 石・長	良
119.	斐		6.6	タテハケ	ヨコヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黃	やや密 石・長	良好
120.	斐	19.4	7.0	タテハケ	指頭圧	2.5Y7/1 灰白	やや粗 石・長	良好
121.	斐	19.8	6.5	マメツ	指頭圧	10YR4/3 にぶい黄褐色	やや密 石・長・角	良

122	渠	19.2	12.5	タテハケ	指頭圧	10YR7/2 にびい黄橙	やや粗 石・長	良	
123	渠	17.4	9.7	マメツ	マメツ	10YR8/3 浅黄褐	やや粗 石・長	良	
124	渠	15.6	7.3	マメツ	ヨコヘラケズリ	2.5YR5/6 明赤褐色	密石・長・雲	不良	
125	渠	14.4	13.3	タテハケ	ヨコヘラケズリ	10YR7/2 にびい黄橙	密石・長	良好	
126	渠	13.6	20.7	タテハケのちタテヘラミガキ 線刻	指頭圧のちナデ	2.5Y7/1 灰白	密石・長	良好	
127	広口壺	16.0	2.4	板ナデ	ナデ	10YR6/2 灰黃褐	密石・長	良	
128	広口壺	22.6	2.6	ナデ 斜格子文、円形浮文 6個 1対	ナデ 斜格子文、円形浮文、小円孔3個1対	10YR5/2 灰黃褐	やや密 石・長・角	良	
129	広口壺	20.0	1.4	ナデ 凹線 3条	ナデ 斜格子文	10YR6/2 灰黃褐	やや密 石・長・角	良	
130	広口壺	23.6	1.6	マメツ 斜格子文	マメツ	10YR6/2 灰黃褐	やや密 石・長・雲・角	良好	
131	広口壺	22.2	1.6	ナデ 斜格子文	ナデ	10YR6/4 にびい黄橙	やや密 石・長	良好	
132	広口壺	21.8	5.1	ナデ 凹線 3条、刻目	ナデ	7.5YR7/4 にひい雲	やや粗 石・長	良好	
133	広口壺	14.4	8.1	タテハケ 貼付突帯1条	ナデ 斜格子文、小円孔2個1対	10YR5/4 にびい黄褐	やや密 石・長・雲	良	
134	広口壺		7.4	粗いタテハケ 貼付突帯2条	指頭圧	10YR6/2 灰黃褐	やや粗 石・長	良	
135	広口壺		10.2	粗いタテハケ 貼付突帯3条	ナデ	2.5Y6/3 にひい雲	密石・長・雲	良好	
136	粗頭巣	10.8	6.0	タテハケ 貼付突帯1条	指頭ナデ	7.5YR4/2 灰褐	やや粗 石・長・角	良	
137	粗頭巣	12.2	3.5	マメツ 貼付突帯1条	マメツ	7.5YR7/3 にひい雲	やや密 石・長	不良	
138	粗頭巣	13.2	2.2	マメツ 貼付突帯1条	マメツ	10YR8/4 浅黄褐	やや粗 石・長	良	
139	粗頭巣	14.4	4.8	マメツ 刻目突帯2条	マメツ	10YR5/3 にひい黄褐	粗 石・長	良	
140	直口壺	10.8	4.0	マメツ	マメツ	2.5YR5/4 にひい赤褐	やや粗 石・長・雲	良	
141	直口壺	9.4	4.3	タテハケ	マメツ	10YR6/2 にひい黄褐	密石・長・雲	良	
142	直口壺	11.4	4.5	マメツ	マメツ	10YR6/4 にひい黄褐	粗 石・長・雲	良	
143	直口壺	10.8	8.9	マメツ 押圧突帯1条	マメツ	7.5YR6/4 にひい赤褐	やや粗 石・長・雲	良	
144	直口壺	15.8	5.5	マメツ 押圧突帯1条	マメツ	10YR8/3 浅黄褐	やや密 石・長	良	
145	直口壺	10.0	3.8	ナデ 押圧突帯1条	ナデ	10YR7/2 にひい黄褐	やや密 石・長	良	
146	直口壺	21.4	7.4	マメツ 押圧突帯1条	ヨコハケ	10YR4/2 灰黃褐	やや粗 石・長・角	良好	
147	直口壺	18.0	6.6	タテハケ 押圧突帯1条	ナデ	10YR8/4 浅黄褐	やや粗 石・長	良	
148	直口壺	12.2	7.4	ナデ 押圧突帯1条	指頭ナデ	7.5YR4/2 灰褐	やや粗 石・長	良	
149	直口壺	7.0	14.5	マメツ 列点文	タテハケのち指頭圧	7.5R4/4 にひい赤	やや密 石・長・角	不良	
150	直口壺		7.8	20.2	タテヘラミガキ 押圧突帯1条	ハケ	10R5/4 赤褐	やや粗 石・長・雲・角	良
151	蓋	14.2	3.3	ナデ 円孔	ナデ	10YR5/2 灰黃褐	やや粗 石・長	良	
152	広口壺	15.2	5.2	ナデ	板ナデ	10YR6/2 灰黃褐	やや密 石・長	良好	
153	広口壺	14.0	3.4	マメツ	マメツ	10YR6/3 にびい黄褐	やや密 石・長	良	
154	広口壺	15.6	6.2	タテハケ	ナデ	7.5YR7/2 明褐灰	やや粗 石・長	良	
155	広口壺	15.8	1.1		ヨコハケ	10YR3/4 にびい黄褐	密石・長・角	良好	
156	広口壺	18.0	5.6		指頭圧のち板ナデ	10YR5/2 灰黃褐	やや粗 石・長	良	
157	広口壺		6.3	タテハケ	マメツ	10YR6/2 灰黃褐	粗 石・長	良	
158	広口壺	19.4	2.7	マメツ	マメツ	10YR7/3 にびい黄褐	やや密 石・長	良	
159	粗頭巣		12.1	タテヘラミガキのちヨコヘラミガキ	タテヘラケズリのち指頭圧	10YR5/2 灰黃褐	密石・長・角	良好	
160	高杯	38.6	4.5	ナデ 凹線 3条、刻目	ナデ 斜格子文	2.5Y4/1 黄灰	粗 石・長	良	
161	高杯	36.6	3.3	ナデ 凹線 3条	ナデ 斜格子文	10YR7/2 にびい黄褐	粗 石・長	良	
162	高杯	29.4	4.8	ナデ 凹線 3条	ナデ 斜格子文	2.5Y6/2 灰白	粗 石・長	良	

163	高杯	31.2	4.2	マメツ	マメツ 鉢形子文	5YR7/6 緑	やや密 石・長	良好	
164	高杯	25.6	7.0	ナデ	ナデ 円形浮文	10YR7/2 にぶい黄楓	やや密 石・長・角	良	
165	高杯	36.8	4.3	マメツ 刻目	マメツ	7.5YR5/3 にぶい楓	密 石・長・角	良	
166	高杯	24.0	4.9	マメツ 凹縁2条	マメツ	7.5YR7/4 にぶい楓	稍 石・長	良	
167	高杯	24.4	3.2	マメツ	マメツ	10YR6/4 にぶい黄楓	密 石・長	良好	
168	高杯	11.0	10.6	タテヘラミガキ	ヨコヘラミガキ	2.5YR8/4 にぶい楓	やや密 石・長	良	
169	高杯	12.2	12.2	タテヘラミガキ 円形スカシ4万	指顔圧のち分割ヘラミガキ	7.5YR8/4 にぶい楓	密 石・長・角	良	
170	高杯	7.8	9.9	タテヘラミガキ	ナデ	2.5YR8/6 碧	密 石・長	良	
171	高杯		8.5	タテヘラミガキ	ナデ	10YR5/2 灰黄楓	稍 石・長	良	
172	台付鉢	9.4	3.4	指顔压	ナデ	10YR8/2 灰白	やや粗 石・長	良	
173	台付鉢		5.8	タテヘラミガキ	ナデ	2.5Y7/2 灰黄	やや密 石・長	良	
174	台付鉢	14.6	15.2	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	10YR5/2 灰黄楓	密 石・長・露・角	良好	
175	鉢		6.2	ナデ		10YR8/2 灰白	やや密 石・長	良	
176	鉢	13.4	16.5	9.8	マメツ	マメツ	2.5YR8/4 にぶい赤巻	やや粗 石・長・露	良
177	鉢	30.0	5.6	指顔压	タテハケ	2.5Y8/2 灰黄	やや粗 石・長	良	
178	鉢	28.4	5.7	マメツ	板ナデ	10YR7/3 にぶい黄楓	密 石・長	良	
179	鉢	9.3	5.1	板ナデ	ナデ	2.5Y8/1 灰白	やや粗 石・長	良	
180	鉢	15.0	5.4	タテハケ	タテヘラミガキ	2.5Y8/1 灰白	やや粗 石・長	良	
181	鉢	18.1	6.5	タテハケ	マメツ	10YR7/3 にぶい黄楓	密 石・長	良	
182	鉢	17.0	5.2	マメツ	マメツ	2.5Y5/1 黄灰	やや密 石・長	良好	
183	鉢	46.6	3.4	マメツ	マメツ	10YR4/3 にぶい黄楓	やや密 石・長・角	良	
184	鉢	37.8	8.6	マメツ	マメツ	10YR7/2 灰楓	密 石・長・角	良	
185	高杯	6.0	板ナデ 接合時の剥突		板ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	密 石・長	良	
186	高杯		6.8	板状工具の妊娠		10YR6/3 にぶい黄楓	やや密 石・長	良	
187	高杯		6.7	タテハケ	指顔圧 接合時の剥突	10YR6/2 灰黄楓	やや密 石・長	良	
188	高杯		8.8	タテヘラミガキ 円形スカシ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄楓	密 石・長	良好	
189	高杯		7.6	タテハケ 円形スカシ	ヨコハケ	10YR8/1 灰白	密 石・長	良	
190	高杯		6.1	マメツ 円形スカシ	マメツ	7.5YR5/2 浅黄楓	密 石・長	良	
191	高杯	14.6	9.7	タテヘラミガキ 汎模3条、円形スカシ4万	タテヘラミガキ	10YR5/2 灰黄楓	密 石・長	良	
192	高杯	19.4	2.3	マメツ	ヨコヘラケズリ	10YR5/3 にぶい楓	密 石・長・角	良	
193	高杯	20.9	2.8	マメツ	ヨコヘラケズリ	7.5YR5/3 にぶい楓	やや密 石・長・角	良	
194	高杯	20.2	3.3	マメツ	ヨコヘラケズリ	10YR5/2 灰黄楓	密 石・長・露・角	良好	
195	高杯	22.4	3.3	マメツ 円孔2個1対	ヨコヘラケズリ	10YR5/2 灰黄楓	やや粗 石・長	良	
196	高杯	17.8	5.6	タテヘラミガキ 円孔	ヨコヘラケズリ	10YR4/2 灰黄楓	やや密 石・長・角	良	
197	高杯	17.2	6.7	ナデ 円形スカシ3個1対3方	ヨコヘラケズリ	10YR5/2 灰黄楓	密 石・長・露・角	良好	
198	高杯	27.6	3.6	マメツ	マメツ	10YR4/3 にぶい黄楓	密 石・長・角	良	
199	高杯	27.6	3.8	マメツ	マメツ	10YR5/2 灰黄楓	密 石・長・角	良	
200	高杯	23.0	5.1	マメツ	マメツ	2.5Y7/1 灰白	やや粗 石・長	良	
201	高杯	24.0	4.8	ヨコヘラケズリ	ナデ	7.5YR5/3 にぶい楓	密 石・長・角	良好	
202	高杯	23.0	4.9	ヨコヘラケズリ	分割ヘラミガキ	10YR5/2 灰黄楓	やや密 石・長・露・角	良	
203	高杯	21.3	7.2	ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ	分割ヘラミガキ、ヨコヘラケズリ	7.5YR4/2 灰楓	密 石・長・角	良好	

204	高杯	14.0	17.4	12.5	ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ、タテヘラミガキ 円形スカシ3箇1対3方	分割ヘラミガキ、ヨコヘラケズリ マメツ	7.5Y5/2 灰褐色 密石・長 良好	良好
205	高杯		16.0	3.1	タテヘラミガキ 円形スカシ	タテヘラミガキ ヨコヘラミガキ、指頭圧	2.5Y7/2 灰青 密石・長 良好	良好
206	高杯		14.8	3.7	タテヘラミガキ 内割スカシ4方	タテヘラミガキ ヨコハケ	10YH5/3 にぶい黄褐色 10YH8/3 浅黄褐色 2.5Y5/1 黄灰	やや粗 石・長・角 良好
207	器台		13.4	7.5	タテハケ 凹線6条、方形スカシ4方	指頭圧	10YH8/1 灰白	良好
208	底部		6.2	3.3	指頭圧 底面に木本業線剥	マメツ	7.5YR7/3 にぶい橙 10YR8/1 灰白	やや粗 石・長 良好
209	底部		5.8	2.5	マメツ 底面に木本業線剥	マメツ	10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR4/1 褐色	やや粗 石・長 良好
210	底部		5.0	2.9	マメツ 焼成前円孔	指頭圧	10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR7/3 にぶい橙 10YR4/1 褐色	やや粗 石・長 良好
211	底部			2.5	マメツ 焼成前円孔	マメツ	2.5Y5/8 明赤褐色 10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR4/1 褐色	やや粗 石・長・角 良好
212	底部		5.2	3.2	タテヘラミガキ	タテハケ	10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR4/1 褐色	やや粗 石・長・角 良好
213	底部		7.6	2.7	タテヘラミガキ	タテハケ	10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR4/1 褐色	やや粗 石・長・角 良好
214	底部		6.8	6.1	タテヘラミガキ	ナデ	10YR4/1 褐色	粗石・長 良好
215	底部		5.2	5.8	タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR6/3 にぶい黄褐色 7.5YR4/3 褐	粗石・長・角 良好
216	底部		6.2	5.9	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR6/3 にぶい黄褐色 7.5YR4/3 褐	粗石・長・角 良好
217	底部		5.8	5.0	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR7/1 にぶい赤褐色 10YR8/4 浅黄褐色 7.5YR6/3 にぶい褐	粗石・長・角 良好
218	底部		6.6	4.3	タテヘラミガキ	ナデ	10R6/4 にぶい赤褐色 10YR8/4 浅黄褐色 7.5YR6/3 にぶい褐	粗石・長・角 良好
219	底部			3.5	タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR7/1 にぶい赤褐色 10YR8/4 浅黄褐色 7.5YR6/3 にぶい褐	粗石・長・角 良好
220	底部			5.8	タテヘラミガキ	板ナデ	10YR7/1 にぶい赤褐色 10YR8/4 浅黄褐色 7.5YR6/3 にぶい褐	粗石・長・角 良好
221	底部		11.2	4.5	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR7/1 にぶい赤褐色 10YR8/2 灰褐色 10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR7/1 褐色	粗石・長・角 良好
222	底部		10.4	7.5	タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色 10YR6/2 灰褐色 10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR7/1 褐色	粗石・長・角 良好
223	底部		7.2	5.7	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR8/2 灰褐色 10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR7/1 褐色	粗石・長・角 良好
224	底部		4.6	4.4	タテハケのちタテヘラミガキ	ナデ	10YR7/2 灰褐色 10YR7/2 灰褐色 5YR7/6 褐	粗石・長・角 良好
225	底部		4.6	6.6	タテヘラミガキ	タテハケ	10YR7/2 灰褐色 10YR7/2 灰褐色 7.5YH4/1 褐色	粗石・長・角 良好
226	底部		9.7	4.8	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR7/4 にぶい黄褐色 10YR6/2 灰褐色 10YR7/1 褐色	粗石・長・角 良好
227	底部		8.6	4.5	タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR6/2 灰褐色 10YR7/2 灰褐色 7.5YH4/2 褐色	粗石・長・角 良好
228	底部		8.6	5.7	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR7/2 灰褐色 10YR6/2 灰褐色 7.5YH4/2 褐色	粗石・長・角 良好
229	底部		11.8	3.9	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR7/4 にぶい黄褐色 10YR6/2 灰褐色 7.5YH4/1 褐色	粗石・長・角 良好
230	底部		9.2	4.0	マメツ	指頭圧	10YR7/4 にぶい黄褐色 10YR6/2 灰褐色 10YR7/1 褐色	粗石・長・角 良好
231	底部		10.2	4.2	マメツ	指頭圧	10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR7/2 灰褐色 10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR6/2 灰褐色 10YR6/6 赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 2.5Y5/6 暗赤褐色 2.5Y7/1 灰白色 2.5Y5/2 暗反黄 10YR5/2 灰褐色 2.5Y5/3 黄褐色 10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR7/1 褐色	粗石・長・角 良好
232	底部		8.3	8.8	マメツ	指頭圧	10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR7/2 灰褐色 10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR6/2 灰褐色 10YR6/6 赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 2.5Y5/6 暗赤褐色 2.5Y7/1 灰白色 2.5Y5/2 暗反黄 10YR5/2 灰褐色 2.5Y5/3 黄褐色 10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR7/1 褐色	粗石・長・角 良好
233	底部		7.8	7.1	マメツ	指頭圧	10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR7/2 灰褐色 10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR6/2 灰褐色 10YR6/6 赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 2.5Y5/6 暗赤褐色 2.5Y7/1 灰白色 2.5Y5/2 暗反黄 10YR5/2 灰褐色 2.5Y5/3 黄褐色 10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR7/1 褐色	粗石・長・角 良好
234	底部		10.8	5.6	マメツ	指頭圧	10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR7/2 灰褐色 10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR6/2 灰褐色 10YR6/6 赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 2.5Y5/6 暗赤褐色 2.5Y7/1 灰白色 2.5Y5/2 暗反黄 10YR5/2 灰褐色 2.5Y5/3 黄褐色 10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR7/1 褐色	粗石・長・角 良好
235	底部		9.2	5.8	ナデ	指頭圧	10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR7/2 灰褐色 10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR6/2 灰褐色 10YR6/6 赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 2.5Y5/6 暗赤褐色 2.5Y7/1 灰白色 2.5Y5/2 暗反黄 10YR5/2 灰褐色 2.5Y5/3 黄褐色 10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR7/1 褐色	粗石・長・角 良好
236	底部		7.7	6.7	マメツ	指頭圧	10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR7/2 灰褐色 10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR6/2 灰褐色 10YR6/6 赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 2.5Y5/6 暗赤褐色 2.5Y7/1 灰白色 2.5Y5/2 暗反黄 10YR5/2 灰褐色 2.5Y5/3 黄褐色 10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR7/1 褐色	粗石・長・角 良好
237	底部		5.5	2.7	マメツ	指頭圧	10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR7/2 灰褐色 10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR6/2 灰褐色 10YR6/6 赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 2.5Y5/6 暗赤褐色 2.5Y7/1 灰白色 2.5Y5/2 暗反黄 10YR5/2 灰褐色 2.5Y5/3 黄褐色 10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR7/1 褐色	粗石・長・角 良好
238	底部		10.5	10.2	マメツ	指頭圧	10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR7/2 灰褐色 10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR6/2 灰褐色 10YR6/6 赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 2.5Y5/6 暗赤褐色 2.5Y7/1 灰白色 2.5Y5/2 暗反黄 10YR5/2 灰褐色 2.5Y5/3 黄褐色 10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR7/1 褐色	粗石・長・角 良好
239	底部		9.2	2.3	マメツ	指頭圧	10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR7/2 灰褐色 10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR6/2 灰褐色 10YR6/6 赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 2.5Y5/6 暗赤褐色 2.5Y7/1 灰白色 2.5Y5/2 暗反黄 10YR5/2 灰褐色 2.5Y5/3 黄褐色 10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR7/1 褐色	粗石・長・角 良好
240	底部		11.2	3.4	マメツ	指頭圧	10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR7/2 灰褐色 10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR6/2 灰褐色 10YR6/6 赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 2.5Y5/6 暗赤褐色 2.5Y7/1 灰白色 2.5Y5/2 暗反黄 10YR5/2 灰褐色 2.5Y5/3 黄褐色 10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR7/1 褐色	粗石・長・角 良好
241	底部		6.8	6.2	マメツ	指頭圧	10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR7/2 灰褐色 10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR6/2 灰褐色 10YR6/6 赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 2.5Y5/6 暗赤褐色 2.5Y7/1 灰白色 2.5Y5/2 暗反黄 10YR5/2 灰褐色 2.5Y5/3 黄褐色 10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR7/1 褐色	粗石・長・角 良好
242	底部		5.4	4.5	マメツ	指頭圧	10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR7/2 灰褐色 10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR6/2 灰褐色 10YR6/6 赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 2.5Y5/6 暗赤褐色 2.5Y7/1 灰白色 2.5Y5/2 暗反黄 10YR5/2 灰褐色 2.5Y5/3 黄褐色 10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR7/1 褐色	粗石・長・角 良好
243	底部		9.0	7.3	マメツ	指頭圧のち板ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR7/2 灰褐色 10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR6/2 灰褐色 10YR6/6 赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 2.5Y5/6 暗赤褐色 2.5Y7/1 灰白色 2.5Y5/2 暗反黄 10YR5/2 灰褐色 2.5Y5/3 黄褐色 10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR7/1 褐色	粗石・長・角 良好
244	底部		6.0	9.1	ナデ	指頭圧のち板ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR7/2 灰褐色 10YR6/3 にぶい黄褐色 10YR6/2 灰褐色 10YR6/6 赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 5YR4/4 にぶい赤褐色 10YR4/3 にぶい黄褐色 2.5Y5/6 暗赤褐色 2.5Y7/1 灰白色 2.5Y5/2 暗反黄 10YR5/2 灰褐色 2.5Y5/3 黄褐色 10YR7/2 にぶい黄褐色 10YR7/1 褐色	粗石・長・角 良好

245	底部	7.3	3.4	マメツ	板ナデ	10YR4/3 にぶい黄褐色	粗石・長・角	良
246	底部	5.4	4.8	ナデ	板ナデ	10YR5/2 灰白	密石・長	良
247	底部	9.6	6.4	板ナデ	板ナデ	10YR5/2 灰黃褐色	密石・長・雲	良
248	底部	6.6	4.3	板ナデ	板ナデ	10YR6/1 灰灰褐色	やや密 石・長・雲	良
249	底部	7.2	9.9	ヨコヘラミガキ	タテハケ。指頭圧	5YR4/2 灰褐色	やや密 石・長・雲	良
250	底部	8.8	4.6	マメツ	指頭圧のちタテヘラミガキ	10YR4/3 にぶい黄褐色	やや密 石・長・雲	良
251	底部	5.4	3.1	マメツ	タテハケのち指頭圧	2.5Y8/2 灰白	密石・雲	良
252	底部	5.4	2.1	タテハケ	マメツ	5Y5/1 灰	密石・長	良
253	底部	4.4	3.1	指頭圧	指頭圧	10YR8/2 灰白	密石・長	良
254	底部	5.0	1.6	指頭圧	指頭圧	2.5Y5/1 灰灰褐色	やや密 石・長	良
255	底部	6.2	2.8	マメツ	マメツ	10YR7/4 にぶい黄褐色	やや密 石・長	良好
256	底部	6.0	3.7	マメツ	マメツ	2.5Y5/4 にぶい赤褐色	粗石・長	良
257	底部	6.2	5.7	マメツ	マメツ	10YR7/4 にぶい黄褐色	やや密 石・長	良
258	底部	4.8	5.0	マメツ	マメツ	2.5YR5/6 明赤褐色	密石・長・雲	良
259	底盤	4.8	3.0	マメツ	マメツ	2.5Y8/1 灰白	密石・長	良
260	底部	9.0	2.8	マメツ	マメツ	10YR5/3 にぶい黄褐色	やや粗 石・長・雲	良
261	底盤	4.6	7.6	マメツ	マメツ	7.5YR8/4 浅黄褐色	粗石・長	良
262	底盤	10.0	6.0	マメツ	マメツ	2.5Y5/2 暗灰褐色	やや粗 石・長・角	良
263	底盤	17.0	9.5	マメツ	マメツ	2.5Y5/1 黄灰	やや粗 石・長	良
264	底盤	16.8	12.3	マメツ	マメツ	10YR8/3 浅黄褐色	粗石・長	良
265	底部	5.0	4.0	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	7.5YR4/2 灰褐色	密石・長・雲	良好
266	底部	6.8	2.6	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR5/2 灰黃褐色	やや密 石・長	良好
267	底盤	5.8	4.1	マメツ	タテヘラケズリ	7.5YR5/3 にぶい褐色	やや密 石・長	良
268	底部	7.4	6.2	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ。指頭圧	7.5YR5/3 にぶい褐色	やや粗 石・長	良
269	底部	5.2	7.5	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	2.5Y4/1 黄灰	やや粗 石・長	良好
270	底盤	5.3	3.2	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	10YR5/3 にぶい黄褐色	密石・長	良
271	底部	4.9	1.7	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	10YR4/3 にぶい黄褐色	密石・長・雲	良
272	底盤	8.0	2.5	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	5Y3/1 オーリーパ黒	やや粗 石・長	良好
273	底盤	3.8	3.8	タテハケのちタテヘラミガキ	タテヘラケズリ	2.5Y4/1 黄灰	密石・長	良好
274	底部	5.4	5.9	タテハケ。指頭圧	タテヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黃	やや密 石・長・雲	良
275	底部	6.0	10.3	タテハケのちタテヘラミガキ	タテヘラケズリ	2.5Y8/1 灰白	密石・長	良
276	底部	4.8	5.1	タテハケ	タテヘラケズリ	7.5YR5/3 にぶい褐色	密石・長・雲	良好
277	底部	5.2	6.1	タテハケ	タテヘラケズリ	10YR4/2 灰黃褐色	やや粗 石・長	良
278	底盤	6.6	7.9	タテハケ。指頭圧	タテヘラケズリ	2.5Y5/1 黄褐色	やや粗 石・長	良好
279	底部	5.8	4.4	タテハケ	タテヘラケズリ	2.5Y7/1 灰白	やや粗 石・長	良好
280	底盤	4.0	2.1	タテハケ	タテヘラケズリ	10YR4/1 褐灰	粗石・長	良好
281	底盤	4.0	4.9	板ナデ	タテヘラケズリ	10YR2/1 黑	やや密 石・長・雲	良
282	底盤	4.0	3.1	板ナデ	タテヘラケズリ	10YR6/2 灰黃褐色	密石・長	良
283	底盤	3.6	2.4	マメツ	タテヘラケズリ	2.5Y6/2 灰黃	密石・長	良
284	底盤	3.6	1.8	タタキ	マメツ	10YR6/4 にぶい黄褐色	密石・長・雲	良好
285	須恵器 蓋坏		1.6	四転ヘラケズリ	ナデ	N6/0 灰	密石・長	良好

286	須磨器 器	9.6	12.7	圓軸ヘラケズリ	ナデ	N4/0 灰	密 石・長	良
287	須磨器 器	9.8	16.6	ハケ 突文、列点文	ナデ	10YR4/1 褐灰	粗 石・長	良
288	漆	31.0	2.5	マメツ 押江突毫1条	マメツ	7.5YR6/4 にぶい檍	やや粗 石・長・角	良好
289	漆	27.4	5.4	マメツ 押江突毫1条	マメツ	10YR4/2 灰黄褐	やや粗 石・長	良
290	漆	33.0	4.1	ナデ 押江突毫1条	ナデ	10YR6/3 にぶい黃檀	やや密 石・長・雲・角	良
291	漆	26.0	8.6	ナデ 押江突毫1条	板ナデ	10YR6/3 透黄檀	密 石・長	良好
292	漆	37.0	6.0	ナデ 押江突毫1条	板ナデ	7.5YR5/3 にぶい檍	やや粗 石・長・雲・角	良
293	漆	26.4	6.3	ナデ 押江突毫1条、凹線1条	ナデ	10YR7/4 にぶい黃檀	やや粗 石・長・雲	良好
294	漆	32.0	6.0	マメツ 押江突毫1条、凹線1条	マメツ	5YR7/6 檀	やや粗 石・長	良
295	漆	27.8	6.5	ナデ 押江突毫1条、凹線4条、棒状浮文2個1對	指頭ナデ	10YR5/2 灰黃褐	やや密 石・長・角	良
296	漆	26.2	9.6	タテハケ 押江突毫1条、凹線4条、斜目、棒状浮文3個1對	板ナデのちヨコヘラミガキ	10YR6/3 にぶい黃檀	やや密 石・長・角	良好
297	漆	23.0	7.1	タテハケ 押江突毫1条、凹線4条、斜目、棒状浮文3個1對	板ナデ	10YR5/4 にぶい黃檀	やや密 石・長	良
298	漆	21.0	2.8	ナデ 押江突毫1条、斜目	ナデ	7.5YR5/6 明褐	密 石・長・雲	良
299	漆	23.2	6.1	ナデ 押江突毫1条、斜格子文	ナデ	10YR5/2 灰黃褐	やや粗 石・長・雲・角	良
300	漆	18.0	5.4	マメツ 凹線1条、斜目	マメツ	10YR6/3 にぶい黃檀	密 石・長・雲・角	良
301	漆	16.8	1.9	ナデ 凹線2条、斜目	ナデ	10YR6/3 にぶい黃檀	密 石・長・雲	良
302	漆	18.0	2.2	凹線2条、棒状浮文2条1對		10YR5/2 灰黃褐	密 石・長・雲・角	良
303	漆	18.9	5.0	ナデ 凹線3条、棒状浮文2條1對	板ナデ	10YR6/3 にぶい黃檀	密 石・長・角	良
304	漆	20.8	1.6	凹線3条		7.5YR5/3 灰褐	やや粗 石・長・角	良好
305	漆	17.8	1.9	凹線2条		2.5YR6/6 檀	やや密 石・長	良
306	漆	17.0	8.0	マメツ	マメツ	7.5YR5/4 にぶい褐	粗 石・長	不良
307	漆	20.8	5.5	マメツ	マメツ	5YR5/7/8 檀	やや粗 石・長・雲・角	良
308	漆	33.8	5.3	マメツ	板ナデ	10YR5/2 灰黃褐	密 石・長・雲	良
309	漆	32.8	7.6	マメツ	指頭圧	2.5YR7/2 灰黃	やや粗 石・長	良
310	漆	32.0	5.3	マメツ	マメツ	10YR5/3 にぶい黃檀	やや粗 石・長・雲	良
311	漆	29.4	3.9	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黃檀	密 石・長	良
312	漆	30.0	2.8	マメツ	マメツ	10YR5/3 にぶい黃褐	やや粗 石・長	不良
313	漆	27.6	6.1	ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黃褐	密 石・長・雲・角	良好
314	漆	26.4	6.3	ナデ	板ナデ	10YR5/3 にぶい黃褐	やや密 石・長・雲	良
315	漆	30.0	3.4	ナデ	板ナデ	10YR6/3 にぶい黃檀	密 石・長	良好
316	漆	31.6	6.1	マメツ 斜目	マメツ	7.5YR6/4 にぶい檍	やや粗 石・長・雲	良
317	漆	33.0	6.0	マメツ 凹線1条	マメツ	10YR5/4 にぶい黃褐	やや粗 石・長	良
318	漆	16.7	4.0	マメツ	マメツ	10YR7/3 にぶい黃褐	やや密 石・長・角	良
319	漆	21.0	4.6	マメツ	マメツ	10YR8/4 透黃檀	やや粗 石・長	良
320	漆	14.8	3.9	マメツ 斜目	マメツ	2.5YR5/3 にぶい黃褐	やや粗 石・長	良
321	漆	26.8	5.0	マメツ	マメツ	10YR5/2 灰黃褐	やや粗 石・長	良
322	漆	25.0	5.8	マメツ	マメツ	10YR5/6 黃褐	やや密 石・長・雲・角	良
323	漆	14.0	3.0	マメツ	マメツ	10YR8/1 灰白	密 石・長	良好
324	漆	16.0	1.8	マメツ	マメツ	10YR8/2 灰白	やや密 石・長・雲	良
325	漆	16.2	2.4	マメツ	マメツ	10YR5/3 にぶい黃褐	密 石・長	良好
326	漆	16.2	4.7	マメツ	マメツ	10YR5/3 にぶい黃褐	やや密 石・長	良

327	底	12.1	3.0	マメツ	マメツ	10YR5/2 灰黄褐色	密石・長・雲	良好
328	壁	15.4	4.3	マメツ	マメツ	2.5Y8/2 灰白	密石・長	良
329	壁	19.4	4.5	マメツ	マメツ	10YR6/2 灰黄褐色	密石・長	良
330	壁	20.4	2.8	マメツ	マメツ	10YR5/3 にぶい黄褐色	やや粗石・長	良好
331	壁	11.6	1.4	マメツ	マメツ	10YR8/2 灰白	密石・長	良好
332	壁	13.2	1.8	マメツ	マメツ	10YR6/2 灰黄褐色	密石・長	良
333	壁	17.0	4.5	マメツ	マメツ	2.5Y7/3 浅黄	密石・長・雲	良
334	壁	19.8	6.3	マメツ	マメツ	2.5Y8/2 灰白	密石・長	良
335	壁	18.0	4.0	マメツ	マメツ	10YR5/2 灰黄褐色	やや粗石・片・角	良
336	壁	11.8	3.5	マメツ	マメツ	7.5YR8/4 淡黄褐色	密石・長	良
337	壁	13.6	3.7	マメツ	マメツ	10YR8/1 灰白	密石・長	不良
338	壁	15.6	3.0	タテハケ	指頭状	7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗石・雲	良
339	壁	16.0	2.7	タテハケ	ヨコハケ	7.5YR4/2 灰褐色	密石・長	良好
340	壁	14.0	3.8	タテハケ	タテヘラケズリのち指頭状	10YR5/2 灰黄褐色	密石・長・角	良好
341	壁	20.2	4.7	タテハケ	指頭状	NS/0 灰	密石・長・雲・角	良
342	壁	13.8	2.6	タテハケ		10YR6/3 にぶい黄褐色	密石・長	良好
343	壁	18.3	3.8	タテハケ	指頭状	10YR5/3 にぶい黄褐色	やや密石・長・角	良好
344	壁	12.4	6.7	タテハケ	指頭状	7.5YR5/3 にぶい褐	やや密石・長・角	良
345	壁	15.0	5.9	タテハケ	指頭状	7.5YR5/3 にぶい褐	密石・長・角	良好
346	壁	14.4	4.5	タテハケ	指頭ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	密石・長	良好
347	壁	17.0	3.1	タテハケ	指頭状	10YR5/3 にぶい黄褐色	密石・長・雲・角	良好
348	壁	14.2	3.9	マメツ	指頭状	10YR5/3 にぶい黄褐色	やや密石・長・角	良
349	壁	15.2	5.1	タテハケ	指頭ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	密石・長・雲	良
350	壁	16.0	3.7	タテハケ	指頭状	2.5Y6/2 灰青	密石・長・雲・角	良好
351	壁	13.8	4.5		指頭ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	やや密石・長・角	良好
352	壁	14.4	7.8	タテハケ	指頭状	10YR7/2 にぶい黄褐色	密石・長	良
353	壁	15.2	7.1	タテハケ	指頭状	10YR5/3 にぶい黄褐色	密石・長・角	良
354	壁	16.0	6.7	タテハケ	指頭状	5YR5/4 にぶい赤褐色	密石・長	良好
355	壁	15.2	8.0	粗いタテハケ	指頭状	10YR5/3 にぶい黄褐色	やや密石・長・角	良好
356	壁	6.0	26.1	タテハケのちタテヘラミガキ	タテヘラケズリのち指頭状	2.5Y2/1 黒	密石・長・角	良好
357	壁	15.2	18.8	タテハケ	タテヘラケズリのち指頭状	10YR5/3 にぶい黄褐色	密石・長・雲・角	良
358	壁	20.8	10.0	マメツ	指頭状	10YR8/2 灰白	やや粗石・長	良
359	壁	14.3	13.4	タテハケ	ヨコヘラケズリのち指頭状	10YR7/2 にぶい黄褐色	密石・長	良好
360	壁	13.6	3.8	マメツ	指頭状	10YR7/2 にぶい黄褐色	密石・長	良好
361	壁	14.8	6.3	マメツ	指頭状	5YR6/4 にぶい褐	密石・長	良
362	壁	12.2	6.5	タテハケ	指頭状	10YR8/2 灰白	やや密石・長	良
363	壁	16.8	7.9	マメツ	指頭ナデ	7.5YR7/4 にぶい褐	密石・長	良好
364	壁	13.2	11.6	タテハケ	板ナデ状のケズリ	10YR7/3 にぶい黄褐色	密石・長	良好
365	壁	21.0	4.8	タテハケ	ヨコヘラケズリ	2.5Y7/2 灰青	密石・長・雲	良
366	壁	14.0	4.4	タテハケ		5Y7/1 灰白	密石・長	良
367	壁	11.6	13.5	タテハケ、指頭状	板ナデのち指頭状	10YR7/2 にぶい黄褐色	やや粗石・長	良

368	庵	13.0	4.4	タテハケ	ヨコヘラケズリ	10YR5/1 黒灰	密 石・長	良
369	庵	9.4	3.4	9.5 タテハケ	ヨコヘラケズリのち指顎圧	10YR7/3 にぶい黄橙	密 石・長	良
370	庵	13.2	6.6	26.7 タテハケのちタテヘラミガキ	タテヘラケズリ	10YR8/4 浅黄橙	やや粗 石・長	良
371	庵	13.8	—	1.9 ナデ 円孔	ナデ	10YR8/3 にぶい黄橙	やや密 石・長	良
372	広口庵	19.4	—	3.5 ナデ 凹線3条、刻目、棒状浮文	ナデ 刻目突起2条、円孔	10YR6/3 にぶい黄橙	密 石・長、角	良好
373	広口庵	18.8	1.8	1.8 ナデ 凹線3条	ナデ 斜格子文	2.5Y9/1 灰白	やや粗 石・長	良好
374	広口庵	19.2	1.6	1.6 ナデ 凹線2条	ナデ 斜格子文	10YR8/2 灰白	密 石・長、偏 石	良
375	広口庵	27.4	2.2	2.2 ナデ 凹線1条、刻目	ナデ 斜格子文	7.5YR5/4 にぶい鶴	やや粗 石・長	良
376	広口庵	17.9	1.6	1.6 ナデ 凹窓3条、円形浮文4個1対	ナデ 斜格子文	10YR7/2 にぶい黄橙	やや密 石・長、偏 石	良好
377	広口庵	23.2	3.9	3.9 タテハケ 斜格子文	ナデ 刻目突起3条、円孔、斜格子文	7.5YR5/2 灰褐	やや密 石・長	良
378	広口庵	20.4	1.4	1.4 ナデ 凹窓2条	ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	密 石・長	良好
379	広口庵	21.6	1.8	1.8 ナデ 凹窓3条、刻目	ナデ	2.5Y7/3 浅黄	やや密 石・長	良
380	広口庵	15.2	1.6	1.6 ナデ 刻目	ナデ	10YR5/3 にぶい黄橙	粗 石・長、角	良
381	広口庵	20.2	3.9	3.9 ナデ 凹窓3条、刻目	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	やや密 石・長、偏 石	良
382	広口庵	30.0	1.7	1.7 ナデ 縞状文	ナデ	2.5Y7/2 灰黄	密 石・長	良好
383	広口庵	19.0	1.4	1.4 ナデ 凹窓2条	ナデ 斜格子文	10YR6/3 にぶい黄橙	やや粗 石・長	良
384	広口庵	16.6	1.6	1.6 ナデ 凹窓3条	ナデ 錦杉文	2.5Y7/2 灰黄	密 石・長、雲	良
385	広口庵	18.0	1.8	1.8 ナデ 刻目	ナデ 斜格子文	10YR7/3 にぶい黄橙	やや密 石・長	良
386	広口庵	20.8	2.0	2.0 ナデ 凹窓2条、棒状浮文3個1対6方	ナデ 斜格子文、円形浮文3個1対、斜格子文	10YR6/2 灰黄褐	やや密 石・長	良好
387	広口庵	19.4	1.7	1.7 ナメツ 斜格子文	マメツ 斜格子文	7.5YR5/4 にぶい鶴	粗 石・長、雲、角	良
388	広口庵	15.0	1.5	1.5 ナデ 凹窓2条	ナデ	10YR6/2 灰黄褐	密 石・長	良好
389	広口庵	27.4	2.5	2.5 ナメツ 刻目	マメツ 円孔2個1対	10YR8/3 にぶい黄橙	密 石・長	良
390	広口庵	14.0	2.0	2.0 ナデ 刻目、円形浮文2個1対	ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	やや密 石・長	良
391	広口庵	14.6	1.7	1.7 ナデ 刻目、円形浮文	ナデ	2.5Y4/1 黄灰	密 石・長	良好
392	広口庵	16.8	1.2	1.2 ナデ 刻目、円形浮文3個1対	ナデ	10YR6/2 灰黄褐	密 石・長、角	良
393	広口庵	22.0	1.6	1.6 ナメツ	マメツ	7.5YR6/3 にぶい鶴	やや密 石・長	良
394	広口庵	18.4	1.4	1.4 ナメツ	マメツ	10YR6/2 灰黄褐	密 石・長、角	良
395	広口庵	19.8	2.2	2.2 ナメツ	マメツ	10YR6/2 灰黄褐	密 石・長、角	良
396	広口庵	13.8	2.6	2.6 ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	密 石・長、雲、角	良好
397	広口庵	14.7	5.9	5.9 粗いタテハケ	板ナデのち指顎圧	10YR6/4 にぶい黄橙	密 石・長、偏 石	良好
398	広口庵	17.2	2.6	2.6 ナデ 斜格子文	ナデ	10YR6/2 灰黄褐	密 石・長	良
399	広口庵	16.0	3.8	3.8 ナデ 凹窓3条、刻目	ナデ	10YR6/2 灰黄褐	やや密 石・長、雲	良
400	広口庵	27.7	4.4	4.4 ナデ 斜格子文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄橙	粗 石・長、雲、角	良
401	広口庵	31.8	3.0	3.0 ナデ 指顎圧 斜格子文	ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	密 石・長	良
402	広口庵	29.4	3.8	3.8 ナデ 斜格子文	ナデ	10YR6/3 にぶい黄橙	粗 石・長	良
403	広口庵	28.8	4.7	4.7 ナデ 斜格子文	ナデ	10YR5/3 にぶい黄橙	やや粗 石・長、角	良
404	広口庵	23.4	4.5	4.5 ナデ 斜格子文、円形浮文2個1対6方	ナデ	10YR4/1 褐灰	やや粗 石・長	良
405	広口庵	23.6	4.1	4.1 ナデ 斜格子文、円形浮文3個1対	ナデ	10YR5/1 褐灰	やや粗 石・長、角	良
406	広口庵	30.0	5.3	5.3 ナデ 線杉文	ナデ	SYR7/3 にぶい鶴	やや粗 石・長	良
407	広口庵	21.6	10.2	10.2 凹窓4条、棒状浮文3個1対、押圧突起2条	ナデ	7.5YR5/3 にぶい鶴	やや粗 石・長	良
408	広口庵	28.2	4.8	4.8 タテハケ 線彫5条、棒状浮文3個1対8方	ナデ	SYR4/4 にぶい鶴	粗 石・長	良

409	広口巻	23.2	5.2	ナデ 凹部3条	ナデ	10YR5/3 にふい黄褐	やや粗 石・長	良
410	広口巻	28.0	4.6	ナデ 凹部5条	ナデ	2.5Y5/2 暗灰青	やや密 石・長	良好
411	広口巻	16.8	10.0	ナデ 凹部3条、押圧突起1条	マメツ	10YR5/3 にふい黄褐	粗 石・長	良
412	細頭巻	16.0	2.6	マツ 刻目、貼付突起2条	マメツ	10YR5/4 にふい黄褐	やや密 石・長	良
413	細頭巻	22.2	3.9	ナデ 刻目、円形浮文、刻目突起4条、棒状浮文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	やや密 石・長、角	良
414	細頭巻	17.0	3.8	マツ 円形浮文、貼付突起2条、棒状浮文	マメツ	10YR8/2 灰白	やや密 石・長、角	良
415	細頭巻	11.8	3.4	ナデ 刻目突起2条	ナデ	10YR4/3 にふい黄褐	やや密 石・長	良
416	細頭巻	11.6	3.9	ナデ 刻目突起2条	ナデ	10YR6/3 にふい黄褐	密 石・長、角	良
417	細頭巻	11.6	4.1	タテハケ 刻目突起2条	ナデ	10YR7/3 にふい黄褐	密 石・長、角	良
418	細頭巻	11.4	5.7	タテハケ 刻目突起2条	ナデ	2.5Y7/2 灰黄	やや密 石・長	良好
419	細頭巻	9.6	4.6	ナデ 刻目突起1条	ナデ	7.5YR5/6 明褐色	やや粗 石・長、角	良
420	細頭巻	12.4	3.7	ナデ 貼付突起2条	ナデ	2.5Y7/2 灰黄	密 石・長	良好
421	細頭巻	11.4	4.3	ナデ 貼付突起2条	ナデ	10YR7/2 にふい黄褐	やや密 石・長	良
422	細頭巻	14.4	2.9	マツ 貼付突起2条	マメツ	7.5YR7/3 にふい橙	やや密 石・長	良
423	細頭巻	12.8	2.6	マツ 貼付突起1条	マメツ	2.5Y7/4 浅黄	やや密 石・長	良
424	細頭巻	12.6	3.5	タテハケ 貼付突起1条	ナデ	10YR7/2 にふい黄褐	やや密 石・長	良好
425	細頭巻	10.4	4.6	タテハケ 貼付突起1条	ナデ	7.5YR7/2 明褐色	やや密 石・長	良
426	細頭巻	10.1	4.0	ナデ	ナデ	7.5YR7/3 にふい橙	密 石・長	良
427	細頭巻	12.4	3.5	マツ マツ	マメツ	2.5YR5/6 明褐色	やや密 石・長、雲	良
428	細頭巻	13.4	2.7	マツ マツ	マメツ	10YR7/2 にふい黄褐	やや密 石・長	良
429	細頭巻	11.6	5.2	マツ 指輪庄	マメツ	2.5YR4/3 にふい赤褐色	やや密 石・長	良
430	細頭巻	13.2	3.9	マツ 指輪庄	マメツ	10YR5/2 灰黄褐	やや粗 石・長、雲、角	良
431	細頭巻	16.4	5.6	ナデ 刻目、刻目突起2条	ナデ	2.5Y7/2 灰黄	やや密 石・長	良好
432	細頭巻	16.5	4.0	ナデ 新格子文	ナデ	10YR5/3 にふい黄褐	粗 石・長、雲	良
433	細頭巻	14.0	3.0	ナデ 指輪庄	ナデ	10YR6/4 にふい黄褐	やや密 石・長	良
434	細頭巻	21.4	4.9	ナデ 刻目	ナデ	2.5Y3/1 黒褐	やや密 石・長	良
435	細頭巻	14.0	5.0	ナデ 押圧突起1条	ナデ	2.5Y6/2 灰黄	粗 石・長	良
436	細頭巻	13.2	5.9	ナデ 押圧突起1条	指輪庄	10YR5/3 にふい黄褐	やや密 石・長、雲、角	良
437	細頭巻	12.0	3.9	ナデ 凹線2条、押圧突起1条	ナデ	10YR6/3 にふい黄褐	やや密 石・長	良
438	細頭巻	14.5	6.9	ナデ 押圧突起1条	指輪庄	7.5YR5/3 にふい褐	やや密 石・長、雲、角	良
439	細頭巻	11.2	5.7	マツ 貼付突起	マメツ	10YR7/3 にふい黄褐	やや密 石・長、角	良
440	細頭巻	19.6	8.8	ナデ 押圧突起3条	ナデ	7.5YR8/3 浅黄褐	やや密 石・長、雲	良
441	細頭巻	10.4	6.4	ナデ 押圧突起1条	指輪庄	5YR7/6 褐	やや密 石・長	良
442	細頭巻	16.6	8.2	ナデ 貼付突起2条	ナデ	10YR5/1 褐灰	やや密 石・長、角	良
443	細頭巻		7.5	タテハケ 貼付突起2条、波状文	ナデ	10YR5/3 にふい黄褐	やや粗 石・長、角	良
444	細頭巻	16.0	5.6	マツ マツ	マメツ	2.5Y5/3 黄褐	やや粗 石・長	良
445	細頭巻	16.4	7.1	ナデ	ナデ	10YR5/3 にふい黄褐	やや粗 石・長、角	良
446	細頭巻	20.2	4.4	マツ マツ	マメツ	10YR5/3 にふい黄褐	粗 石・長、雲	良
447	細頭巻	11.4	9.2	マツ マツ	マメツ	10YR5/2 灰黄褐	密 石・長	良
448	細頭巻	14.0	5.1	ナデ	ナデ	10YR6/3 にふい黄褐	やや粗 石・長、雲、角	良
449	細頭巻	11.6	4.4	ナデ	ナデ	10YR5/3 にふい黄褐	やや粗 石・長、雲	良

450	直口壺	12.0	2.8	マメツ	マメツ	10YR5/2 反黄褐色	やや固 石・長・雲・角	良	
451	直口壺	12.0	4.6	タテハケ	ナデ	10YR3/2 黒褐色	やや密 石・長・雲・角	良	
452	直口壺	10.8	3.8	マメツ	マメツ	5YR5/4 に似る赤褐色	やや粗 石・長・雲・角	良	
453	無柄壺	12.0	3.7	マメツ 凹線3条、列点文	指頭圧	10YR7/4 に似る黄褐色	やや粗 石・長・雲・角	良好	
454	ミニチュア壺	5.2	4.6	ナデ	ナデ	2.5Y5/1 黄灰	やや粗 石・長・雲・角	良	
455	広口壺	25.4	3.0			10YR8/2 反白	やや密 石・長・雲・角	良好	
456	広口壺	15.2	5.2	タテハケ	指頭圧	10YR5/2 反黄褐色	密 石・長・角	良	
457	長頸壺	10.4	9.8	マメツ 列点文	指頭ナデ	5YR6/4 橙	やや密 石・長・角	良	
458	広口壺	25.8	13.4	粗いタテハケ	粗いヨコハケのち指頭圧	7.5YR5/3 に似る褐色	やや密 石・長・角	良好	
459	細頸壺		9.0	タテハケのちタテヘラミガキのちヨコ ヘラミガキ	指頭ナデ	10YR6/3 に似る黄褐色	密 石・長・角	良好	
460	広口壺		8.1	21.0 タテハケのちタテヘラミガキのちヨコ ヘラミガキ	ヨコヘラカゼリのち指頭ナデ	7.5YR6/4 に似る褐色	密 石・長・角	良	
461	広口壺	14.6	12.5	タテハケ	板ナデ	10YR8/2 反白	密 石・長・角	良	
462	鉢	24.4	6.7	マメツ	マメツ	7.5YR4/1 褐灰	やや粗 石・長・角	良	
463	高杯	22.0	4.0	マメツ	マメツ	2.5YR5/4 に似る赤褐色	粗 石・長・角	良	
464	高杯	24.8	6.3	マメツ	マメツ	2.5YR6/5 橙	粗 石・長・角	良	
465	高杯	23.6	3.2	マメツ	マメツ	5YR4/3 に似る赤褐色	密 石・長・角	良好	
466	高杯	28.0	3.7	アテ 白斑3条、剣目	板ナデ	7.5YR7/3 に似る褐色	やや密 石・長・角	良	
467	高杯	24.6	3.0	マツリ 白斑2条	マメツ	10YR5/2 反黄褐色	やや粗 石・長・雲・角	良	
468	高杯	26.4	3.4	マツリ 白斑3条	マメツ	10YR6/2 反黄褐色	やや密 石・長・角	良	
469	高杯	29.4	4.6	ナデ 剣目	ナデ 剣格子文	7.5YR5/2 反白	やや密 石・長・角	良好	
470	高杯	27.6	4.3	マツリ 凹線3条	マメツ 剣格子文	10R4/6 乳	やや粗 石・長・雲・角	良	
471	高杯	35.6	6.5	マメツ	マメツ 斜格子文、円形浮文	7.5YR5/4 に似る褐色	やや密 石・長・角	良	
472	鉢	25.4	9.2	タテハケのちタテヘラミガキ	ヨコハケのちタテヘラミガキ	10YR8/2 反白	やや密 石・長・角	良	
473	鉢	21.6	7.6	タテヘラミガキ	ナデ	7.5YR5/4 に似る褐色	密 石・長	良	
474	鉢	22.4	6.8	ヨコヘラミガキ	ヨコヘラカゼリのちヘラミガキ	10YR6/2 反黄褐色	密 石・長	良好	
475	鉢	22.4	7.2	ナデ	ナデ	10YR7/3 に似る黄褐色	密 石・長	良好	
476	鉢	20.6	5.7	ヨコヘラカゼリ	ナデ	10YR6/2 反黄褐色	やや密 石・長	良好	
477	鉢		3.6	4.8	指頭圧	2.5Y7/1 反白	密 石・長	良	
478	鉢	14.7	5.0	4.6	ナデ	粗いヨコハケ	10YR5/2 反黄褐色	粗 石・長・角	良
479	鉢	16.2	3.1	7.3	タテヘラカゼリのちハケのちタテヘラ ミガキ	タテヘラミガキ	10YR7/2 に似る黄褐色	密 石・長	良好
480	鉢	12.8	3.8	6.8	ナデ、指頭圧	タテハケ	10YR7/2 に似る黄褐色	やや密 石・長	良
481	鉢	18.4		4.8	指頭圧、ヘラカゼリ	タテヘラカゼリのち指頭圧	10YR5/1 褐灰	やや密 石・長	良好
482	高杯		6.0	5.0	マツリ 円孔2個1針2方	マメツ	2.5Y8/2 反白	密 石・長	良好
483	高杯	12.2	6.4	タテヘラミガキ 円孔2個1針	指頭圧	10YR6/3 に似る黄褐色	密 石・長・雲	良	
484	高杯		8.6	6.6	ナデ 円形スカシ6方	ナデ	10YR8/3 浅黄褐色	石・長・角	良好
485	高杯	12.0	8.3	ナデ 朱賀通円形スカシ9方、凹線1条	ヨコヘラカゼリ	10YR5/3 に似る黄褐色	密 石・長・雲・角	良好	
486	高杯		12.0	8.4	タテハケ 三重角形スカシ4方	指頭ナデ	10YR6/3 に似る黄褐色	密 石・長・雲	良
487	高杯		11.0	10.2	タテヘラミガキ	ナデ	2.5YR5/6 明赤褐色	やや粗 石・長	良
488	高杯		11.2	7.3	タテヘラミガキ	ヨコハケ	10YR5/2 反黄褐色	やや密 石・長・角	良
489	高杯		7.5	10.4	タテヘラミガキ 白斑1条	ナデ	10YR5/4 に似る黄褐色	粗 石・長	良
490	高杯		11.3	8.2	マメツ	マメツ	10YR6/2 褐灰	やや密 石・長・雲・角	良

491	高杯		7.1	14.6	タテヘラミガキ	ナテ	10YR5/3 にぶい黄褐色	やや密 石・長	良好
492	高杯		6.8	10.4	マメツ	マメツ	10R8/6 赤褐色	やや密 石・長	良好
493	台付鉢		7.8	3.8	ナデ	指頭圧	10YR5/2 灰黃褐色	やや密 石・長	良好
494	台付鉢		7.8	3.6	ナデ 円形スカシ12方	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	密 石・長	良好
495	鉢	34.8		4.2			7.5YR6/4 にぶい橙	密 石・長・角	良好
496	鉢	25.8		3.3	ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ 片口		10YR6/3 にぶい黄褐色	密 石・長・角	良好
497	鉢	31.2		3.7	ヨコヘラケズリ		10YR6/2 灰黃褐色	密 石・長・角	良好
498	鉢	28.0		4.6			10YR5/3 にぶい黄褐色	密 石・長・雪・角	良好
499	高杯	22.6		5.1	ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ	ヨコハケのち分割ヘラミガキ	10YR5/1 灰	密 石・長・角	良好
500	高杯	23.0		5.6	ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ	分割ヘラミガキ	10YR5/2 灰黃褐色	密 石・長・角	良好
501	高杯	21.2		4.1	ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ	分割ヘラミガキ	2.5YS/2 暗紅黃	密 石・長・角	良好
502	高杯	22.4		4.8	ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ	分割ヘラミガキ	10YR5/3 にぶい黄褐色	密 石・長・角	良好
503	高杯	22.4		4.9	ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ		10YR5/3 にぶい黄褐色	密 石・長・雪・角	良好
504	高杯	21.0		4.7	分割ヘラミガキ		10YR4/4 褐	密 石・長・雪・角	良好
505	高杯	20.8		4.5	ヨコヘラケズリ	分割ヘラミガキ	10YR6/4 にぶい黄褐色	やや密 石・長・角	良好
506	高杯	26.0		3.4	ヨコヘラケズリ		10YR4/2 灰黃褐色	やや粗 石・長・角	良好
507	高杯	26.0		3.9	ヨコヘラケズリ		10YR6/2 灰黃褐色	やや密 石・長・角	良好
508	高杯	23.0		4.2			7.5YR6/6 褐	密 石・長・雪・角	良好
509	高杯	14.6		6.1	ヨコヘラケズリ、タテヘラミガキ	分割ヘラミガキ、ヨコヘラケズリ	10YR5/3 にぶい黄褐色	やや密 石・長・角	良好
510	高杯	22.4		12.9	ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ、タテヘラミガキ 円形スカシ	分割ヘラミガキ、ヨコヘラケズリ	10YR5/3 にぶい黄褐色	やや密 石・長・角	良好
511	高杯	23.0		6.6	マメツ	マメツ	10YR7/2 にぶい黄褐色	密 石・長	良好
512	高杯	24.2		14.6	タテヘラミガキ	マメツ	10YR8/2 灰白	密 石・長	良好
513	高杯		6.7	ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ、 タテヘラミガキ	分割ヘラミガキ、ヨコヘラケズリ	7.5YR5/3 にぶい褐	やや粗 石・長	良好	
514	高杯		6.4	分割ヘラミガキ、タテヘラミガキ	分割ヘラミガキ、ヨコヘラケズリ	10YR5/2 灰黃褐色	密 石・長・角	良好	
515	高杯		5.2	ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ	分割ヘラミガキ、ヨコヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄褐色	密 石・長・角	良好	
516	高杯		6.1	ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ	分割ヘラミガキ、ヨコヘラケズリ	10YR5/2 灰褐色	密 石・長・角	良好	
517	高杯		5.0	ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ、タテヘラミガキ 円形スカシ	分割ヘラミガキ、ヨコヘラケズリ	1.5YR5/4 にぶい褐	やや粗 石・長	良好	
518	高杯		7.5	ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ、 タテヘラミガキ	分割ヘラミガキ、ヨコヘラケズリ	10YR5/4 にぶい黄褐色	やや密 石・長・角	良好	
519	高杯		7.4	タテヘラミガキ 沈底状の跡、粘の压痕	タテヘラミガキ	7.5YR6/2 灰褐色	やや密 石・長	良好	
520	高杯		5.6	板付工具の压痕 沈底3条、円形スカシ4方	マメツ	7.5YR7/3 にぶい褐	密 石・長	良好	
521	高杯		4.0	板付工具の压痕 円形スカシ4方	マメツ	5YR4/6 褐	密 石・長	良好	
522	高杯		5.7	タテヘラミガキ	タテヘラミガキ、指頭圧	2.5Y5/2 暗黃褐色	やや密 石・長	良好	
523	高杯		6.8	タテヘラミガキ	ナデ	10YR4/1 褐灰	やや密 石・長・角	良好	
524	高杯		7.4	マメツ	マメツ	10YR7/2 にぶい黄褐色	密 石・長	良好	
525	高杯		7.4	マメツ	マメツ	2.5YR5/6 明赤褐	やや密 石・長・角	良好	
526	高杯		16.4	7.0	マメツ	ヨコヘラケズリ	7.5YR5/4 にぶい褐	やや密 石・長	良好
527	高杯		18.4	5.4	ナデ 円孔2個1対	ヨコヘラケズリ	10YR5/3 にぶい黄褐色	密 石・長	良好
528	高杯		16.4	4.2	ナデ	ヨコヘラケズリ	7.5YR6/4 にぶい褐	やや密 石・長	良好
529	高杯		20.2	3.0	ナデ	ヨコヘラケズリ	10YR5/3 にぶい黄褐色	やや密 石・長・角	良好
530	高杯		15.3	4.4	マメツ	ヨコヘラケズリ	7.5YR5/3 にぶい褐	やや密 石・長・角	良好
531	高杯		18.8	3.6	マメツ	ヨコヘラケズリ	7.5YR4/2 灰褐色	密 石・長・角	良好

532	高杯	17.4	2.2	マツツ	ヨコヘラケズリ	7.5YR4/3 褐色	密石・長・角	良
533	高杯	19.0	3.0	マツツ 円孔	ヨコヘラケズリ	10Y5/1 反	密石・呂・雲・角	良
534	高杯	16.8	1.7	タテヘラミガキ	ヨコヘラミガキ	10YR7/3 にぶい黄褐	密石・長	良
535	高杯	20.0	3.0	タテハケのちナデ	ヨコハケ	2.5Y7/3 淡黄	密石・長	良好
536	高杯	16.2	2.3	タテハケのちタテヘラミガキ	ナデ、ヨコヘラミガキ	2.5Y8/3 淡黄	密石・長	良
537	高杯	16.6	2.8	ナデ	ナデ	2.5Y8/2 灰白	やや密 石・長	良
538	高杯	21.0	1.9	タテハケのちナデ 円形スカシ	ヨコハケ	10YR6/2 灰黄褐	密石・長	良
539	高杯	20.0	2.7	タテハケ	ナデ	10YR6/2 灰黄褐	やや密 石・長	良
540	高杯	17.6	5.8	粗いタテハケ	粗いヨコハケ	7.5YR6/2 灰褐	やや密 石・長・角	良
541	高杯	15.6	3.7	ナデ 円形スカシ	ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐	密石・長	良
542	高杯	18.8	4.9	タテハケ 円形スカシ	ヨコハケ	2.5Y7/3 淡黄	やや密 石・長	良
543	底部	5.8	8.2	タテヘラミガキ 焼成前円孔	ナデ	7.5YR4/1 褐色	やや密 石・真・雲・角	良
544	底部	4.6	6.6	タテヘラミガキ、指頭圧	ナデ	5YR8/4 淡褐	密石・長	良
545	底部	5.0	3.9	ナデ 焼成前円孔	指頭圧	10YR6/2 灰褐	やや密 石・長	良
546	底部	5.6	3.4	マツツ 焼成前円孔	マツツ	10YR5/1 褐色	密石・長・雲	良
547	底部	5.6	4.3	マツツ 焼成前円孔	マツツ	10YR4/1 褐色	やや密 石・六	良
548	底部	10.4	5.5	タテヘラミガキ	ナデ	10YR5/1 褐色	密石・長・雲	良
549	底部	8.8	4.6	タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR5/2 灰黄褐	密石・長・雲・角	良
550	底部	6.8	3.0	タテヘラミガキ	マツツ	7.5YR4/3 褐色	密石・長・雲	良
551	底部	4.6	2.4	タテヘラミガキ	指頭圧	5YR5/8 明赤褐	粗石・長	良
552	底部	5.4	4.3	タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR5/2 淡黄褐	やや密 石・長・雲・角	良好
553	底部	5.6	4.2	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR5/3 にぶい黄褐	密石・長	良好
554	底部	6.0	8.9	タテヘラミガキ	指頭ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	密石・長・角	良
555	底部	8.4	5.6	タテヘラミガキ	タテヘラケズリのち指頭ナデ	10YR5/1 褐色	やや密 石・長	良
556	底部	9.0	4.8	タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR5/2 灰褐	密石・長・雲・角	良好
557	底部	6.6	4.7	タテヘラミガキ	指頭圧	7.5YR4/2 灰褐	粗石・長	良
558	底部	7.2	5.9	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR5/1 褐色	やや粗 石・長	良
559	底部	7.4	3.9	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR4/1 褐色	やや密 石・長・雲	良
560	底部	3.8	8.8	タテヘラミガキ	指頭ナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	粗石・長	良好
561	底部	5.6	2.7	タテヘラミガキ	タテハケ	10YR7/2 にぶい黄褐	やや粗 石・長	良
562	底部	9.8	4.7	タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	やや粗 石・長	良
563	底部	7.4	3.7	タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR8/2 灰白	やや密 石・長	良好
564	底部	6.4	2.8	タテヘラミガキ	指頭圧	2.5Y6/3 にぶい黄	やや密 石・長	良
565	底部	6.4	2.4	タテヘラミガキ	指頭圧	2.5Y3/1 黒褐	密石・長	良好
566	底部	10.8	3.4	タテヘラミガキ	ナデ	10YR6/2 灰黄褐	密石・長・雲	良好
567	底部	7.6	4.2	タテヘラミガキ	タテハケ	10YR8/4 淡黄褐	やや粗 石・長	良
568	底部	7.0	2.5	タテヘラミガキ	指頭圧	N3.0 暗灰	粗石・長・雲	良
569	底部	8.4	2.8	タテヘラミガキ	板ナデ	10YR8/2 灰黄褐	やや粗 石・長	良好
570	底部	7.2	3.0	タテヘラミガキ	板ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	やや密 石・長・雲・角	良
571	底部	5.8	3.8	タテヘラミガキ	タテハケのち指頭圧	10YR8/2 灰白	密石・長	良
572	底部	10.0	7.3	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	7.5YR5/3 にぶい褐	やや粗 石・長・雲・角	良好

573	底部	7.8	3.9	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR7/3 にふい黄根 SV3/1 オーバー黒 黒褐色	やや密 石・長・角	良
574	底部	6.6	4.1	タテヘラミガキ	板ナデ	7.5YR8/2 灰白	やや密 石・長・角	良
575	底部	11.4	4.2	タテヘラミガキ	マメツ	10YR3/1 黒褐色	やや密 石・長・角	良
576	底部	5.0	2.9	タテヘラミガキ	ナデ	7.5YR8/2 灰白	やや密 石・長・角	良好
577	底部	10.0	7.4	タテヘラミガキ	指頭圧のちヨコヘラミガキ 粉の圧痕	10YR5/2 灰黃褐色	やや密 石・長・角	良好
578	底部	11.8	7.7	タテヘラミガキ	指頭圧のち板ナデ	10YR4/3 にふい青褐色	やや密 石・長・角・雲	良
579	底部	6.4	6.4	タテヘラミガキ	指頭圧のち板ナデ	10YR7/3 にふい黄根	やや密 石・長・角	良
580	底部	9.8	5.9	タテヘラミガキ	板ナデ	2.5Y5/2 鵝灰黃	やや密 石・長・角・雲	良
581	底部	5.6	9.0	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR3/1 黒褐色	やや密 石・長・角	良
582	底部	16.8	11.4	タテヘラミガキ	指頭圧	7.5YR5/2 褐灰色	石・長・雲・角	良
583	底部	7.4	6.6	タテヘラミガキ	ヨコハケ	2.5Y6/3 にふい黄	やや密 石・長・雲・角	良
584	底部	10.7	4.1	タテヘラミガキ	タテハケ	10YR4/2 灰黃褐色	やや密 石・長・角	良
585	底部	10.6	5.0	タテヘラミガキ	タテハケ	7.5YR4/1 褐灰色	やや密 石・長・角	良好
586	底部	12.4	5.5	タテヘラミガキ	板ナデ	10YR5/2 灰黃褐色	やや密 石・長・雲・角	良
587	底部	7.8	8.1	タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR6/2 灰黃褐色	密 石・長	良
588	底部	7.2	7.1	タテヘラケズリのちタテヘラミガキ、 指頭圧	指頭ナデ	10YR7/2 にふい黄褐色	密 石・長	良
589	底部	4.2	4.9	タテヘラケズリのちタテヘラミガキ	指頭ナデ	2.5Y7/1 灰白	やや粗 石・長	良好
590	底部	6.2	4.2	ナデ	指頭ナデ	10YR7/2 にふい青褐色	やや密 石・長	良
591	底部	6.6	3.4	ナデ	ナデ	10YR3/1 黒褐色	やや密 石・長	良
592	底部	5.8	2.6	ナデ	ナデ	7.5YR4/2 褐褐色	やや密 石・長・角	良
593	底部	6.6	2.3	ナデ	ナデ	10YR4/1 褐灰色	やや密 石・長・雲	良
594	底部	5.6	1.7	マメツ	指頭圧	2.5Y3/2 褐褐色	やや粗 石・長	良
595	底部	4.8	2.8	マメツ	指頭圧	2.5YR5/6 明赤褐色	やや粗 石・長・角	良
596	底部	6.6	3.0	ナデ	指頭ナデ	2.5Y7/2 灰黃褐色	やや密 石・長	良好
597	底部	6.0	3.3	ナデ	ナデ	10YR6/3 にふい青褐色	密 石・雲	良好
598	底部	5.8	3.7	指頭圧	指頭ナデ	10YR7/2 にふい黄褐色	やや密 石・雲	良
599	底部	5.4	2.9	ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黃褐色	やや粗 石・雲	良
600	底部	5.0	4.5	マメツ	指頭ナデ	10YR7/3 にふい黄褐色	密 石・長・角	良
601	底部	5.8	5.8	ナデ	指頭ナデ	10YR6/2 灰黃褐色	やや密 石・長・角	良
602	底部	5.8	5.7	ナデ	板ナデ	5YR5/4 にふい青褐色	密 石・長・角	良
603	底部	7.2	5.9	ナデ	指頭圧	7.5YR5/2 灰褐色	粗 石・長・雲	良
604	底部	6.8	7.0	マメツ	指頭圧	7.5YR4/3 褐	やや粗 石・長・角	良
605	底部	7.6	5.8	指頭圧	板ナデ	2.5Y6/2 灰黃褐色	やや密 石・長・雲	良
606	底部	9.8	3.5	ナデ	指頭ナデ	10YR7/2 にふい黄褐色	やや密 石・長	良好
607	底部	5.2	3.9	ナデ	指頭ナデ	10YR6/2 灰黃褐色	やや密 石・長	良好
608	底部	5.8	3.4	ナデ	ナデ	10YR6/2 灰黃褐色	やや密 石・長	良好
609	底部	7.5	6.0	マメツ	指頭ナデ	10YR6/2 灰黃褐色	やや粗 石・長	良好
610	底部	9.8	5.2	ナデ	ナデ	10YR5/3 にふい黄褐色	やや粗 石・長	良好
611	底部	11.4	7.8	マメツ	板ナデ、指頭圧	10YR5/2 灰黃褐色	やや密 石・長	良
612	底部	9.0	4.5	ナデ	指頭ナデ	10YR6/2 灰黃褐色	やや密 石・長	良好
613	底部	9.8	4.2	マメツ	ナデ	5YR5/4 にふい赤褐色	石・長・雲	良

614	底部	11.0	5.2	マメツ	指顎圧	2.5Y6/3 にぶい黄 10YR6/3 にぶい黄褐	粗石・ やや粗 石・長	不良
615	底部	6.4	4.9	マメツ	指顎圧	2.5Y6/2 暗灰黄	やや粗 石・長	良好
616	底部	9.0	5.3	マメツ	指顎圧	10YR6/1 褐灰	やや粗 石・長	良好
617	底部	13.6	5.6	ナデ	ナデ	2.5Y6/1 黄灰	やや密 石・長	良
618	底部	9.8	3.9	ナデ	板ナデ	10YR5/2 黄灰	やや密 石・長	良好
619	底部	8.6	3.0	マメツ	指顎圧	10YR5/2 灰黄褐	やや粗 石・長	良好
620	底部	7.4	3.0	ナデ	指顎圧	10YR7/2 にぶい黄褐	粗石・ やや密 石・長・ 霧	良
621	底部	8.0	3.6	マメツ	指顎圧	2.5Y7/2 灰褐	やや密 石・長・霧	良
622	底部	8.2	2.6	マメツ	指顎ナデ	2.5YR7/4 深赤褐	やや粗 石・長	良
623	底部	7.0	1.8	ナデ	指顎圧	10YR4/1 褐灰	やや粗 石・長	良好
624	底部	5.0	4.5	マメツ	指顎圧	10YR7/2 にぶい黄褐	粗石・ やや密 石・長	良好
625	底部		3.7	ナデ	指顎圧	10YR6/2 灰黄褐	やや密 石・長	良好
626	底部	8.6	1.7	板ナデ	指顎圧	NA4/0 灰	やや粗 石・長・霧	良好
627	底部	7.8	2.3	板ナデ	指顎圧	10YR4/1 褐灰	粗石・ やや粗 石・長	良
628	底部	6.2	2.6	マメツ	マメツ	10YR5/2 灰黄褐	粗石・ やや粗 石・長	良
629	底部	5.8	3.5	マメツ	マメツ	2.5Y5/4 にぶい黄褐	粗石・ やや粗 石・長	良
630	底部	5.2	2.1	マメツ	マメツ	5YR5/4 にぶい赤褐	密石・ 長・霧	良好
631	底部	4.8	2.8	マメツ	マメツ	7.5Y5/4 にぶい褐	やや粗 石・長・角	良
632	底部	5.8	3.0	マメツ	マメツ	2.5Y6/2 灰黄	やや粗 石・長	良
633	底部	5.0	2.0	マメツ	マメツ	7.5YR5/2 灰褐	やや密 石・長	良
634	底部	5.8	2.6	マメツ	マメツ	10YR6/2 灰黄褐	やや密 石・長	良
635	底部	8.0	2.9	マメツ	マメツ	10YR6/2 灰黄褐	やや粗 石・長	良
636	底部	4.2	4.7	マメツ	マメツ	10YR3/1 黒褐	やや粗 石・長	良
637	底部	5.1	5.2	マメツ	マメツ	10YR6/2 灰黄褐	やや粗 石・長	良
638	底部	7.0	3.8	マメツ	マメツ	5YR4/3 にぶい赤褐	粗石・ 長・角	良
639	底部	9.0	3.1	マメツ	マメツ	10YR6/4 にぶい黄褐	やや粗 石・長	良
640	底部	7.0	4.1	マメツ	マメツ	2.5Y5/2 晦次裏	密石・ 長	良
641	底部	6.2	4.3	マメツ	マメツ	10YR7/2 にぶい黄褐	密石・ 長	良
642	底部	4.4	4.0	マメツ	マメツ	10YR6/2 灰黄褐	やや密 石・長	良
643	底部	9.2	3.3	マメツ	マメツ	2.5Y7/2 延葉	密石・ 長	良
644	底部	12.0	5.4	マメツ	マメツ	7.5YR5/4 にぶい褐	粗石・ やや密 石・長	良
645	底部	11.4	3.1	マメツ	マメツ	7.5YR7/6 橙	粗石・ やや密 石・長	良
646	底部	8.0	5.4	マメツ	マメツ	10YR6/3 にぶい黄褐	やや粗 石・長・霧	良
647	底部	6.2	3.6	マメツ	マメツ	10YR5/2 灰黄褐	やや粗 石・長	良
648	底部	8.2	4.7	マメツ	マメツ	10YR6/3 浅黄褐	やや密 石・長・角	良
649	底部	15.6	5.7	マメツ	マメツ	10YR5/2 灰白	粗石・ 長	良
650	底部	16.8	8.5	マメツ	マメツ	2.5Y5/2 暗灰黄	粗石・ 長	良
651	底部	6.0	3.5	ナデ	ヨコヘラケズリ	5Y3/1 オリーブ墨	粗石・ 長	良好
652	底部	5.8	3.8	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	10YR8/2 灰白	密石・ 長	良
653	底部	5.6	4.9	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	7.5YR4/2 灰褐	やや粗 石・長・角	良
654	底部	4.6	4.8	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	7.5YR5/4 にぶい褐	密石・ 長・角	良

655	底部	4.8	2.2	指頭圧	ヨコヘラケズリ	7.5YR5/2 灰褐色	密石・長・角	良
656	底部	7.2	8.0	タテハケのちタテヘラミガキ	タテヘラケズリ	10YR7/2 にぶい黄褐色	密石・長	良好
657	底部	5.2	4.2	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	10YR5/2 灰褐色	密石・長・角	良好
658	底部	5.0	3.4	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	2.5Y4/1 黄灰	やや密 石・長・角	良好
659	底部	5.0	3.0	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	7.5YR3/1 黒褐色	粗石・長	良好
660	底部	4.7	2.8	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	7.5YR6/6 橙	密石・長・角	良好
661	底部	5.4	2.5	マメツ	タテヘラケズリ	10YR5/2 灰褐色	密石・長・角	良好
662	底部	5.8	2.7	マメツ	指頭圧	10YR6/3 にぶい黄褐色	密石・長・角	良
663	底部	5.6	2.3	マメツ	タテヘラケズリ	7.5YR5/3 にぶい褐色	密石・長・角	良好
664	底部	6.0	2.7	マメツ	タテヘラケズリ	2.5Y6/2 反青	やや粗 石・長	良
665	底部	4.5	2.7	タテヘラミガキ	指頭圧	2.5Y4/2 暗灰黄	密石・長・角	良
666	底部	3.8	3.3	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	7.5YR5/3 にぶい褐色	やや密 石・長・雲	良
667	底部	10.6	4.8	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	2.5Y5/2 暗灰青	やや密 石・長	良好
668	底部	5.6	5.5	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	10YR6/2 灰褐色	やや粗 石・長・雲・角	良好
669	底部	4.6	2.8	タテヘラミガキ	タテヘラケズリのち指頭圧	10YR9/4 にぶい黄褐色	密石・長・角	良好
670	底部	5.2	タテヘラミガキ 既定後円孔		ヨコヘラケズリのち指頭圧	10YR5/3 にぶい黄褐色	やや密 石・長・角	良
671	底部	7.7	3.3	タテヘラミガキ	ナデ	2.5Y6/1 灰黄	やや密 石・長・雲	良
672	底部	12.4	3.5	マメツ	タテヘラケズリ	10YR3/4 暗褐色	やや粗 石・長	良
673	底縫	6.6	4.8	ナデ	タテヘラケズリ	7.5YR8/3 淡灰褐色	密石・長	良
674	底部	7.8	3.3	ナデ	タテヘラケズリ	10YR6/2 灰褐色	やや密 石・長・雲・角	良
675	底部	7.2	3.7	タテヘラミガキ	ヨコヘラケズリ	2.5Y7/2 灰黄	やや密 石・長	良好
676	底部	3.0	5.0	タテハケ	マメツ	2.5Y8/1 灰白	密石・長	良好
677	底部	4.4	6.0	板ナデ	指頭圧のちタテヘラケズリ	10YR5/2 灰褐色	やや密 石・長・雲・角	良
678	底部	4.4	6.7	タテハケ、指頭圧	板ナデ	2.5Y8/2 灰白	密石・長	良
679	底部	5.0	4.1	指頭圧のちタテハケ	タテヘラケズリ	10YR7/2 にぶい黄褐色	密石・長	良好
680	底部	5.4	3.2	指頭圧のちタテハケ	タテヘラケズリ	2.5Y8/3 淡黄	やや密 石・長	良
681	底部	4.4	2.2	タテハケ	マメツ	10YR7/3 にぶい黄褐色	密石・長	良
682	底部	6.0	2.9	タテハケ	タテヘラケズリ	2.5Y3/1 黒褐色	やや密 石・長	良
683	底部	5.4	2.8	タテハケ	指頭圧	7.5YR8/2 灰白	密石・長	良
684	底部	5.6	2.5	タテハケ	マメツ	10YR8/3 浅黄褐色	密石・長	良好
685	坊錐車	4.0	マメツ		指頭圧 未貫通円孔	10YR5/2 灰褐色	やや密 石・長・角	良
686	坊錐車	5.3	ナデ		指頭圧 ナデ 未貫通円孔	10YR5/2 灰褐色	やや密 石・長	良
687	須恵器 坏	3.7	圓転ヘラケズリ		ナデ	N7/0 灰白	密石・長	良好
688	甕	29.6	2.7			10YR4/3 にぶい黄褐色	密石・長・角	良
689	甕	24.6	3.7	マメツ	マメツ	10YR7/3 にぶい黄褐色	やや粗 石・長	良
690	甕	28.6	4.0	ナデ	板ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐色	やや密 石・長	良好
691	甕	29.8	6.5	ナデ	板ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐色	やや密 石・長	良好
692	甕	30.0	4.0	マメツ	マメツ	2.5Y5/2 暗灰黄	やや粗 石・長・雲	良
693	甕	34.2	9.1	ナデ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	粗石・長・角	良
694	甕	15.4	1.7			10YR6/3 にぶい黄褐色	密石・長・雲・角	良
695	甕	16.0	3.1	ナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄褐色	密石・長	良好

696	翼	13.6	5.5	ナデ	ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐色	石・長・雲	良好
697	翼	23.2	2.4	マメツ	マメツ	0YR4/2 灰黄褐色	やや粗 石・長・雲	良
698	翼	25.0	3.8	ナデ	ナデ	10YR4/2 灰黄褐色	やや粗 石・長・雲	良好
699	翼	23.0	4.2	ナデ 凹縫 1 条、刻目、押圧突起 1 条	ナデ	10YR6/4 にぶい黄褐色	やや粗 石・長・雲・角	良
700	翼	15.4	2.8	ナデ 凹縫 2 条、刻目、押圧突起 1 条	ナデ	10YR7/3 にぶい黄褐色	やや粗 石・長・雲	良
701	翼	18.8	3.7	マメツ 刻目、押圧突起 1 条	マメツ	10YH5/2 にぶい黄褐色	粗 石・長・雲	良
702	翼	17.0	1.9	刻目		10YR7/2 にぶい黄褐色	石・長	良好
703	翼	22.2	2.3	刻目		2.5Y6/1 黄灰	密 石・長	良
704	翼	16.8	4.9	ナデ 刻目	ナデ	10YR7/3 にぶい黄褐色	石・長・角	良
705	翼	18.0	7.3	マメツ 刻目	マメツ	10YH6/3 にぶい黄褐色	粗 石・長・雲	良
706	翼	25.0	4.5	ナデ 刻目	板ナデ	10YR8/3 にぶい黄褐色	やや粗 石・角	良
707	翼	18.0	4.6	ナデ 凹縫 3 条、棒状浮文 4 個 1 対	ナデ	10YR5/4 にぶい黄褐色	やや粗 石・角	良
708	翼	16.0	1.5	凹縫 2 条		7.5YR6/4 にぶい橙	密 石・長・角	良好
709	翼	16.0	1.2	凹縫 2 条		7.5YR6/4 にぶい橙	密 石・長・角	良
710	翼	22.3	1.7	凹縫 2 条、刻目		2.5Y6/3 にぶい黄褐色	石・長	良好
711	翼	24.8	2.3	凹縫 2 条		5Y7/2 灰白	密 石・長	良
712	翼	20.0	5.2	タテハケ	マメツ	2.5YR7/8 橙	やや粗 石・長	良
713	翼	16.8	5.2	粗いタテハケ	板ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	やや粗 石・長・雲・角	良好
714	翼	15.2	3.2	タテハケ	粗頭圧	7.5YR5/4 にぶい橙	密 石・長・角	良好
715	翼	13.2	5.5	粗いタテハケ	粗頭圧	7.5YR6/5 橙	やや粗 石・長	良好
716	翼	14.6	3.6	マメツ	粗頭圧	10YR5/2 灰黄褐色	密 石・長	良
717	翼	5.3	ナデ	ナデ ハケ擦痕による剥皮文、円孔	板ナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	密 石・長	良
718	細頭壺	10.2	3.2	ナデ 貼付突起 2 条	ナデ	2.5Y8/2 灰白	密 石・長	良好
719	細頭壺	11.8	4.0	マメツ 貼付突起 2 条	粗頭圧	7.5YR6/4 にぶい橙	やや密 石・長・角	良
720	細頭壺	13.5	2.8	ナデ 刻目突起 1 条	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	石・長・角	良
721	細頭壺	11.8	2.0	ナデ 刻目突起 1 条	ナデ	2.5Y6/4 淡黄	やや密 石・長・雲	良
722	細頭壺	13.3	5.5	タテハラミガキ 刻目突起 2 条	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	密 石・長・角	良
723	細頭壺	10.6	5.6	タテハケ 刻目突起 2 条	粗頭圧	10YR4/2 灰黄褐色	やや粗 石・長・角	良好
724	細頭壺	11.2	4.6	ナデ 刻目突起 2 条	ナデ	2.5Y8/2 灰白	密 石・長	良
725	直口壺	15.6	7.1	ナデ 刻目、刻目突起 2 条	ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐色	やや密 石・長・雲	良
726	直口壺	13.8	8.3	ナデ	粗頭圧	10YR5/2 灰黄褐色	やや粗 石・長・角	良好
727	直口壺	16.0	5.7	マメツ	マメツ	10YR6/2 灰黄褐色	やや粗 石・長・雲・角	良
728	直口壺	7.6	3.8	マメツ	マメツ	10YR7/3 にぶい黄褐色	密 石・長・雲・角	良
729	直口壺	14.4	3.9	ナデ	ナデ	10YR6/4 にぶい黄褐色	やや密 石・長・雲	良
730	直口壺	9.6	3.8	マメツ 押圧突起 1 条	マメツ	10YR5/2 灰黄褐色	やや密 石・長・雲	良
731	直口壺	10.2	4.1	ナデ 押圧突起 1 条	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	やや粗 石・長・角	良好
732	直口壺	13.2	6.1	ナデ 押圧突起 1 条	ナデ	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	密 石・長・雲・角	良
733	直口壺	17.4	8.2	ナデ 押圧突起 1 条	ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	密 石・長・雲・角	良
734	直口壺	16.2	4.6	ナデ 刻目	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	やや粗 石・長	良
735	直口壺	19.2	3.7	ナデ 斜格子文、刻目	ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	やや粗 石・長・雲	良好
736	直口壺	21.2	6.1	ナデ 斜格子文	ヨコヘラミガキ	10YR5/3 にぶい黄褐色	やや粗 石・長・雲・角	良

737	広口壺	30.0	8.51	マメツ 斜格子文、押注突毫2条	マメツ	SYR7/4 にぶい檍	やや直 石・長	良好
738	広口壺	28.0	7.8	マメツ 押注突毫1条	マメツ	10YR5/3 にぶい黄褐	やや粗 石・長	良
739	広口壺	26.0	6.2	ナデ 斜格子文、押注突毫1条	ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐	粗 石・長	良
740	広口壺	23.0	3.2	ナデ 斜格子文、円形浮文3個1対	ナデ	10YR6/2 灰黄褐	やや粗 石・長・雲	良
741	広口壺	21.0	5.3	タテハケ 斜格子文、円形浮文3個1対、刻目	ナデ	2.5Y6/2 灰黄	やや粗 石・長・角	良
742	広口壺	23.0	4.8	マメツ 棘杉文	マメツ	10YR5/2 灰黄褐	粗 石・長・角	良
743	広口壺	27.6	5.5	ナデ 棘杉文、押注突毫2条	ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐	やや粗 石・長	良
744	広口壺	24.0	5.0	ナデ 凹線3条	ナデ	2.5Y7/2 灰黄	やや粗 石・長	良
745	広口壺	26.6	5.4	マメツ 凹線4条	マメツ	7.5YR5/3 にぶい檍	やや粗 石・長・角	良
746	広口壺	30.4	3.3	ナデ 凹線4条、刻目	ナデ	10YR3/1 黒褐	やや粗 石・長・雲	良好
747	広口壺	25.4	2.0	ナデ 凹線4条、刻目	ナデ	10YR5/1 褐色	やや粗 石・長	良
748	広口壺	26.4	2.2	ナデ 凹線4条	ナデ	2.5Y7/2 灰黄	やや粗 石・長	良
749	広口壺	20.4	1.6	ナデ 凹線3条	ナデ	2.5Y7/1 灰白	やや粗 石・長	良
750	広口壺	25.0	2.2	マメツ 刻目	マメツ	2.5Y6/2 灰黄	やや粗 石・長	良
751	広口壺	24.0	1.9	マメツ 凹線2条、円形浮文	マメツ	5Y4/1 灰	粗 石・長	不良
752	広口壺	18.8	4.3	マメツ 凹線3条、円形浮文2個1対	マメツ 円形浮文2個1対、小内孔3個1対	10YR5/3 にぶい黄褐	やや粗 石・長・雲・角	良
753	広口壺	20.7	1.4	ナデ	ナデ 斜格子文、小内孔3個1対	10YR6/3 にぶい黄褐	やや粗 石・長・雲	良好
754	広口壺	17.0	1.5	ナデ 凹線2条、円形浮文	ナデ 斜格子文	7.5YR7/6 墨	やや粗 石・長	良好
755	広口壺	14.2	4.7	タテハケ 凹線2条、押注突毫1条、円孔	ナデ 斜格子文	10YR5/3 にぶい黄褐	やや粗 石・長	良
756	広口壺	19.6	7.0	ナデ 凹線2条、斜格子文	ナデ 斜格子文	10YR7/2 にぶい黄褐	やや粗 石・長・角	良
757	広口壺	13.4	1.1	凹線2条	斜格子文	N3/0 難灰	密 石・長・雲	良好
758	広口壺	13.5	5.1	タテハケ 刻目	マメツ	10YR7/3 にぶい黄褐	粗 石・長	良
759	広口壺	15.0	5.4	タテハケ 刻目	ナデ	10YR6/2 灰黄褐	やや粗 石・長	良
760	広口壺	14.6	1.6	ナデ 刻目	ナデ	10YR4/2 黒褐	やや密 石・長・角	良
761	広口壺	18.3	2.3	凹線1条、刻目	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐	やや粗 石・長	良
762	広口壺	12.0	2.3	ナデ	ナデ	7.5YR5/4 にぶい檍	密 石・長・角	良
763	広口壺	8.0	ナデ	波状文、直線文、斜格子文	指頭圧	10YR5/3 にぶい黄褐	石・長・角	良
764	広口壺	16.6	3.5	マメツ	マメツ	7.5YR5/4 にぶい檍	やや密 石・長・角	良
765	広口壺	20.4	3.5	板状工具の圧痕	ナデ	10YR7/3 にぶい黄褐	やや粗 石・長	良好
766	広口壺	13.9	マメツ	ヨコヘラケズリのち指頭圧	7.5YR5/3 にぶい檍	やや密 石・長・雲	良	
767	鉢	23.8	5.8	タテハケ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	やや密 石・長・雲	良好
768	鉢	18.0	6.2	タテヘラケズリのちタテヘラミガキ	タテヘラミガキ	10YR7/2 にぶい黄褐	密 石・長	良好
769	高杯	18.2	5.6	ナデ 凹線4条	板ナデ	10YR6/2 灰黄褐	やや密 石・長・雲	良好
770	高杯	22.8	4.3	ナデ 凹線3条	板ナデ	2.5Y5/1 墨灰	やや粗 石・長・雲・角	良
771	高杯	21.8	6.0	ナデ 凹線3条	ヨコヘラミガキ	10YR4/1 難灰	やや密 石・長・雲	良好
772	高杯	22.4	3.2	マメツ	マメツ	10YR6/4 にぶい黄褐	密 石・長・角	良
773	高杯	32.0	4.1	マメツ	マメツ	7.5YR5/3 にぶい檍	やや粗 石・長・雲・角	良
774	高杯	19.8	4.6	粗いタテハケ	ナデ	7.5YR5/3 にぶい檍	やや密 石・長・角	良好
775	高杯	18.0	8.0	タテハケのちタテヘラミガキ 刻目	タテハケ	SYR4/4 にぶい赤褐	粗 石・長・雲・角	良
776	高杯		1.0	ナデ 刻目	ナデ	7.5YR6/4 にぶい檍	やや密 石・長	良好
777	高杯	40.2	5.2	ナデ 斜格子文、円形浮文6個1対	ナデ	7.5YR4/4 檍	やや粗 石・長・雲	良

776	高杯	46.0	4.1	マメツ 斜面3条、斜目	マメツ 斜面文	10YR6/3 に少い黄根	やや密 石・長	良
779	高杯	11.4	8.0	マメツ	マメツ	10YR6/6 赤根	やや密 石・長	良
780	高杯	11.8	7.1	ナデ	ナデ	10YR1/2 に少い黄根	やや密 石・長	良好
781	高杯	13.2	5.8	ナデ	ナデ	2.5Y7/3 浅黄	密 石・長、雲	良好
782	高杯	10.0	3.4	ナデ	ナデ	10YR6/3 に少い黄根	やや密 石・長	良好
783	高杯	7.7	4.5	ナデ	ナデ	10YR6/2 灰黄褐	密 石・長、雲、角	良
784	高杯	11.4	3.9	ナデ 三角形スカシ10方、四線1条	ナデ	10R7/2 に少い黄根	やや密 石・長	良
785	高杯	15.8	7.5	ヨコヘラミガキ	ナデ	2.5Y4/6 明赤褐	やや密 石・長、角	良
786	高杯	20.4	4.2	ヨコヘラミガキ 凹線2条	ナデ	10YR5/3 に少い黄根	密 石・長	良好
787	高杯	26.2	4.0	ヨコヘラケズリ		10YR5/2 灰黄褐	密 石・長、雲	良好
788	高杯	23.0	4.7	ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ	分割ヘラミガキ	10YR5/3 に少い黄根	やや密 石・長、角	良好
789	高杯	22.2	4.6	ヨコヘラケズリのち分割ヘラミガキ		10YR5/3 に少い黄根	密 石・長、雲、角	良好
790	高杯	12.2	12.7	タテハケのちタテヘラミガキ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	やや密 石・長、雲、角	良
791	高杯		8.4	マメツ	マメツ	10YR6/1 褐灰	やや密 石・長	良
792	高杯	13.8	5.6	タテヘラミガキ	指頭圧	7.5YR5/2 灰褐	密 石・長、角	良
793	高杯		4.0	タテヘラミガキ	分割ヘラミガキ	7.5YR5/2 灰褐	密 石・長、角	良
794	高杯		5.7	タテヘラミガキ	タテヘラミガキ	10YR6/2 灰黄褐	やや密 石・長	良好
795	高杯		4.4	分割ヘラミガキ	分割ヘラミガキ、ヨコヘラケズリ	10YR5/2 灰黄褐	やや密 石・長、雲	良好
796	高杯		7.0	分割ヘラミガキ、タテヘラミガキ	マメツ	2.5Y6/1 黄灰	密 石・長、雲、角	良好
797	高杯		18.0	マメツ 円孔	ヨコヘラケズリ	7.5YR5/2 灰褐	密 石・長、雲、角	良好
798	高杯		6.0	2.6 タテヘラミガキ	ヨコヘラケズリ	10YR6/2 灰黄褐	やや密 石・長、角	良
799	底部		17.4	マメツ 焼成前円孔	マメツ	10YR6/3 に少い黄根	やや密 石・長	良好
800	底部		6.6	4.4 マメツ 焼成前円孔	指頭ナデ	2.5YR4/6 赤褐	密 石・長、角	良
801	底部		6.8	4.8 タテヘラミガキ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	やや密 石・長	良好
802	底部		6.6	5.5 タテヘラミガキ	指頭圧	2.5Y6/1 黄灰	やや密 石・長	良好
803	底部		5.8	5.7 タテヘラミガキ	ナデ	10YR6/2 灰黄褐	やや密 石・長	良
804	底部		5.6	5.2 タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR5/2 灰黄褐	やや密 石・長、雲、角	良
805	底部		6.2	5.5 タテヘラミガキ	指頭圧	5YR5/4 に少い赤褐	やや密 石・長、角	良
806	底部		9.4	4.5 タテヘラミガキ	ヨコヘラケズリ	10YR5/2 灰黄褐	やや密 石・長、雲、角	良
807	底部		5.2	4.2 タテヘラミガキ	指頭ナデ	7.5YR6/3 に少い褐	やや密 石・長	良
808	底部		6.6	3.5 タテヘラミガキ	ナデ	2.5Y6/1 黄灰	密 石・長	良
809	底部		5.0	3.8 タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR7/4 に少い黄根	やや密 石・長、雲	良
810	底部		5.6	3.7 タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR7/3 に少い黄根	密 石・長	良
811	底部		6.2	10.3 タテヘラミガキ	指頭圧	7.5YR7/2 明褐色	やや密 石・長	良好
812	底部		5.4	3.6 タテヘラミガキ	指頭圧	10YR5/2 灰黄褐	やや密 石・長、雲、角	良
813	底部		5.2	3.4 タテヘラミガキ	指頭圧	10YR6/3 に少い黄根	密 石・長	良
814	底部		6.4	2.5 タテヘラミガキ	ナデ	5YR5/4 に少い赤褐	やや密 石・長、雲、角	良
815	底部		5.0	2.8 タテヘラミガキ	指頭圧	2.5Y6/2 灰黄	やや密 石・長	良
816	底部		6.0	3.2 タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR7/4 に少い黄根	密 石・長	良好
817	底部		5.7	3.4 タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR7/2 に少い黄根	やや密 石・長、角	良好
818	底部		7.0	3.0 タテヘラミガキ	指頭圧	2.5Y5/1 黄灰	やや密 石・長	良好

819	底部	5.4	4.4	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR6/4 にぶい黄褐色	密石・長・角	良
820	底部	8.7	5.7	タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	密石・長・雲	良
821	底部	6.5	3.5	タテヘラミガキ	指頭圧	2.5Y5/0 灰黃	やや粗石・長・角	良
822	底部	6.8	3.6	タテヘラミガキ	板ナデ	2.5Y6/2 灰黃	やや密石・長・角	良好
823	底部	8.6	5.1	タテヘラミガキ	指頭圧	7.5Y6/3 にぶい褐	やや密石・長・角	良好
824	底部	7.0	4.2	タテヘラミガキ	板ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	やや密石・長・角	良
825	底部	7.2	3.3	タテヘラミガキ	マメツ	10YR6/3 にぶい黄褐色	密石・長	良
826	底部	6.2	3.2	タテヘラミガキ	マメツ	2.5Y4/1 黄灰	やや密石・長	良好
827	底部	9.0	2.8	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR6/2 灰黄褐色	密石・長・角	良好
828	底部	9.5	3.4	タテヘラミガキ	板ナデ	2.5Y7/3 浅黃	やや密石・長・雲	良
829	底部	7.0	4.9	タテヘラミガキ	ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐色	やや密石・長・角	良
830	底部	7.0	4.1	タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	やや密石・長・雲	良
831	底部	10.2	3.6	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR7/2 にぶい黄褐色	やや粗石・長	良好
832	底部	9.4	4.3	タテヘラミガキ	ナデ	2.5Y7/2 灰黃	やや密石・長	良
833	底部	11.6	5.4	タテヘラミガキ	指頭圧のち板ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐色	密石・長・角	良
834	底部	8.4	4.8	タテヘラミガキ	板ナデ	2.5Y8/2 白灰	やや密石・長	良好
835	底部	9.2	4.8	タテヘラミガキ	ナデ	2.5Y5/2 暗灰黃	やや粗石・長	良
836	底部	9.4	4.3	タテヘラミガキ	指頭圧	2.5Y7/2 灰黃	やや粗石・長・角	良
837	底部	10.6	5.7	タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐色	やや密石・長・角	良
838	底部	9.6	5.1	タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	やや密石・長・雲	良
839	底部	4.5	5.6	タテヘラミガキ	指頭圧のちヨコハケ	2.5Y4/1 黄灰	やや粗石・長	良好
840	底部	10.5	7.4	タテヘラミガキ	板ナデ	2.5Y5/3 黄褐色	粗石・長・管	良
841	底部	12.4	6.0	タテヘラミガキ	ヨコハケ	7.5YR5/3 にぶい鶴	粗石・長・角	良
842	底部	8.2	8.7	タテヘラミガキ	板ナデのちヨコハケ	10YR5/3 にぶい黄褐色	やや粗石・長・角	良好
843	底部	9.0	16.2	タテヘラミガキ	指頭ナデ	7.5YR4/3 鶴	やや粗石・長	良好
844	底部	8.4	6.5	タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	やや密石・長・雲・角	良好
845	底部	8.2	6.7	タテヘラミガキ	マメツ	10YR5/2 灰黄褐色	やや密石・長	良
846	底部	5.9	7.3	タテヘラミガキ	指頭ナデ	10YR5/2 灰黄褐色	やや粗石・長・角	良
847	底部	9.4	5.7	タテヘラミガキ	ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	密石・長・角	良
848	底部	12.5	6.2	タテヘラミガキ	板ナデ	SYR7/6 鶴	やや密石・長	良好
849	底部	6.7	4.5	マメツ	指頭ナデ	10YR4/1 鶴版	やや粗石・長・角	良
850	底部	6.0	3.0	マメツ	指頭圧	7.5YR7/2 暗鶴版	やや密石・長	良
851	底部	6.2	2.5	マメツ	指頭圧	2.5YR4/6 赤鶴	やや粗石・長・雲	良
852	底部	6.2	3.8	ナデ	指頭圧	7.5YR4/1 鶴	密石・長	良
853	底部	4.8	4.3	マメツ	指頭ナデ	7.5YR5/3 にぶい鶴	密石・長	良
854	底部	6.8	2.5	指頭圧	指頭圧	10YR4/2 灰黄褐色	やや密石・長・雲	良
855	底部	7.8	2.6	マメツ	指頭圧	2.5Y6/1 黄灰	やや粗石・長	良好
856	底部	6.5	2.8	ナデ	指頭圧	10YR5/4 にぶい黄褐色	やや粗石・長・角	良好
857	底部	8.2	2.8	ナデ	指頭圧	10YR5/4 にぶい黄褐色	やや密石・長	良好
858	底部	8.2	3.9	マメツ	指頭ナデ	10YR6/2 灰黄褐色	密石・長・雲・角	良
859	底部	7.0	4.1	ナデ	指頭ナデ	7.5YR6/4 にぶい鶴	やや密石・長	良好

660	底部	9.4	3.9	マメツ	指頭ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗 石・長	良好
661	底部	8.7	4.2	マメツ	指頭圧	10YR4/2 灰黄褐	やや粗 石・長	良好
662	底部	5.5	4.4	マメツ	指頭圧	10YR5/1 褐色	やや粗 石・長・角	良
663	底部	11.8	2.8	マメツ	指頭圧	5YR5/6 明赤褐	やや粗 石・長・雲	良
664	底部	16.2	5.3	ナデ	指頭圧	2.5Y1/1 黄灰	粗 石・長・雲	良
665	底部	14.8	8.3	ナデ	指頭ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	やや粗 石・長	良好
666	底部	5.3	3.8	ナデ	ナデ	2.5Y6/2 灰黄	密 石・長	良
667	底部	6.4	3.3	ナデ	板ナデ	10YR6/2 灰黄褐	やや粗 石・長・雲・角	良
668	底部	5.0	3.6	ナデ	板ナデ	2.5Y5/2 暗灰黄	やや粗 石・長・雲	良好
669	底部	5.4	6.2	ナデ	ナデ	10YR6/2 灰黄褐	やや粗 石・長	良
670	底部	10.7	5.5	マメツ	板ナデ	10YR5/2 灰黄褐	やや粗 石・長・角	良
671	底部	9.3	4.5	マメツ	ナデ	10YR5/3 にぶい黄橙	やや粗 石・長・角	良
672	底部	6.6	3.5	ナデ	板ナデ	10YR5/3 にぶい黄橙	やや粗 石・長・角	良好
673	底部	9.6	3.1	ナデ	板ナデ	2.5Y7/2 灰黄	やや密 石・長	良
674	底部	9.4	2.6	マメツ	タテハケ	10YR5/2 灰黄褐	やや密 石・長・雲	良
675	底部	7.7	3.6	ナデ	指頭圧のち板ナデ	2.5Y6/2 暗灰黄	粗 石・長・雲	良
676	底部	10.3	3.1	ナデ	ナデ	10YR6/2 灰黄褐	やや粗 石・長・雲	良好
677	底部	10.2	3.5	ナデ	ナデ	2.5Y7/2 灰黄	密 石・長	良
678	底部	11.0	3.3	マメツ	マメツ	10YR5/2 にぶい黄橙	やや粗 石・長・雲	良
679	底部	5.8	3.1	マメツ	マメツ	10YR6/2 灰黄褐	やや粗 石・長・雲	良
680	底部	6.2	2.8	マメツ	マメツ	10YR5/2 灰黄褐	やや密 石・長	良
681	底部	5.8	4.7	マメツ	マメツ	10YR6/2 灰黄褐	やや密 石・長・角	良
682	底部	5.6	3.8	マメツ	マメツ	7.5YR4/2 灰褐	やや粗 石・長	良
683	底部	6.2	3.1	マメツ	マメツ	7.5YR6/4 にぶい棕	やや密 石・長・雲	良好
684	底部	7.0	2.8	マメツ	マメツ	2.5Y4/1 黄灰	やや密 石・長	良好
685	底部	4.6	1.8	マメツ	マメツ	7.5YR8/2 灰白	密 石・長	良好
686	底部	5.6	2.6	マメツ	マメツ	10YR5/2 灰黄褐	密 石・長	良好
687	底部	8.8	2.3	マメツ	マメツ	10R5/6 赤	やや粗 石・長	良
688	底部	8.5	3.5	マメツ	マメツ	10YR5/3 にぶい黄褐	粗 石・長	良
689	底部	7.2	2.5	マメツ	マメツ	5YR5/3 にぶい赤褐	やや粗 石・長・雲	良
690	底部	7.8	1.9	マメツ	マメツ	10YR7/2 にぶい黄橙	やや密 石・長	良好
691	底部	8.8	3.5	マメツ	マメツ	2.5Y6/2 灰黄	やや粗 石・長・雲・角	良
692	底部	8.0	4.1	マメツ	マメツ	10YR6/2 灰黄褐	やや粗 石・長・角	良
693	底部	8.8	4.4	マメツ	マメツ	10YR5/2 灰黄褐	密 石・長・角	良
694	底部	8.6	5.3	マメツ	マメツ	10YR5/3 にぶい黄褐	粗 石・長・雲・角	良
695	底部	5.6	2.7	指頭圧	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	やや粗 石・長・角	良
696	底部	5.4	5.1	指頭圧	ナデ	2.5YR4/8 赤褐	密 石・長・雲	良
697	底部	4.2	3.7	タテハケのち指頭圧	マメツ	2.5Y7/2 灰黄	密 石・長	良
698	底部	2.7	2.2	指頭圧	板ナデのち指頭圧	10YR5/2 灰黄褐	密 石・長	良好
699	底部	4.9	1.8	ナデ	ヨコヘラケゼリ	10YR6/3 にぶい黄橙	密 石・長	良
700	底部	5.6	2.1	タテヘラミガキ	タテヘラケゼリ	5YR4/6 赤褐	密 石・長	良好

901	底部		4.6	3.1	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	10YR6/1 褐色	やや粗 石・長	良好
902	底部		5.4	4.9	タテヘラミガキ	タテヘラケズリ	2.5Y5/2 暗灰黄	密 石・長・角	良
903	底部		6.8	2.2	ナデ	タテヘラケズリ	10YR6/2 灰黄褐	密 石・長・雲・角	良好
904	底部		4.8	7.3	タテヘラミガキ	ヨコヘラケズリ	2.5Y6/3 にぶい黄	やや密 石・長	良
905	底部		12.8	3.7	ナデ	ヨコヘラケズリ	10YR5/2 灰黄褐	密 石・長・雲	良好
906	防錆車			6.5	タテヘラミガキ	指頭圧	10YR6/2 灰黄褐	やや密 石・長	良好
907	防錆車			2.9	ナデ	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	やや密 石・長	良
908	広口蓋	18.4		3.3	マメツ 剥目	マメツ	2.5Y6/1 黄灰	やや粗 石・長	良
909	広口蓋	16.0		2.6	マメツ	マメツ	10YR5/3 にぶい黄褐	やや粗 石・長・角	良
910	広口蓋	16.0		1.9	マメツ	マメツ	7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗 石・長	良
911	広口蓋	19.6		5.8	マメツ	指頭圧	10YR4/4 褐	やや粗 石・長・角	不良
912	臺杯		21.0	2.5	マメツ 円井	ヨコヘラケズリ	7.5YR5/6 明褐色	やや密 石	良好
913	底部		4.4	1.8	マメツ	マメツ	7.5YR6/6 褐	密 石・長・角	良
914	底部		7.2	2.0	マメツ	マメツ	SY5/1 灰	やや粗 石・長	良
915	底部		8.8	2.0	マメツ	ヨコヘラケズリ	2.5YR6/6 暗褐色	やや粗 石・長	良
916	底部		6.6	5.2	マメツ	マメツ	10YR6/1 褐色	やや粗 石・長	良
917	底部		7.8	3.5	マメツ	マメツ	10YR8/6 黄褐	やや密 石・長	良
918	灯明皿	9.8	4.8	1.8	備前陶器		10R5/4 赤陶	密 石・長	不良
919	灯明皿	12.0		1.6	青釉 京付茶末系陶器	施釉	5Y7/2 灰白	密 石・長	良好
920	皿		5.8	1.6	施釉 肥前系陶器	施釉、山水画	5GY8/1 灰白	密 石・長	良好
921	須恵器 蓋		6.2	2.6			N7/0 灰白	密 石・長	良
922	土器質土器 火鉢		16.6	6.7	マメツ	指頭圧	2.5YR7/4 淡青緑	やや密 石・長	良

木器観察表

器種	法量(cm)			特徴				樹種
	長	幅	厚					
W1 柱材	22.6	15.3	6.0	柱の底面は切断面が残る。その他については明確な工具痕なし。木材を複半分に割った跡を入れられ、断面半円形を呈する。				ヒノキ科アスナロ属
W2 柄	21.7	5.0	2.8	装飾部に方形の抉り込みが認められ、側面には斜格子の線刻が施される。				ブナ科コナラ属
W3 板材	12.2	4.6	0.6	加工痕はほとんど認められない。先端のみ細く尖らす。				ブナ科シイ属
W4 加工木	5.5	2.6	1.7	加工痕はほとんど認められない。W2と同一個体の可能性あり。				ブナ科コナラ属
W5 椅	21.7	9.7	3.6	脚く丸い断面部から徐々に脚広く板状の断面に変わる。				ブナ科シイ属
W6 建築部材	196.0	10.4	11.2	ミカン・翻材で、先端部を尖らしている。平面側面に大きい抉りを2箇所設け、その背面にミカン孔を3箇所設けている。また、先端部は炭化している。				マキ科マキ属 イヌマキ
W7 加工木	9.0	2.5	1.5	断面半円形の棒状。				未同定
W8 桁	16.0	4.1	2.6	先端部を尖らせている。				未同定
W9 桁	57.5	4.0	4.1	自然木の先を斜めに切り落とす。				未同定
W10 板材	6.5	5.1	0.6	平坦面に加工痕残る。				未同定
W11 加工木	6.9	4.1	2.9	確かに面取りをする。				未同定

石器觀察表

器種	石材	法量(cm)			(g)	特徴
		高	幅	厚		
S1 磨石	砂岩	6.5	6.2	4.3	178.4	2面の半切面をもつ。刃部が使用されており、擦り減る。
S2 砥石	砂岩	19.7	12.2	7.0	3600.0	J形が使用されており、擦り減る。
S3 石皿	砂岩	49.2	21.0	8.6	9400.0	鍛熱のため表面の大半が穴構。中央部のみ残存。
S4 削器	サヌカイト	4.7	1.9	0.5	4.2	三角形の削片に片面調整の刃部をつくる。
S5 削器	サヌカイト	2.4	3.7	0.8	5.6	両面調整の刃部のみ残る。
S6 削器	サヌカイト	7.2	3.1	1.1	17.1	長脚の削片にわざかく刃部をつくる。
S7 石斧	サヌカイト	5.5	5.0	0.9	33.1	直方形で、端から両面からの調整の刃部をもつ。
S8 石斧	サヌカイト	7.8	5.3	0.8	43.3	直方形の削片を利用し、刃部はほとんど調整していない。抉りも極端な調整である。
S9 石斧	サヌカイト	8.2	4.5	1.3	28.3	外側面半円形で、端部に抉りをもつ。刃部は両面より刃部に調整されている。
S10 石斧	砂岩	7.9	6.4	0.9	63.8	表面部分の削片。
S11 石錐	サヌカイト	2.0	1.9	0.3	0.6	直形式、抉りが深い。両面より調整。
S12 石錐	サヌカイト	3.0	1.7	0.5	1.8	直形式、両面より調整。
S13 石錐	サヌカイト	3.9	3.4	0.9	18.2	背面に突起をもつ。刃部は片面のみ調整。
S14 刻器	サヌカイト	3.4	3.7	1.3	14.0	削片に片面調整の刃部をつくる。
S15 石刀	サヌカイト	5.8	3.9	0.6	12.2	上部が欠損し、刃部の調整もほとんど無いが、抉りが認められる。
S16 石刀	サヌカイト	4.9	3.8	0.9	12.7	抉り部分のみ残る。
S17 石刀	サヌカイト	5.8	5.7	1.2	45.7	両面を欠く。刃部は両面調整。
S18 石刀	サヌカイト	3.4	3.3	1.0	14.8	抉り部分のみ残る。抉り上部に自然面を残す。
S19 石刀	サヌカイト	7.6	5.3	1.0	35.2	刃部および背面が磨き曲す。両面からの細かい調整で斜面を刃部をつくる。
S20 石刀	砂岩	10.3	7.7	1.4	181.9	裏面部分の剥片。
S21 石錐	サヌカイト	2.2	1.2	0.4	0.7	平形式、両面より調整。
S22 石錐	サヌカイト	5.0	1.6	0.7	3.7	直形式、両面より調整。
S23 削器	サヌカイト	6.9	3.3	1.4	36.7	片面を削す機能の刃部を利用。片面から刃部をつくる。
S24 刻器	サヌカイト	5.3	3.2	1.0	13.5	片面調整の刃部のみ残る。
S25 削器	サヌカイト	5.7	3.7	0.8	9.3	両面調整の刃部のみ残る。
S26 刻器	サヌカイト	3.7	2.8	1.1	8.5	片面調整の刃部のみ残る。
S27 刻器	サヌカイト	4.7	4.3	0.8	9.8	わずかに残る刃部は削曲し、片面調整。
S28 刻器	サヌカイト	9.7	3.6	1.8	34.0	削曲部を多く残す。片面に両面形の削片を行う。
S29 削器	サヌカイト	8.1	2.7	1.5	27.6	断続的三角形の削片を利用し、わずかに刃部をつくる。
S30 削器	サヌカイト	4.9	4.3	0.9	27.1	上縁部および側面に自然面を残す。刃部は片面調整。
S31 削器	サヌカイト	8.0	5.7	1.1	45.2	片面のみ粗い削片を行っている。
S32 削器	サヌカイト	8.4	4.7	2.2	60.4	右側面に自然面と削片。左側面から下縫部にかけて両頭より刃部をつくる。
S33 削器	サヌカイト	5.7	2.9	0.8	13.4	木槌形の石器。自然面を残す。刃部は両面から調整。
S34 石錐	サヌカイト	5.5	4.8	1.1	33.9	「手」字の石器。刃部は両面よりつくる。自然面を残す。
S35 石錐	結晶片岩	3.5	1.4	0.4	3.5	石底の一部と見えられる。
S36 石錐	結晶片岩	6.1	3.1	0.4	11.4	石底の一部と見えられる。
S37 刻器	サヌカイト	6.1	3.4	1.1	20.1	両面から粗い調整で刃部をつくる。
S38 刻器	サヌカイト	5.6	5.9	1.5	73.3	石底の一部と見えられる。両面より刃部をつくる。
S39 刻器	サヌカイト	5.1	4.7	1.0	32.2	横長の削片にわずかに刃部をつくる。
S40 石刀	サヌカイト	6.2	4.7	1.3	52.1	両面に自然面を残す。片面に刃部をつくり、もう1面は背部の調整を行っている。抉りをもたない。
S41 石刀	サヌカイト	11.2	7.2	1.5	81.9	横長削片利用。刃部は両面より調整。
S42 石刀	砂岩	7.0	9.4	2.3	107.2	表面部分の剥片。
S43 石刀	サヌカイト	2.3	1.2	0.4	1.0	平形式。両面より調整。
S44 石刀	サヌカイト	2.5	1.9	0.7	2.6	平形式。左側面のみ片面調整。
S45 石刀	サヌカイト	4.6	1.6	0.6	3.5	有茎式。左側面のみ片面調整。
S46 石刀	サヌカイト	4.9	3.6	0.7	9.1	未製品。
S47 刻器	サヌカイト	4.2	3.4	1.1	15.0	先端部のみ残存。両面からの調整で銳利な両面をつくる。
S48 刻器	サヌカイト	4.8	3.2	1.2	21.1	先端部欠損。両面からの調整で锐利な両面をつくる。
S49 石錐	サヌカイト	6.9	3.5	1.1	23.6	先端部欠損。両面からの調整で锐利な両面をつくる。
S50 石錐	サヌカイト	5.0	4.5	1.3	36.5	先端部欠損。両面からの調整で锐利な両面をつくる。
S51 刻器	サヌカイト	3.7	3.9	0.8	12.7	両面に自然面を残す。わずかに刃部をつくる。
S52 刻器	サヌカイト	3.7	2.9	0.9	15.2	背面ともとんどなく、両面から粗い調整で刃部をつくる。
S53 刻器	サヌカイト	4.0	3.4	1.0	13.3	上縫部に自然面を残す。刃部は両面調整。
S54 刻器	サヌカイト	3.9	4.3	0.9	19.6	両面より刃部をつくる。
S55 刻器	サヌカイト	5.1	3.5	0.7	15.7	横長の削片にわずかに刃部をつくる。
S56 刻器	サヌカイト	4.7	3.2	0.8	25.8	筋縫三角形の削片を利用し、わずかに刃部をつくる。
S57 刻器	サヌカイト	5.6	3.8	0.8	12.9	横長の削片に粗い調整で刃部をつくる。
S58 刻器	サヌカイト	3.4	3.9	1.7	31.9	両面より刃部をつくる。
S59 刻器	サヌカイト	4.1	3.8	1.1	22.3	両面より刃部をつくる。
S60 刻器	サヌカイト	4.7	3.5	0.8	11.1	横長の削片にわずかに刃部をつくる。
S61 刻器	サヌカイト	5.7	5.8	0.9	36.7	背面が削離する。刃部は片面調整。
S62 刻器	サヌカイト	5.8	5.5	1.5	65.7	両面より刃部をつくる。
S63 刻器	サヌカイト	5.7	6.2	1.5	48.7	筋縫案形の刃部の石底の一部と見えられる。両面より刃部をつくる。
S64 刻器	サヌカイト	4.0	5.0	1.1	19.7	筋縫案形の刃部の石底の一部と見えられる。両面より刃部をつくる。
S65 刻器	サヌカイト	6.5	5.0	0.7	27.2	上縫部に自然面を残す。刃部は両面調整。
S66 刻器	サヌカイト	5.7	5.0	1.2	44.2	両面削離・欠損。石刀丁の一部と考えられる。刃部は両面調整。
S67 刻器	サヌカイト	8.9	4.6	1.7	58.4	側面に自然面を残す。わずかに刃部をつくる。
S68 石刀	サヌカイト	6.3	4.2	1.1	32.5	わずかに刃部が残される。両面より刃部をつくる。
S69 石刀	サヌカイト	3.5	4.2	1.0	16.0	わずかに刃部が残される。刃部は片面を残す両面のみ調整。
S70 石刀	サヌカイト	6.9	5.2	1.3	43.2	刃部・背盤ともとんどなく、残すもつ。背面の細かな調整に対し、刃部はほどんど調整なし。
S71 石刀	サヌカイト	4.8	5.1	0.8	22.9	横縫の左縫部に自然面を残す。削離する刃部は両面調整。
S72 石刀	サヌカイト	5.7	7.0	0.9	49.6	直方形にさる石刀丁で、横縫を残す。刃部の調整もほとんどなく、迷りをもつ。
S73 石刀	サヌカイト	5.0	5.5	1.2	35.6	側面および横縫部に自然面を残す。刃部の調整もほとんどない。
S74 石刀	サヌカイト	5.7	5.7	1.0	33.4	横縫部に刃部を残す。刃部は両面削離。
S75 石刀	サヌカイト	5.1	4.6	0.7	10.4	横縫部に刃部を残す。刃部は両面削離。
S76 石刀	サヌカイト	6.0	5.8	1.4	49.7	背面の細かい調整に対し、刃部はほどんど調整しない。
S77 石刀	サヌカイト	10.9	5.0	1.0	56.2	ほぼ完形。横縫部を利用し、刃部は両面のみ調整。
S78 石刀	サヌカイト	9.2	5.0	1.3	70.5	完形。両面のみ残りをもつ。背面の細かい調整に対し、刃部の調整はほとんどない。
S79 平面両面石斧	サヌカイト	5.6	1.5	0.6	12.6	方組の両面調。側面に自然面を残す。

報告書抄録

ふりがな	ひぐらし・まつばやしいせき (さいせいいかい)							
書名	日暮・松林遺跡（済生会）							
副書名	香川県済生会病院移転新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次	第1冊							
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第66集							
編著者名	大嶋 和則							
編集機関	高松市教育委員会							
所在地	〒760-8571 香川県高松市番町一丁目8番15号 TEL087-839-2636							
発行年月日	西暦2003年9月30日							
ふりがな 所収遺跡名	しょざいち 所在地	コード		北緯 ° °'	東經 ° °'	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひぐらし・まつばやしいせき 日暮・松林遺跡	かがわけん 香川県 たかまつし 高松市	37201		34° 17''	134° 03'	2002.5.13 ~	2,200m ²	香川県 済生会 病院 移転 新築 工事
たひかみまち 多肥上町				25''	35''	2002.7.31		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
日暮・松林遺跡	集落	弥生	堅穴住居 掘立柱建物 溝 土坑	弥生土器、石器、木器				
		古墳	溝 掘立柱建物 土坑	須恵器				
		近世	溝 土坑	陶磁器				
		近・現代	粘土採取 土坑					

写 真 図 版



写真1 調査地遠景（南から）

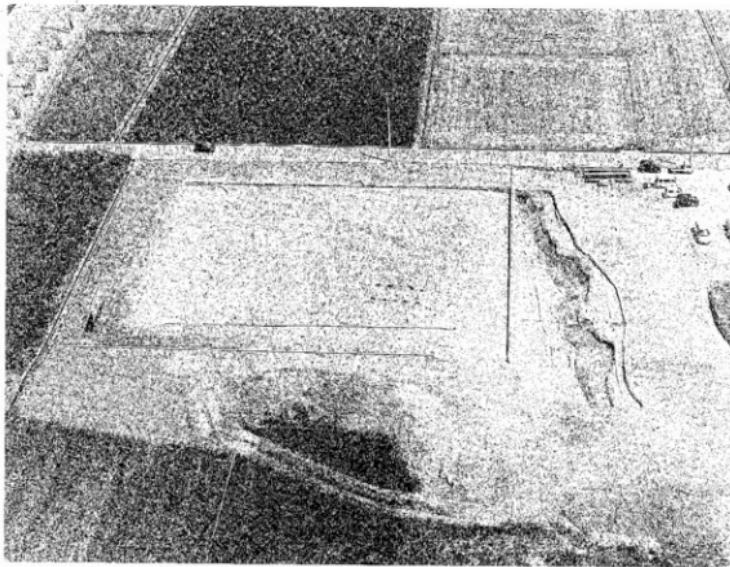


写真2 調査地航空写真（南から）

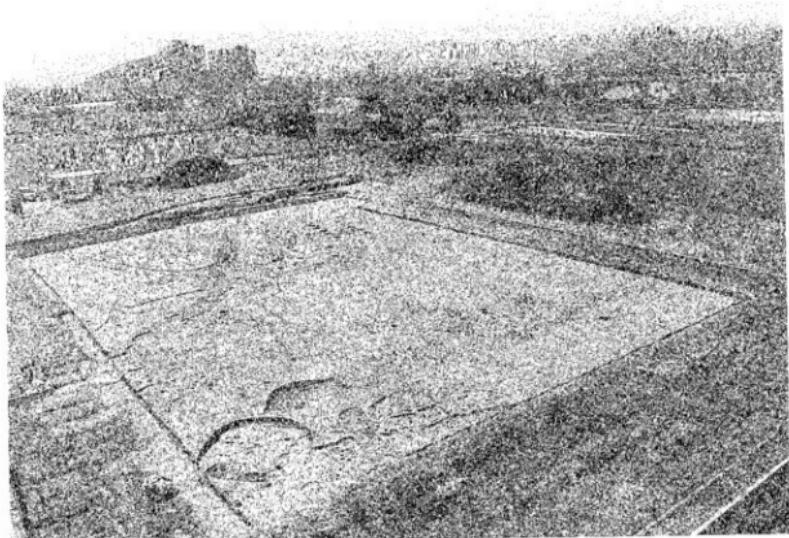


写真 3 調査地全景（北西から）

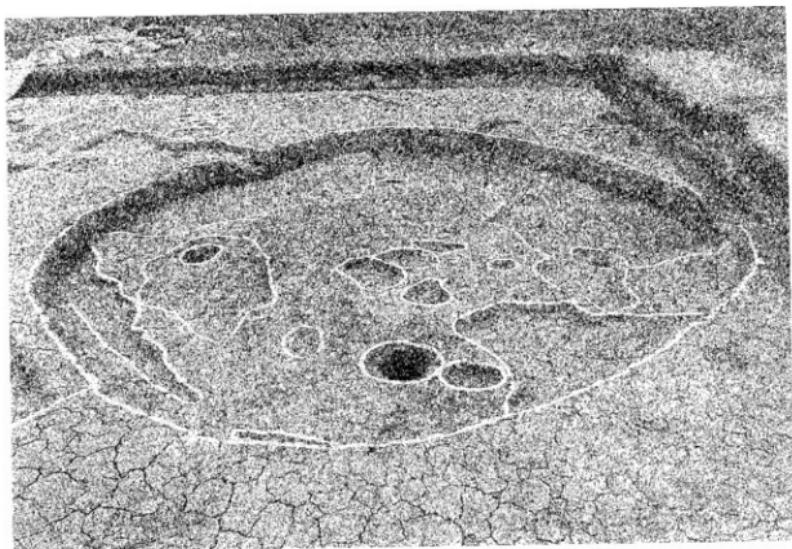


写真 4 SH1完掘状況（東から）

図版3



写真5 SB2完掘状況（西から）

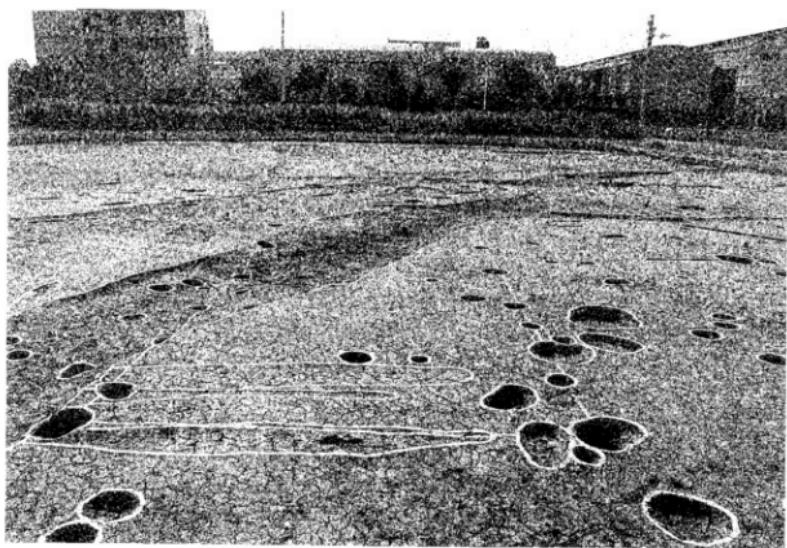


写真6 SB6完掘状況（東から）



写真7 SD1完掘状況（北から）



写真8 SD2・SD3完掘状況（北西から）

図版5



写真9 遺跡全景（南西から）



写真10 SH1掘削状況（南から）



写真11 SH1炭・焼土検出状況（東から）



写真12 SH1石皿出土状況（南から）

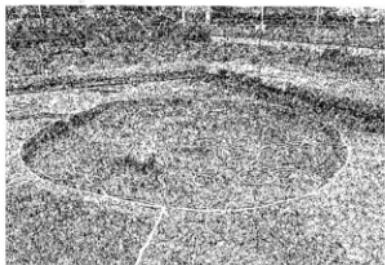


写真13 SH1床面遺構検出状況（南東から）



写真14 SH1完掘状況（北西から）



写真15 SH2完掘状況（北から）

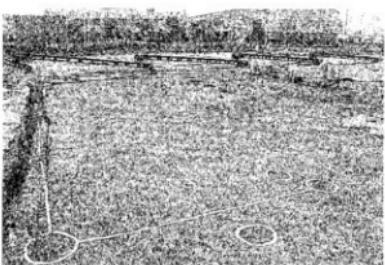


写真16 SB1検出状況（東から）



写真17 SB1半掘状況（東から）

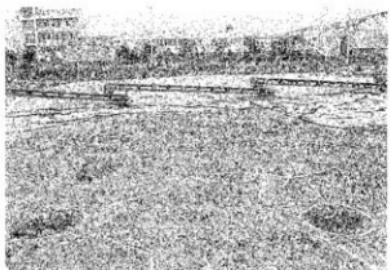


写真18 SB2検出状況（東から）

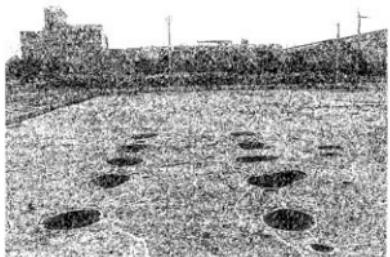


写真19 SB2完掘状況（東から）



写真20 SB3完掘状況（西から）



写真21 SB4完掘状況（東から）

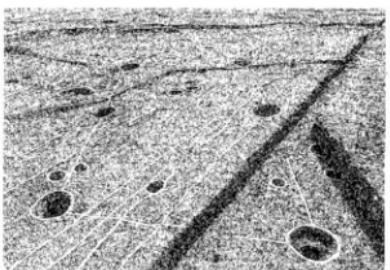


写真22 SB5完掘状況（北東から）



写真23 SB6完掘状況（西から）



写真24 SB7完掘状況（東から）

図版7



写真25 SK3断面（南から）



写真26 SK3完掘状況（北から）

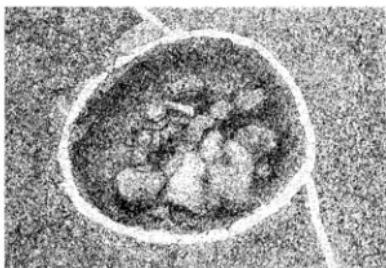


写真27 SP18土器出土状況（南から）



写真28 SK2完掘状況（東から）

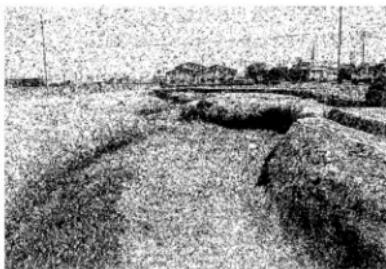


写真29 SD1完掘状況（南から）

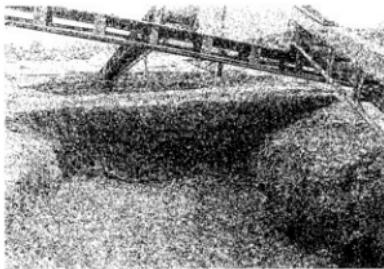


写真30 SD1北部断面（北から）



写真31 SD1南部断面（北から）



写真32 SD1中層遺物出土状況（北から）

図版9



写真41 SD1中層土器出土状況

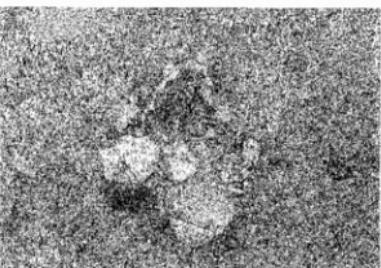


写真42 SD1中層土器出土状況



写真43 SD1中層土器出土状況



写真44 SD1中層土器出土状況



写真45 SD1中層木器出土状況（東から）



写真46 SD1中層土器出土状況



写真47 SD1下層土器出土状況



写真48 SD1下層土器出土状況



写真49 SD1下層土器出土状況



写真50 SD1最下層土器出土状況

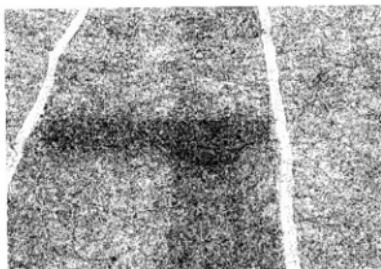


写真51 SD2断面（東から）

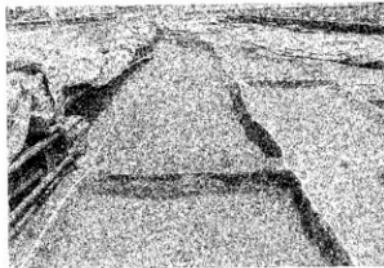


写真52 近・現代粘土採取土坑（南から）

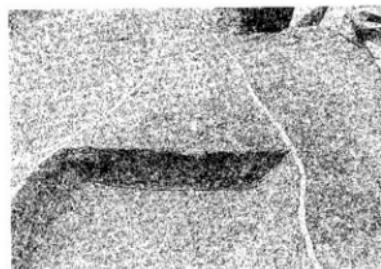


写真53 近・現代粘土採取土坑断面（南から）



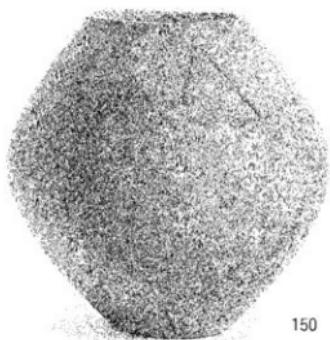
写真54 SH1掘削作業風景（南東から）



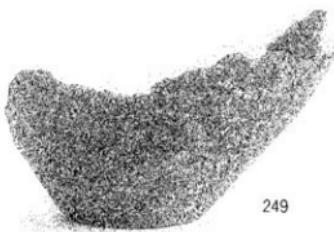
写真55 SB2掘削作業風景（北西から）



写真56 SD1土器出土状況図作成風景（南から）



150



249



117



176



149



84

写真57 日暮・松林遺跡出土遺物①

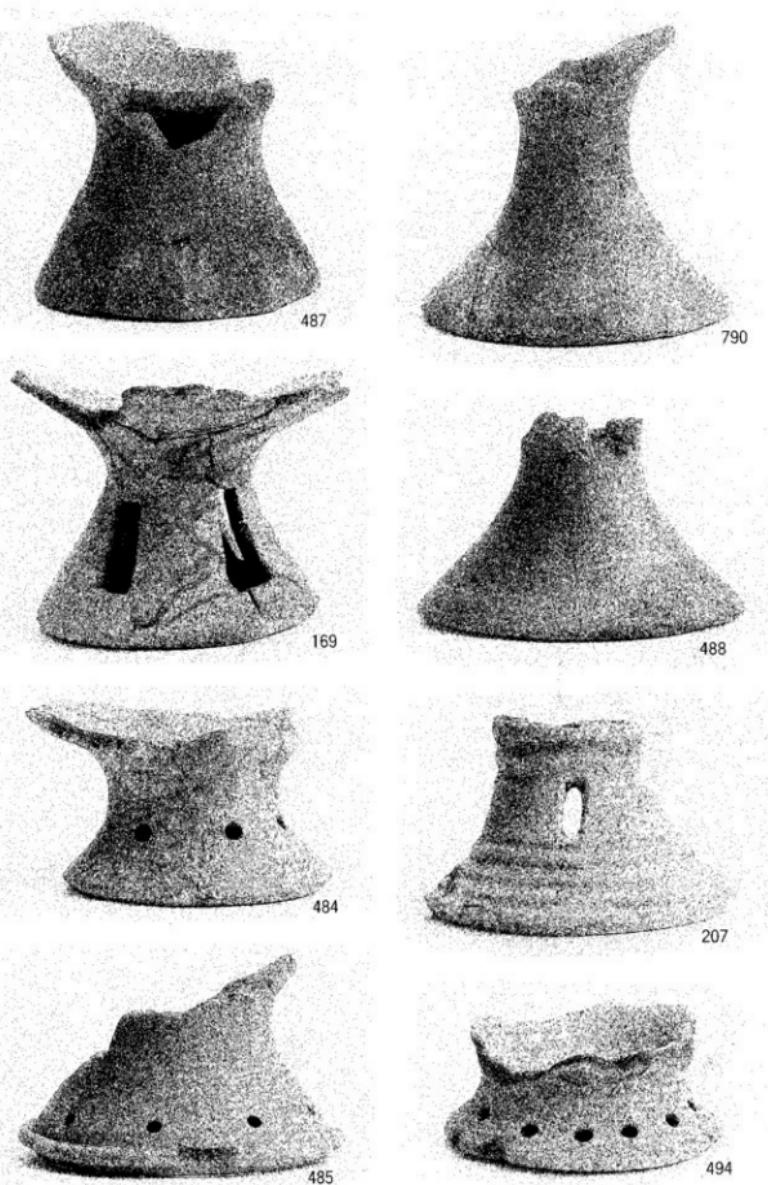


写真58 日暮・松林遺跡出土遺物②

図版9



写真41 SD1中層土器出土状況



写真42 SD1中層土器出土状況



写真43 SD1中層土器出土状況



写真44 SD1中層土器出土状況



写真45 SD1中層木器出土状況（東から）

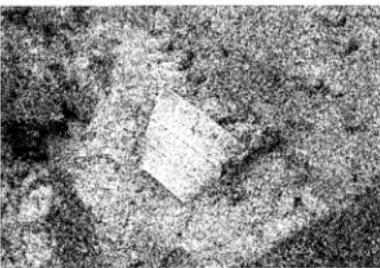


写真46 SD1中層土器出土状況



写真47 SD1下層土器出土状況



写真48 SD1下層土器出土状況



写真49 SD1下層土器出土状況



写真50 SD1最下層土器出土状況

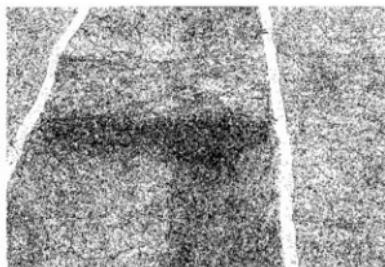


写真51 SD2断面（東から）

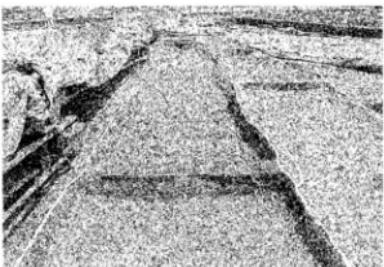


写真52 近・現代粘土採取土坑（南から）

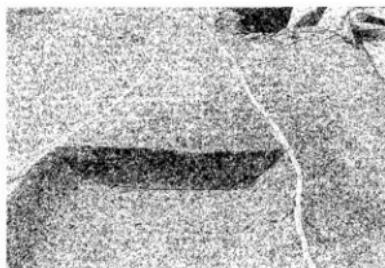


写真53 近・現代粘土採取土坑断面（南から）



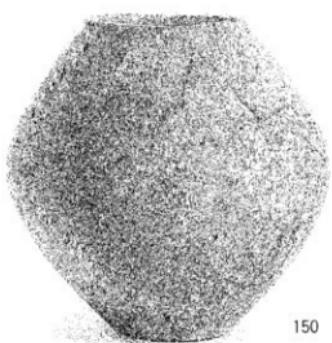
写真54 SH1掘削作業風景（南東から）



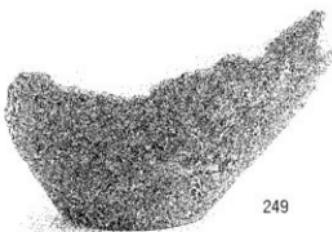
写真55 SB2掘削作業風景（北西から）



写真56 SD1土器出土状況図作成風景（南から）



150



249



117



176



149



84

写真57 日暮・松林遺跡出土遺物①

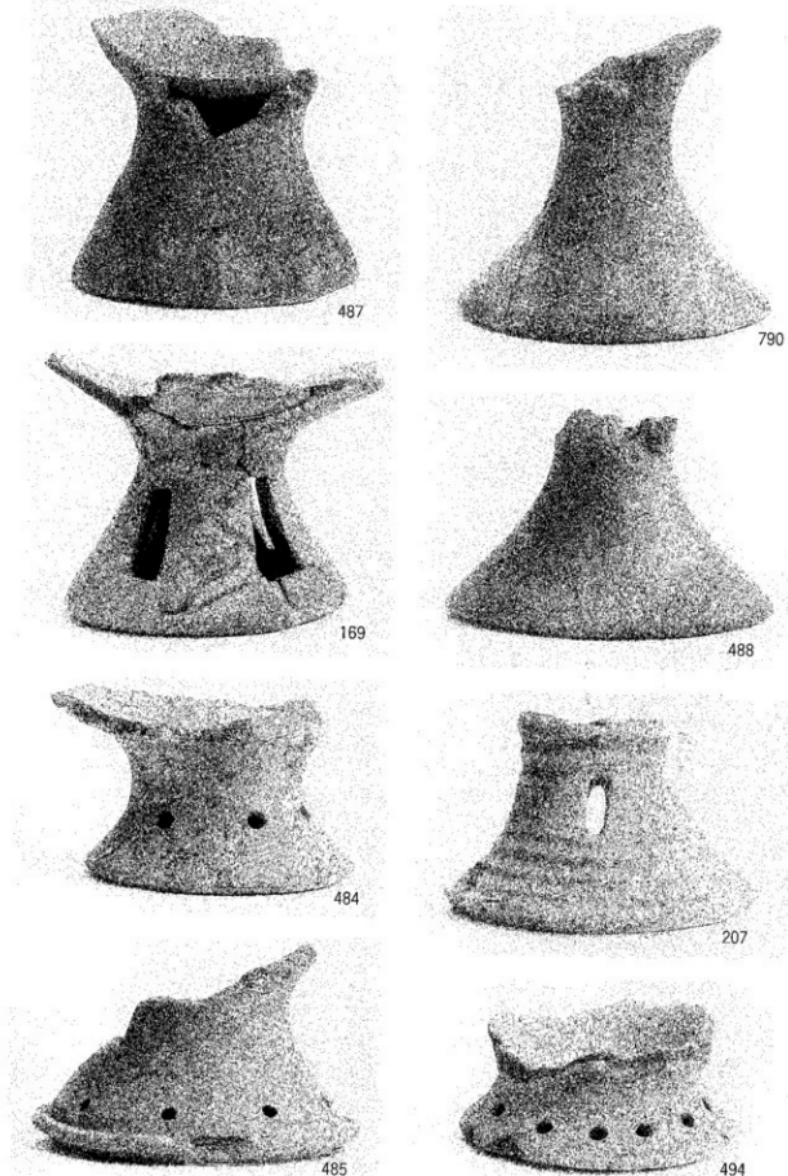


写真58 日暮・松林遺跡出土遺物②

図版13

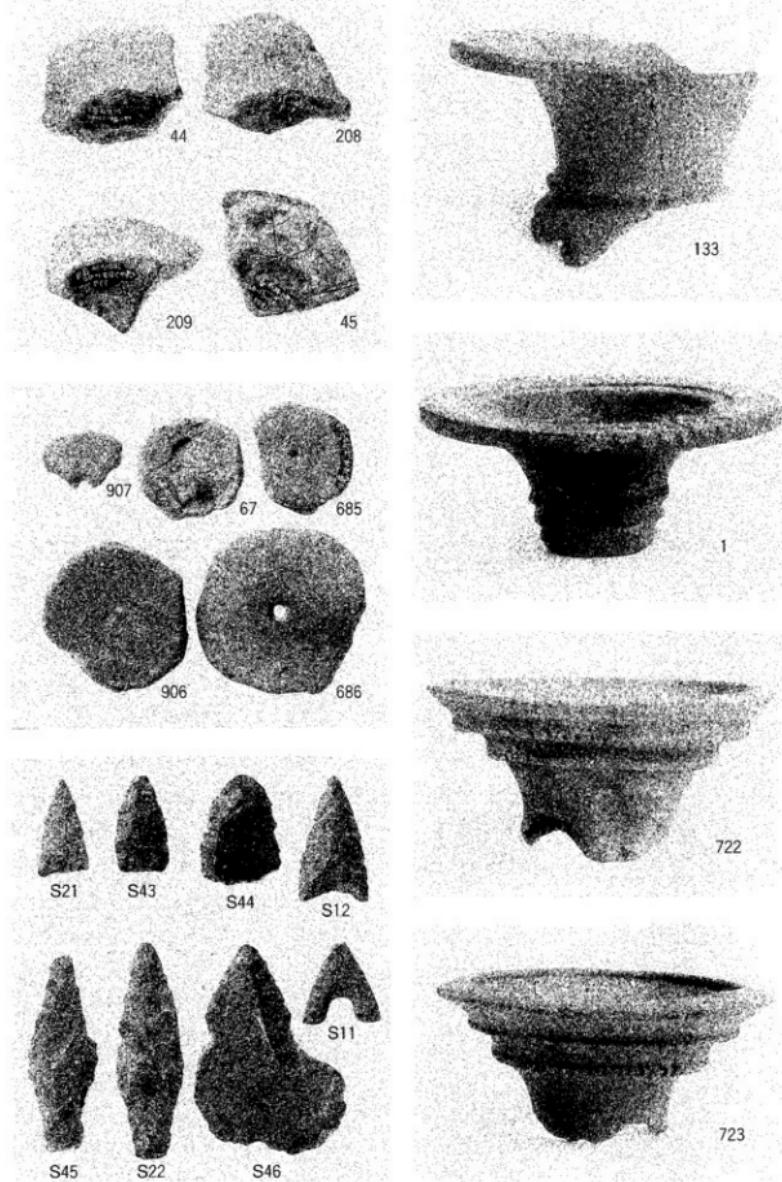


写真59 日暮・松林遺跡出土遺物③

図版15

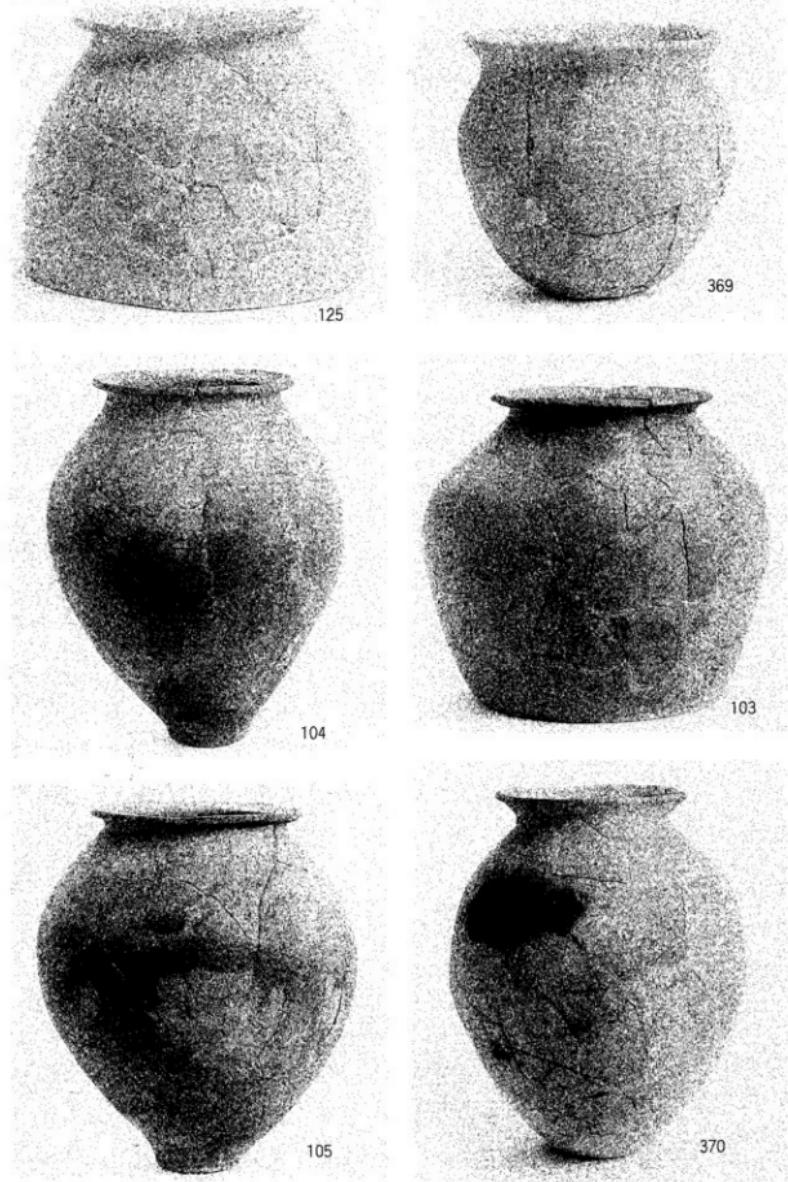


写真61 日暮・松林遺跡出土遺物⑤

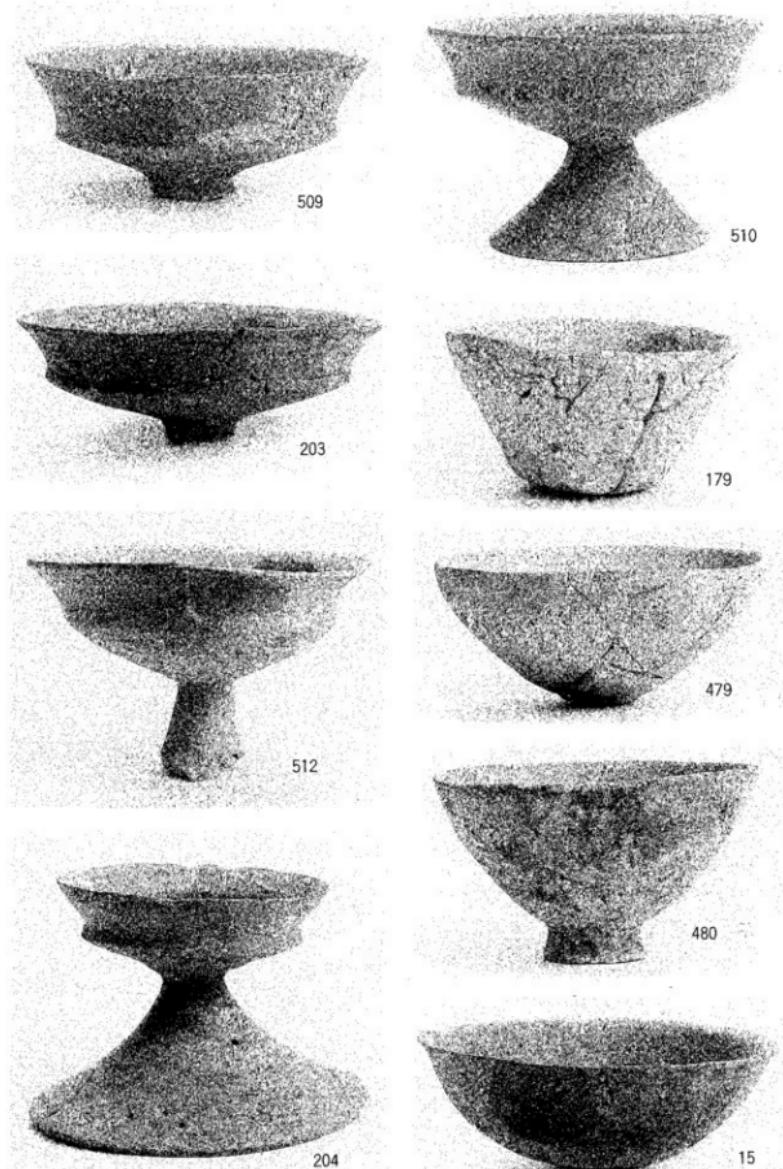


写真62 日暮・松林遺跡出土遺物⑥

図版17

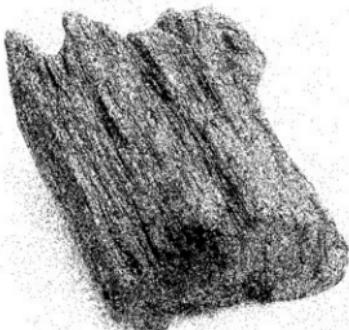
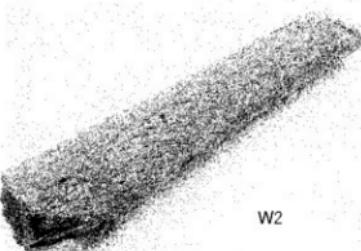
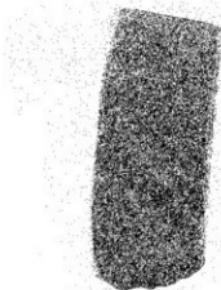
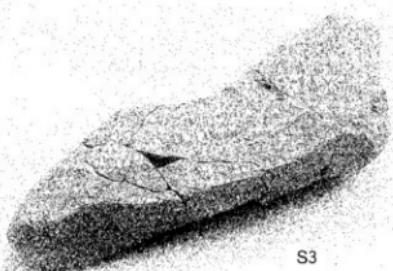


写真63 日暮・松林遺跡出土遺物⑦

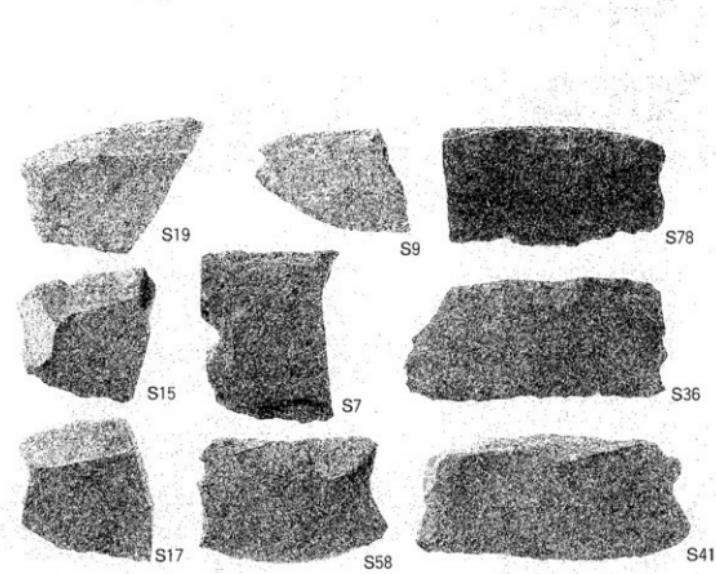
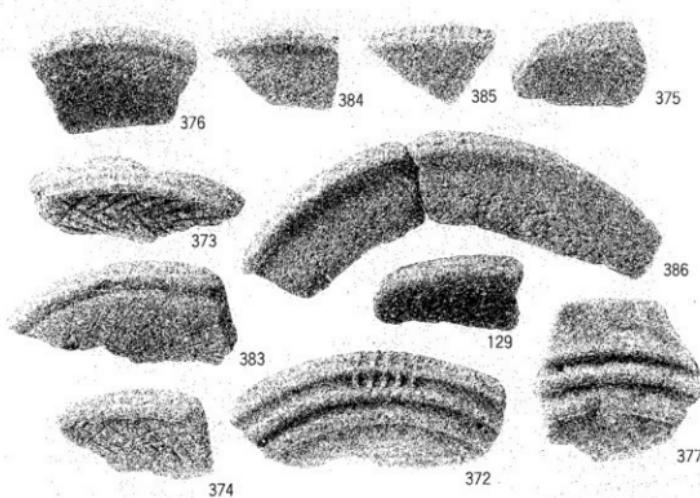
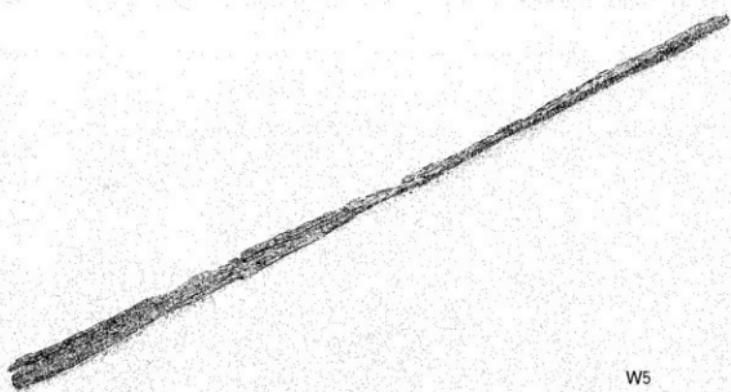
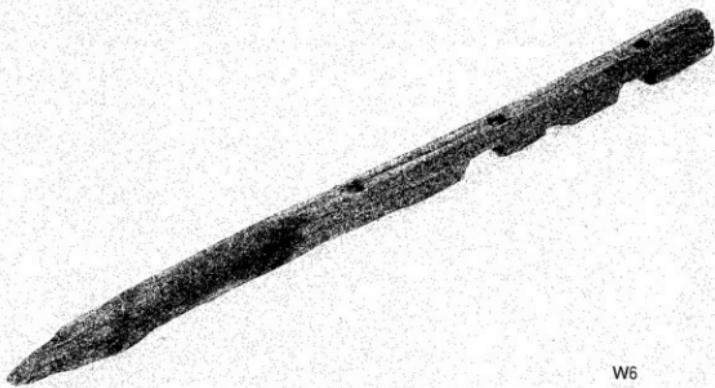


写真64 日暮・松林遺跡出土遺物⑧

図版19



W5



W6

写真64 日暮・松林遺跡出土遺物⑨

香川県済生会病院移転新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

日暮・松林遺跡（済生会）

平成15年9月30日 発行

編 集 高松市教育委員会
高松市番町一丁目8番15号

發 行 高松市教育委員会
社会福祉法人恩賜財団済生会支部香川県済生会

印 刷 株式会社 中央印刷所